国立国語研究所学術情報リポジトリ

Research on the vocabulary in a newspaper in the early years of the ‘Meizi’ period (1877-1878)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001228

国立国語研究所報告 15

明治初期の新聞の用語

国立国語研究所

1959

国立国語研究所報告 15

明治初期の新聞の用語

国立国語研究所
1959

郵便報知新聞
明治十一年五月二十三日　土曜日　第千五百九十五號

郵便報知新聞の紙面（第一面）縮尺約 1/3

刊行のことば

国立国語研究所は，その任務の一つとして国語の歴史的発達に関する調査研究を行なってきた。それは，現代の言語生活を解明する上にも，また，国語問題解決のためにも，その裏づけとして国語の歴史的研究が必要だからである。

研究所では，まず，歴史的研究として現代語に最も関係の深い明治時代語の研究を取り上げた。こんにち，普通に用いられることばで明治時代に発生したものの多いことは，よく知られている。現代の口語文も明治初期の漢文書き下し文に基づいて発達したものである。いわば，明治時代語は，現代語形成の直接の母体である。しかも，その明治時代語は，用語の面でも，文体の面でも，まだ明らかにされていない点が多い。これを解明することは，明治時代語と現代語とのつながりをきわめるためにも重要な課題である。明治時代語の研究を取り上げた意義もこの点にある。

この報告書の内容は，明治10年11月から同11年10月までの「郵便報知新聞」を資料とした用語の調査である。当時は，欧米文化の流入による新旧文化の混乱時代であった。用語では漢語の新造語がはんらんし，文体ではどんな文体を用いるべきか模索されていた。「郵便報知新聞」は，用語・表記・文体の面で複雑な様相を呈していた当時の言語状態を集約的に反映している資料である。この報告書は，その資料から採集したかぎりのすべての異なり語を語彙表の形で整理し，表記・語構成・文体などの諸点から分析した結果をまとめたものである。

なお，この調査研究は，第三研究部近代語研究室が担当し，所員山田巌・見坊豪紀・広浜文雄・市川孝・進藤咲子が共同して事に当った。

昭和34年3月

国立国語研究所長　西　尾　　実

目　　次

Ⅰ　調査のあらまし

1　この調査のねらい …… 1
2　明治10年前後の新聞界と郵便報知新聞 …… 6
——郵便報知新聞の創設——執筆陣——新聞とその読者層——
3　調査の方法 ……15

Ⅱ　調査はこうして進めた

1　調査単位のきめかた ……19
2　原カードの採集と整理のしかた ……24
3　異なり語はいくつ採集できたか ……27
——異なり語の補充調査について——

Ⅲ　語彙表

1　語彙表の性格 ……30
1•1　表にのせた語の範囲 ……30
1•2　語彙表の種類 ……30
1•3　語彙表の見出しの立てかた ……31
1•4　語を使用する度合いの示しかた ……33
1•5　使用率の推定について ……35
1•6　等しい使用順位の示しかたについて ……36
2　第1表　使用度数10以上の表（五十音順）……五十音順A表……37
3　第2表　使用度数10以上の表（使用率順）……使用率順A表……60
4　第3表　使用度数9～1の表（五十音順）……B表……64
5　第4表　補充調査で追加した語の表（五十音順）……C表… 187
6　第5表　接辞的要素の表（五十音順）……別表… 237

Ⅳ　分析した事がら

1　表記を分析する
A　表記の分析 …… 253
1　送りがなに二通り以上の動きのあるもの …… 254

2　歴史的かなづかいを基準とした場合、かなづかいに誤りのあるものについて…… 256
3　漢字書きとかな書きの両表記をもつ語…… 257
4　漢字の種類…… 257
B　漢字とかなとの割合…… 257
C　ルビ…… 258
D　その他…… 266
—紙面の体裁—かな—濁点、半濁点—促音、拗音、長音の表記—おどり字—踊字—伏字—句読点—会話文—記号—誤植—文の表記—
2　漢字語の構成
はじめに…… 273
分析のねらい…… 273
三字の漢字語の分析…… 274
漢字語のシンタクス…… 279
三字の漢字語における一字の後(あと)要素の表…… 281
3　文体と用語との連関
この分析の立場…… 288
手順…… 291
結果…… 295
二つの文体において対比される用語…… 296
硬文体に特徴的な用語…… 299
軟文体に特徴的な用語…… 302

V　付録

1　語彙表に著しく影響した話題 …… 307
2　この報告書に使ったおもな用語 …… 309
3　使用度数を使用率に換算する表 …… 313

VI　索引

事項索引…… 314
表の索引…… 318
データ一覧…… 319

I　調査のあらまし

1　この調査のねらい

この調査の目的は，明治10年（1877）11月1日から明治11年（1878）10月31日までの1年分の「郵便報知新聞」を資料としたサンプル調査により，サンプルに現われたすべての異なり語を語彙表として示し，用語の表記，漢字語の構成，文体と用語との連関等についてその実態を記述するにある。

この調査は，現代語の歴史的背景を明らかにするために取り上げたものであるが，明治10年前後は現代語が形成されつつあった時期にあたっている。この時期の国語は，目下の国語問題の主要な原因となっているものを，すでに，になっていたのであるから，この時代の言語を調査することによって，問題解決のための一資料を提供することができると信じる。

明治時代語の特徴は，よく知られているように，新造漢語のはんらん，外来語・欧文脈の流入，共通語の確立，言文一致体の発達，普通文体の完成，丁寧表現の発達などにある。それらはすべて明治時代語の基本的性格であり，同時に現代語形成の直接の母体である。しかし，明治の言語状態のうちには，まだ明らかにされていない部分があって，これを解明することは，現代語とのつながりを究めることとならんで重要な課題である。明治10年前後の言語状態についても，従来ほとんど調査されていない実情である。この調査は，郵便報知新聞という限られた資料について行なったものであるが，複雑多様なこの時期の言語状態の一端を明らかにすることにそのねらいがある。

明治政府が成立してから，政府の出した布令の文章は難解な漢字漢語の多い文章であった。民間の新聞の文章も社説欄は，片かなまじりの漢文書き下し文体であり，大新聞と呼ばれていた新聞の雑報欄の文章も，社説欄の文章とは，文体の相違こそ見られるが，漢字漢語の多用されていることには変りはない。漢字漢語の流行は，明治初期の国語について見落してはならない現象である。太政官日誌に現われる難解な漢語を読むための小型の漢和辞典が明治の初年か

ら出版されており，10年ごろまでに十数種も出ているが，明治10年前後には，新聞を読むための新聞字引さえ二三種類出版されているようなありさまであった。

また，維新以後，海外の文物制度を急激にわが国に移植する情勢となったが，海外文化の吸収は，主として書籍を通して行なわれた。直接原書について欧米の文化にふれることのできた人たちもあったが，それらは限られた人たちに過ぎない。多くの人たちは，洋学者の訳した各分野の翻訳書とか，あるいは海外事情の解説書などを通して欧米の文化に接した。明治10，11年ごろに出版された新刊書の七，八割までが漢籍の翻刻を除いては翻訳書であると言われているほどである。英・米・独・仏の原書が政治・経済・文化・自然科学等のあらゆる領域にわたって翻訳されている。いわば一種の翻訳時代とも言うべき時代であった。近代国家として新しい方向にあゆみを進めていた当時のわが国は，情勢上，西欧先進国の文物を吸収しなければならない立場にあったからである。これらの翻訳書の大部分が，これまた，漢字漢語を多く含んだ文語文で書かれていたのである。

明治初期に輸入された欧米の文物制度には，わが国に今まで全然存在していなかった事物が多いので，新しい翻訳語が作られ，新語が続続生まれた。急激に押しよせた外来の文物に，時間的に余裕もなかったせいもあろうが，漢字漢語をもって新語や翻訳語をまかなったのである。漢語の造語力の生産的であることも，もちろん，その原因であるが，当時，政府の要路にあったものや学者などの有識階級がすべて漢学的素養のある人たちであり，それに加えてわが国民が古くからいだいている漢字に対する尊敬の気持などが作用して新旧の変動期に際して必要以上に漢字漢語のはんらんをまねいたものであろう。とにかく，西欧文化の摂取に漢字漢語が大きな役割を果したのは事実であった。外来の文物思想を受け入れるに当って，固有のやまとことばで受け入れようとする試みをした人もあるが，大勢にはなんの影響もなかったのである。しかし，明治初期の漢字漢語の盛行が，尾をひいて現在の国語問題の大きな部分を占めることになったのである。たとえば，漢字制限の問題，同音語の問題，書きことばを話しことばに近づける障害となっている文語的な言い回しなどがそれで

ある。

もっとも，漢語の質や量は当時と現在とでは，かなり相違がある。しかし当時の普通の書きことばに用いられた漢語がどんなものであったか，どんな構造を持っていたかを知ることは，今日の国語問題を考えるばあいに，参考すべきものがあるであろう。

明治10，11年の郵便報知新聞を資料として明治時代語の調査を開始した理由は，次の通りである。

明治時代のことばは，現代語のいろいろな性格を決定づける大きな地盤となっていると考えられる。そのことは，だれもが認めてはいるけれども，まだ組織だった調査研究はされていない。しかも，従来の明治時代語研究の多くは，その調査資料として採用しているものは，主として文学作品であった。われわれが知りたいのは，そのような言わば特別な場における用語，言い換えれば，ある一つの「かまえ」をもって発表していることばではない。一般の人たちが日常の場においてどんなことばを使い，どんなことばを理解していたか，と言うことである。われわれが調査資料として新聞を取ったのは，こういう考え方に基づいている。ただし，当時の新聞は，発行部数も少なく，今日のように数百万部の新聞が一時に大量生産されるということはなかったのであるから，当時の新聞に使っていることばを今日と同じ目で見ることはできない。しかし，新聞の用語は，一般に文学作品などのように，表現における個人の特別の習慣をあまり持たないと考えられる。少なくとも，社説欄や投書欄を除いては，現われることが比較的少ないとしてよいだろう。この点で，新聞は，当時の一般的用語を探ろうとする，われわれの目的にかなうものである。

当時の新聞はようやく近代的な新聞として形式内容を整えて来ていたのであるが，大衆を相手とする新聞の用語を調査するということは，少なくとも明治10年前後の新聞については全然着手されていないだけに，十分意義のあることと考えられる。

調査対象の時点を，明治10年11月1日からときめたのは，次の理由からである。

明治10，11年という年代は，西南戦争の落着を契機として，世情も一往安定し，近代的な社会の体制も固まり始めたころである。社会の安定と，ことばの

安定とに密接な連関があると考えてよいならば，明治初年の激動期におけることばは，西洋の文物の流入によっておこった混乱期の産物であったと言える。そのような時期のことばを調査することも，もちろん，意義がないわけではないが，現代語を中心において考える時には，最初に調査する時期として必ずしも適切ではないだろう。

ところで，明治10年前後の新聞でまとまっているものは，なかなか入手に困難であるが，さいわいにも当研究所の資料室にこの期間の郵便報知新聞を所蔵しているので，これを資料として取り上げたのである。しかし，調査の時期として西南戦争当時を選ぶことは，戦争の記事だけに使うような語が固まって出てくるという理由で避けなければならないので，11月1日からとした。それでもなお，＜征討＞が36回，＜鹿児島逆徒＞が29回というような使用度数のゆがみを避けることができなかった（語形は＜　＞で，引用は「　」で示す）。

われわれが調査資料として選んだ郵便報知新聞は，戯作者の書くような文章を多く含んでいるが，同時に社説欄を中心として漢学系統の記者の書いた漢文口調の文章も適当に含んでいる。いわゆる俗文体（これを，かりに軟文体と呼ぶ）の文章と漢文書き下し文体（これを，かりに硬文体と呼ぶ）の文章と，この二つの型の文章は，新聞の文章独特のものではなく，当時普通に行なわれていた代表的な文章であったのである。郵便報知新聞の文章は，この両方の流れを適当に含んだ資料であって，この新聞を資料として選んだことは，妥当であったように思われる。

この**調査の対象**は，郵便報知新聞の明治10年11月1日から同11年10月31日までの本紙（附録として発行されているものがこの期間に二三あるが，調査対象から省いた）における本文と認められる紙面に現われたことばの総体である（ただし，助詞・助動詞は省き，ことばと同等の意味をもつ記号は含める）。従って本文の欄外にある新聞名，号数，年月日，曜日および物価・広告欄に現われたことばは，調査対象とならない。そのほか本文中にあるものでも，漢詩，漢文，数式，数表は調査対象から除いた。ただし，異なり語補充の調査の時は，物価・広告欄に現われたことばも調査対象とした(27ページ参照)。

準備調査によって，この母集団の延べ語数は，われわれの採用したほぼ文節

に相当する調査単位を基準にして約百二十八万語であることがわかった。この調査の計画をたてたころ，経費，時間，それに人手を考慮して十万枚のカードを採集することに作業の目標をおいた。よって抽出比を1/12として，行を単位とする層わけ等間隔抽出法により，延べ約十万枚のカードを採集した。つまり，この調査は，採集した約十万語の標本から資料全体における約百二十八万語の使用情況を推定したわけである。

この調査の結果は，語彙表の体裁で報告する。語彙表は，A表（使用度数10以上のもの），B表（使用度数9～1のもの）およびC表（標本にはずれた部分に使っている異なり語を採集したもの）の三表に分ける。推計学の考え方に従えば，使用度数9～1のものは，偶然性の働く可能性が多い。しかし，たとえ偶然ではあっても，歴史的調査では，その語が使われていたこと自体が記録に値いすることである。異なり語補充の作業を追加したのも，なるべく多くの異なり語を採集したいと考えていたことにもよるが，同時にこの調査が歴史的調査であるという趣旨によるものである。これらの語彙表は，当時用いられていた語彙のなまの姿を資料として提供するのが目的である。

標本の延べ語数は99,384語である。標本の異なり語数は人名・地名・数詞も含めて，28,364である。

なお，A表については，必要があれば他の語彙調査の結果と比較できるように，使用度数から使用率が換算できる表を付けておくことにした。

調査結果の分析としては，次の三項目について報告した。

(1)表記を分析する

送りがな，かなづかい，一語における漢字，かなの使いわけ，ルビ，等。

(2)漢字語の構成

当然多くの漢語の使われていることが予想できる。特に三字の漢字語についてその特徴的なものを探る。

(3)文体と用語との連関

郵便報知新聞には，われわれが，かりに硬文体，軟文体と呼んでいる二つの文体の違いが見られる。その違いの要因を用語の面から検討する。

なお，異なり語の補充については，なるべく多くの異なり語を採集して記録

に残したいとの目的にそって，標本外の部分からできるだけ多く拾った。

この調査は，近代語研究室の共同研究として行なわれたものである。この調査に直接従事した所員，ならびに特に分担した項目は次の通りである。

山田　巌	
見坊豪紀	異なり語の補充
広浜文雄	語構造
市川　孝	文体と用語
進藤咲子	表　記

以上のほか，所員村尾力が単位分割の共同作業に参加した。また，統計的な計画ならびに処理について，所員水谷静夫の援助を受けた。

この調査にあたって，常時，近代語研究室所属の２名の臨時筆生が所員を助けた。また，作業の進行に応じて，適宜，所外の補助者を短期間使用した。

2　明治10年前後の新聞界と郵便報知新聞

調査対象として選んだ明治10，11年ごろの郵便報知新聞が，当時の新聞界において，また言語生活においてどのような位置にあったかを知っておく必要がある。それは調査結果の分析や解釈に必要なことだからである。

郵便報知新聞の創設

わが国における新聞の起源を読売瓦版に求めるなら，すでに17世紀にさかのぼることができる。また，文久２年（1862）には幕府の洋書調所で翻訳発行した「官板バタビヤ新聞」のように新聞と言う名称の付いたものも出現した。「官板バタビヤ新聞」は，海外ニュースばかりを翻訳したもので，木板刷りの半紙二つ折り数葉をとじた冊子型の不定期刊行物であった。以後，幕末維新の動乱期まで二十種近くの新聞が発行されたというが，多くは冊子型のもので不定期に刊行された。

まだ，近代的な意味での新聞は，維新以前にはなかったと言ってもよい。近代的な新聞がわが国に発生する条件として，報道の自由と印刷技術の近代化との二条件が必要であった。幕府の威信が低下して，封建制度が崩壊の一歩手前にあった幕末の混乱時代に多くの新聞の生まれたことは意味がある。本木昌造

の考案した鉛活字も利用できるようになって，次第に近代的な新聞の発行できる基礎が出来上りつつあった。わが国で近代的な組織をもって創刊された新聞は，明治3年12月12日，島田豊寛，子安峻，陽其二らによって，横浜で発行された「横濱毎日新聞」がはじめてである。横浜毎日新聞は日刊紙であり，本木昌造の鉛活字を用い舶来洋紙に印刷した，一枚刷りの新聞である。ついで，明治4年5月，木戸孝允の出資で「新聞雑誌」(明治8年1月2日「あけぼの」，さらに同年6月2日「東京曙新聞」と改題）と言う新聞が東京で創刊された。その翌5年2月21日には，東京での最初の日刊紙である「東京日日新聞」が創刊され，同年3月17日には英人ブラックの経営する「日新眞事誌」が創刊された。同年6月10日に「郵便報知新聞」が創刊された。同じく5年11月13日創刊の「公文通誌」は，7年9月23日に「朝野新聞」と改題した。明治7年11月2日，「讀賣新聞」が創刊され，ついで翌8年4月17日，「平假名繪入新聞」（9年3月「東京繪入新聞」と改題）同年11月1日「假名讀新聞」（最初横浜，10年3月東京に移る）などいわゆる小新聞と呼ばれていた新聞が相ついで誕生した。

郵便報知新聞の創設は，当時駅逓頭であった前島密によって計画されたのである。前島は明治4年8月欧洲から帰国し，郵便規則を制定するにあたって，新聞紙の送達と新聞原稿の無料郵送とをその中に規定した。これは新聞の発達が文化の普及発展に至大の影響を与えるものであり，また郵便事業の発達を促進させるためにも必要であることを認めて，特に優遇の方法を講じたものであると言われている。ことに新聞原稿の無料郵送を許したのは，新聞材料を集めることの困難を援助するためであった。ところが，この規則ができてもこれを利用する新聞紙がなかったので，前島はみずからこの規定を活用するために新聞の創刊を計画したのであったと言われている。また，前島はこの新聞を駅逓寮の報道機関として利用しようという考えをも持っていたようである。

前島は新聞の発行を計画すると，そのことを当時前島の秘書役をしていた小西義敬に相談した。小西はただちにこの計画に賛成し，さらに，当時日本橋横山町三丁目で書店泉屋を経営していた太田金右衛門にこの話を持ちかけたという。それは，太田が横山町郵便支局の主任として府下の郵便取扱を引き受けていた関係からである。太田は出版物の経験があるので，すぐこの相談に応じ，小

西，太田の共同事業として発行することになった。板元は太田で，名前は郵便報知新聞ときめた。当時，全国に5,000人ほどいた郵便取扱人を目あてに創刊されたのであるし，郵便事業の元締である前島密が背後にあって企画した新聞であったから，題名に郵便の二字のあることも理由のあることであった。

太田が編集者と発行人とを兼ねて創刊号を発行したのは，前述の通り明治5年6月10日のことであった。駅逓頭の提唱ではじめられた新聞という関係から，駅逓寮の命令で全国の郵便局に新聞材料を集めさせ，その上，新聞原稿を無料で郵送させたという事実をもってしても，郵便報知が創刊当時非常な特典を与えられていたことがわかる。創刊当時の郵便報知の記事内容は官庁の公示事項と報道とがおもなものであって，まだ社説はなかった。体裁も半紙二つ折り表紙共9枚つづりの板木刷りの冊子型であり，旧新聞型であった。創刊の年は毎月5冊の発行で週刊誌程度の発行であったから，まだ今日の新聞とは，へだたりのあるものであった。また，明治6年ごろの発行部数は，1,500部から2,000部ぐらいのものであったと『報知七十年』にしるされている。

明治7年1月，副島種臣，後藤象二郎，板垣退助，江藤新平，由利公正，古沢滋らによって民選議院設立の建白書が左院に提出されたころから，これに対する是非の議論が新聞紙上に現われるに至り，新聞紙の言論は，かつてない活気を呈した。明治8年6月，新聞紙条例（改正）および讒謗律（ざんぼうりつ）が公布された結果，諸新聞は一斉にこの新律を攻撃して読者の関心をひき，ここに新聞紙が世人の注目を浴びることになった。また，時事報道が新聞の重要な使命であることを認められたのもこのころであるが，7年2月の佐賀の乱，同年4月の台湾征討，8年9月の江華島事件，9年10月の神風連の乱，10年2月の西南戦争などの報道記事は，まだ出発点にあったわが国の新聞紙の発展のために寄与するところが大きかった。明治の新聞も10年ごろになると形式内容ともに一段と整備され，新聞経営の基礎も固まって，事業としても成立しうる見通しが持たれるほどに発展した。

郵便報知新聞は，前述のように駅逓寮の特別の保護のもとに発足し，その援助をうけて成長して来たのであるが，民選議院設立の建白書が提出されたころから，この新聞の論調が次第に反政府の色彩をおびるようになり，最初前島が

考えていたものとは，逆の様相を呈するに及んで，前島は郵便報知との関係を絶ち，小西義敬が名実共に社主となって，自由にその経営にあたることになった。従って新聞の名称も郵便の文字を削って改称してもよい情況になったのであるが，郵便の二字を削って報知新聞と称したのは，明治27年からである。

郵便報知新聞の執筆陣

明治10年11月から明治11年10月ごろまでの報知社の人的構成は，どのようであったかを述べよう。

社主は小西義敬が引き続いてやっていたが，小西は主として経営の方を担当していた。編集関係の責任者としては，10年11月1日から11年10月31日までの1年間を通じて新聞紙の第四面に主幹藤田茂吉(鳴鶴)，仮編輯長亀山篤郎，印刷長栗本鋤雲の名前が見えている。岡敬孝は創刊当時から入社し，明治7年ごろは編集長格として活躍したが，引き続いて編集の方に働いていた。明治9年に福沢門下の俊英矢野文雄（龍渓）が主筆として迎えられており，明治11年7月23日大蔵省少書記官に任官するまで，社説に筆をとっていたようである。矢野，藤田と同様，慶応義塾出身の箕浦勝人，牛場卓造そのほか犬養毅，尾崎行雄などもおり，栗本鋤雲とか岡敬孝のような旧幕臣出身者の記者を除いては，ほとんど慶応義塾出身者である。これは栗本鋤雲が福沢諭吉に人材の世話を依頼していた関係からである。これら福沢門下の人人は，おそらく社説や論説あるいは外国通信記事などに筆をとったものと思われるが，俗文体の文章を多く含んでいる社会雑報欄の直接の執筆者がだれであったかは明らかでない。しかし，岡敬孝あたりは雑報欄に筆をとっていたようである。やや後のものではあるが，高瀬巳之吉(紫峯)の著わした『全國新聞雑誌評判記』(明治16年2月11日刊)に次のような記事が見られる。すなわち，東京を出る高崎往復の夜馬車の中で，相乗りの官員，戸長，商人，書生などが当時の大新聞を品評している場面であって，明治10，11年から4，5年後の郵便報知についてではあるが，郵便報知新聞やその記者に対する世間の評価を知る上にすこしは参考になるところがあろう。

> 書「然らば報知新聞へ如何。官「報知は矢張り感心の出來ぬ新聞ヂヤ第一紙幅ゞ廣すぎてくだらぬ雑報ゞ多いよは恐れる流石よ近來は矢野氏[1]ゞ筆を執らるゝで

1) 矢野文雄は明治14年10月13日官吏をやめて，報知社に復帰していた。

立派な論も見ゆれど藤田，箕浦，尾崎なぞは平々凡々の記者で人の目を驚かす様ふ文章も書ず雑報とても芳川春濤といへるが專務で跡は青書生と戯作者流のみ栗本氏は稼々筆もとられぬとの事彼れふれ紙巾だけ大きい許りでどうも人好のせぬ新聞ヂヤ日報社と張合ふて紙幅を廣めたはよいが昨年の發行停止で大損の所へ時事新報と自由新聞に花主を奪はれ今では損多くして益少なしといふ實況ふらん氣の毒な事じや商「イヤさう仰つしゃるが報知新聞は大隈さんと云ふ後指が五坐る中々以て其様な不景氣ではふいさうでげす全体お前さん改進黨の新聞といへば惡く言なさるが報知新聞は記者も大勢居る上に藤田茂吉さんの文章といつては誰知らぬ者もない立派なもの犬養，尾崎の兩先生次にヽ芳川，岡，ふんぞといふ雑報記者もあるといふ事で何にせい事を書くに密で丁寧で委しいよは外々の及ばぬ所でありませう（7 ぺ～9ぺ）

15, 16 年ごろの雑報担当記者として戯作者系統の芳川春濤がいたらしいが，10，11年ごろにもいたかどうかは不明である。しかし岡敬孝が雑報記事を担当していたことはこの記事からも推察される。

『全國新聞雑誌評判記』の記事は，とにかくとして，明治10，11年ごろの郵便報知の記者として氏名のわかっている人たちは上述の通りである。福沢門下の人人を一往洋学系統の記者とするなら，栗本鋤雲，岡敬孝などは漢学系統の記者とみなすことができる。洋学系統の記者は，西欧の文物に対して一往の理解をもっており，加うるに漢学を基礎とした作文力をも身につけていたので，文章の力で読者をひきつけ，また相当の影響を読者に与えていたようである。栗本鋤雲のごときも漢学で育った人であるけれども，幕末に幕府の使節として仏国に行ったこともあり，西欧の文物にも十分理解があり，その閲歴と人格とは，編集の主宰者として慶応義塾出身の記者たちから尊敬を受けていたのである。

新聞とその読者層

郵便報知の記者たちの顔ぶれでもわかるように，大新聞の社説や論説に筆をとる人たちは，当時としては教養の高い人人であったが，いずれも漢学の素養のある人たちであったので，その書く文章は簡潔をたっとぶ漢文書き下し文体の文章であり，むずかしい漢字漢語の使用されることが多かったのである。従って郵便報知新聞のような政論新聞を購読する読者は，十分それらの文章を理解するだけの能力を持った階層でなければならず，読者層の大部分は，やはり当時の知識階級に限られていたものであろう。郵便報知新聞の購読料は当時１枚

(1日分) 3銭，1か月分は前金で68銭であった。東京日日新聞も1枚3銭，1か月分は前金で70銭であり，大新聞の定価はみなその程度であった。小新聞は1枚1銭，1か月分は前金20銭というのが普通であった。1枚の代金は，米1升が5銭であった当時の物価と比較してかなり高価なものであった。以上のような情況であったから，大衆に向って開放されている新聞といっても，大新聞の場合は限られた人人が読者であつたことが想像されるのである。

当時，新聞が一般家庭にどの程度に普及していたかを探るために，内務省図書局年報に発表されている明治10年7月から明治11年6月に至る1年間における新聞の総発行部数を示そう。便宜上，東京で発行されていたおもな大新聞，小新聞の発行部数に限って引用する。

東京日日新聞	3,285,238部	郵便報知新聞	2,393,444部
朝野新聞	5,319,510部	東京曙新聞	1,934,368部
読売新聞	5,456,723部	東京絵入新聞	1,848,590部
かなよみ新聞	1,561,120部		

この調査は内務省から各社に命じて届けさせた数字であるから，必ずしも正確とは言えないけれども，1日の発行部数を知る手がかりとすることはできよう。もっとも，『読売新聞八十年史』に引用している国立国会図書館上野図書館蔵の東京府統計表によれば，以上の数字とはすこし違った数字がでている。

郵便報知新聞は当時大祭日および日曜日は休刊していたので，年間の刊行日は約300日と考えてよく，総発行部数を300で割れば，大体1日の発行部数が出る。そこで，明治10年7月～明治11年6月の1年間は1日平均約8,000部ということになる。明治11年7月23日御届という日付のある一枚刷りの番付表『當時流行競』(編輯兼出版人は第一大區拾壹小區神田元柳原町鎗田徳之助とある) を見ると，東京日日新聞27,000枚，朝野新聞15,000枚，郵便報知新聞14,000枚，東京曙新聞12,000枚，読売新聞27,000枚，東京絵入新聞11,000枚，かなよみ新聞10,000枚とある。このような番付表にでている数字は一層不正確なものと思われるが，なんらかの参考になるかも知れない。

明治10年6月23日発行の「近事評論」第64号では，「東京タイムス」第21号の記事を引用して，東京日日新聞の1日の発行部数を8,000枚から10,000枚，

読売新聞は15,000枚，朝野新聞は4,000枚，郵便報知は2,500枚としるしている。郵便報知の発行部数について，6月26日発行の郵便報知の雑報欄で，さっそく文句を付けているが，2,500部という部数はすこし少なすぎる。いずれにせよ今日の新聞の発行部数から考えると信じられないような数字であるが，まだ新聞があまり普及していなかった実情を示している。しかし農村などでは何部も来ない新聞を回覧していたようであるから，各新聞とも発行部数を上まわる多数の人人の目にふれていたことも事実であった。また各地に新聞縦覧所が設けられて新聞を購入しない人にも読まれたようである。明治初期に新聞が定期購読者を除いた社会の大衆にどのように受け入れられたかを当時の記録について見よう。

> 敦賀縣管下越前國南條郡武生ニテ新聞會同盟ノ設ケアリ其報條ニ云フ近来太政官日誌ヲ始メ三都四港各新聞紙局アリテ人々太政ノ一端ヲ窺ヒ世界事物ノ變遷ヲ知ルニ足ル嗚呼新聞ノ世ニ益アル其効大ナリト云フベシ然レヒ邊陬僻境ノ地固陋頑愚ノ徒ニ至ツテハ新聞紙ノ世ニアルヲ知ラス偶(タマ〳〵)コレヲ知ルモ之ヲ讀マスシテ遂ニ其知見ヲ博フスル能ハサルハ眞ニ悲嘆ニ堪ヘス因テ同志ト相計リ洽(アマネ)ク三都四港其他ノ新聞ヲ蒐集シ四方有志ノ人ヲシテ放觀(ホフカン)セシム之ヲ名ケテ新聞會ト云フ敢テ射利(シヤリ)ノ計ニアラス聊カ我カ開化ヲ助クルノ微意ナリト云々(「新聞雑誌」明治5年8月，第57號，4オ，ウ)
>
> 三重縣下津築地町戸長松田平八一社ヲ結ビ太政官日誌各種新聞紙ヲ集列シ諸人ニ縦覧セシメ猶新聞紙中善行ノ事件及ビ珍事奇説ハ社ノ門前ニ張出シ衆觀ニ供シ度旨願ヒ出聽許ヲ得タル由想(オモ)フニ遠キ縣下ニ在テハ各種ノ新聞ヲ展讀スルフ實ニ難シ前件ノ如キハ戸長タル者ノ職務ニシテ美談ト云ベシ願クハ各縣下ニ於テモ戸長等合議シ新聞掲示所ヲ取設ケナハ自然文化ノ一端トモ成リヌベキカ(「新聞雑誌」明治6年2月，第80號，5オ，ウ)

以上の記述を読むと，新聞会とか縦覧社を設けて新聞の閲覧を奨励しようとする企てのあったことがわかる。類似の記事は，当時の他の文献にもしばしば見受けられるのである。発行部数の少なかった明治初期の新聞も，けっこう定期購読者以外の人人の目にもはいったことがわかる。

次に人人が直接新聞を読むのではないが，間接に新聞所載の記事内容を第三者から解説読解してもらうケースもあった。直接目を通して新聞を読むのではないが，耳をとおして当時の新聞と接触をもつこともあった。たとえば次の記事はその間の消息を伝えてくれている。

西京小學校ニテ毎月二七ノ夜區内幼童勸善ノ爲メ御布令諸新聞紙等ヲ講論セリ又山梨縣ニテモ一六或ハ三八ノ夜ヲ以テ毎月六度宛新聞解話ノ會アリトゾ當節府下ニ於テハ談師圓朝席話ノ始メニ新聞中ノ緊要ナル箇條ヲ講說セリ女兒ナドハ新聞紙モ解シ難キコト多ケレバ此等亦善導ノ一端トモナリヌベキコトナリ（「新聞雜誌」明治5年11月，第70號，6ウ）

明治10，11年ごろになっても新聞縱覽所を設ける傾向は続いていたのであり，同様の記事が当時の新聞に見られる。その一二を引用する。

○群馬縣下上州原市町では有志の人〻か日報報知繪入の三新聞を日曜日毎書畫琴棋詩茶香堂にて縱覽させまた讀み聞せもするので日增に出席する人も多くなるといふは奇特なことで有ます（「東京繪入新聞」明治10年3月31日）

○兵庫縣下攝津國川邊郡第十四區ハ最も僻陬にして未開の徒多きゆゑ區内にて重立ちし柴合佐一郎郎上愛麿を始め其他豐村，飯田，福井，福原等の有志輩が同心し區務所の構内へ新聞縱覽所を設け東京及び西京大坂各社の新聞幷に雜誌類を備へ誰彼を問はず縱覽を許し其上毎月五六の日を卜し演說會に倣ひて近隣の老若男女を集め新聞及び雜誌に就きて會得し易き事を懇ろに說き示すゆゑ聽衆も大に喜び指を屈して其日を待つ程に至れり（「郵便報知新聞」明治11年6月12日）

また，一面，新聞を読む習慣が社会全般に普及せず，民度も低い時代であったから新聞の文章を読んだり，内容を理解するのに困難を感じた階層のあったことは次の記事によってもわかる。

信州松本ノ商某ノ來話ニ余先頃甲州牧原村ノ農家ニ至リ語次世態ニ及ベル時主人ノ曰ク維新以來世ノ中善事少ク御政事ハ追々六ケ敷ナリ御布告ノ數々ナルハ幕政ニ十倍シ其文ハ漢語多クシテ田舍漢ニハ了解シガタキ事ノミナリ加フルニ新聞紙マデ配達セリ之ヲ受テモ讀ムコヲ得ス誠ニ迷惑ナルコトナガラ御指令[1]故無據受ケテ置クマデナリ戶長モ之ニハ殆ント困却セリト聞ケリ（「新聞雜誌」明治7年5月4日，第240號，3オ）

この記事は，明治7年5月ごろのものであって，記事のような事実がそのままあったかどうか保証しかねるけれども，新聞の配達を受けても読みえない人人があったことはありそうなことである。大新聞の社説欄の文章や投書欄に見られるある種の文章には，庶民の理解することのできないような内容だった

1）明治政府は明治5年3月27日以後，新聞雜誌，日報社新聞（東京日日新聞），横浜毎日新聞の三新聞を新聞奬励のために買い上げ，当時3府72県あったそれぞれの府県に3枚ずつ配布したことがあった。地方においても中央にならって地方庁が新聞購読を人民に奬励したことのあったことが記録に残っている。

り，むずかしい文章や表現のものもあったから，明治10，11年になっても，このような事態が存在したことであろうと想像される。

読売新聞の創刊号（明治7年11月2日）の第二面の最後の欄に，今日の社告に相当する「禀告」という欄があるが，その中に次のような文章が見えている。

> 此新ぶん紙は女童のおしへにとて爲になる事柄を誰にでも分るやうに書てだす旨趣でござりますから耳近い有益ことは文を談話のやうに認て御名まへ所がきをしるし投書を偏に願ひます

また，読売新聞が明治10年大阪に進出した当時，その紙上に広告した文章の中にも次のようなものが見えている。

> 東京虎の門外琴平町の本局にて賣出したる讀賣新聞ハ俗談平話に綴り婦女子を導く開化の魁け梅の難波のよし惡しも漏さず載て有磯海眞砂よりしも細き筆と皆人さんの御好みは日々に月にと增鏡云云

読売新聞の文章は，創刊以来，総ルビ付の俗談平話でつづられた文章であり，婦女子にもわかる平易な文章で書かれていた。東京繪入，かなよみなどの小新聞の文章も，すべて談話体のやさしい文章であった。上記の広告文は，どういう読者層を目標に新聞が編集されていたかを如実に物語っている。小新聞の読者層が，婦女子を含めた，一般庶民階級であったことは，言うまでもない。これに対して郵便報知をはじめその他の大新聞は，漢文書き下し文体で書かれている社説，論説，投書欄に重点を置いていたのであるから，その読者層はそれらの欄の記事に興味をもっていた知識階級であった。大新聞，小新聞のいずれに属するにしても，全般に発行部数があまり多くなかった事実を考えると，新聞の読者に与える影響力を過大に評価することは，つつしまなければならない。しかし，当時の発行部数の割には，大新聞の読者に与える影響は強かったように思われる。その反応は，投書欄に投じた一般読者の投稿に見られるのである。郵便報知の読者層の場合も上述の通り，大部分は当時の有識階級であったと考えてよさそうである。

なお，郵便報知の読者の多くは，もちろん，東京在住者であったと思われるが，すでに大阪にも支局を持っていたし，郵便の制度も発達して来ていた時代であるから，全国的に散在している定期読者があったことも，当時の新聞その

他によって知ることができる。発行部数こそ少なかったけれども，郵便報知は全国的な中央紙の性格をも持っていたということができる。

参考書

日本新聞暦史	小池洋二郎撰著	明治15年３月刊
日本新聞発達史	小野秀雄著	大正11年８月刊
日本新聞史	同	昭和22年５月刊
新聞の歴史	同	昭和30年12月刊
東日七十年史	相馬　基編	昭和16年５月刊
報知七十年	青木武雄編	昭和16年６月刊
朝日新聞七十年小史	本多助太郎編	昭和24年１月刊
毎日新聞七十年史	社史編纂委員会編	昭和27年２月刊
読売新聞八十年史	岡野敏成編	昭和30年12月刊
明治文化全集第17巻(新聞篇)	吉野作造編	昭和３年６月刊
幕末明治新聞全集　全５巻	尾佐竹　猛編	昭和９，10年刊
新聞集成明治編年史　全15巻	中山泰昌編	昭和 16 年再版

3　調査の方法

この調査で採用した方式は，層わけ等間隔抽出法である。すなわち，

1　調査対象の全記事を，紙面構成の上から五つの層にわけ，

2　行を抽出単位として

3　どの層も $^{1}/_{12}$ の抽出比で

標本を抽出した。

まず**記事の層わけ**は

a層　公布・公聞・録事など

b層　社　説

c層　雑報（一般ニュース）

d層　外電・外国通信記事など

e層　投書・雑文・訂正記事など

の五つとした。各層の内容をかんたんに解説すると，

a層　今日の公文にあたるもので，江戸時代のお触書を思わせる候文体が

多い。しかし，漢文書き下し文体のものも，もちろんまじっている。また叙任・辞令などは漢文体である。ここにのせるのは，公布（各官庁からのお達し），公聞（任官・免官・叙位・叙勲の辞令），録事（各官庁公示事項），記事（東京府からのお達し），公判記録などで，ルビはない。

b層　社説は，ときどき杉山繁稿とか，藤田茂吉稿，犬養毅稿というように署名のあるものが見えるけれども，大部分は無署名である。筆者は，おもに矢野龍渓であったらしい（『報知七十年』による）。格調のある漢文書き下し文体である。ルビは一二きわめて例外的にある。

c層　報道記事で，(イ)府下雑報，(ロ)西京新報，(ハ)大坂新報，(ニ)諸県報知，(ホ)公判・傍聴記（横浜ガス訴訟事件），(ヘ)地方官会議日誌および　(ト)同傍聴記等がある。この中，東京府，西京，大坂だけに関するおかみのお達しや伺いを掲載している部分はa層と同じ文体である。公判の傍聴記は被告・原告・裁判官の問答の要点を記録したもので，地方官会議日誌や同傍聴記も今日のような速記ではない。文体も漢文書き下し文に近い。

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)は，お達しを除いてパラルビ，ひらがなを使っている。

(ホ)(ヘ)は，ルビなし，かたかな。

(ト)は，ルビなし，ひらがな。

d層　外電の翻訳と，仏国博覧会に出張した江木保男委員の通信文のように，外国のことを扱った記事とがある。米国近報，外国新報，支那近況といった題が付いている。ルビなし，かたかな。

e層　社告（ルビなし，かたかな。漢文書き下し文体）や，支那救荒記事（寄付金額，住所，人名）と投書がある。投書は，本山彦一，岸田吟香，尾崎行雄等の名が見えるが，協義社員のものが多い。これはある種の論説であるから，ルビなし，かたかな。その他のものも全体をながめたところでは，漢文書き下し文体が優勢である。この外に，出鱈目草子と題して，甲拆生という筆者が擬古文の随筆を週一度ぐらいの割合で連載している。また，御巡幸日誌（毎日掲載，筆者は岡敬孝，明治11年8月30日から11月8日まで71日間の北国御巡幸）は，ルビなし，ひらがなで，擬古文である。

以上が各層の簡単な解説である。

各層にふくまれる記事の分量を%で示すと，下表の通りである。

層	%
a	9.4
b	14.2
c	53.1
d	5.8
e	17.5
計	100

行を**抽出単位**としたのは次の理由による。新聞という与えられた形態において，日付とかページ（面）とかを抽出単位とすれば，話題に影響されて，用語がかたよるかもしれない。一方単語や文節を抽出単位とすれば，用語はまんべんなく採集されるかもしれないが，文脈つきの等間隔採集には次の点で不便がある。採集前に調査対象を全部，単位に句切っておかなければならないが，実を言うとこれは余計な手間であって，単位に句切るのは採集箇所についてだけ行えばよいことである。その上，採集すべき場所を一箇所でも修正すれば，そのあとの採集箇所を全部ずらさなければならない……等々。

従って，採集が比較的容易で，しかもいろいろの用語がわりにまんべんなく採集できそうな抽出単位として，われわれは行をとりあげることにしたのである。

抽出比率を $1/12$ ときめた理由は，調査開始当時の人員・予算・期間などの関係で，われわれが採集・整理できるカードは最大限十万枚と見つもられたからである。

準備調査の結果によれば，行あたりの調査単位数は，平均 8.810 であった。層ごとの平均は表1の備考欄に示した通りであるが，χ^2（カイ自乗）検定によって一様性の程度をたしかめたところ有意の差は見られなかった（99% 以上の確率で理論値と一致する）。そこで採集予定枚数十万を行数に換算すると，

$$\frac{100000}{8.810}=1135_0\ (\text{行})^{1)}$$

1)　くわしい数字は 11350.7であるが，一方の有効数字が四つであって，"0.7" は誤差の範囲にはいってしまうので，四捨五入してまるめても意味がない。そこで，0 を小さく印刷した。

一方，調査対象の延べ行数をかぞえたところ 146,112 行あったので，抽出比 r は

$$r=\frac{1135_0}{146112}=\frac{1}{12.33}$$

となり，12行ごとに1行を抽出すれば，ほぼ予想どおりのカードが採集されることになる。

実際に採集された行数は，表1のとおりである。

表1 抽出された行数の内訳

層	行 数	抽出行数
a	17,473	1,377
b	21,760	1,804
c	75,721	6,336
d	8,429	687
e	23,059	1,988
全体	146,112	12,192

II　調査はこうして進めた

1　調査単位のきめかた

近代語研究室の調査単位認定の規定は，次のように定めた。

この調査単位は，国立国語研究所報告4「婦人雑誌の用語」に用いたα単位にほぼ近い。

原則1　次の各項に該当する箇所で，文を句切る（おおむね品詞論を前提とした分割）。

11　助詞，または助動詞のあと。助詞，助動詞がいくつも続いている場合は，最後のもののあと。なお，現代口語文では当然，助詞のはいるところで，文語文であるためにそれのはいっていない箇所については，助詞を想定して分割する。（例文中，ルビの変体がなは，普通のかなに改めた）

例　具申之｜趣｜特典ヲ以テ｜本罪ニ｜一等ヲ｜減ス：[1]
一回ノ｜裁判ヲ｜受ケシメザルノ｜理｜アランヤ｜
資本ヲ｜用ユルノ｜利｜アリテ｜害｜ナキヲ｜知ルナリ｜
足下ニ於テモ｜此：事ニ｜盡力セヨト｜
手取に｜ふし吳んと｜勇(いさ)み進んで｜以前の｜堤ユ｜來り：
制禁の｜張筬(ざる)を｜持て｜丁と｜呼ひ：半と｜叫ひて｜勝負を｜爭ふ：聲｜聞付け：
不圖：風の｜心地ユて｜病の｜床(とこ)に｜就(つ)きしより｜次第に｜重(おも)り：敢果(はか)ふく：ふりし｜跡を｜相續する：者も｜ふければ｜
賃錢を｜多く：酉の｜町とも｜悦んで｜居りましやふ｜

ただし，複合語を構成しているものは，助詞・助動詞があっても，切らない。

例　中ニ就テ｜　｜トモアレ｜　｜世の中｜　｜間もふく｜　｜足らぬ勝ち｜

12　用言の中止法・終止法・命令法のあと。

例　諸子皆敵愾ノ命ヲ奉シ｜意旺ニ氣奮ヒ｜各旅團ノ兵ト共ニ西シ｜
名も小万と改め｜廣めをすると
王子權現社ノ下ニテ大堰アリ｜

---

1)　上例中の実線は，1の適用を受けもの，点線は1以外の適用を受けて分割されるものである。12以下については，煩を避けるために，：は省略した。

然し乗込人ゝハ少も怪我ふしといふ｜
我國人ノ西教ヲ奉スル者ヲ見ヨ｜

13　用言の連体修飾法，形容詞の連用修飾法のあと。

例　深き｜仔細の有り氣ふれバ　　吹送る｜風ゝ七色の星を散し
野津長官ヨリ厚ク｜待遇セラルヽヲ以テ

14　連体詞・副詞のあと。

例　其｜思想　　此ノ｜改正　　我｜邦ノ　　去る｜三十日　　直ニ｜此處ニ來リ　　豈｜羊ニシテ善ク狼ヲ牧スルヲ得ンヤ

次のようなものも，連体詞と認める。

例　該｜支廳　　同｜銀行　　故｜大久保内務卿　　昨｜十六日（一昨，翌，明も同じ扱い。）　　當｜掛　　右｜定七儀　　元｜華族　　無慮｜二千有餘人

15　接続詞のあと。

例　然レ𪜈｜一場ノ談話會タルニ過キス　　朝暮又ハ｜食事の時間

16　感動詞のあと。

例　嗚呼｜復タ何オカ言ハンヤ　　イザ｜お連れ申さんと

17　体言の独立格のあと。

例　コレ兄上｜　　ナンボ家名ゝ係れバとて質鉢置きて漸くゝ其日を送る痩世帶｜

原則2　原則**1**に該当しないものについて，さらに，次の各項を適用する（主として意味の関係からの分割）。

21　並列された語は，たがいに切り離す。

例　透明｜緻密　　不幸｜不平　　官｜民　　金｜銀

ただし，「着手落成届」のようなものは，「着手」と「落成」とは並列の関係であるが，この両者を「届」と言う語がくくっていると認めて，これは切らない。以下のようなものも同様である。

例　勅奏判任官　　建築修繕費　　評論辨義スル

22　体言と，なんらかの属性概念を示す語との結合において：——

22・1　体言が，属性概念を示す語の前にあって，その属性概念を賓とする主概念となっている場合は，たがいに切り離す。

例　徒黨｜暴動　　大政｜復古　　末｜頼もし　　旅｜珍らしき

五州｜和親　　權力｜平均　　檢査｜未濟　　胸｜塞り

22・2　体言が，属性概念を示す語の前にあって，その属性概念を補充修飾する関係にある場合，たがいに切り離す。

例　年金｜下賜　　軍旗｜授與　　內地｜旅行　　自宅｜禁錮
私忿｜暴殺　　佛國博覽會｜派出　　これ｜見よがし　　錢｜勘定
財産｜調べ　　人並｜勝る

22・3　ただし，資格の体言，または体言対当のものに，じかに接続するサ変動詞，および意味上ほぼそれに当る動詞は，切り離さない。

例　固守スル　　強盜なす

以下の動詞が，これの適用を受ける。

す(する)　なす　あいなる　あそばす　いたす　くださる　たてまつる　たまう
つかまつる　なさる　なしくださる　なる　まかりあり　ましま　もうす

23　体言と体言との結合において：——

23・1　「～用」「～向」「～式」などに導かれて連体修飾格に立つものと，これによって修飾されるものとの結合は，たがいに切り離す。

例　訴訟用｜罫紙　　私用｜瓦斯　　西洋風｜眼鏡　　公立｜小學校
南側｜土手　　諸派｜教師　　隊付｜蹄鐵工　　雲母入｜模紙
胸部｜動脈瘤　　室內｜射的　　除外｜下士

次のようなものも，上に準じて扱う。

舶來｜西洋紙　　縮緬｜裾模様　　御野立｜小休　　新開地｜地券
黑色｜促織蟲　　佛蘭西｜消防服　　佛國｜博覽會　　新聞｜編集人
豫備｜砲兵第三大隊長心得

23・2　全体と部分との関係に立つものは，たがいに切り離す。

例　招魂社｜境內　　學習院｜構內　　天王寺｜墓地　　本館｜前面

23・3　行政区画とか各種の機構などの，各段階を表わす部分で切る。また，それらに関する肩書や，さらに，肩書と人とをも切り離す。

例　山口縣｜周防國｜玖珂郡｜川西村　　第二大區｜十二小區　　第二方面｜
五分署　　裁判所｜支廳　　名古屋鎭臺｜分營　　內務省｜勸商局
文部省｜御雇　　愛國社｜社長　　教導團｜生徒　　眞綿掛｜工女
鎭臺｜兵卒　　陸海軍｜學校長　　栃木縣｜大書記官

23・4　数詞の単位量を表わす名称の変わるところで切る。年号や午前・

午後の類も，これに準じて考える。

例　廿七圓｜六十九錢｜三厘　　四里｜九丁　　四インチ｜一　　二間｜半
明治｜十年｜十二月｜廿二日　　午前｜九時

また，位どりの名まえは，単位量を表わす名称の変わるところとは認めない。

例　三万二千五百圓

23・5　数量，もしくはそれに準じるものを表わす語の前で切る。

例　禁獄｜十年　　金｜二千圓　　鑛石｜數塊　　何｜一ツ　　開業醫｜一同　　世界｜萬國　　槍｜一ト筋　　全｜一冊　　供奉｜諸員　　西洋｜各國

23・6　時間・分量・程度・位置・方向・関係・範囲などを表わすもので，接尾語的に用いられたものは，切り離す。

例　一兩日｜前　　十二時｜後　　八年｜以前　　開港｜以來　　半期｜分　　貳百石｜以上　　五百石｜以內　　公使｜以下　　數月｜間　　三週間｜限り　　柳橋｜邊　　今石動（イマイスルギ）｜在　　法蓮寺｜趾　　皇居｜最寄　　入營｜途中　　各個｜平均　　六里｜未滿　　金｜次第　　百三十四匁｜强　　兄弟｜同志　　親類｜內（うち）　　俳優｜仲間　　金物｜類　　工兵｜方面　　見世｜先き　　港町｜外れ

原則3　原則**1**，**2**にかかわらず，次の場合は切らない。

31　原則**1**，**2**に従うと，意味がわからなくなるか，本来の意味が失われる危険のあるもの。

例　相撲營業（すもうとり）　　外國交際（外交）　　さなきだに　　人知れず　　よくする　　末永う　　事欠く　　綠の林（盜人）　　あの世

32　十干・十二支・九星・紋所・模様・官職名・施設・機関名・その他の固有名詞。

例　壬子（みずのえね）　　陸軍少將　　商法注意組　　地方官會議　　淨土宗大林寺　　瀧見のお茶屋　　萬國公法黨　　横濱毎日新聞　　八幡太郎鞍掛松　　信州蠶卵紙　　嘉助夫婦　　横濱居留地

ただし，条令・文題・行事名などは，固有名詞から除外する。

例　江藤新平｜前原一誠｜桐野利秋｜論　　大坂上等裁判所｜伺　　內國｜勸業｜博覽會

33　音転のある複合語，古代の格助詞を含むもの。

輸送濟　　濱町二丁目河岸　　底津石垣　　備へつもの

補則[1] 以上の原則に従うと著しく不自然，不合理の感を免れない場合は，個別的に考えて，例外を設ける（この例外は，すべて，カードに記録を取って置く）。

以上の規準は，作業に一貫性を持たせるために設けた「作業仮説」である。

ところで，上述の規定に従って得られた調査単位の中には，いわゆる接頭的・接尾的要素を含んだものがある。接頭的・接尾的要素は，独立して用いられることがないにもかかわらず，表現の単位として重要な役割をになうものであることは，いうまでもない（『婦人雑誌の用語』25ページ参照）。われわれは，接頭的・接尾的要素の用いられ方——広さと多さ——をみるために，とくに重要と思われるものを取り出して，別に整理集計し，これを語彙表の別表として示すことにした。別表で取り上げた単位は，次の五つの部類を含む。

a　<お　ご　おん>の類

b　<君　さん　氏>の類

c　<す　なす　致す>の類

d　<圓　歳　マイル>の類

e　その他，以下に掲げる接頭的・接尾的要素[2]

e1　接頭的要素の類

兩　諸　全　一　原　前　惣　何　幾　某　現　假　各　舊

1)　漢字が二字以上つづく場合，上述の規定に該当して分割されたものや，また，分割されなかったものがあり，その一つ一つが，α単位となるわけである。しかし，上述の規定に従うと，(1) 分割しようにも，その規定のないもの，(2) 続けようにも，続ける規定のないものを若干生じた。たとえば，(1)に該当するものに，歐洲國勢，同社新聞，裏面割引などがある。これらは，形の上からも，意味の上からも融合していない。しかも，どの規定の適用も受けずに，このかたまりで，最後まで残ってしまった。また(2)に該当するもので，知己朋友，有益至便，雷同阿諛などは，並列と考えれば，分割される。しかし，一方，融合して，四字で一概念を表わすと考えることもできる。われわれは，知己朋友などを，一概念と認めた。このような場合に，多く，補則が適用され，これによって(1)は分割され，(2)は分割されなかったのである。

2)　eは，ルビ以外は原文に従う。

新　在　衆　準　眞　被　毎　相(アイ)

第

非　不(ラ)　不(ブ)　無(ム)

e2　接尾的要素の類

(範囲)　外　内　中(チユウ)　邊(ヘン)　上(ジヨウ)　中(ジユウ)　下(カ)　表(オモテ)　裡(リ)　あたり　筋　方(カタ)

(三浦方)　余　等(トウ)　とも(兄弟とも)

(複数)　等　達　ども　連(レン)　輩(ガタ)　方

(状態)　的　向　様　式　用　形(ガタ)　流　製　勝ち　体(テイ)　通り

(行為)　方(操擧方)

(時間)　來(ライ)　過ぎ　頃(ゴロ)

(関係)　宛(アテ)　づつ　毎(ゴト)

cは　す・なす　および補助用言，それらに準じる接尾的に用いられた用言と，敬譲関係を表わす動詞の類である。dは，数詞の接尾的部分すなわち助数詞の類である。eは，われわれの研究室であらたに設けたもので，比較的多くの語につき，かつ，その使用度の多いと思われるものを，選んだのである。

2　原カードの採集と整理のしかた

採集は手書きによった。見出し欄には，調査単位（助詞・助動詞が付いていればそれを含めて）を書く。とくに注意したことは，原文の字体を忠実に筆写することであった。採集カード総枚数は99,384枚。

原カードの整理　別に定めた見出し形のきめかたによって五十音順に排列した。地名・人名・数詞は，別にして排列した。地名・人名・数詞の枚数は全部で12,069枚である。

この作業で，もっとも苦心をしたのは次のことであった。

1°　読み

詳細は，『国立国語研究所年報—8—』の190～191ページに報告してあるが，調査を進める上に常に参照したおもな辞書を二つだけ付記しておこう。

(1)　J.C. HEPBURN: A JAPANESE AND ENGLISH DICTIONARY (和英語林集成) 初版慶応3年 (1867)，再版明治5年 (1872)，

3版明治19年（1886）

この辞書は，語形認定の作業に非常に役立った。

(2)　山田美妙　日本大辞書　第7版　明治29年5月

この辞書も参考になる点が多かった。しかし，語形の認定，単位語の切り方などで問題になった場合必ずよりどころとして利用した，というわけではない。

2°　同語と別語とを区別すること

まず，文字づかいがどうであるかがそれをきめる手がかりとなりそうである。たとえば，動詞の＜ヨル＞には，平がな・片かな・漢字の三通りがある。中でも漢字には，依・因・由・據・倚・憑・仍・寄の八種が使ってある。

この字づらだけを見れば，それぞれは別語の扱いをしなければならないようである。しかし，実際に使っている場では，その字本来の使い方はあまり気にせずに，相当自由に使っているようである。たとえば，「右科ノ内詐取財條ニ依リ窃盗ニ準シテ論シ」（明治11. 6. 13. a）「第七十九号公布ニ據リ處分可致事」（明治11.5.15. a）「法ニ由リ處分ヲナス」（明治11.5.18. a）「法律ニ因テ設定シ」（明治10.12.7. d）の例がある。それで，同語・別語を区別する際に，どのような漢字を使っているかを最終決定の根拠とはしなかった。それよりも，重点を置いたのは，文脈におけるその語が持っている意味であった。

＜ヨル＞という動詞には，①「～による」式の，原因・動機・手段を示すもの，②「木により魚を求む」式の，よりかかる，③「家による」式の，立ち寄る，以上三通りの意味がある。われわれは，以上の三つの働きを基準にして，全用例を分けて，それぞれを検討した。だから，その場合には，どのような文字づかいをしているかは判定の根拠にはできない。

3°　活用形

学校文法では，＜教ふ＞はハ行下二段活用しか認めていない。しかし，実際には，＜教ゆ＞などという使い方をしている例が出て来る。＜用ふ＞＜用ゆ＞も同様の例である。この扱いには，はっきりとヤ行の活用形の表われているものだけは，ヤ行として，＜オシエ.ュ＞の見出しを立てた。ただし，ハ行の活用は，見出しを現代かなづかいで書くことになっているので，＜オ

シエ.ゥ＞と書いてある。

集計カードの作成

集計カードを作る目的は，同語の扱いをする採集カードの一まとまりを，一枚のカードに一覧できるようにまとめ上げることである。集計カードの内容は，層ごとの使用度数とその合計，どのような文字づかいをしているかの一覧，必要により意味がわかる程度の文例の注記等である。

見出し欄は，別に掲げた語彙表の見出し形と同じ書き方である。

集計カードの整理

五十音順の排列は，語彙表の見出し形の順序のとおり。ただし，総使用度数10以上のもの（地名・人名・数詞のグループの中の10以上のものを含む）と９～１のものとに分けた。前者は，使用度数10以上の語彙表（略称A表）に，後者は使用度数９～１の語彙表（略称B表）にまとめた。この報告書の第１～３表参照。

別表の作成

別表として掲げたのは，次の五類六種である。

a　＜お(御)・ご(御)・おん(御)＞の類

b　＜君・さん・氏＞の類

c　＜す・なす・致す＞の類

d　＜圓・歳・マイル＞の類

e　その他の接辞的要素

e1　＜相(アイ)～・一～・各～（接頭的要素）＞の類

e2　＜～宛(アテ)・～下(カ)・～上(ジョウ)（接尾的要素）＞の類[1)]

a　e1　は前部分としての造語要素，b・c・d・e2 は後部分としての造語要素である。集計カードの見出しを記入する際に以上の六種の要素を含むものを区別できるようにしておき，それに従って，種類別に整理した。

1)　くわしくは，Ⅱ１「調査単位のきめかた」参照。

3　異なり語はいくつ採集できたか

—異なり語の補充調査について—

郵便報知新聞の語彙調査（以下「本調査」とよぶ）では，12行につき1行の割合でサンプルを指定し，かくして得られたサンプルの集団から延べ約十万のカードを採集した。この中から人名・地名・数詞をさしひいた正味の枚数ならびに異なり語数は次の通りであった。

当初採集枚数　99,384
正味採集枚数　87,315
正味異なり語数　22,272

ところで，郵便報知新聞の「本調査」は標本調査である。まだ調査していない部分が全体の $^{11}/_{12}$ もある。このなかに，採集もれの新しいことばが一体いくつあるだろうか。また，$^{1}/_{12}$ の比率で標本調査をくりかえしていったとき，予想される総異なり語への接近の度合いはどうなるであろうか。後者に関しては，別な資料，別な調査単位によってではあるが，一つの結果が示されている（参照『国立国語研究所年報—6—（昭和29年度）』52〜59ページ）。

そこでわれわれは，調査者の主観によって，どの程度まで異なり語を追加することができるだろうか，と考えてみた。

「本調査」では，郵便報知新聞の本文だけを調査対象とした。これは全紙面4ページのうち，3ページ強にあたる。[1] しかし，補充調査では本文のほかに，物価欄（商品市況欄）・広告欄までも調査対象とした。われわれは，本文欄以外に使用されている用語にどんな特殊性があるか，また，異なり語の補充率が本文と物価広告との間でどうちがうか，なども見たかった。

つぎに，「本調査」の調査方式は，行を単位とする等間隔ランダム抽出であった。抽出比率は $^{1}/_{12}$ である。この補充調査では，行のかわりに日付を単位とした。従って，一つの調査単位は，ある日付を持つ紙面の全体（4ページ）で

1)　郵便報知新聞は，4ページ建て4段組である。第4ページだけは5段組であるが，第1段は本文で，以下物価，広告欄がこれにつづく（まれに，本文が第二段またはそれ以下におよぶこともある）。

ある。抽出比率はおなじく $^1/_{12}$ で，等間隔のランダム抽出によった。

調査対象としてえらんだサンプルは，台帳番号 1，13，26…の25個である。

ところで，えらばれた25個のサンプルはいずれも，行を単位とする標本調査のサンプルをすでに含んでいる。つまり，この補充調査のサンプルは，すべて「本調査」において調査ずみのサンプルを $^1/_{12}$ だけ含んでいるので，主観的方法による補充調査は，のこりの $^{11}/_{12}$ について実施した。だから，日付を単位とする $^1/_{12}$ の抽出比率といっても，本文に関する限り，じっさいは，$^{11}/_{12}$ の紙面について調査しているのであるから，本文の真の抽出比率は，

$$\frac{1}{12}\times\frac{11}{12}=\frac{11}{144}$$

なのである。

ただし，物価・広告の欄は，「本調査」において調査対象とならなかったので，規定どおりの抽出比率（$^1/_{12}$）である。[1)]

以上の材料から，「本調査」において登録されなかった用語を主観的にひろいあげてカード化し，補充異語表（略称C表）を作成したのである（第四表参照）。

補充異語表を作成するまでには，「本調査」の語彙表に登録ずみの用語の除去，ならびに重複して採集した同じ語形の除去などの選別作業があった。

こうしてわれわれが得た結果は次の数字の通りである。

表2　正味採集枚数

当初採集したカードの総数	13,435
対象外の枚数（人名・地名・数詞など）	312
差引正味採集枚数	13,123
正味採集率（%）	97.7

1)　物価・広告欄は通常4段あって，面積は$^4/_5$ページであるが，字詰め・行数を考えると，これは本文の1・3ページ分ぐらいにあたる。

表3　異なり語補充率

	正味採集枚数	重複分を差引いた枚数[2]	語彙表に未登録の語数	正味補充率(%)
本　文	11,427	10,571	7,405	64.8
物価・広告	1,696	1,513	1,267	74.7
計	13,123	12,084	8,616[1]	65.7

表4　重複分の内訳

	補充した語の重複分	登録ずみの語の重複分	計
本　文	366	504	870
物価・広告	118	17	135
計	484	521	1,005

1)　本文と物価・広告とに共通の語56を差し引いた。

2)　ここには，表4の数字のほかに，語彙表に登録ずみの分も含む。

Ⅲ 語 彙 表

1 語彙表の性格

1・1 表にのせた語の範囲

郵便報知新聞（明治10年11月～11年10月）の延べ語数は，約百二十八万と推定される。標本として抽出されたのは，このうち十万たらずで，標本に現われた異なり語は，約二万三千であった。

この語彙表には，標本に現われた限りのすべての異なり語を収めた。それは，歴史的調査においては，たとえ一回であろうとも，そこに現われたということそれ自体が記録に値いする，と考えたからである。

これが，この語彙表の基本的性格である。

1・2 語彙表の種類

語彙表は次の五種類である。

1 使用度数10以上の異なり語の表（かりにA表とよぶ）

(1) 五十音順A表　使用度数10以上の異なり語 1,421 を掲げる。使用度数は示したが，使用率は示さない。

(2) 使用率順A表　使用度数50以上の異なり語 197 を掲げる。使用率だけを示す。

以上の二表には，人名・地名・数詞も含んでいる。

2 使用度数９～１の異なり語の表（かりにB表とよぶ）

(3) 五十音順B表　使用度数９～１の異なり語20,992を掲げる。使用率・使用度数ともになし。

この表には，人名・地名・数詞を含まない。

3 補充調査の結果，あらたに追加された異なり語の表(かりにC表とよぶ)

(4) 五十音順C表　語形だけの一覧表である。人名・地名・数詞は含まない。異なり語 8,616 を掲げる。

4　接辞的要素の表（かりに別表とよぶ）

(5)　分類式別表　　接辞的要素を，性質によって六種に分け，おのおのを五十音順に排列した表。

1•3　語彙表の見出しの立てかた

見出しの立てかたは同時に，語彙表の引きかたの通則でもある。

1　**活用のない語**は，その形を見出しとする。

2　**活用のある語**は，代表形に終止形語尾を添えたものを見出しとする。

例　＜読む＞の見出しは＜ヨミ・ム＞である。

代表形は，後述4の手続きによって定める。

3　**見出しの表記**は，現代かなづかいによる片かな書きとする（A表，別表）。

ただし，紙面の節約上，漢字片かなまじりで印刷した表もある（B表，C表）。

(3•1)　外国語・外来語などを写す際の長音は，長音符号＜ー＞のかわりに，直前のかなと同じ段の＜ア　イ　ウ　エ　オ＞を用いて示す。

例　エエテル

(3•2)　漢字音で＜各＞＜敵＞など，入声（にっしょう）のKを表わした音は，複合する場合にも，＜カク＞＜テキ＞などとする。

例　＜カクコク＞（各國）　＜テキコク＞（敵國）

4　活用のある語の**代表形**は，次の手続きに従ってきめる。

(4•1)　動詞は連用形を代表形とする。

例　＜読む＞の代表形は＜ヨミ＞である。

(4•2)　形容詞は，語幹を代表形とする。

例　＜早し＞＜早い＞の代表形は，いずれも＜ハヤ＞である。

(4•3)　活用のある語を語彙表に記入するさいは，代表形の次に終止形の語尾を小さく添えたものを見出し形とする。

前例で言えば，＜読む＞は，じっさいには＜ヨミ•ム＞と書かれる。また，＜早し＞＜早い＞はそれぞれ＜ハヤッ＞＜ハヤィ＞と書かれる。口でよぶときも，「ヨミム」「ハヤシ」のようによぶ。

ただし，排列にさいしては，終止形の語尾を無視して，代表形によって行なう。[1]

(4•4) 文語・口語の区別や活用の識別なども，おおむねこの方法によって行なうことができる。

例 ハヤシ《文語》～ハヤイ《口語》，アリ・ッ《文語》～アリ・ル《口語》
トリ・ル《四段》
オチ・ッ《上二段》，ウケ・ク《下二段》
ミ ル《上一段》……一段活用は「 . 」をつけない。
キ・ク《カ行変格，文語》～キ・クル《カ行変格，口語》
オシエ・ッ《ハ行下二段》～オシエ・ュ《ヤ行下二段》

まれにではあるが，このやりかたでは区別できないばあいがある。たとえば<死ぬ>のナ行変格《文語》と四段活用《口語》とは，どちらも<シニ・ゥ>となって，区別がつかない。このようなばあいは，《ナ変》，《四段》などのように注記することにした。

5 いわゆる形容動詞は，語尾をのぞいた形を見出しとして，名詞と区別しない。

6 副詞・連体詞・接続詞のうち，語末に<と，に，の，で>の類をもつものは，それを除いた形を見出し形とする。

ただし，その見出し形を語彙表に記入するさいには，<と，に，の，で>の類を平がなで小さく添える。

例 ウカと アマリに アゲて ユエに カクて シカレば アの
ショクとして

7 接辞的要素を含む語は，その要素をはずした形を見出しの本体とする。従って，排列は本体の語形による。

例 <許可致す>，<町村毎>は，それぞれ，<キョカ>，<チョウソン>のところへ排列する。

(7•1) 接辞的要素を含む語は，それを含まない語のあとに排列する。

---

1) 活用形の代表形としては，普通，終止形を考えるわけであるが，この語彙表では，語幹を共通にする語はなるべく近くにまとめたかったので，あえて連用形などを代表形とした。接辞的要素をふくむ語の取り扱いその他各所に，この趣旨にのっとった約束が設けてある。

(7・2) 接頭的要素を含む語は，その要素をはずした形で排列する。

そのさい，接頭的要素は（ ）に包んでうしろへまわし，接頭的要素を含まない語の次に排列する。

次例のとおり。

町村	許可相成リ.ル
町村（各）	許可相成リ.ル（御）
	御許可致シ.ス

(7・3) 接辞的要素を含む語と含まない語とがいっしょにあるときは，共通見出しを別に立てて一か所にまとめる。

以上を一括して模型的な例で示そう。

許可	町村
～	～
～（御）	～（各）
～相成リ・ル	～（何）
～相成リ・ル（御）	～毎
～致シ・ス	～毎（各）
～下サレ・ル（御）	
～シ・ス	

なお，見出し形の排列にあたっては，おおむね現代語の感覚に従って順序を定めたが，いちじるしいものについては，当時の辞書その他の資料によって順序を定めた。

たとえば治療はジリョウとし，発言はホツゴンとした。

ややくわしい説明は，『昭和31年度 国立国語研究所年報—8—』を参照されたい。

1・4 語を使用する度合いの示しかた

ある語の量的な使用度を示すのに，なまの使用度数よりは，使用率をもってする方が他の資料との比較上好ましいことは言うまでもない。ここで使用率というのは，母集団（郵便報知新聞・本文記事1か年分の全体）でのある語の使用率の推定値のことである。母集団での使用率の推定値は，一往，ある語の標本中での出現回数を，標本延べ語数で割った値として表わされる。たとえば

＜有り＞（見出しはアリ・ッ）という語は，標本中に延べ1,783回現われた。一方，標本延べ語数は99,384であるから，「有り」の使用率は，

1783/99384＝0.01794（17.94‰）

で表わされる。‰は，パーミルと読む。

われわれの語彙表はしかし，原則として使用率を示さなかった。

使用度数９～１の語彙表（B表）に使用度数を示さなかったのは，統計学的な考慮による。使用度数９～１の語については，標本以外の部分に，その語と同じ程度に使われていながら，たまたま標本にあたらなかったばかりに現われなかったというものが多いはずである。それだからB表に使用率を示すことは始めから考えなかった。

使用度数10以上の語彙表のうち，五十音順に使用率をのせなかったのは，次の事情があったからである。ひとつは，全語彙をのせる関係上，極度に紙面を節約しなければならなかったこと，もうひとつは，標本の延べ語数がほぼ十万であるから，使用率の計算が容易であること。概数でよろしければ，使用度数1,000は，ほぼ10‰にひとしい。[1)]

使用度数	概算使用率(‰)	正確な使用率((‰)
1,000	10	10.
100	1	1.
10	0.1	0.1
1	0.01	0.01

統計的に意味のある使用度数を10以上としたのは，任意の語の行あたりの使用度数がポアソン分布に従うという性質を利用したからである。すなわち，任意の語の行あたりの使用度数がポアソン分布に従うと仮定すれば，統計数理上次のように言うことができる。ある語の標本使用度数が９以上であるばあい，母集団においてその語と使用率を等しくする他の語の標本使用度数が０となることはほとんどない，と。この根拠に基づいてわれわれは，安全を期して第一表にあげる標本使用度数の最低限を10としたのである。

もし使用率の精度を計算することができれば，標本使用度数の最低限をもっと小さくできたかもしれない。

---

1) くわしい計算のためには，付録の「使用率換算表」を参照されたい。

さて各語の使用率は，使用率順A表にだけ一部分を示したが，そのさい小数第五位までの値をパーミル（‰），すなわち $^1/_{1000}$を単位とする値で示した。これで，小数点の次に数個も零がならぶわずらわしさがなくなった。上の例でいえば，0.01794 を 17.94‰と表わすことができる。使用率順A表の使用度数は，1783から50に及ぶ。これをパーミルで表わせば17.94 から 0.5 にわたる。

使用率を小数点第五位まで表わしたのは，使用度数1の位までを正しく使用率に換算したかったからである。小数点第五位は十万分の一の桁であるから，百万分の一の桁（小数点第六位）まで計算して四捨五入したのである。[1)]

最後の数字の右肩にマイナス符号を添えたのは，四捨五入してくりあがった値であることを示す。たとえば，1.815⁻というのは，1.8146… の 6 を四捨五入したのである。だから，小数第二位までの数値を利用して計算するばあいは，1.815⁻ならば1.8₁とし，1.815 ならば 1.82 としてあつかわなければならない。このほか，まれではあるが，1.510⁻のようなのもある。これは，1,5098… の 8 を四捨五入した結果得られた数値である。小数第二位までを利用するさいは 1.51⁻ として，小数第一位までを利用するさいは 1.5 としてあつかうべきである。

1･5 使用率の推定について

この調査において，標本使用度数 f を使用率 p におきかえたばあい，調査対象全体（母集団）における使用率 p をどの程度に見つもることができるであろうか。これを推定するためには，データとして

層ごとの標本使用度数と標本延べ語数

が必要である。一方，使用率の精度の計算のためには，このほかに

行ごとの標本使用度数と標本延べ語数

がわかっていなければならない。

層ごとのデータは出したが，行ごとのデータを出すことは，今回はできなかったので，使用率の推定についてだけ述べる。

たとえば，c 層における任意の語の標本使用率 p を pc とおけば，使用率 pc は，c 層の標本延べ語数（n_c）でその語の c 層における出現回数（f_c）を割っ

1) もし，使用率の計算を小数点第五位までとして一万分の一の桁までしか表わさないことにすれば，10よりも小さい使用度数の差は使用率に反映しなくなってしまう。使用度数 106も111も，どちらも1.1‰となってしまう，という不便がある。

た値として表わされる。

すなわち,

$$p_c=\frac{f_c}{n_c}$$

任意の層を i で表わせば，一般に

$$p_i=\frac{f_i}{n_i}$$

ここに f_i は，任意の層における標本使用度数，n_i はおなじく任意の層における標本延べ語数を表わす。

一方，任意の語の標本使用率 p は，母集団における使用率（母使用率）と一致することが期待されるので，母集団における p の期待値 $E(p)$ は，次の式で表わすことができる。

$$E(p)=P \qquad 1\geq P>0$$

だから，標本度数を使用率におきかえることによって，一往母集団における使用率と推定することができる。

1・6 等しい使用順位の示しかたについて

たとえば，使用順位51の次に，ひとしい使用率の語が三つ現われたとしよう。普通は，52という順位をこれらに与え，四番目の語は順位55である。スポーツなどではこうする。しかし，使用率順語彙表では，そうはしなかった。今の例について言えば，順位51の次に現われた三つの語は，順位51と順位55との両方から同じ程度にへだたった順位を持つと考え，これらにそれぞれ53という順位を与えるのである。

以上の関係を表示すればこうなる。

通し番号	使用率	従来のやり方による順位	新しいやり方による順位
51	1,348	51	51
52	1,278	52	53
53	1,278	52	53
54	1,278	52	53
55	1,268	55	55

＊新しいやり方の計算法

（公式：順位$=r+\frac{n+1}{2}$）

n（等しい順位の数）

$51+\frac{3+1}{2}=53$

r（前の順位）

もし，ひとしい使用率の語の数が奇数ならば，新しい計算法による順位は整数であるが，偶数ならば0.5の端数がつく。

2 第1表 使用度数10以上の表（五十音順）……五十音順A表

五十音順A表は，使用度数10以上のすべての語1,421を収める（人名・地名・数詞を含む）。

以下かんたんに，この表の体裁を説明しよう。

1 見出し欄は，現代かなづかいによる片かなで表記する。
見出し欄には，まれに，かんたんな注記がある。《 》印は品詞，活用などを，〔 〕印は人名，年号などを示す。

2 漢字欄の漢字は，つとめて原文に従った。しかし，漢字は，注記のためのものであるから，送りがなはつけない。

3 使用度数欄には，その語が標本中に現われた延べ回数を示した。付録に，使用度数から使用率を計算する表がある。(312 ページ参照)

4 脚注欄は，見出し欄に書き切れなかった注記や文脈などを収める。文脈の次に，(a)などとあるのは，a層などの意味である。

なお，同形，同音のかな，および，同音語の排列については，つぎのように順序を定めた。

1. 同形のかな，同音のかなは，順序に関して区別しない。
ただし，字数が同じときはつぎの順序による。
i） 清音→濁音→半濁音
ii） <ツ>→促音<ッ>
iii） <キヤ>→<キャ>，<チユ>→<チュ>等
iv） <ウイ>→<ウィ>，<チエ>→<チェ>等

2. 同音語の間では，区別できるかぎり次の順序による。
i） 和語→漢語→その他
ii） 名詞→動詞→形容詞→副詞→連体詞→接続詞→感動詞

第1表　使用度数10以上の表（五十音順）

見出し			使用度数	見出し			使用度数
アシ	悪		12	アラワシ・ス	顕		19
アア	嗚呼		30	アリ・リ	有	《文語》	1,783
アイ・ウ	逢・會		29	アリ・ル	有	《口語》	21
アエて	敢		41	アリサマ	有様		44
アオギ・グ	仰		26	アル	或	《連》	35
アガリ・ル	上・騰		11	アルイは	或	《副・接》	217
アキラカ	明		16	アワセ・ス	合		29
アゲ・グ	擧		25	アンザイショ	行在所		11
アシ	足		17	イ	意		51
アズカリ・ル[1]	與・預		12	イル	居		22
アタイ	價		37	イイ・ウ	云・言		515
アタイ・ウ	能		91	イイン	委員		31
アタエ・ウ	與		60	イエ	家		70
アタカも	恰		33	イカ	以下		66
アタリ・ル	當		94	イカに	如何		15
アツシ	厚・篤		18	イカにも	如何		15
アツマリ・ル	集		11	イガイ	意外		11
アツメ・ム	集		12	イカガ	如何	《副》	12
アテ・ッ	充		13	イカナリ・リ[2]	如何		32
アト	跡・後		65	イカン	如何	《名》	37
アニ	兄		13	イキオイ	勢		21
アニ	豈		44	イクブン	幾分		11
アマリ	餘	《名》	10	イケン	意見		21
アマリ	餘	《副》	11	イゴ	以後		19
アメ	雨		21	イササカ	聊		21
アヤシミ・ム	怪		16	イシ	石		12
アヤマリ	誤		19	イジョウ	以上		66
アヤマリ・ル	誤		21	イシン	維新		19
アラカジメ	豫		15	イズレ	何		66
アラタ	新		26	イゼン	以前		18
アラタメ・ム	改		41	イダキ・ク	抱・懐		14
アラタメて	改		16	イタク	痛	《副》	15

1) 関係する　2) <イカナラン>, <イカナル>, <イカナレバ>を含む

見出し			使用度数	見出し			使用度数
イタシ.ス	致		28	イッタン	一旦		18
イダシ.ス	出		25	イッパン	一般		49
イタリ.ル	至		380	イッポウ	一方		11
イタッて	至		13	イデ.ズ[1]	出		78
イチ	位置		10	イト	最	《副》	12
イチ(ダイ)	一(第)	《数》	24	イトイ.ゥ	厭		15
イチエン	一圓	《数》	71	イトマ	遑		18
イチゴウ(ダイ)	一號(第)	《数》	13	イナ	否		17
イチジ	一時	《数》	11	イナや	否		11
イチジツ	一日	《数》	27	イノチ	命		14
イチジョウ(ダイ)	一條(第)	《数》	22	イフク	衣服		12
イチド	一度	《数》	11	イマ	今	《名》	127
イチニチ	一日	《数》	25	イマ	今	《副》	37
イチニン	一人	《数》	43	イマに[2]	今		11
イチネン	一年	《数》	12	イマや	今		16
イチマイ	一枚	《数》	17	イマダ	未	《副》	115
イチメイ	一名	《数》	11	イマニシ	今西	《人名》	30
イチイチ	一々		14	イマニシソウイチ	今西相一	《人名》	11
イチジ	一時	《名・副》	41	イヤシクも	苟		22
イチドウ	一同		36	イヨイヨ[3]	愈		30
イツ	何時		15	イライ	以來		50
イツ	一	《数》	22	イリ.ル	入		83
イッカネン	一ケ年	《数》	10	イレ.ル	入・容		24
イッコ	一箇	《数》	13	イロ	色		24
イッショウ	一升	《数》	13	イワク	曰		233
イッチョウメ	一丁目	《数》	18	イワユル	所謂		24
イツカ	五日	《数》	20	イワンや	況		34
イッコク	一國		15	イン[4]	院		15
イッサイ	一切		17	ウエ[5]	上		134
イッサク	一昨	《連》	43	ウカガイ	伺		41
イッサクジツ	一昨日		40	ウカガイ.ゥ	伺・窺		14
イッシュ	一種		13	ウカガイイデ.ズ	伺出		10
イッソウ	一層		16	ウケ.ク	受		93
				ウケタマワリ.ル	承		11

1) 「出テ」は，イデかイデテかはっきりしないものは助詞の＜テ＞として扱った　2) 1. 今にいたるまで　2. やがての意を含む　3) ＜イョョ＞は別　4) 元老院，養老院などをさす　5) 此の上，然る上などの＜ウエ＞も含む

見出し			使用度数	見出し			使用度数
ウケトリ・ル	受取		18	オウベイ	歐米	《地名》	11
ウシ	牛		10	オオシ	多		162
ウシナイ・ウ	失		40	オオイ・ウ	蔽		10
ウチ	內		159	オオイに	大		117
ウチ・ッ	打・擊		14	オオクは	多		12
ウツシ・ス	移		13	オオクマシゲノブ	大隈重信	《人名》	11
ウッタエ・ウ	訴		19	オオクラキョウ	大藏卿		18
ウツリ・ル	移		13	オオクラショウ	大藏省		27
ウバイ・ウ	奪		11	オオサカ	大坂	《地名》	25
ウマ	馬		13	オオセツケ・ク	仰付		13
ウミ	海		16	オオムネ	概		11
ウリ・ル	賣		17	オカシ・ス	犯		20
ウワサ	噂		23	オキ・ク	置		60
ウンヌン	云々		61	オクリ・ル	送・贈		54
エ・ウ	得		339	オコシ・ス	起		46
エイ	英	《国名》	22	オコナイ・ウ	行		64
エイキョウ	英京		18	オコリ・ル	起		38
エイギョウ	營業		18	オサメ・ム	納・収		25
エイコク	英國	《国名》	68	オシ・ス	推		17
エキ	驛		18	オシエ・ウ	教		11
エキ[1]	役		12	オソレ・ル	恐・懼		26
エキ	益		10	オチイリ・ル	陷		15
エキテイキョク	驛遞局		39	オツ[2]	乙		42
エラビ・ブ	撰		13	オット	夫		20
エンゼツ				オトウト	弟		12
～	演說		10	オトコ	男		24
～シ・ス	演說		10	オドロキ・ク	驚		25
オイ・ウ	追		21	オナジ	同		56
オッて	追		17	オノ	己		10
オイ・ウ	負		12	オノオノ	各		45
オイオイ	追々		37	オノズカラ	自		39
オウジ・ズ	應		30	オノレ	己		20
オウオウ	往々		12	オビ・ブ	帶		15
オウシュウ	歐洲	《地名》	28	オビタダシ	夥		14

1)「西南の役」　2) 号記の乙を含む

見出し			使用度数	見出し			使用度数
オボエ.ュ	覺		32	ガイジン	外人		24
オモシ	重		11	カイセイ	改正		26
オモイ	思		14	カイタクシ	開拓使		14
オモイ.ゥ	思		122	カイメイ	開明		18
オモムキ	趣		78	カイリョウシ.ス	改良		13
オモムキ.ク	赴		30	カエ.ゥ	換・替		16
オヤコ	親子		10	カエシ.ス	返		10
オヨソ	凡		107	カエリ.ル	歸		41
オヨビ.ブ	及		138	カエッテ	却		36
オヨビ	及	《接》	237	カエリミル	顧		29
オリ	折		58	カオ	顔		15
オリ.リ	居		22	カオク	家屋		10
オリカラ	折柄		21	カカゲ.グ	掲		52
オワリ.ル	終		49	カカリ.ル	係		50
オンナ	女		29	カカリ.ル	罹		23
カ	可		40	カカル	斯	《連》	33
カシ.ス	課		10	カカワリ.ル	拘		13
カの	彼	《連》	59	カキ.ク	欠		14
カイ				カキ.ク	書		11
～	會		12	カキトメユウビンブツ			
～シ.ス[1]	會		11		書留郵便物		16
カイ.ゥ	買		15	カギリ[2]	限		30
ガイ				カギリ.ル	限		35
～	害		29	カク	斯	《副》	41
～シ.ス	害		11	ガク	學		10
ガイ	該	《連》	119	カクゴ	覺悟		11
カイガイ	海外		10	ガクコウ	學校		22
カイギ	會議		35	カクコク	各國		27
カイギョウ	開業		11	カクサイ	客歲		11
カイグンショウ	海軍省		10	カクジ	各自		12
ガイコク	外國		12	カクシュ	各種		12
ガイコクシンポウ	外國新報〔題目〕		11	カクショ	各所		12
カイシャ	會社		10	カクチ	各地		11
カイジョウ	開場		11	カクノゴトシ	斯如		64

1) 1.出合う　2.集るの意を含む　　2) ＜辱を限りに＞などを含む

見出し		使用度数	見出し		使用度数
カクベツ	格別	10	カンサツ	鑑札	11
カケ.ク	掛	24	カンジャ	患者	18
カゴシマ	鹿兒島 《地名》	15	カンナイ	管內	15
カゴシマギャクト	鹿兒島逆徒	29	カンノウキョク	勸農局	26
カシシ.ス	下賜	28	カンリ	官吏	23
カジツ	過日	11	キ	氣	25
ガス	瓦斯	14	キ	木	11
ガスキョク	瓦斯局	15	キ		
カゼ	風	15	～	期	10
カゾク	華族	20	～シ.ス	期	21
カタシ	固	13	キ.ク	來	29
カタリ.ル	語	19	キシ.ス	記	63
カタワラ	傍	14	キシ.ス	歸	35
カツ	且	140	ギ	儀	186
カツテ	曾・嘗	45	ギ		
カド	廉	16	～	議	13
カナイ	家內	10	～シ.ス	議	10
カナイ.ウ	叶	12	ギアン	議案	19
カナラズ	必	54	ギイン	議員	21
カネ	金	45	ギイン	議院	11
カネ.ヌ	兼	11	キカイ	器械・機械	23
カネて	兼	50	キキ.ク	聞	125
カリ.ル	借	17	キキョウシ.ス	歸京	16
カレ	彼 《代名》	29	キゲン	期限	11
カワジカズヨシ	川路利良《人名》	15	キコウ	氣候	10
カワリ.ル	代	11	キサイシ.ス	記載	13
カン	間	136	キジ	記事	16
カン	官	36	ギジ	議事	13
カンシ.ス	關	46	キシャ	記者	14
カンイン	官員	20	キシャ	貴社	11
カンカ	管下	15	キセン	滊船	22
カンガエ.ウ	考	21	キソク	規則	41
カンギョウ	勸業	17	キタ	北	11
カンケイ	關係	19	キタシ.ス	來	11

見出し			使用度数	見出し			使用度数
キタリ.ル	來		53	キンジョ	近所		13
キタル	來	《連》	46	キンス	金子		10
ギチョウ	議長		32	キンセン	金錢		13
キボウシ.ス	希望		15	キンダカ	金高		11
キミ	君		13	キンボウ	近傍		16
ギム	義務		12	ク	區		10
キャク	客		26	クガツ	九月	《数》	45
キュウ	舊		10	クジ	九時	《数》	14
キュウに	急		11	クジ(ダイ)	九時(第)	《数》	10
キュウリョウ	給料		14	クネン	九年	《数》	34
キョウ	今日		21	クイキ	區域		11
キョウシ.ス	供		25	クコチョウ	區戸長	〔職名〕	42
ギョウ	業		32	クスモトマサタカ	楠本正隆	《人名》	11
キョウイク	教育		11	クダシ.ス	下		14
キョウキュウ	供給		10	クダリ.ル	下		20
キョウゲン	狂言		12	クチ	口		13
キョウシ	教師		20	クチョウ	區長		18
キョウユウブツ	共有物		18	クナイ	區内		10
キョカ	許可		13	クナイショウ	宮内省		17
キョク	局		12	クニ	國		96
キョゲツ	去月		26	クビ	首		10
キリツ	起立		12	グブ	供奉		10
ギロン	議論		13	クムショ	區務所		18
キワマリ.ル	極		11	クライ.ウ	食		10
キワメ.ム	極		20	クルシ	苦		16
キワメて	極		21	クルシミ.ム	苦		15
キン[1]	金		226	クルマ	車		10
キン[2]	金		14	クワシ	委		20
キンジ.ズ	禁		12	クワエ.ウ	加		56
ギン	銀		13	クワダテ	企		10
キンガク	金額		33	クワダテ.ッ	企		14
キンキン	近々		16	グン	郡		11
ギンコウ	銀行		11	グンカン	軍艦		14
キンジツ	近日		24	クンゴトウ	勲五等		12

1) 金○○円などの場合　2) 金属

見出し			使用度数	見出し			使用度数
グンジン	軍人		11	ケンリ	權利		18
ケイ	刑		10	ケンレイ	縣令		26
ケイキョウ	景況		31	ゲンロウイン	元老院		16
ケイサイシ.ス	揭載		17	コ	子		25
ケイサツショ	警察署		19	コ[1]	這	《代名》	17
ケイサン	計算		14	コ	故	《連》	12
ケイシキョク	警視局		18	コの	此	《連》	727
ケイジツ	頃日		14	ゴ	後		44
ケイブ	警部		10	ゴ	語		17
ゲジュン	下旬		11	ゴエン	五圓	《数》	25
ケダシ	蓋	《副》	64	ゴガツ	五月	《数》	35
ケッシ.ス	決		37	ゴジョウ(ダイ)	五條(第)	《数》	19
ケック	結句	《副》	10	ゴリン	五厘	《数》	11
ケッシて	決		63	コイ.ウ	請		37
ケン	縣		57	コウ[2]	甲		53
ケン	件		22	コウ	功		35
ケン	權		20	コウ	公		27
ケン	兼		15	コウ	効		15
ゲン	言		13	ゴウも	毫		11
ゲンジ.ズ	減		22	コウキョウ	口供		10
ゲンに	現		14	コウコク	廣告		
ゲンアン	原案・原按		11	～			10
ゲンイン	原因		16	～シ.ス			18
ケンカ	縣下		16	コウサイショウショ			
ゲンカ	原價		10		公債証書		24
ケンカン	縣官		15	コウゾク	皇族		11
ゲンコク	原告		92	コウチケン	高知縣	《地名》	11
ゲンコクニン	原告人		11	コウフ	公布		11
ゲンコン	現今		18	コウブン	公聞		16
ケンサ	撿查		17	コウベ	神戸	《地名》	29
ゲンジ	現時		12	コウムリ.ル	蒙		29
ケンチク	建築		16	コエ	聲		32
ケンチョウ	縣廳		33	コエ.ュ	越・超		10
ケンブツ	見物		10				

1) 全部「こは」の形　2) 記号の甲を含む

見出し			使用度数	見出し			使用度数
コキョウ	故郷		10	コノミ.ム	好		26
コクカ	國家		29	ゴヒャクエン	五百圓	《数》	11
コクミン	國民		10	コメ	米		16
ココ	此所		80	コヤマシゲル	小山茂	《人名》	10
ココに	茲		26	コレ			
ココにおいて	是於	《接》	41	～	之・是	《代名》	1,007
ゴゴ	午後		110	～ラ	之等・是等		27
ココノカ	九日	《数》	21	コレ	是	《副》	127
ココロ	心		103	コレラビョウ	虎列剌病		12
ココロエ	心得		14	コロ	頃		52
ココロエ.ゥ				コロシ.ス	殺		12
～	心得		16	コンド	今度		59
～(アイ)	心得(相)		20	コンニチ	今日		95
ココロザシ	志		18	コンパン	今般		52
ゴジッセン	五十錢	《数》	34	サ	左		117
ゴジン	吾人		13	サイ			
コスウ	戸數		10	～	際		81
ゴゼン	午前		92	～シ.ス	際		17
コタエ	答		13	ザイ	財		10
コタエ.ゥ	答		40	サイキョウ	西京		22
コチョウ	戸長		20	ザイサン	財産		19
コト				サイショ	最初		14
～	事		1,165	サイチュウ	最中		11
～ドモ	事共		12	サイバン	裁判		15
コトに	殊		58	サイバンショ	裁判所		26
コトゴトク	悉		38	サイワイに	幸		16
コトナリ.ル	異		38	サカン	盛		41
コトニシ.ス	異		19	サキ	先		33
コトバ	言葉		27	サキに	嚢		35
コドモ	子供		13	サキゴロ	先頃	《副》	22
コナタ	此方		18	サキダチ.ッ	先立		10
コノゴロ[1]	此頃		39	サク	策		10
コノタビ	此度		21	サク	昨	《連》	38
コノホド	此程	《副》	50	サクコン	昨今	《名・副》	42

1) 最近の意

見出し			使用度数	見出し			使用度数
サクジツ	昨日		117	～シ.ス	死		11
サクネン	昨年		45	シ	氏		12
サグリ.ル	探		12	シ[1]	使		12
サケ	酒		18	シ.ス	爲		602
サケ.ク	避		11	シガツ	四月	《数》	29
サシイダシ.ス	差出		60	シジョウ(ダイ)	四條(第)	《数》	16
ザシキ	座敷		10	シカシ	併		16
サシタテ.ッ	差立		33	シカシて	而		124
サシユルシ.ス	差許		10	シカラば	然		24
サダマリ.ル	定		17	シカリ.リ	然		105
サダメ.ム	定		63	シカリといえども	然雖		24
サッシ.ス	察		16	シカリシコウシて	然而		13
サッソク	早速		11	シカルに	然		66
ザッポウ	雜報		34	シカレども	然		94
サテ	扨		12	シガン	志願		10
サラに	更		116	シキ	式		16
サリ.ル	去・距		26	シキ	指揮		10
サル	去	《連》	143	シキ.ク[2]	若・如		15
サレど	左	《接》	11	シキュウ	至急		10
サン(ダイ)	三(第)	《数》	13	ジギョウ	事業		27
サンエン	三圓	《数》	24	シキリに	頻		17
サンガツ	三月	《数》	37	シケン	試驗		14
サンジ	三時	《数》	11	ジケン	事件		19
サンチョウメ	三丁目	《数》	20	ジコ	事故		11
サンニン	三人	《数》	23	シコウシ.ス	施行		22
サンギ	參議		10	ジゴウ	次号		30
ザンジ	暫時		13	シゴク	至極	《副》	10
サンジップン	三十分	《数》	17	ジコン	自今	《副》	19
サンジュウニチ	三十日	《数》	35	シサイ	仔細		22
サンジュウイチニチ	三十一日	《数》	19	ジジツ	事實		16
サンフランシスコ	桑港	《地名》	11	ジショ	地所		12
シ				シジョウ	紙上		27
～	死		17	ジジョウ	事情		19
				シゼン	自然		13

1) 開拓使の略，「官省院使府縣」　2) 大部分は未然形

見出し			使用度数	見出し			使用度数
シソウ	思想		13	シマツ	始末		12
シゾク	士族		79	ジム	事務		33
シタ	下		18	シメ・ム	占		23
シダイ	次第		26	シメシ・ス	示		18
シダイに	次第		10	シャ	社		36
シタガイ・ウ	従		56	シャカイ	社會		17
シタガッて	隨		22	ジャクカン	若干		11
シチガツ	七月	《数》	50	シャセツ	社說		23
シチジョウ(ダイ)	七條(第)	《数》	13	シャンハイ	上海	《地名》	18
シチネン	七年	《数》	17	シュ	主		13
シチュウ	市中		19	シュイ	趣意		12
シッシ・ス	失		11	ジユウ	自由		30
ジツ	實		18	ジュウ			
ジッセン	十錢	《数》	13	～	十	《数》	11
ジツに	實		69	～エン	十圓	《数》	20
シッコウシ・ス	執行		12	～ガツ	十月	《数》	40
ジッサイ	實際		13	～ジ	十時	《数》	23
ジッチ	實地		11	～ネン	十年	《数》	99
シナ	支那	《地名》	22	ジュウイチガツ	十一月	《数》	36
シナ	品		26	ジュウイチジ	十一時	《数》	13
シノビ・ブ	忍		10	ジュウイチニチ	十一日	《数》	26
シノビイリ・ル	忍入		13	ジュウイチネン	十一年	《数》	104
シバシ	暫	《副》	11	シュウカク	收穫・收獲		10
シバシバ	屢々		11	ジュウクニチ	十九日	《数》	21
シバラク	暫		23	ジュウゴニチ	十五日	《数》	26
ジブツ	事物		12	ジュウサンニチ	十三日	《数》	16
ジブン	自分		16	ジュウジシ・ス	從事		30
シヘイ	紙幣		21	ジュウシチニチ	十七日	《数》	32
シヘイキョク	紙幣局		11	ジュウゼン	從前		22
シホウ	四方		14	ジュウニガツ	十二月	《数》	49
シボウ	死亡		19	ジュウニジ	十二時	《数》	15
シホウショウ	司法省		12	ジュウニニチ	十二日	《数》	26
シホン	資本		21	ジュウハチニチ	十八日	《数》	23
シマダ	島田	《人名》	11	ジュウブン	充分	《名・副》	25

見出し			使用度数	見出し			使用度数
ジュウヨッカ	十四日	《数》	31	ショウガクコウ	小學校		10
ジュウライ	從來		21	ショウキュウ(ゴ)	小休(御)		15
ジュウロクニチ	十六日	《数》	21	ショウギョウ	商業		10
シュギ	主義		13	ショウゴ	正午		10
ジュシチイ	從七位		12	ショウサイ	詳細		14
シュジュ	種々		24	ショウシチイ	正七位		12
シュジン	主人		10	ショウシツ	燒失		14
ジュツ	術		11	ショウショ	證書		27
シュッカ	出火		14	ショウチシ.ス	承知		14
シュツガンシ.ス	出願		21	ショウニン	商人		11
シュッタツシ.ス	出立		11	ショウメン	正面		10
シュッチョウ				ジョウヤク	條約		14
～	出張		17	ショウライ	將來		27
～シ.ス	出張		21	ショキカン	書記官		11
シュッパンシ.ス	出帆		12	ショギョウ	所業・所行		11
シュッピン	出品		21	ショク	職		17
ジュロクイ	從六位		10	ショクギョウ	職業		10
ジュンジ.ズ	準		10	ショクン	諸君		24
ジュンコウ(ゴ)	巡幸(御)		14	ショケン	諸縣		29
ジュンサ	巡査		43	ショコク	諸國		13
ジュンジョ	順序		19	ショジ	所持		12
ショ	書		23	ショシキ	書式		11
ショシ.ス	處		20	ショブン	處分		17
ジョシ.ス	叙		30	ショメン	書面		27
ショイ	所爲		10	ショユウ	所有		16
シヨウシ.ス	使用		15	シラベ(オ)	調		11
ショウ	小		11	シリ.ル	知		194
ショウ	省		26	シリゾキ.ク	退		14
ショウシ.ス	稱		36	シレ.ル	知		14
ショウジ.ズ	生		75	シレイ	指令		27
ジョウ[1]	上		11	シンジ.ズ	信		29
ジョウ	狀		18	シンに	眞	《副》	10
ジョウ	情		17	ジンイン	人員		20
ジョウ	條		11	ジンカ	人家		12

1) 計算上などの＜ジョウ＞は，第5表（接辞的要素）にある

見出し			使用度数	見出し			使用度数
ジンコウ	人口		10	スベて	總		52
シンコク	清國	《国名》	17	スミ.ム	住		15
ジンシン	人心		20	スミ.ム	濟		15
ジンセイ	人生		10	スミヤカ	速		43
シンタイ	身体		13	セイ	勢		12
シンチク	新築		17	セイシ.ス	製		18
ジンブツ	人物		11	セイゲン	制限		11
シンブン	新聞		27	セイシツ	性質		24
シンブンシ	新聞紙		11	セイシュウ	勢州	《地名》	10
シンポ	進歩		12	セイジョウ	聖上		22
シンポウ	新報		14	セイシン	精神		14
ジンミン	人民		175	セイゾウ	製造		21
ジンリキシャ	人力車		10	セイダイ	盛大		14
ジンリョク	尽力		31	セイト	生徒		40
ズ	圖		12	セイトウ	征討		36
スウ				セイフ	政府		85
～	數		15	セイメイ	姓名		16
～メイ	數名		14	セガレ	悴		10
スエ	末		28	セケン	世間		20
スガタ	姿		17	セジョウ	世上		12
スギ.グ	過		64	セジン	世人		33
スグ	直	《副》	25	セツ	節		67
スグに	直		16	セツ	說		52
スクイ.ウ	救		15	セッシ.ス	接		16
スクナシ	少		78	セツリツシ.ス	設立		13
スコシ	少	《副》	23	セメ	責		10
スコシク	少	《副》	13	セワ	世話		11
スコブル	頗		48	ゼン[1]	前		33
スジ	筋		57	センキョ	選擧		12
ススミ.ム	進		36	ゼンゴ	前後		12
ススメ.ム	進		11	ゼンゴウ	前号		46
ステ.ツ	捨		18	ゼンコク	全國		16
スデに	既		175	ゼンジツ	前日		16
スナワチ	則		163	センソウ	戰爭		13

1) 出發前，百餘年前などの<ゼン>を含む

見出し			使用度数	見出し			使用度数
センネン	先年		14	ダイケイシ	大警視		17
ソの	其	《連》	1,707	ダイショウ	大小		17
ソウシ.ス	奏		18	ダイショキカン	大書記官		12
ソウイ	相違		28	タイシン	對審		11
ゾウカシ.ス	增加		15	ダイジン	大臣		11
ソウガク	奏樂		11	ダイトウリョウ	大統領		22
ソウケイ	總計		21	ダイニン	代人		11
ソウダン	相談		13	ダイリ	代理		11
ソウトウ	相當		18	タエ.ウ	堪		20
ソウバ	相場		22	タエ.ユ	絕		18
ソウホウ	双方		11	タオレ.ル	斃		11
ソウライ.ウ	候		18	タカシ	高		21
ソエ.ウ	添		19	タガイに	互		31
ゾク	賊		16	タカシマカエモン			
ゾクシ.ス	屬		36		高島嘉右衛門	《人名》	12
ソショウ	訴訟		11	タク	宅		10
ソゼイ	租稅		11	ダシ.ス	出		23
ソソギ.グ	注		18	タジツ	他日		12
ソナエ.ウ	備		16	タショウ	多少	《副》	13
ソノホウ	其方	《代名》	16	ダジョウカン	太政官		23
ソモソモ	抑		44	タスウ	多數		15
ソレ	夫	《代名》	59	タスケ.グ	助		20
ソレ	夫	《副》	81	タズサエ.ウ	携		13
ソレゾレ	夫々		20	タズネ.ヌ	尋		17
ソンシ.ス	存		32	タダ	唯	《副》	126
ゾンジ.ズ	存		10	タダに	啻		14
ソンガイ	損害		12	タダイマ	唯今		12
タ	他		142	タダシ.ス	正		18
タイ	隊		12	タダシ	但	《接》	104
タイシ.ス	對		35	タダチに	直		66
ダイ	大		33	タチ.ツ	立		43
ダイイチダイク	第一大區		14	タチ.ツ	絕		24
ダイカ	代價		13	タチマチ	忽		38
ダイギニン	代議人		14	タッシ.ス	達		79

1) 補助動詞の用法を含む

見出し		使用度数	見出し		使用度数
タッシ.ス(アイ)	達(相)	73	チャクシ.ス	着	17
ダッシ.ス	脫	10	チャクギョ	着御	10
タッシ	達	22	チャクシュ		
タテ.ッ	立	45	〜	着手	11
タトイ	假令	31	〜シ.ス	着手	22
タトエば	譬	10	チュウ	中	11
タニン	他人	11	チュウイシ.ス	注意	13
タネ	種	13	チョウ	廳	13
タノミ.ム	賴	29	チョウシ.ス	徵	11
タビ	度	25	チョウエキ	懲役	24
タマイ.ウ	賜・給	14	チョウジョ	長女	17
タマタマ	偶	14	チョウテイ	朝廷	10
タマワリ.ル	賜	37	チョッと	一寸	10
タミ	民	17	チンジュツシ.ス	陳述	10
タメ	爲	190	チンレツシ.ス	陳列	11
タモチ.ッ	保	16	ツイに	遂	143
タリ.ル	足	61	ツイタチ	一日	12
タレ	誰	40	ツイヤシ.ス	費	10
タンに	單	13	ツウジ.ズ	通	18
ダン	段	27	ツウカ	通貨	10
ダンジョ	男女	11	ツウコウ	通行	10
チ	地	160	ツキ		
チイ	地位	15	〜	月	10
チカシ	近	30	〜(マイ)	月(每)	13
チカゴロ	近頃	13	ツキ.ク	付	381
チカラ	力	21	ツキ.ク	尽	10
チシキ	智識	13	ツギ	次	38
チソ	地租	22	ツキヒ	月日	10
チチ	父	18	ツクシ.ス	尽	53
チバケンカ	千葉縣下	10	ツクリ.ル	造	32
チホウ	地方	29	ツケ.ク	附	20
チホウカン	地方官	10	ツゲ.グ	告	29
チホウゼイ	地方稅	19	ツゴウ		
チャ	茶	10	〜	都合	12

見出し			使用度数	見出し			使用度数
～(フ)	都合(不)		18		東京裁判所		14
ツタエ.ゥ	傳		15	トウキョウフ	東京府	《地名》	42
ツヅキ	續		33	トウキョウフチジ	東京府知事		13
ツヅキ.ク	續		12	ドウコク	同國		11
ツトメ.ム	勉		21	トウザイ	東西		12
ツネ	常		13	トウジ	當時		48
ツネに	常		42	ドウシ	同氏		10
ツノリ.ル	募		11	トウジツ	當日		20
ツマ	妻		56	ドウジツ	同日		15
ツマビラカ	詳		12	トウショ	投書		18
ツミ	罪		16	ドウショ	同所		56
ツミ.ム	積		11	ドウソン	同村		13
ツヨシ	强		10	ドウダン	同斷		11
テ	手		46	トウテイ	到底		14
デル	出	《口語》	18	ドウニン	同人		15
テイ[1]	体		26	トウネン	當年		10
テキシ.ス	適		16	ドウネン	同年		12
デキル	出來	《口語》	19	ドウヨウ	同様		37
テツヅキ	手續		18	ドウリ	道理		13
テラシ.ス[2]	照		13	ドウロ	道路		30
テン	點		17	トオカ	十日	《数》	36
テンカ	天下		27	トオシ	遠		23
デンポウ	電報		42	トオリ[4]	通		151
ト	徒		10	トガ	科		29
ド[3]	土	《国名》	10	トカク	兎角	《副》	10
トイ.ウ	問		56	トキ	時		247
トウ	當	《連》	67	トクに	特		12
トウジ.ズ	投		19	ドクリツ	獨立		14
ドウ	同	《名・連》	463	トゲ.グ	遂		14
ドウイシ.ス	同意		11	ドコク	土國	《国名》	15
ドウイツ	同一		10	トコロ	所		388
トウキ	陶器		13	トシ	年		40
トウキョウ	東京	《地名》	64	トチ	土地		28
トウキョウサイバンショ				トチュウ	途中		10

1) 官員体などの<テイ>は，第五表e2を参照　2) 照合する意　3) トルコ　4) 右の通り式の用法だけ

見出し		使用度数	見出し		使用度数
トテも	迚	12	ナニか	何	16
トドケイデ・ズ	届出	38	ナニゴト	何事	13
トトノイ・ウ	整	11	ナニプン	何分	15
トドマリ・ル	止	19	ナニホド	何程	10
トドメ・ム	止	25	ナノカ	七日 《数》	22
トナエ・ウ	唱	19	ナミダ	涙	14
トボシ	乏	18	ナミユウビンブツ	並郵便物	16
トミ・ム	富	10	ナライ・ウ	倣	12
トモに	共	95	ナラビに	幷	123
トモナイ・ウ	伴	12	ナリ・ル		
トリ・ル	取	85	〜	成	399
トリアツカイ	取扱	11	〜(アイ)	成(相)	26
トリアツカイ・ウ	取扱	22	ナン	何	24
トリイダシ・ス	取出	13	ナンとなれば	何	14
トリシラベ・ブ	取調	13	ナンゾ	何 《副》	33
トリタテ・ッ	取立	11	ナンラ	何等 《代名》	16
トリハカライ・ウ	取計	14	ニ(ダイ)	二(第) 《数》	21
トリヒキ	取引	12	ニエン	二圓 《数》	28
ナ	名	38	ニガツ	二月 《数》	45
ナシ	無	680	ニゴウ(ダイ)	二號(第) 《数》	13
ナイコク	內國	20	ニジ	二時 《数》	17
ナイチ	內地	16	ニジョウ(ダイ)	二條(第) 《数》	18
ナイムキョウ	內務卿	23	ニチョウメ	二丁目 《数》	24
ナイムショウ	內務省	28	ニル	似	28
ナオ	猶	127	ニシ	酉	11
ナカ	中	52	ニジッセン	二十錢 《数》	14
ナガシ	長	29	ニジュウイチニチ	廿一日 《数》	20
ナガサ	長	15	ニジュウクニチ	廿九日 《数》	15
ナガサキ	長崎 《地名》	26	ニジュウゴセン	二十五錢 《数》	12
ナカンズク	就中	11	ニジュウゴニチ	廿五日 《数》	31
ナゲウチ・ッ	擲	10	ニジュウサンニチ	廿三日 《数》	21
ナシ・ス	爲	310	ニジュウシチニチ	廿七日 《数》	24
ナヅケ・ク	名付	14	ニジュウニニチ	廿二日 《数》	20
ナニ	何	43	ニジュウハチニチ	廿八日 《数》	31

見出し			使用度数	見出し			使用度数
ニジュウヨッカ	廿四日	《数》	21	ハジマリ.ル	始		10
ニジュウロクニチ	廿六日	《数》	23	ハジメ	初・始		73
ニチヤ	日夜		10	ハジメ.ム	始		12
ニッポン	日本	《国名》	36	ハジメて	初・始		29
ニホンジン	日本人		10	バシャ	馬車		18
ニュウヒ	入費		12	ハシュツ	派出		10
ニワカに	俄		22	バショ	場所		23
ニン				ハズ	筈		33
～	任		11	ハタ	將	《副》	20
～ジ.ズ	任		37	ハタシて	果		48
ネガイ.ウ	願		15	ハチガツ	八月	《数》	24
ネガイイデ.ズ	願出		26	ハチジ	八時	《数》	26
ネンキン	年金		16	ハチネン	八年	《数》	30
ノウ	農		16	ハツ			
ノガレ.ル	逃		14	～	發		39
ノコシ.ス	殘		12	～シ.ス	發		59
ノコラズ	殘	《副》	17	ハツカ	廿日	《数》	27
ノコリ.ル	殘		10	バッキン	罰金		15
ノセ.ス	載		21	ハナ	花		18
ノゾキ.ク	除		25	ハナシ	話		26
ノゾミ	望		12	ハナチ.ッ	放		15
ノゾミ.ム	望		34	ハナハダ	甚		55
ノゾミ.ム	臨		20	ハナハダシ	甚		55
ノチ	後		74	ハハ	母		21
ノベ.ブ	述		34	ハバ	幅		15
ノボリ.ル	登		22	ハヤ	早	《副》	14
バ	場		30	ハヤシ	早		27
バアイ	場合		10	ハヤクも	早		18
ハイシ.ス	廢		20	ハライ.ウ	拂		14
バイバイ	賣買		21	ハン	半		20
ハカリ.ル	謀・計・圖		63	バンガイ	番外		20
ハクランカイ	博覽會		34	ハンジ	判事		38
ハコダテ	函舘	《地名》	12	ヒ	日		116
ハジ.ズ	恥		10	ヒ	非		11

見出し		使用度数
ヒシ.ス	比	13
ヒキ.ク	引	28
ヒキイル	率	11
ヒキウケ.ク	引受	11
ヒキツヅキ.ク	引續	10
ヒコク	被告	56
ヒサシ	久	23
ヒジョウ	非常	13
ヒソカに	窺・窃	29
ヒダリ	左	22
ヒト	人	219
ヒトシ	均・等	12
ヒトツ	一 《数》	117
ヒトリ	一人 《数》	33
ヒトビト	人々	22
ヒトリ	獨 《副》	47
ヒナガタ	雛形	10
ヒビ	日々	20
ヒャクエン	百圓 《数》	28
ヒヨウ	費用	22
ビョウイン	病院	10
ビョウキ	病氣	15
ヒョウバン	評判	14
ヒラキ.ク	開	99
ヒロシ	廣	17
フ	府	40
フシ.ス	附	24
フと	不圖 《副》	16
ブ	部	12
フウ	風	12
フウセツ	風說	11
フウフ	夫婦	16
フカ	府下	67
フカシ	深	34
フクミ.ム	含	10
フケン	府縣	15
フコウ	不幸	11
フコク		
〜	布告	13
〜シ.ス	布告	10
フジツ	不日 《副》	14
フジン	婦人	14
フセギ.グ	防	12
フソク	不足	12
フタリ	二人 《数》	46
フタタビ	再	54
フタツ		
〜	布達	20
〜シ.ス	布達	30
フタンシ.ス	負擔	12
フチジ	府知事	12
フチョウ	府廳	29
フツカ	二日 《数》	31
フツコク	佛國 《地名》	52
ブッサン	物産	11
ブッピン	物品	36
フトウ	不當	11
フネ	船	25
フボ	父母	12
フヨシ.ス	付與	10
フルイ.ウ	振	14
フレ.ル	觸	14
ブン	分	93
ブン	文	11
ブンショ(カク)	分署(各)	13
ブンメイ	文明	11
ヘ.フ	經	52
ヘイ[1]	丙	17

1) 記号の丙を含む

見出し			使用度数	見出し			使用度数
ヘイ	兵		25	ホソシ	細		12
ヘイ	弊		12	ホッシ.ス	欲		76
ヘイガイ	弊害		13	ホド	程		41
ヘイキン	平均		16	ホドコシ.ス	施		27
ベイコク	米國	《国名》	29	ホトンド	殆		43
ヘイシ	兵士		14	ホン	本	《連》	44
ヘイソツ	兵卒		13	ホンゲツ	本月		74
ヘイミン	平民		39	ホンコン	香港	《地名》	11
ベツ	別		43	ホンジツ	本日		50
ベッシ	別紙		18	ホンニン	本人		27
ヘン	邊		37	ホンネン	本年		59
ヘン				マ	間		12
～	變		12	マエ	前		68
～ジ.ズ	變		30	マカセ.ス	任		17
ベン	便		19	マコトに	誠		21
ベンギ	便宜		16	マサに	將		36
ベンリ	便利		18	マシ.ス	增		27
ホウ	法		39	マズ	先	《副》	49
ホウ	方		18	マスマス	益々		43
ホウ	報		11	マタ	又	《接》	294
ボウ	某	《代名》	54	マタ	亦	《副》	289
ボウエキ	貿易		12	マタは	又		57
ボウエキギン	貿易銀		12	マタも	又		17
ホウゴ				マダ	未		13
～	保護		12	マチ.ッ	待		41
～シ.ス	保護		10	マッタク	全		74
ホウコク				マットウシ.ス	全		10
～	報告		15	マヌカレ.ル	免		19
～シ.ス	報告		14	マネキ.ク	招		12
ホウチ	報知		37	ママ	儘		56
ボウドウ	暴動		12	マモリ.ル	守		12
ホウホウ	方法		28	マレ	稀		18
ホウリツ	法律		28	マワシ.ス	廻		11
ホカ	外		158	マワリ.ル	廻		13

見出し			使用度数	見出し			使用度数
マンキ	満期		11	モウケ.ク	設		61
ミ	身		79	モウシ.ス	申		31
ミル	見		227	モウシイデ.ズ	申出		15
ミエ.ユ	見		54	モウシタテ.ッ	申立		30
ミギ	右		198	モウシツケ.ク	申付		28
ミコミ	見込		22	モクカ	目下		13
ミズ	水		26	モクテキ	目的		16
ミズカラ	自		55	モシ	若		82
ミダリに	漫		15	モシクは	若		14
ミチ	道		53	モシソレ	若夫		14
ミチ.ッ	満		17	モチ.ッ	持		16
ミチビキ.ク	導		10	モチイ.ウ	用		50
ミッカ	三日	《数》	41	モチイ.ユ	用		27
ミトメ.ム	認		33	モチイル	用		19
ミナ	皆		98	モチロン	勿論		38
ミナト	港		10	モッテ			
ミョウニチ	明日		13	～	以		148
ミンピ	民費		14	～シ.ス	以		36
ムイカ	六日	《数》	27	モットモ	最	《副》	76
ムカイ.ウ	向		60	モットモ	尤	《接》	31
ムカエ.ウ	迎		15	モッパラ	専		25
ムカシ	昔		18	モト[1]	下		26
ムキ	向		10	モト[2]	元		25
ムケ.ク	向		49	モト[3]	本		19
ムシロ	寧		13	モトメ.ム	求		37
ムスビ.ブ	結		21	モトヨリ	固		67
ムスメ	娘		23	モノ	者・物		1,118
ムネ	旨		184	モノガタリ.ル	物語		11
メ	目		33	モハヤ	最早		19
メイ				モヨウ	摸様		19
～	命		11	モヨオシ.ス	催		12
～ジ.ズ	命		26	モン	門		11
メイジ	明治	《年号》	221	ヤガテ	軈		12
メイハク	明白		11	ヤカラ	輩		15

1) あたり，かたわら　2) 以前，昔　3) 原因

見出し			使用度数	見出し			使用度数
ヤクソク	約束		15	ヨウギン	洋銀		15
ヤトイ・ウ	雇		11	ヨウス	様子		40
ヤマ	山		24	ヨウヤク	漸		73
ヤマイ	病		12	ヨク	能		82
ヤミ・ム	止		44	ヨク	翌	《連》	13
ヤヤ	稍		22	ヨコハマ	横濱	《地名》	49
ヤリ・ル	遣		13	ヨシ	由		258
ユウシ・ス	有		23	ヨッカ	四日	《数》	28
ユウセン	郵船		12	ヨッカイチ	四日市	《地名》	10
ユウビン	郵便		33	ヨハイ	余輩		68
ユウメイ	有名		14	ヨビ・ブ	呼		23
ユエ	故		224	ヨビダシ・ス	呼出		13
ユエに	故		106	ヨホド	餘程		19
ユエン	所以		40	ヨミ・ム	讀		22
ユキ・ク	行		27	ヨリ・ル	依		281
ユシュツ	輸出		10	ヨッて	因		55
ユズリ・ル	譲		19	ヨル	夜		16
ユニュウ	輸入		11	ヨロシ	宜		12
ユメ	夢		11	ヨロコビ・ブ	喜		32
ユルシ・ス	許		61	ヨロシク	宜		15
ヨ	余		75	ラクセイシ・ス	落成		11
ヨ	世		56	リ	理		28
ヨ	夜		34	リ			
ヨイ	善	《口語》	12	～	利		29
ヨシ	良		60	～シ・ス	利		10
ヨジ	四時	《数》	18	リエキ	利益		31
ヨニン	四人	《数》	19	リガイ	利害		24
ヨメイ	四名	《数》	10	リクグン	陸軍		11
ヨウ	様		71	リクグンショウ	陸軍省		11
ヨウ	用		15	リクグンタイイ	陸軍大尉		11
ヨウカ	八日	《数》	23	リクグンチュウイ	陸軍中尉		14
ヨウシ・ス	要		40	リソク	利息		13
ヨウイ	用意		11	リャクシ・ス	畧		11
ヨウイ	容易		10	リユウ	理由		10

見出し			使用度数	見出し			使用度数
リュウコウ	流行		11	ロンシャ	論者		17
リョウニン	両人		14	ロンドン	倫敦	《地名》	18
リョウコク	兩國		13	ワガ	我	《連》	189
リョウジツ	両日		12	ワカチ.ッ	分		16
ルイ	類		48	ワガハイ	我輩		53
レイ	例		35	ワカレ.ル	別・分		13
ロ	魯	《国名》	29	ワケ	譯		26
ロクガツ	六月	《数》	44	ワズカ	僅	《副》	10
ロクニン	六人	《数》	15	ワズカに	僅	《副》	36
ロクネン	六年	《数》	18	ワスレ.ル	忘		13
ロクメイ	六名	《数》	10	ワタクシ	私	《代名》	16
ロクリン	六厘	《数》	11	ワタシ.ス	渡		32
ロクジ	錄事		53	ワタリ.ル	渉		25
ロコク	魯國	《国名》	33	ワリアイ	割合		14
ロン				ワレ	我		43
～	論		25	ワレワレ	我々		10
～ジ.ズ	論		63				

3　第２表　使用度数10以上の表（使用率順）……使用率順A表

使用率順A表は，使用度数50（使用率0.5‰）以上の語197を収める。

この表は次の各欄から成る。

順位

見出し（片かな，現代かなづかい）

漢字　（用字はおおむね原文のまま，送りがな無し）

使用率（パーミル(‰)で表わす）

ひとしい順位の扱いについては，1•6（36ページ）参照。

使用率のうち，右肩にマイナス符号のついたものは，四捨五入してくりあがった数値である。くわしくは，35 ページ参照。

第2表　使用度数10以上の表（使用率順）

順位	見出し		使用率	順位	見出し		使用率
1	アリ・リ	有	17.941⁻	35	ムネ	旨	1.851
2	ソの	其《連》	17.176⁻	36.5	ジンミン	人民	1.761⁻
3	コト	事	11.712	36.5	スデに	既《副》	1.761⁻
4	モノ	者	11.249	38	スナワチ	則《接》	1.640
5	コレ	之	10.132	39	オオシ	多	1.630
6	コの	此《連》	7.315	40	チ	地	1.610⁻
7	ナシ	無	6.842	41	ウチ	内	1.600⁻
8	シ・ス	爲	6.057	42	ホカ	外	1.590⁻
9	イイ・ウ	云	5.182⁻	43	トオリ	通	1.519
10	ドウ	同《名・連》	4.659⁻	44	モッテ	以《接》	1.489
11	ナリ・ル	成	4.015⁻	45.5	サル	去《連》	1.439⁻
12	トコロ	所	3.904	45.5	ツイに	遂	1.439⁻
13	ツキ・ク	付	3.834⁻	47	タ	他	1.429⁻
14	イタリ・ル	至	3.824⁻	48	カツ	且	1.409⁻
15	エ・ウ	得	3.411	49	オヨビ・ブ	及	1.389⁻
16	ナシ・ス	爲	3.119	50	カン	間	1.368
17	マタ	又《接》	2.958	51	ウエ	上	1.348
18	マタ	亦《副》	2.908⁻	53	イマ	今《名》	1.278⁻
19	ヨリ・ル	依	2.827	53	コレ	是《副》	1.278⁻
20	ヨシ	由	2.596⁻	53	ナオ	猶	1.278⁻
21	トキ	時	2.485	55	タダ	唯	1.268⁻
22	オヨビ	及《接》	2.385⁻	56	キキ・ク	聞	1.258⁻
23	イワク	曰	2.344	57	シカシて	而《接》	1.248⁻
24	ミル	見	2.284	58	ナラビに	幷《接》	1.238⁻
25	キン	金	2.274	59	オモイ・ウ	思	1.228⁻
26	ユエ	故	2.254⁻	60	ガイ	該	1.197
27	メイジ	明治	2.224⁻	62.5	オオイに	大《副》	1.177
28	ヒト	人	2.204⁻	62.5	サ	左	1.177
29	アルイハ	或《接・副》	2.183	62.5	サクジツ	昨日	1.177
30	ミギ	右	1.992	62.5	ヒトツ	一	1.177
31	シリ・ル	知	1.952	65.5	サラに	更《副》	1.167
32	タメ	爲	1.912⁻	65.5	ヒ	日	1.167
33	ワガ	我《連》	1.902⁻	67	イマダ	未《副》	1.157
34	ギ	儀	1.872⁻	68	ゴゴ	午後	1.107

使用度数10以上の表（使用率順）

順位	見出し			使用率	順位	見出し			使用率
69	オヨソ	凡	《副》	1.077⁻	104.5	ヨ	余	《代名》	0.755⁻
70	ユエに	故	《接》	1.067⁻	107	ノチ	後		0.745⁻
71	シカリ.リ	然		1.057⁻	107	ホンゲツ	本月		0.745⁻
72.5	ジュウイチネン	十一年		1.046	107	マッタク	全	《副》	0.745⁻
72.5	タダシ	但	《接》	1.046	110	タッシ.ス(アイ)	達(相)		0.735⁻
74	ココロ	心		1.036	110	ハジメ	初		0.735⁻
75.5	ジュウネン	十年		0.996	110	ヨウヤク	漸	《副》	0.735⁻
75.5	ヒラキ.ク	開		0.996	112.5	イチエン	一圓	《数》	0.714
77	ミナ	皆		0.986	112.5	ヨウ	様		0.714
78	クニ	國		0.966⁻	114	イエ	家		0.704
79.5	コンニチ	今日		0.956⁻	115	ジツに	實	《副》	0.694
79.5	トモに	共	《副》	0.956⁻	117	エイコク	英國		0.684
81.5	アタリ.ル	當		0.946⁻	117	マエ	前		0.684
81.5	シカレども	然		0.946⁻	117	ヨハイ	余輩	《代名》	0.684
83.5	ウケ.ク	受		0.936⁻	120.5	セツ	節		0.674
83.5	ブン	分		0.936⁻	120.5	トウ	當	《連》	0.674
85.5	ゲンコク	原告		0.926⁻	120.5	フカ	府下		0.674
85.5	ゴゼン	午前		0.926⁻	120.5	モトヨリ	固	《副》	0.674
87	アタイ.ウ	能		0.916⁻	125	イカ	以下		0.664
88.5	セイフ	政府		0.855	125	イジョウ	以上		0.664
88.5	トリ.ル	取		0.855	125	イズレ	何		0.664
90	イリ.ル	入		0.835	125	シカルに	然	《接》	0.664
91.5	モシ	若	《副》	0.825	125	タダチに	直	《副》	0.664
91.5	ヨク	能	《副》	0.825	128	アト	跡		0.654
93.5	サイ	際		0.815	131	オコナイ.ウ	行		0.644⁻
93.5	ソレ	夫	《副》	0.815	131	カクノゴトシ	斯如		0.644⁻
95	ココ	此所		0.805⁻	131	ケダシ	蓋	《副》	0.644⁻
97	シゾク	士族		0.795⁻	131	スギ.グ	過		0.644⁻
97	タッシ.ス	達		0.795⁻	131	トウキョウ	東京		0.644⁻
97	ミ	身		0.795⁻	136	キシ.ス	記		0.634⁻
100	イデ.ズ	出		0.785⁻	136	ケッシて	決	《副》	0.634⁻
100	オモムキ	趣		0.785⁻	136	サダメ.ム	定		0.634⁻
100	スクナシ	少		0.785⁻	136	ハカリ.ル	謀		0.634⁻
102.5	ホッシ.ス	欲		0.765⁻	136	ロンジ.ズ	論		0.634⁻
102.5	モットモ	最	《副》	0.765⁻	140.5	ウンヌン	云々		0.614⁻
104.5	ショウジ.ズ	生		0.755⁻	140.5	タリ.ル	足		0.614⁻

使用度数10以上の表（使用率順）

順位	見出し		使用率	順位	見出し		使用率
140.5	モウケ.ク	設	0.614	168.5	ヨッて	因	0.553
140.5	ユルシ.ス	許	0.614	173	オクリ.ル	送	0.543
145	アタエ.ウ	與	0.604	173	カナラズ	必 《副》	0.543
145	オキ.ク	置	0.604	173	フタタビ	再 《副》	0.543
145	サシイダシ.ス	差出	0.604	173	ボウ	某	0.543
145	ムカイ.ウ	向	0.604	173	ミエ.ユ	見	0.543
145	ヨシ	能	0.604	178.5	キタリ.ル	來	0.533
150	力の	彼 《連》	0.594	178.5	コウ	甲	0.533
150	コンド	今度	0.594	178.5	ツクシ.ス	尽	0.533
150	ソレ	夫 《代名》	0.594	178.5	ミチ	道	0.533
150	ハッシ.ス	發	0.594	178.5	ロクジ	錄事	0.533
150	ホンネン	本年	0.594	178.5	ワガハイ	我輩 《代名》	0.533
153.5	オリ	折	0.584	185.5	カカゲ.グ	掲	0.523
153.5	コトに	殊 《副》	0.584	185.5	コロ	頃	0.523
156	ケン	縣	0.574	185.5	コンパン	今般	0.523
156	スジ	筋	0.574	185.5	スベて	總 《副》	0.523
156	マタは	又 《接》	0.574	185.5	セツ	說	0.523
162	オナジ	同	0.563	185.5	ナカ	中	0.523
162	クワエ.ウ	加	0.563	185.5	フツコク	佛國	0.523
162	シタガイ.ウ	從	0.563	185.5	へ.フ	經	0.523
162	ツマ	妻	0.563	190	イ	意	0.513
162	トイ.ウ	問	0.563	194	イライ	以來	0.503
162	ドウショ	同所	0.563	194	カカリ.ル	係	0.503
162	ヒコク	被告	0.563	194	カネて	兼 《副》	0.503
162	ママ	儘	0.563	194	コノホド	此程 《副》	0.503
162	ヨ	世	0.563	194	シチガツ	七月	0.503
168.5	ハナハダ	甚	0.553	194	ホンジツ	本日	0.503
168.5	ハナハダシ	甚	0.553	194	モチイ.ウ	用	0.503
168.5	ミズカラ	自 《副》	0.553				

4　第3表　使用度数9～1の表（五十音順）……B表

B表は，使用度数9～1のうち，人名・地名・数詞を除く20,992語を収める。

B表は，見出し欄と注記欄とから成る。

1　見出し欄は，漢字片かなまじりで表記する。

かなづかいは現代かなづかいによる。送りがなは適宜統一した。ただし便宜に従って送りがなを省略したばあいもある。

2　読みにくいと思われる語にはルビをつけた。

片かなルビは，原文のルビのうち，漢字から離れた読み方をしてあるもの。また，平がなルビは，誤読・難読のおそれのあるばあいなどにつけたものである。（いずれも現代かなづかい，変体がなは普通のかなに統一）

例　結局（オサマリ），白金（プラチナ）；息（いき），認方（したためかた），煎海鼠（いりこ）

3　漢字はつとめて原文に従った。

ただし，右肩に＊印のあるものは，調査者が漢字をあてたものである。

例　あけゆの→曙＊　　ワガクシャ→和学者＊

なお，必要に応じ二種類またはそれ以上の漢字を列記したばあいがある。

例　絞・搾リ・ル，奮励・憤励

4　脚注は，見出し欄に書き切れない注記，文脈などを含む。文脈の次に(b)などとあるのは，b層などの意味である。原文ルビは，主として左側ルビであるので，横書に改めた際は，下段になるが，便宜，上段に施した。

なお，同形，同音のかな，および，同音語の排列の順序については，37ページ参照。

第3表　使用度数9～1の表（五十音順）

アの　《連体》
愛
～
シ・ス
哀[1]
藍
合イ・ウ
合方[2]
相方[3]
愛岐日報〔新聞〕
愛敬
愛顧
愛國
愛國志
愛國社
愛國新聞[4]
挨拶
～
～シ・ス
愛妾
愛情
哀情
藍商法
合圖
～
～通リ
靄然
藹然
哀訴
～
～シ・ス
愛想ヅカシ
間
相對
靉靆

相對示談
アイダホ號〔船〕
逢イ玉イ・ウ
愛知裁判所
相手
哀啼號哭シ・ス
相鎭和尙
相手取リ・ル
哀悼
愛妃
愛品
哀別離苦
愛慕
曖昧
曖昧糢糊
合間小間
靄靄
愛憐
アイロンクロオ
ン等〔勲章〕
逢ウ毎
喘ギ・グ
喘ギ～
敢ナシ
青
青貝ボタン
仰ギ奉リ・ル
仰ギ見ル
青ザメ・ム
青白シ
青髭
青物
青森縣令
青柳
青山埋葬地
青山松

赤
赤ィ　《口語》
赤シ
赤兒
赤坂御門
燈火
證シ
明シ・ス
垢染ミ・ム
縣ノ令
縣祭
曉
赤蜻蛉
購イ・ウ
～[5]
～得・ウ
償イ・ウ[6]
赤松海軍少將等
赤ラミ・ム
赤ラメ・ム
明リ
上リ口
上リ込ミ・ム
明リ先
上リ高
秋
蠶
飽キ・ク
～
～易ィ《口語》
明キ・ク
秋風
秋草
秋蠶
厭キ足リ・ル

明地
秋月一等警部補
商イ
商イ・ウ
商高稅
商イ物
空屋
諦メ・ム
呆レ返リ・ル
呆レ果テ・ッ
惡
惡意
惡方　〔演劇〕
惡虐
惡計
惡言シ・ス
惡口雜言
惡事
幄舍
惡臭
惡女
惡心
惡政
惡徒
惡弊
惡法
飽迄　《副》
飽迄も
朱
明ケ・ク
上ゲ
上ゲル　《口語》
擧ゲて
上ゲ下シ
曉方

上ゲ來・ク
揚ゲ句
明ケ暮
明ケ番
曙
曙　〔新聞〕
曙新聞
總円〔総角〕
揚幕
赤穗鹽
赤穗鹽濱
朝
～
～(毎)
淺シ
淺黃織
淺草公園內
淺草公園地內
淺草砂
淺草文庫
喞リ
喞リ・ル
～
～(相)
麻襦袢
字
朝晩
朝晖
朝日奈判事
字法華谷筋
淺間シ
朝マダキ
欺キ・ク
欺キ騙シ・ス
欺キ取リ・ル

1)「哀ヲ忍テ」(b)　2) 伴奏　3)「相方の娼妓」(c)　4) 新聞名でない　5) 買い求める　6) 弁償する

朝湯
足(御)[1]
味
足跡
足音
安治川口
足並ミ
亞硝酸鹽
味ワイ・ウ
明日
預リ
預リ・ル
～
～居ル
～置キ・ク
預リ金高
預リ人
小豆
預ケ・ク
～
～置キ・ク
預ケル　《口語》
預ケ金
預ケ人員
預ケ拂高
東男
汗
～
～シ・ス
阿蘇商社
遊ビ
遊ビ・ブ
～
～居ル
遊ビ歩キ・ク
仇イヤラシ
與エル　《口語》

安宅丸　〔船〕
暖カ
溫メ・ム
綽名シ・ス
仇ナマメキ・ク
頭
新ラシ
邊
當リ難シ
當リ申シ・ス(相)
當リ狂言
當リ簽
～
暑イ　《口語》
壓シ・ス
扱イ・ウ
～
～來リ・ル
扱イ方
扱所等
厚サ
遏止
壓住シ・ス
壓制
壓制家
壓制力
壓石
遏絕シ・ス
遏塞シ・ス
熱田神社
壓倒シ・ス
天晴レ
壓伏シ・ス
壓伏シ得・ウ
アップランド[2]
集リ・ル(相)
集リ居ル
衆リ來リ・ル

厚ミ
羹
壓抑
誂エ(御)
當テ[3]
充テアリ・ル
宛行イ・ウ
當テ込ミ・ム
當テ推量
當醋法
跡相續人
跡地
跡供
跡乘リ
跡船
跡役
穴
兄上
兄貴
姉
～
～上
～君(御)
～御
彼ノ世
發キ・ク
暴レ・ル
暴レ込ミ・ム
暴レ廻リ・ル
家鴨
浮雲ナィ《口語》
油
油繪
アブラキ號〔船〕
油漬
油屋
溢レ・ル

阿片
阿魔女
餘シ・ス
數多　《名》
數多　《副》
剩サエ
雨戶
遍シ
甜味
雨漏リ
雨除ケ
餘リ・ル
餘リに
甘ンジ・ズ
網
網打獵師
阿彌陀寺
阿彌陀佛
雨霰
飴賣リ
怪シ
危ウシ
怪シ氣
操リ・ル
綾取リ
危ブミ・ム
過チ
步ミ・ム
步ミ合イ・ウ
步ミ行キ・ク
荒シ
アラ　《感》
荒々シ
洗イ・ウ
洗イ込ミ・ム
洗イ流シ
洗イ流シ・ス

荒起シ
荒方　《副》
荒川大水
荒川筋
荒木八等屬
荒クレ男
荒シ・ス
アラスカ号〔船〕
爭イ
爭イ・ウ
～
～(相)
～難シ
爭ッて
爭イ食ライ・ウ
爭ウ等
荒立テ・ッ
新玉
改マリ・ル
改メ・ム(相)
荒波
概マシ　《名》
顯レ・ル
～
～易シ
現レ出デ・ズ
有リ合イ・ウ
有リ餘リ・ル
有リ合セ・ス
アリイス號〔船〕
有中[4]
有所
有難
～
～(オ)
有難シ
有難サ

1) 足とお金との掛詞　2) 米国種草綿　3)「何処を当てと定めねど～」(c)　4) 有りがち

有金
有リ氣
有栖川大將
有栖川邸
有馬守
或は《接》
歩行キ・ク
アルコオル
主個
アルミ號〔船〕
アルムストロング砲
アレ《代》
荒レ・ル
アレウト号〔船〕
アレコレ《副》
泡
粟
間
淡路新聞
淡路守
合セ置キ・ク
併セ科シ・ス
粟田宮青蓮院
遽ダシ
慌テ・ッ
アワヤ《感》
憐レ
憐レミ・ム
案
案ジ・ズ
案ジ居ル
案ジ居リ・ル
案ジル《口語》
庵
按ジ・ズ

暗に
安意シ・ス
安逸
安價
案外
暗記シ・ス
行脚
暗渠
安康富盛
暗殺
～
～シ・ス
～ナシ・ス
暗殺刺撃シ・ス
暗殺狙撃
案ジ《名》
撰ジ出シ・ス
暗射地圖
安住シ・ス
安所[1]
案上
安心
～
～(不)
～シ・ス
～シ居リ・ル
按ズルに
安政〔年号〕
安政年間
安全無難
安置シ・ス
安着シ・ス
安着固定
安堵
安藤中警視
アンドロス〔虫〕
行燈

案内
～
～シ・ス
安中城
安寧
鹽梅
安排シ・ス
諳母尼亞
安樂
アンラ號〔船〕
安流無事

イ〔記号〕
亥〔記号〕
夷[2]
異
醫
～
～シ・ス
井
胃
慰シ・ス
委シ・ス
居ヅラシ
鑄ル
射ル
遺愛物
居合セ・ス
易々
云置キ・ク
云難シ
云合イ・ウ
云入レ・ル
云逕リ・ル
云甲斐ナシ
云掛リ・ル

言黒メ・ム
云斷リ・ル
云込ミ・ム
云懲シ・ス
云様
鑄出シ・ス
言出シ[3]《名》
言出シ・ス
云立テ・ッ
言付ケ・ク
～
～置キ・ク
言傳エ・ウ
言募リ・ル
言解キ・ク
云慰メ・ム
云ナシ・ス
言遣シ・ス
云罵リ・ル
云延シ・ス
井伊谷宮
言放シ・ス
云放チ・ッ
言張リ・ル
云開キ・ク
云觸シ・ス
言觸レ・ル
云イ分
云紛シ・ス
云寄リ・ル
云譯
言渡シ
言渡シ・ス
醫員
醫院
委員等
家(オ)

癒エ・ユ
家々
家數
家搆エ
以往
菴
位階
以外
違詖贖金
位格
醫學
醫學教師
醫學校
醫學所
醫學部
如何サマ
イカデ《副》
イカナ《連体》
伊賀守
如何許リ
如何程
厳メシ
怒リ
怒リ・ル
遺憾
衣冠
尉官
醫官
如何
如何とも《副》
如何となれば《接》
如何ゾ《副》
息
域
意氣
遺棄シ・ス

1)「其身ノ安所ヲ得ズ」(e)　2) 平らかの意　3)「兎角言出しに掛け直多く」(c)

生キ.ク
異議
生埋メシ.ス
域外
意氣地ナシ
生作リ等[1]
憤リ.ル
突然（イキナリ）《副》
生佛（いきぼとけ）
息卷キ.ク
異教
異鄕
異形
遺業
意氣揚々
イギリス人
畏懼
幾回
幾箇所
幾個
幾度*（たび）
幾町（ちょう）
幾度（いくど）
幾十歲（いくせ）
幾日
幾年
幾倍シ.ス
幾步（ぶ）
幾枚
生國魂神社（いくくにたま）
軍騷ギ（いくさ）
育子金
育種場內
生末[2]
育成シ.ス
幾千金
幾村

幾多
幾多分
異口同音
幾許（いくばく）
幾百万
幾萬
幾ラ
池
池田筑後守
池田領事
遺欠
已決囚（いけどり）
生擒シ.ス
生捕リ.ル（いけにえ）
犧
活花等
威權
萎枯
圍碁
慇イ.ウ
～
～遊バシ.ス
（御）
以降
偉功
威光
異國
遺恨
イザ《感》
イザヤ《感》
委細（イサイ）
鬪爭（イサカイ）
～
～シ.ス
居酒渡世
居酒屋
潔ヨシ（いさぎ）

誘イ.ウ（いざな）
勇マシ
勇ミ進ミ.ム
勇ミ立*チ.ッ
諫メ.ム
醫師
意志
異事
維持
～
～シ.ス
～シ難シ
石井權中警視
石角（かど）
石川新聞
違式
違式罪
違式贖金
石庫（ぐら）
石柵
礎（いしずえ）
石摺リ
石堰（せき）
遺失
～
～シ.ス
石造リ
遺失物
石燈籠
石燈籠通リ
石鍋
石函（はこ）
石塀
石部金吉
石溝（みぞ）
醫者
石山寺

意趣
異種
異趣
異宗
移住
～
～シ.ス
蝟集蟻簇シ.ス
移住人
～
～（前）
醫術
遺書
醫書
衣裳
意匠
異常
異狀
移乘シ.ス
衣裳ヤ
衣食
維新（御）
維新創業
椅子
何方（いずかた）
何處（いずく）
何處
爲ゾ
伊助夫婦
何處（いずこ）
出石侯
出石郵便局
泉
和泉守
何レモ樣方
以西
爲政
爲政家

爲政國
爲政者
伊勢參宮
伊勢新聞
異說
依然
イソ～
意想
移送シ.ス
忙シ
忙ワシ
急ギ.グ
遺族
遺族扶助
板
板壁
抱キ來リ.ル
抱キ付キ.ク
委托
～
～シ.ス
板藏（ぐら）
板子
板輿
～
～（御）
致シ置キ.ク
致シ方
出シ遣リ.ル
徒ラ（イタズラ）
傈脫[3]（いたづら）
頂
戴キ.ク
居タタマレ.ル
痛手
板葺
板塀

1)「鯉ノ生作（イキヅク）リ等」（e）　2)「生末遠久」（c）〔祝詞〕　3)「傈脫（いたづら）の婦女」（c）〔＝尻軽〕

痛ミ
傷ミ・ム
痛メ・ム
至リ
至リ難シ
伊太利國王
伊太利人
到リ見ル
到ル處《副》
悼シ
イタワリ・ル
市
一因
一運轉
一驛
一應
一街
一概に
一隅
一區務所
一郡
一竪
～
～シ・ス
一言
一語
一伍一什
一鄉
一工場
一言
～
～シ・ス
一撮土
一事
一寺
一治
一時行程內

一日[1]
一時付與
一助
一條[2]
一小區〔区画名稱〕
一小區
一小隊〔機構〕
一小隊
著ルシ
一圖に《副》
一大鹽湖
一大會議
一大紀念碑
一大行政區域
一大巨額
一大區
一大劇場
一大原因
一大幸福
一大事
一大事業
一大事件
一大訴訟
一大隊
一大長阜
一大珍事
一大難事
一大不幸
一大變動
一大要具
一大論題
市立等
一段
一彈
一團
一斷シ・ス

一智者
一知友
一天地
一讀致シ・ス
一日行程
一二等警部補
一念
一部[3]
一府縣
～
～下
一部隊
一物一体
一部內
一部分
～
～中
一分署
一分隊
一瞥
一辨一駁
市村座〔劇場〕
一命
一面
一面栉
一目散
一目瞭然
一文錢
一文貰イ
一夜[4]
意中
胃中
一樣
帷帳
一覽
～
～(御)

～遊バシ・ス
(御)
～シ・ス
一覽表
一利
一両家
一輪活
一令
一例
一聯隊
一勞所每[5]
一老別當
一話
一に《副》
何時も
何時か
一家
～
～(各)
一課
一會
一科一藝
一家々々
一カ月極メ
一軌
一貰
一器一物
一掬
一擧
一局[6]
一局宛
一區
慈ミ・ム
一件
一縣
一見
～

～致シ・ス
～シ・ス
一件一事
一己
一呼シ・ス
一行
一校
一抗
一向《副》
一向に《副》
一國中
一個人
一妻
一策
一昨々日
一昨々年
一昨年
～
～中
一昨夜
一昨夕
一市
逸事
何時*シカ
一視同仁
一社
一酌
一種《副》
一州
一緒
一生
一証
一身
～
～上
一心に
一新講〔施設〕

1)「木戸公一日公を訪ひ～」(c)　2)「樺太交換ノ一條ニ付」(b)　3) 一部分の意　4) ある夜　5)「一工場一勞所每に長あり」(c)　6)「其交際ハ狹隘ノ一局ニ限ラレテ」(b)

一心不亂
溢水
～
～シ・ス
一寸道（のがれ）
一世（せい）
一齊に
一節
一戰
一洗開霽
一層（そ）　《副》
一層[1]　《名》
一掃
逸走
一村
一隊
一体　《名》
一体　《副》
一端
一致
～
～シ・ス
一中隊〔機構〕
一朝　《名》
一朝　《副》
一手
一定
～
～致シ・ス
～シ・ス
～シ難シ
一徹心
一點
一途（と）
一統
一黨
一刀

一等警視補
一等警部
一等士官
一等侍補
一等少警部
一等書記生
一等生徒
一頭政府
一等屬
一等二等役囚
一等伶員
一等伶人
一時（とき）
一杯[2]
一泊シ・ス
一髮
一半
一藩
一班
一斑
一般人民
～
～中
一般藥舖
溢美
一筆
一府
一婦
一碧
一邊
一變シ・ス
一法
一本木[3]
何時迄*も
逸樂
僞り
僞り・ル

僞り報ジ・ズ
僞り容体書
出デ（オ）
出デ・ズ（オ）
イデ　《感》
イデイデ《感》
出デ來・ク
出デ來リ・ル
打扮（いでたち）
打扮（いでた）チ・ッ
出デ迎エ・ウ
出デ行キ・ク
移轉
～
～シ・ス
～等
遺傳シ・ス
糸
井戸
異同
伊東一等侍醫
伊藤工部卿
伊藤參議
伊東侍醫
伊藤內務卿
伊藤副使
最惜（いとお）シ
糸商人
イトド　《副》
營ミ・ム
～
～居リ・ル
暇乞（御）（お）
挑ミ・ム
委頓シ・ス
以內
居直リ・ル

田舍
田舍芝居
田舍新聞
田舍訛リ
田舍道
坐（い）ナガラ《副》
居流レ・ル
稻莖
稻子（いなご）
稻作
居馴染ミ・ム
稻妻
嘶キ・ク
稻舟
稻蟲
稻螟（いなむし）被害
稻荷社
稻荷鮓
古
移入シ・ス
圍繞シ・ス
委任シ・ス
委任証
委任狀
犬
犬殺シ
犬猫
イヌマユミ〔植物〕
寢ネ・ヌ
居眠リ
井上工部卿
猪武（いのしし）者
祈リ・ル
～
～奉リ・ル
祈リ立テ・ッ

位牌
違背シ・ス
威迫シ・ス
帷幕
茨城毎日新報
違犯
萎靡シ・ス
齁（いびき）
畏怖
遺風
不審（イブカ）シ
訝（いぶか）リ・ル
井生村樓（いぶむらろう）
異聞
威望
遺忘シ・ス
違法者
居間（いま）
今にして　《副》
今にも　《副》
今頃
今更　《副》
戒メ・ム
縛メ・ム
今時
今業平
今迄　《名》
今迄　《副》
今村樓
今樣
居廻リ
意味
～
～シ・ス
忌（いみ）
忌ミ嫌イ・ウ
諱（いみな）

1)「稲吉驛ハ窶（やつ～）しさ前きの中村ゟ一層を加へたる有様ふり」（c）　2)「一杯喰ハされしと～」（c）　3) 一本気

～
～(御)
異名
威名
妹
芋問屋
鑄師
賤シ
イヤ　《感》
忌に　《副》
醫藥
賤ミ・ム
イヤハヤ
彌增シ・ス
嫌味*1)
彌ヨ　《副》
依賴
～
～シ・ス
～シ來リ・ル
焦燥チ・ッ
イラッシャリ・ル
入リ易シ
入相
入リ來・ク
入リ來リ・ル
入口
煎海鼠
醫療
威力
衣類
納レ・ル
異例
違令輕〔法令〕
入レ替エル　《口語》
入レ替ワリ・ル

入レ藥シ・ス
入レ違イ・ウ
入レ齒
入レ痣
入レ交ゼ・ズ
葦蘆
色合
色々　《名》
遺漏
慰勞
慰勞金
色織地
色香
色氣
色里
色染メ
イロハ長屋
イロハニホヘト2)
異論
祝イ
祝イ・ウ
祝イ事
祝酒(御)
岩木
磐城鏡
岩倉右大臣
岩倉大臣
岩瀨肥後
言ワバ　《副》
岩間
岩見守
岩村縣令
謂レ
言ワン方ナシ
印
陰

因
員
引3)
陰壓力
隱々
陰々4)
殷々
淫雨
陰雲
氤氳靄然
允可
陰火
因果
殷鑑
印鑑
インキ
允許
～
～致シ・ス
～シ・ス
隱居
～
～方
～シ・ス
陰莖
印形
殷懃
院下樣
胤血
陰戶
陰語
咽喉
印行
印材(御)
印刷
～
～等

印刷高
印刷文字
印紙
～
～(諸)
印紙稅等
因襲
因循
飮食
～
～シ・ス
氤氳靄然
允可
音信
音信料
韻人5)
員數
陰制6)
印稅
隱然
引卒シ・ス
院中
インデヤン
允當
引導
隱德者
印度人
印度地方
印度兵
隱遁シ給イ・ウ
因緣
淫賣女
隱微
隱秘
～
～シ・ス
印部等
殷富
淫風

殷富繁榮
隱蔽
隱謀
隱謀惡事
淫奔無賴
院務
隱滅
～
～シ・ス
陰濛中7)
引用致シ・ス
引用シ・ス
飮用シ・ス
淫欲
飮料
引力
淫霖
陰曆連
印籠
淫猥

鵜
迂
憂シ
鵜鶘猿
ウイドニック号　〔船〕
植エ・ウ
種エ・ュ
植木
植木賣リ
植木屋
～
～毎
植込ミ・ム
餓死シ・ス

1)「イヤミたつぷり」(c)　2)「墨黒々いろはにほへとゝ南無阿彌陀佛と二行よ」(c)
3) 韻文の一種　4)「陰々タル妖雲ハ」(e)　5)「桃妖とかいへる韻人」(c)　6)「況ンヤ陰制明法立法ノ別ノ判然タルヲアランヤ」(e)　7)「月影陰濛中ニ」(d)

植田
植足シ・ス
植付ケ
植付ケ・ク
上野救育院
上野公園中
上野公園内
上野公園地内
上野出張所
上野精養軒
上野東照宮
上野養育院
上野凌雲院
有縁者
魚
魚市場
右往左往
魚賣リ
魚問屋
浮と　《副》
迂回シ・ス
迂回兵
伺イ中
伺イ・ウ
　～
　～(相)
伺イ出ダシ・ス
伺イ出デ《名》
伺濟ミ
穿チ・ッ
迂濶
浮ビ・ブ
浮べ・ブ
浮べ來リ・ル
浮キ沈ミ
憂目
憂世

浮世雜談
浮世話
鶯
受ケ(御)
受ケ・ク(相)
請合イ　《名》
請合イ・ウ
受合イ[1]《副》
受賣リ
受負イ
請負イ・ウ
諾イ・ウ
受付掛リ等
受留メ兼ネ・ヌ
受取リ
　～
　～方
受取リ來リ・ル
請取書
　～
　～(假)
請取証
受取人
受取主
請取文
受願書
承引キ・ク
請ヒキ玉イ・ウ
受持
動カシ・ス
　～
　～得・ウ
動キ・ク
憂サ
兎
鼈

蛆
氏
氏神
氏子
氏子中[2]
雨濕
後
後影
後暗シ
有心
薄シ
渦
堆　シ
埋メ・ム
埋メナラシ・ス
薄ラギ・グ
失セ・ス
右折シ・ス
嘘
鶯
歌
歌イ・ウ
宇内
右大臣
疑イ
疑イ・ウ
　～
　～玉イ・ウ
疑ワシ
雨澤
疑ゴウラクは
　《副》
打合イ
打合イ・ウ
打明ケ・ク
打揚ゲ・グ
打合セ

打合セ・ス
打入リ
討入リ・ル
打驚キ・ク
打掛ケ・ク
打方
打冠リ・ル
打興ジ・ズ
打切リ
打チクツロギ・グ
打毀シ・ス
討死
　～
　～シ・ス
打据エル《口語》
打過ギ・グ
打進メ・ム
打捨テ・ッ
　～
　～置キ・ク
殴倒シ・ス
打倒レ・ル
打立テ・ッ
打違エ・ウ
打繼ギ・グ
打付ケ・ク
　～
　～アリ・リ
内坪井流長院
打チ手
内外
打眺メ・ム
打拔キ・ク
討果シ・ス
打拂イ・ウ
打歩[3]

打振リ・ル
打任セ・ス
打マモリ・ル
打廻シ・ス
打回リ・ル
打見
打身
打見ヤリ・ル
打向イ・ウ
打寄リ・ル
打喜ビ・ブ
内譯
鬱懐
ウッカリと
寫シ
寫シ・ス
寫シ出ダシ・ス
移シ入レ・ル
寫シ書
模シ作リ・ル
寫シ取リ・ル
鬱然
鬱蒼
訴エ
訴エ出デ・ズ
訴エ出ル《口語》
現
打ッテ替リ・ル
梁
俯キ・ク
鬱悒
移リ替エ
移リ替リ
器
腕
腕立テ
雨天

1)「受合見物か多く出掛けますて五坐ろふ」(c)　2)「儀式の飾付ユて氏子中が寄り集り」(c)　3)「金銀貨及び貿易銀等の打歩ハ日を追つて高く」(c)

雨天續キ
疎シ
有徳
卯年
倭墨華
促ガシ.ス
鰻
鰻飯
領キ.ク
海原
ウネリ[1]
乳母
右輩
奪イ取リ.ル
嫗櫻
右邊
右方
午
馬(御)
旨シ
馬飼料
馬乘リ
瘂
　～
　～共
生レ
生レ.ル
生レ附キ.ク
倦ミ.ム
生ミ.ム
海邊
有無
梅
埋置キ.ク
埋立テ
埋立テ.ッ
埋立地

埋地
梅ノ御茶屋
梅干
　～
　～等
恭シ
敬イ.ウ
烏有
右翼
羽翼
裏
浦
裏返シ.ス
裏書
裏口
裏住居
裏道路
恨ミ
恨ミ.ム
　～
　～申シ.ス(御)
裏道
裏門
浦役人
浦役場
羨シ
羨ミ.ム
浦和博物館
瓜
賣上ゲ代價
賣歩行キ.ク
賣出ダシ.ス
賣掛ケ代金
賣方
賣込ミ
　～
　～連

賣込ミ.ム
賣捌キ
　～
　～シ.ス
賣捌キ.ク
　～
　～來リ.ル
賣捌キ高
賣捌ケ.ク
賣捌ケ高
賣代ナシ.ス
賣居[2]
賣高
賣出シ
賣盡シ.ス
賣付ケ.ク
賣飛バシ.ス
賣人氣
賣退キ.ク
賣果シ.ス
賣拂イ.ウ
　～
　～申シ.ス
賣物
賣物店
賣家
賣約定
賣渡シ
賣渡シ.ス
閏
沾シ.ス
五月蠅シ
麗ワシ
賣レ.ル
　～
　～申シ.ス
賣レル　《口語》

嬉シ
憂イ
憂イ.ウ
　～
　～居リ.ル
憂エル　《口語》
賣レ口
嬉シサ
賣レ高
迂路～《副》
狼狽ル
上顎
上書キ
上衣
浮氣稼業
上唇
噂シ.ス
噂ナシ.ス
蟒蛇
上道
上向キ.ク
運
運往シ.ス
運航
雲霄
運送シ.ス
運漕シ.ス
運送帆走船
溫藉シ.ス
運賃
運轉
　～
　～シ.ス
運到シ.ス
運動
　～
　～シ.ス

運搬
　～
　～シ.ス
運搬人夫
雲母入リ
運輸
　～
　～シ.ス
運用
　～
　～シ.ス
運用活動シ.ス
雲揚艦〔船〕

畫
柄
餌
得難シ
得易シ
得ル　《口語》
得[3]　《副》
得テ[4]　《副》
榮
營[5]
詠(御)
咏ジ.ズ
鋭意
　～
　～シ過ギ.グ
永遠
英華
英學
叡感
英艦
英艦隊
英瀛船

1)「海の浅くして「ウ子リ」の強き故か」(d)　2)「敷月賣居の札を見て」(c)　3)「得言ず」(c)　4)「得テ以テ威權ヲ弄セント欲スルカ爲カ」(b)　5)「冬衣ヲ着シ營ヲ出ル」(c)

永久
永久博覽會
影響
～
～シ・ス
營業致シ・ス
營業致シ居リ・ル
營業稅
營業人
～
～(各)
影響論
英軍艦
英語
衛護
英公使
英國人
英國製
英國行キ
英噸[1]
英字
映射
英尺[2]
英俊
英書[3]
英商[4]
英女帝
英人
衛生學
衛生局
衛生局長
英政府
影像
永續
～
～シ・ス
英大臣[5]

酔倒レ・ル
穎脫シ・ス
英斷
營中
英廷[6]
永年
銳敏
英敏秀才
英風[7]
叡聞
英兵[8]
英米人
英謨
英法[9]
銳鋒
英名
英明
英雄
～
～(一)
英雄俊才
榮譽
榮譽心
英蘭銀行
銳利
英領事
エエイ　《感》
エエデル[10]
笑顔
畫キ・ク
役シ・ス
益シ・ス
驛々
役過シ・ス
驛外
エキスコンモニケエション[11]

驛端
驛中
驛費
驛民
エクリクチュル[12]
エコオジュジャポン[13]
會釋
繪圖
繪圖面
エゼルスタン号〔船〕
エセワザ[14]
蝦夷馬
蝦夷羆
枝
枝雀
枝付キ
越前生レ
謁
謁見
越脫シ・ス
得手
江戸川筋
會得シ・ス
江戸市民
江戸ッ兒
江戸土人[15]
江戸橋本局
榎本公使
蛭子講
戎座
夷堂
穢物
烏帽子
笑

得物
榮耀
榮耀物
選ビ吳レ・ル
選ビ出シ・ス
撰ミ・ム
撰ミ擧ゲ・グ
襟
エリザベッス〔賞牌〕
襟元
エルマック号〔船〕
エレキ[16]
エロウ[17]《副, 方言》
緣
～
～(御)
宴
寃
衍
園
轅
演ジ・ズ
延引
～
～(御)
～相成リ・ル
～シ・ス
援引シ・ス
遠影遙響
厭惡シ・ス
鴛鴦
寃枉
寃枉無辜
烟花

宴會
沿海(諸)
沿海府縣
沿革
遠隔
緣側
沿岸行
延期
厭棄シ・ス
厭忌シ・ス
演技
演戲
延及シ・ス
鹽魚
演劇
～
～シ・ス
厭嫌
淵源
延元年間
緣故
遠魂
怨嗟
寃罪
遠山
延日
～
～シ・ス
～等
緣者
演習
～
～致シ・ス
～シ・ス
演習方法
演述
～

1) 英国産　2) インチ尺　3) 英語の本　4) 英国商人　5) 英国大臣　6) 英国朝廷　7) 英国風　8) 英国兵　9) 英国法律　10) エエテル〔薬〕　11) excommunication, 破門　12) agriculture　13) Echo du Japon〔新聞〕　14)「斯ルエセワザヲシタルナリ」(e)　15) 江戸土着ノ人　16) 電気　17)「あろふ評判」(c)

～シ・ス
饜酒飫食
援助
～
～シ・ス
垣墻
延燒シ・ス
炎上
捐助通計額
遠隔僻地
遠逝シ・ス
延請シ・ス
遠征隊
演說會
演說會場
演說館
演說者
演說書
演說條例
演說論
沿川
遠足留メ
延滯
～
～シ・ス
～仕リ・ル
圓体
遠大
園中
延長シ・ス
緣付キ・ク
園丁
園庭
淵底
沿道
煙突
園內

緣日
烟波
鉛筆
閻府
炎風
援兵
怨望シ・ス
遠望シ・ス
遠望シ能イ・ウ
烟霧中
饜飫
遠雷
遠慮
延遼館

尾

苧
惜シ
老イ
甥
生イ・ウ
老イ・ユ
被イ・ウ
追々と
追々に
追返シ・ス
追掛ケ・ク
追込メ・ム
老先キ
老醜イ・ウ
生茂リ・ル
追縋リ・ル
追焚キ
追出シ・ス
逐立テ・ッ

逐立テル《口語》
追附キ・ク
剪徑
老耄
追行キ・ク
オイラン〔酒名〕
追分
王
翁
往〔記号〕
應爲[1]
押印シ・ス
奥羽戰爭
應援
翁媼
快々
往々に
櫻花
謳歌シ・ス
横臥シ・ス
往還
澳京[2]
枉屈
～
～シ・ス
王家
往古
押伍
横行シ・ス
黃金
黃芩中〔植物〕
黃金世界
應薩[3]
王師
往時
皇子
王子權現社

王子抄紙會社
往日
往者
應酬
歐書[4]
凹處
執掌
王城
往生
歐人
逢ウ瀨
旺盛
王政
往昔
黃線
王族
王孫
横斷シ・ス
横着老爺
澳廷[5]
横渡シ・ス
歐土
櫻桃
凹凸峻阪
往年
往復
～
～シ・ス
往復切手
横文
墺兵[6]
歐米人
歐米文明
往返
鸚鵡
應有[7]
横夭

往來
往來人
往來話
終エ・ウ
終エ・ユ
汚穢忌嫌
多イ　《口語》
男々シ
オオ[8]　《感》
大當リ
大當テ外レ
大分縣令
大分廳下
大炊頭
大入リ
大伯母
オオガ〔虫〕
大鏡
大方[9]　《名》
多方　《副》
大塊リ
狼
大川筋
大キィ
大キサ　《名》
大キナ《連体》
多ク　《副》
大久保右府
大久保參議
大久保內務卿
～
～殿
大隈大藏卿
大隈參議
大倉組
大藏省中
大藏省納メ

1)「人民ニ在テ應爲ノ事タリ」(b)　2)「澳京維納」(b)　3) 薩摩軍に応じること。「應薩の議に決し」(c)　4) 欧洲の書物　5) オーストリア朝廷　6) オーストリア兵　7)「其ノ應有タル性質ヲ變セス」(b)　8)「ヲヽ怖ろしや」(c)　9)「英國ノ騒動大方ナラス」(e)

大聲　大坂裁判所　大坂司薬場　大坂上等裁判所　大坂上等裁判所詰　大坂新報　大坂鎭臺　大坂日報　～　～等　大坂府知事　大坂陸軍事務所　大騒ギ　オオジシオウス号〔船〕[1]　大新聞　大相撲　多勢　仰セ出シ・ス　大關　仰セ渡シ・ス　大騒動　大谷大教正　大狸　大蕾　大段平　大槌　大詰メ　大出來　オオデシュス号〔船〕[2]　大手筋　大鳥工作局長　大賑イ　大風　大橋

大橋際　大橋水塲　大外レ　大旗　大花火　大林八等警視屬　大判　大半紙　大槇　大宮八幡祠外　大麥　公　大山[3]　大湯[4]　大凡　《名》　大凡　《副》　大喜ビ　オオルド記者　オオルド新聞　〔新聞〕　岡　可笑シ　御蔭　小笠　小笠原島行キ　冒シ・ス　可笑味　岡燒連　岡山燒　沖　起キ・ク　閣キ・ク　置キ玉イ・ウ　沖合イ　起上リ・ル　起出デ・ズ　沖久兵衛持

起立チ・ッ　補イ・ウ　起臥　～　～シ・ス　奥　屋　憶シ・ス　屋宇　屋外　奥書　奥空[5]　屋舍等　屋上　臆說決斷シ・ス　臆測シ・ス　奥田一等屬　奥齒　臆病連　臆病未練　億萬心　奥山　送リ呉レ・ル　送リ越シ・ス　後レ　後レ・ル　桶　汚行　怠リ　怠リ・ル　怠リ勝チ　緒琴　行イ　行イ難シ　行イ易シ　奢リ・ル　長

押エ・ウ　～　～兼ネ・ヌ　押エ・ユ　押エ所　御下ゲ金　幼ナシ　幼ナ子　結局　治リ・ル　納メ　治メ・ム　納メ・ム(相)　納メ來リ・ル　治メ扱イ・ウ　納メ方　～　～等　オ三[6]　捺シ・ス　押シ來リ・ル　伯父　叔父　押上リ・ル　押開ケ・ク　押出シ・ス　押入リ・ル　教エ　教エ・ユ　教エ居リ・ル　教エ諭シ・ス　押掛ケ來リ・ル　押切リ・ル　押轉カシ・ス　押込ミ・ム　押込メ・ム　押下ゲ・グ

押擦リ・ル　押沈メ・ム　押倒シザマ　押出シ・ス　押包ミ・ム　押詰リ・ル　押止メ・ム　押流シ・ス　押拭イ・ウ　推量リ・ル　忍藩知事(舊)　押開キ・ク　押伏セ・ス　惜ミ・ム　惜ムラクは　和尙　白粉　雄　汚水　オスカルウイダル号〔船〕　雄雛　遲シ　襲イ・ウ　～　～來リ・ル　遲カレ早カレ《副》　遲キ《名》　御献備　恐ラクは《副》　虞レ　恐レ入リ・ル　恐レ多シ　怖シ　織田右府　御種人參

1), 2) Odysseus　3)「大山の如き浪」(c)　4)「大湯と稱する湯本ありて」(c)　5) 億劫　6) 女中

御旅所　跳リ.ル　思出デ.ズ　～達　折レ.ル
穏ヤカ　躍出デ.ズ　思入レ　親々　オレンジ侯
小田原評定　躍入リ.ル　思イ～に　親里　愚
落チ.ッ　躍狂イ.ウ　思掛ケナシ　親父　下シ.ス
陥リ申シ.ス　踊屋臺　思切リ.ル　御雇イ〔職名〕　疎カ
落降リ.ル　衰エ.ウ　思込ミ.ム　御雇醫師　畢リ
落着キ.ク　驚カシ.ス　思出シ.ス　御雇外國教師　恩
落度　驚キ怖レ.ル　思立チ.ッ　御雇教師　音
落行キ.ク　同ジ(相)　思違イ　～　恩愛
乙　放庇　思違エ.ウ　～等　恩給金
追ッカケ.ク　鬼　思付キ　御雇役人　恩護
乙群　～　思付キ.ク　親人　恩陽
乙縣　～メ　思直シ.ス　女形　溫室
～　オネロオプ〔船〕　思廻シ.ス　小山田檻倉[1]　恩賜米
～下　尾上ノ松　思設ケ.ク　オヤミ[2]　音釋
乙号　各方　思遣リ.ル　親許　溫泉
乙所　公私　思寄リ.ル　及ビ.ブ(相)　溫然
乙印　悸キ.ク　以爲ク《副》　及ボシ.ス　溫泉浴法
乙地　伯母　面白シ　下リ.ル　溫暖
追手　叔母　重立チ.ッ　折リ.ル　溫暖室
乙黨　帶　表　折悪シ　穏着
オッ取リ.ル　汚物　面　折合イ　御中
オッパジメ.ム　覺シ　表口　折合イ.ウ　恩典
汚泥　覺エ　表玄關際　居リ合ワシ.ス　穏當
音　覺エ.ュ(相)　表通リ　織出ダシ.ス　女商人
願　覺エ居リ.リ　表向キ　折々　女主人
落シ.ス　思シ召シ.ス　表門　折紙　女哥舞妓
威シ.ス　覺束ナシ　～　折紙付キ　女髪結
陥入レ.ル　溺レ.ル　～外　織立テ.ッ　女戸主等
威シカケ.ク　オ前　萬年青　折節　女非人
威シ銃用　オ負に　重リ.ル　織物　女役者
音信レ.ル　御身達　オモワク買　～　恩波
訪イ.ウ　汚名　重ンジ.ズ　～(諸)　御身
訪イ來.ク　重　慮リ.ル　織物商
オトメ号〔船〕　思イ得.ウ　以ミル　オリャリ.ル
御供服　思居リ.ル　親　折ヨシ　課
劣リ.ル　思出ダシ.ス　～　折ル等　佳
踊リ

1) 小山田檻倉の場〔芝居〕　2)「をやみなき雨」(c)

華
果
禍
化
〜
〜シ.ス
架シ.ス
嫁シ.ス
呵シ.ス[1)]
蛾
駕
〜
〜シ.ス
臥シ.ス
可愛
〜
〜シ.ス[2)]
可愛ラシ
快
回
貝
價位
甲斐
畜イ.ウ
〜
〜置キ.ク
解シ.ス
解シ得.ウ
解シ難シ
解シ.ス[3)]
介シ.ス
會シ.ス(相)
概シ.ス
害惡
買上ゲ
〜
〜(オ)

買上ゲ.グ
〜
〜(御)
〜相成リ.ル
〔御〕
〜致シ.ス
買上ゲ金(御)
買上ゲ代
買集メ.ム
魁偉
註違
註違罪目
買入レ
〜
〜(御)
〜等
買入レ.ル
開院
開院式
買受ケ.ク
買埋メ等
海運
海運橋
開榮橋詰
開宴シ.ス
會宴衆
開化
該河
開會
甲斐々々シ
改革
〜
〜シ.ス
外客
外廓
貝鐘
開化論

會幹[4)]
會館
廻艦シ.ス
開卷シ.ス
海岸
外觀
開舘式
海關稅
海關稅舘
海關賦稅
開議
會議シ.ス
海氣絹
會議日誌掛リ
會議場所
階級
海峽
開業致シ.ス
開業シ.ス
概況
該教
開業醫
開業醫師
開業鑑札
開業式
開業資金
開業者
開業入費
開局
廻金
皆金
該金
街衢
買イ薬
海軍
海軍一等師
海軍一等屬

海軍一等若水兵
〜
海軍卿
〜中
海軍少尉
該江
海軍將校方
外行
海軍少佐
外航
海軍少將
外交家
海軍少匠司
開校式
海軍大尉
開鑛事業
海軍大輔
開港場
海軍病院
開口神社
海軍兵學校
改更廢止シ.ス
該家
開國
會計
回國シ.ス
外形
該國
〜
外國掛リ
〜上
外國機械等
會計委員
外國記者
會計掛リ
外國交際
會計局
外國公使
會計事務總裁
外國債
會計年中
外國商
會計簿
外國人
該月中
〜
外見
〜中
概言シ.ス
〜等
回顧シ.ス
外國船
悔悟
外國品
〜
外國貿易
〜シ.ス
外國友人
開港
外國輸出
海口
買込ミ.ム
開校
〜
廻航シ.ス
〜居リ.リ
邂逅
開墾
會合シ.ス
〜
外交
〜シ.ス
該港
〜等

1)「筆を呵し」(c)　2)「其子女ノ生ルヽト共ニ之ヲ可愛スルノ心情ヲ發シ」(e)
3) 解体の意　4)「今我輩十五名會幹トナリ」(e)

皆濟
開採シ.ス
開鑿
～
～シ.ス
解散
～
～シ.ス
～中
概算
該算
解散仇視シ.ス
悔慚折服シ.ス
開産人
會市
會試
快駛
～
～シ.ス
怪事
外資
概シて《副》
該寺
該事
該日
回死肉骨
買占メ方
會社(各)
會社(諸)
開社シ.ス[1]
解釋シ.ス
會主
外囚
會所
解除シ.ス
刈除シ難シ
該所

改稱
～
～シ.ス
會場
～
～(各)
廻状
海上
開場シ.ス
開場中
街上
該場
會場雜記
開場式
會食
開進
～
～シ.ス
改進
～
～シ.ス
改心
～
～シ.ス
戒愼
開申シ.ス
外臣
～
～シ.ス
～輩
～等
害人
改進家
改新進取
開新政府
改進黨
海圖
窟主[2]

海水
買進ミ.ム
快晴
改正シ.ス
改正ナリ.ル
改正案
改正調ベ
改正濟ミ
改正追加
～
～シ.ス
改正頒布シ.ス
改正表
海石
開席
外戚
開設
開說シ.ス
解說シ.ス
街說
解說書
開戰
～
～
～シ.ス
改撰
凱旋
～
～シ.ス
該船
該川
凱旋整列式
改租
介添イ.ウ
廻漕
回送
～
～シ.ス

回想シ.ス
改造
海賊
貝族
概則
～
～中
壞損シ.ス
解除
壞頽
改題
海內
開拓
開拓長官
廻達シ.ス
飼イ立テ
怪談
愧恥
開置シ.ス
改築シ.ス
開知新聞〔新聞〕
懷中
～
～ナシ.ス
海中
快中
該虫
會長
開帳札
開陳シ.ス
開通
～
～シ.ス
買手
改定
海底
階梯

海底電線
改定律例
回天
開店
廻轉シ.ス
開店式
灰土
回答
～
～相成リ.ル
(御)
會同
～
～シ.ス
街燈
該島
街頭
回答書
開讀
買取リ
買取リ.ル
買取引シ.ス
甲斐ナシ
買人
懷妊
買主
該博
開發シ.ス
開帆シ.ス
開否
開扉
海濱
外品
該品
海濱砂漠
回付シ.ス
外部

1)「造化ノ三神諸冊ノ二尊ヲ祭リ開社候」(c)　2) ばくちやど

海風
恢復
　～
　～シ.ス
怪物
外聞
廻平〔船〕
開閉
　～
　～シ.ス
海兵部
解放
　～
　～シ.ス
介抱
　～
　～シ.ス
　～ナシ.ス
解剖
　～
　～シ.ス
概報
該報
外貌
窺マミル
外務
外務官吏
外務卿
外務省
改名シ.ス
開明教
開明社會
開明風潮
灰滅
海面
外面
概目

買求メ.ム
解約
戒諭シ.ス
會友(諸)
開誘室[1]
海洋
羅米[2]
開落
快樂
解纜
　～
開覧シ.ス
海里
該吏
海陸
海陸軍
概略
改良
乖戻シ.ス
海路
街路
快朗
街路瓦斯
概論シ.ス
會話
我意我儘
海灣
下院
換エ.ユ
歸シ.ス
歸シ遣リ.ル
返ス～も《副》
楓
歸リ
返リ.ル

歸リ居リ.ル
歸リ來.ク
歸リ路
蛙
火焔
肯ンジ.ズ
顔形
貌揃イ
花下
畫家
河海
禍害
瓦解
抱エ
抱エ.ウ
　～
　～(オ)
價格
課額
化學
課學(一)
賀客
畫學用
化學製品
掲ゲ置キ.ク
掲ゲ來リ.ル
掲ゲ連ネ.ヌ
鏡
鏡餅
掛リ
　～
　～中
懸リ.ル
掛リ合イ.ウ
掛リ官員
掛リ長
掛リ役

掛リ役員
香川大書記官
火鑑
荷棺
火管等
河岸
花卉
柿
火器
昇キ.ク
カキ.ク[3]
書キ難シ
嘉儀
餓鬼奴
書入レ
下議院
書置
掻送リ.ル[4]
書換エ
蠣殻町米商會所
掻痍
掻口説キ.ク
掻込ミ.ム
掻浚イ.ウ
書認タメシ.ス
書認タメ.ム
書記シ.ス
臥起進退
書出シ
書出シ.ス
書立テ.ツ
書付ケ.ク
書付ケ上ゲ申
　シ.ス[5]
書取リ.ル
柿苗
掻キ鳴*シ.ス[6]

垣根
掻交ゼ.ズ
掻廻シ置キ.ク
掻遣リ.ル
下級
可及的
蝸牛
火牛
過擧
架橋
家業
課業
堅磐
科金
角
擱シ.ス
劃シ.ス
斯クて《副》
斯クて《接》
家具
額[7]
額
樂
各位
各異
畫一
各員
各院
架空想像
學運
各課
學科
　～
　～(一)
赫々
斯々と
學課書

1) 幼稚園の教室　2) 穀実を買い入れること　3) 恥をかく　4)「土人～皆手楫を以て掻き送れり」(e)　5)「町中吟味仕書付上ケ可申候」(b)　6) 琴を掻き鳴す　7) 金額

各艦　閣参　～上　額堂　影
各官　隠シ・ス　學術社會(諸)　學童教育　掛合イ
學官政　～　各署　確認シ・ス　掛合イ・ウ
擬起シ・ス　～アリ・リ　各省　客年　掛合イ最中
樂器　～置キ・ク　確証　學年　掛合イ詰メ・ム
各居　學士　～　學農社　駈集リ・ル
覺擧シ・ス　～　～シ難シ　斯ノ如クシて　掛改メ・ム
各橋　～(一)　各色　《接》　家計
各業　學資　革新　各藩　駈出デ・ズ
各區　學事　確信シ・ス　各品　駈入リ・ル
學區取締(とりしまり)〔職名〕　隠シオオセ・ス　各人　擴法　掛替エ・ウ
各郡　格式　革新政署　各邦　掛紙
學藝　學識　額數　確報　駈來・ク
學藝叢談〔書名〕　學事教育法　學生　學務　駈來リ・ル
客月　學資金　～　學務課　過激黨
各月　學事景況　～等(ら)　革命　掛蓙(かけござ)
各縣　學事專任　隔絕シ・ス　額面　駈込ミ・ム
確乎　確實　各村　角木瓜(かくもっこ)〔紋所〕　掛捨テ賴母子講
各戸　隔日　各隊　學問　駈出(だ)シ・ス
各箇　確實温良　樂隊　學問法　掛茶屋
覺悟シ・ス　隠シ持チ・ッ　～　神樂(かぐら)　果決
各港　各社　～等　霍亂　駈付ケ・ク
各鄉　學者　確知シ・ス　確立　掛時計
學校(各)　～　覺知シ・ス　～　駈拔(ぬ)ケ・ク
學校(諸)　～等　各廳　～シ・ス　掛直(ねお)
學校(某)　嬰鑠　擴張　隠レ・ル　掛札
學校用　學者社會　～　格例　駈回リ・ル
學校教育上　各州　～シ・ス　學齡　駈寄リ・ル
學校教員　各宗　樂調　～　架渡シ・ス
學校資金　擴充シ・ス　確定(御)(こ)　～内　雅言
學校長　學習院　確定致シ・ス　閣老　水子(かこ)
學校取締(とりしまり)〔職名〕　學習院長　確定シ・ス　客臘　過去
學校費　擴充完備シ・ス　角觝[1]　掛ケ[2]　過誤
各國公使　確守遵奉シ・ス　客土　賭ケ　籠(かご)
～　學術　客冬　架ケ・ク　加護
～等　～　確答　缺ケ・ク　下午
確乎不拔　～(諸)　各道　掛置キ・ク　駕籠等

1) 相撲　2)「賣り先きの掛」(c)

圍イ
圍イ置キ.ク
加工
河口
下降シ.ス
畵工
<ruby>踔<rt>がこう</rt></ruby>行シ.ス[1]
<ruby>花<rt>ママ</rt></ruby>崗石
苛酷
鹿兒島縣令
鹿兒島人
鹿兒島錢
鹿兒島戰爭
鹿兒島賊徒
<ruby>託<rt>かこ</rt></ruby>*チ.ッ
圍ミ.ム
駕籠脇
笠
火災
家財
火災視シ.ス
家財道具
家作
～
～等
家作調べ
翳シ.ス
重ナリ.ル
重ネ.ヌ
重ネ～《副》
蒿ミ.ム
笠森稻荷
飾リ
飾リ.ル
飾付ケ
飾付ケ.ク

飾リ品
飾リ夜具
<ruby>火山<rt>かさんしゅ</rt></ruby>
<ruby>夏蠶種<rt>かさんしゅ</rt></ruby>
火山脈
下士
菓子
～
～等(<ruby>御<rt>お</rt></ruby>)
下賜
<ruby>櫧<rt>かし</rt></ruby>〔植物〕
貸シ.ス
～
～置キ.ク
家事
楫
餓死シ.ス
貸與エ.ウ
貸出ダシ.ス
下士官
炊キ.ク
<ruby>貸金<rt>きん</rt></ruby>
貸金証書
貸金証文
<ruby>彼處<rt>かしこ</rt></ruby>
賢シ
<ruby>畏クも<rt>かしこどころ</rt></ruby>
<ruby>賢所<rt>かしこどころ</rt></ruby>
畏マリ奉リ.ル
畏ミ敬イ.ウ
貸下ゲ相成リ.ル
(<ruby>御<rt>お</rt></ruby>)
貸下ゲ金
貸座敷
貸座敷娼妓營業
<ruby>冊<rt>かしず</rt></ruby>キ.ク
貸席業

華士族
貸<ruby>出<rt>だ</rt></ruby>シ.ス
過失
下室
<ruby>楫柄<rt>づか</rt></ruby>
家室器類
貸附
～
～シ.ス
貸附ケ.ク
過失殺傷人條
貸長屋
鹿島神社
菓子<ruby>店<rt>みせ</rt></ruby>
雅趣
家從
課收金額
苛重聚斂
火術
箇所
加除シ.ス
寡少
火傷
火燒シ.ス
嘉尙シ.ス
箇條
～
～(諸)
～等
箇條書キ
<ruby>頭<rt>かしら</rt></ruby>
<ruby>頭<rt>かしら</rt></ruby>立チ.ッ
<ruby>槲<rt>かしわ</rt></ruby>
貸渡シ.ス
<ruby>柏手<rt>かしわで</rt></ruby>
柏亭〔料亭〕
家信

家臣
～
～等
家人
～
～等
<ruby>稼參<rt>かじん</rt></ruby>[2]
過甚
畵人
臥薪嘗膽
<ruby>數<rt>かず</rt></ruby>
瓦斯外
瓦斯製
河水
瓦斯委員
<ruby>微<rt>かず</rt></ruby>カ
春日〔船〕
瓦斯街燈
瓦斯掛リ
春日号〔船〕
嘉助夫婦
瓦斯事業
瓦斯事件
瓦斯章程
瓦斯訴訟
瓦斯燈
瓦斯燈費
～
～等
霞
香澄學校
靴聲
賈生[3]
雅靜
苛稅重租
稼ギ.グ
～

～(相)
～居ル
架設シ.ス
ガゼット〔新聞〕
ガゼット記者
ガゼット新聞
風除ケ
火船
火箭
假想シ.ス
加增シ.ス
火葬<ruby>場<rt>ば</rt></ruby>(舊)
數エ.ウ
數エ方
家族
華族方
雅俗
華族會館
華族會館長
華族大全〔書名〕
華族部長
方
～
～(<ruby>御<rt>お</rt></ruby>)
肩
夥多
<ruby>形<rt>かた</rt></ruby>*[4]
難シ
過怠
片田舍
<ruby>傍<rt>かたえ</rt></ruby>
肩書
方々《名》
旁々《接》
片側
<ruby>敵<rt>かたき</rt></ruby>

1) 康熙字典「踔～蘗佳切～踔行繚戾也」〔行繚は，めぐりもどること〕　2) 朝鮮の物産　3) 年少の秀才　4)「借金のかたに」(c)

傾ゲ.グ　～(各)　活板〔活版〕　加藤法理文三學　過般
厚ナシ　畵帖　月日　部總理　可否
厚ナクシ.ス　濶[1]　～　廉々　～
堅藏　活眼　～(何)　家督　～シ.ス
片袖　昇ギ.グ　活物　門口　華美
形　擔ギ出シ.ス　合併　門松　可否決
容　割據　～　加特力　甲比丹[4]
片附キ.ク　ガックリ《副》　～シ.ス　假名　佳評
片付ケ.ク　脚氣　渇望シ.ス　哀シ　餓孚
片手間　活計　割烹　カナアリヤ〔鳥〕　花瓶
片時　活劇　割烹店　家内中　下附
刀　脚氣症　割烹家　協イ.ゥ(相)　～
片端　脚氣病院　刮目　金井書記官　～相成リ.ル
片道　喝采　～　金川〔船〕　～致シ.ス
傾キ.ク　點策　～シ.ス　神奈川裁判所　～シ.ス
傾ケ.ク　活字　勝山商社　金澤裁判所長　家扶
片目　合シ.ス　活用シ.ス　悲シミ.ム　蕪
語ライ.ゥ　合宿所　カツリと[3]《副》　彼方　下部
～　活書　活歷史　假名遣イ　株切手
～居リ.リ　合掌　活路　奏デ.ズ　株金
語リ掛ケ.ク　～　河堤　金梯　畵幅
語リ聽キ.ク　～シ.ス　假定相成リ.ル　金物　寡婦孤兒扶助料
語リ告ゲ.グ　褐色　假定シ.ス　假字問答　株式
語リ傳エ.ゥ　合戰　硝子管　假名讀新聞〔新聞〕　株式取引所
騙リ取リ.ル　～　訛傳　過不足
片六法〔芝居〕　～シ.ス　角　可成リ《副》　下物
花壇　合葬シ.ス　門　加入　兜町株式取引所
果斷　豁達　下等　鐘　株主
ガタンと《副》　勝手　家道　曲尺　課賦法
價直　勝手道具　下等客　金高　蕪菜
勝チ　勝手回リ　下栂教師　金箱　冠リ.ル
勝チ.ッ　合點シ.ス　加藤家　金持　氣觸[5]
家畜　割渡シ.ス[2]　加藤社　鹿子餅　過分
瓦竹　活動シ.ス　下等小學　ガバと《副》　壁
花鳥　河童頭　下等職工　屍　壁上
課長　活潑　下等人民　樺山陸軍中佐　貨幣
～　活潑力　下等等外　過半　貸幣論

1)「狹ヲ變シテ濶トナシ」(e)　2)「右金額出荷人エ可割渡」(a)，なお，この文のつづきに，「惣額ヲ割與スヘシ」とあり　3)「カツリと音して」(c)　4) 船長　5) うるしなどの，かぶれ

課法　花木　鎌　釜　搆エ・ウ　鎌倉決斷所長　竈　喧シ　鎌寶藏院流　我慢　上　紙　神　髪　噛ミ・ム　紙入レ　髪飾リシ・ス　噛ミ切リ・ル　紙草〔烟草〕[1]　上郷住イ　上座　上桟敷　噛ミシメ・ム　紙製　剃刀　噛ミ附キ・ク　上手　上半季　過脈[2]　髪結風情　神世　下民　冠リ・ル　龜　洋犬　家名　河名

龜井橋演說所　龜泣橋　龜ノ尾[3]　賀茂川筋　課目　釀シ・ス　貨物　～　～等　鴨獵　花門　花紋　衙門　蚊帳　茅　火薬　茅葺屋根　粥　通イ・ウ　通イ來・ク　通イ路　通イ詰メ・ム　通イ船　假用　～　～シ・ス　彼樣　畫樣　殼　辛シ　柄　唐糸　カラカイ・ウ　傘　辛ク　《副》　絡ゲ・グ　烏

硝子　～　～等　硝子燈　硝子瓶　烏山郵便局　体　禍亂　假　借リ　借リ・ル　刈リ・ル　～　～居ル　驅リ・ル　狩リ・ル　借リ置キ・ク　假リ來リ・ル　假に　《副》　借リ入レ・ル　借入レ金　假院　借受ケシ・ス　借受ケ・ク　～　～申シ・ス　假額中[4]　刈草　刈桑　假獄　假小屋　假初　假宅　借散ラシ・ス　獵リ盡シ・ス　驅盡シ・ス　借人　假殿

苅取リ・ル　借主　假寢　驅除キ　假橋　刈拂イ・ウ　假屋　假山　河流　下流　狩人　過慮　過量　過料金　臥龍梅　輕シ　輕業小屋　彼等　枯レ・ル　故　《援》　家令　瓦礫　彼レ是レ　～　～シ・ス　彼レ是レと《副》　枯野　枯果テ・ッ　家老　辛ウジて《副》　家祿　川　皮　側　川上　川上一等書記生　乾キ・ク

河漁艇　川口　革靴　川崎平間寺　替シ・ス　川路大警視　川下　蛙茶屋　河内樓內　川支[5]　革胴亂　川幅　川普請　川船　革文庫　河村海軍卿　厠　～　～(御)　～(各)　河原　瓦葺キ　代リ　變リ　替リ・ル　～　～(相)　交ル交ル　鑑　患　舘　感　～　～ジ・ズ　觀　～　～ジ・ズ

1)「能勢山の近傍にて兩三年前より紙草を植付けたるに」(c)　2)「首尾を合せた文章　過脈～此狂言中第一の看塲なり」(c)　3) 本町三丁目の待合茶屋　4) 仮の租稅額の中　5) 川止め

檻	勘解法吏	官金	患告	～シ能イ・ゥ
塞	考エ	艱苦	勸告シ・ス	官私有地
刊	考エ・ゥ(相)	患苦	監獄署	管守者
簡	考エ定メ・ム	完具	官國幣社	官準
奸	考エ直シ・ス	玩具	看護人	官署
閑	觀客	頑愚	官祭	願書
冠シ・ス	感覺	巖窟	官材	干涉
監シ・ス	扞格シ・ス	官軍	鑑察	～
頑	漢學	～	監察シ・ス	～シ・ス
簡易	～	～方	鑑札(諸)	感傷
漢醫	～先生	關係シ・ス	鑑札(新)	管掌
簡易教育法	管轄	～	鑑札料	還償シ・ス
簡易低卑	～	～(相)	渙散分離	勸奬シ・ス
官印	～シ・ス	感激	官私	官省(諸)
官員(諸)	管轄地方	甘言軟行	監視シ・ス	感情
官員体(てい)	管轄廳	官庫	幹事	勘定
官員錄	～	環顧シ・ス	～	～
甘雨	～(各)	看護	～等	～(無)
寛永 〔年号〕	鑑ミル	～	寒時	觀場
感應シ・ス	看官	～シ・ス	奸事	勸請シ・ス
棺桶	宦官	歡娛	冠辭	官省掛リ
干戈	寛緩苛酷	觀後	感ジ入リ・ル	勸商局
坎軻[1]	喚起シ・ス	官護	幹事總代	干涉主義
看過シ・ス	緩急	感悟	幹事長	勘定帳
觀下シ來リ・ル	官給	～	閑室	勘定拂イ
寒餓	還給	～シ・ス	感謝	官職
閑雅	感泣シ・ス	監護シ・ス	觀者	感觸シ易シ
官衙	寒窮士族	慣行	館舍	顔色
勸解	還御	還幸	寒者[2]	官職制
～	扞禦	～	患者(新)	寒暑鍼[3]
～中	乾魚	～相成リ・ル	願者	甘蔗苗
患害	勸業課	～遊バシ・ス	含嚙飲噉(そう)シ・ス	奸臣
舘外	勸業會議	刊行	癇癪持チ	感心シ・ス
眼科醫院	勸業世話掛リ	眼孔	看守	韓人
勸解裁判所	勸業場(ば)	眼光	看取シ得・ゥ	肝腎
勸解願	勸業博覽會	刊行發兌シ・ス	慣習	寒心恐懼シ・ス
感慨悲愴	勸業費	貫效丸 〔船〕	～	卷子

1)「往々石角の崢嶸(けわしき)たるありて坎軻(ごとく)殆んと苦しむ」(c)　2) 貧乏人のこと　3) 寒暖計

陷水　感敷　元年　漢法醫術　～
干水塲所　～　觀念シ・ス　ガンボオト[4]　～外
閑靜　～シ・ス　還納シ・ス　管保者　官林監守
關稅　閑談　勸農局長　乾滿　官林帳
關稅局　寒暖計　觀音　翫味シ・ス　咸臨丸〔船〕
冠制束縛　官地　看破シ・ス　管民　慣例
觀世音　寬地[2]　簡派シ・ス　官務　官令
關節　含蓄シ・ス　旱魃　艦名　還曆
官撰　檻中　煥發シ・ス　千名犯義　干連シ・ス
官船　寒中　看板　願望　翫弄
慣染シ・ス　官廳　甲板　勸誘　翫弄物
感染シ・ス　～　～　～　官祿稅
完全　～(各)　～上　～シ・ス
悍然　管廳[3]　甲板部　官有
間然シ・ス　間諜　完備　含有シ・ス　**機**
眼前　艦長　～　官有地　奇
頑然　檻長　～シ・ス　含有物　黃
勸善懲惡　貫通シ・ス　官費　干與シ・ス　記
感染人　姦通シ・ス　元費　肝要　～
完全量　勘附キ・ク　看病　撼搖シ・ス　～シアリ・リ
元祖　鑑定人　眼病者　換用シ・ス　季
感想　監定人等(舊)　看病婦　元來　寄
諫諍シ・ス　貫徹シ・ス　官府　歡樂　忌
乾燥シ・ス　寒天　姦夫　陷落シ・ス　危
萱草(かんぞう)〔植物〕　管天寺　姦婦　監吏　規〔記号〕
贋造　官等　還付シ・ス　韓吏　記〔記号〕
監倉署　官道　感服　官吏(一)　規
檻倉番〔職名〕　感動シ・ス　官服　官吏中　～
貫屬換エ[1]　頑童黠(かつ)兒　官物　官吏等　～シ難シ
艦隊　漢銅圜(かん)絡　漢文　管理シ・ス　騎シ・ス
寬待　關東都督　感奮シ・ス　元利　着ル
感戴シ・ス　官等表中　官兵　眼裏　宜
諫臺　管內割リ　官幣大社　官立病院　技
官宅　神嘗祭　冠帽　簡略　儀(おん)(御)
揀擇　艱難　官報　貫流シ・ス　擬シ・ス
澣濯補綴　官人(かんにん)　漢法醫家　甘霖　氣合イ
神田神社　願人　漢法醫者　官林　忌明ケ

1) 本籍地をかえること　2)「人民に寬地を與へ」(e)　3) 管轄庁　4) 小軍艦

來合ワシ.ス
貴案
奇異
貴位
生糸
生糸會社
生糸市場
生糸商會
起因
僞印
議員(各)
議員(諸)
議員(總)
議員中
議院(兩)
氣運
歸依(不)
消エ.ユ
消エ入リ.ル
消エ亡セ.ス
奇緣
既往
奇應丸等〔藥〕
記臆
〜
〜シ.ス
〜仕リ.ル
氣後レナシ.ス
祇園會
旗下
奇貨
奇禍
歸家シ.ス
飢餓
機會
奇怪
器械等(諸)

氣慨
議會
機械館
機械室
器械代
機械場中
着替エ
來掛リ.ル
規畫
犄角[1]
寄客所
衣飾リ.ル
聞カシ.ス
綺花珍樹
飢渇
龜鑑
奇觀
瀉管
瀉鑼
機關
飢寒
歸籃シ.ス
議官
機關工
機關士
機關車
奇巖峻壁
氣管截開術
機器
聞キ得.ウ
聞キ置キ.ク
利キ.ク
軌々《副》
危疑
議義
疑義
聞敢エ.ウ

聞入レ(御)
聞入レ.ル
聞及ビ.ブ
聞キカジリ.ル
棄毀器物稼穡條
聞込ミ.ム
聞知リ.ル
聞過ギ.グ
聞捨テ.ツ
聞出シ.ス
聞糾シ.ス
聞附ケ.ク
聞届ケ
聞届ケ.ク
〜
〜(オ)
〜相成リ.ル
奇々妙々
危急
危急存亡
起居
歸京(御)
歸京致シ.ス
歸鄕シ.ス
起業
基業
起業公債
貴局
聞譯ケ玉イ.ウ
飢饉
〜
〜等
奇禽異獸
基金渡シ所
器具
疑懼

鞠育シ.ス
寄寓シ.ス
菊花
菊花章
僞君子
義兄
技藝
既決
期月
議決
〜
〜シ.ス
〜ナリ.ル
危險
歸縣
〜
〜致シ.ス
〜シ.ス
貴顯
忌嫌
機嫌
〜
〜(御)
紀元
起原
貴顯君子
貴顯上等
飢虎
寄語シ.ス
奇巧
起稿
紀綱
寄港シ.ス
歸向シ.ス
歸港シ.ス
歸校シ.ス
歸嚮シ.ス

記号
〜
〜等
揮毫
〜
〜シ.ス
曦光
歸向轉換シ.ス
紀功碑
聞エ
聞エ.ユ
〜
〜(相)
聞エル《口語》
貴國
歸國
〜
〜シ.ス
聞食シ.ス
起坐シ.ス
記載
〜
〜方
〜シ置キ.ク
氣先
氣作[2]
生酒
崩シ
階
彫ミ上ゲ.グ
刻ミ烟草
岸
季子
起事
棄兒
奇事(一)
記事中

1)「論議紛々互ニ犄角ノ勢ヲ張リ」(e)　2)「傳兵衛ハ至つて気作な上に」(c)

疑似　～外　貴賤　氣違イ水　歸途
疑似曖昧　喜昇座　旗船　歸着シ・ス　希圖
儀式　儀仗車　基礎　奇中　～
機軸　議場世話掛リ　稀踈　記注致シ・ス　～シ・ス
議事所　儀仗兵　競イ・ウ　貴重　企圖シ・ス
疑似症　氣色　～　～　喜怒哀樂
氣質　～　～(相)　～シ・ス　木樋(どい)
議事堂　～(オ)　競イ起リ・ル　歸廳　歸東
疑似物　輾(きし)リ・ル　寄送シ・ス　歸朝シ・ス　歸投シ・ス
瀉車　貴紳　寄贈　議長席　奇童
～　～　僞造シ・ス　木賃宿　議堂
～中　～(各)　規則(假)　喫シ・ス　祈禱文
歸社シ・ス　～(某)　規則(諸)　～　奇特
瀉車賃錢　鬼神　規則(總)　～終リ・ル　奇特者
妓種　鬼神視シ・ス　規則中　屹度(きつと)　《副》　木戸從二位
器什　傷(きず)　規則等　吃下シ・ス　木取リ[3]
紀州邸　痍痕(きずあと)　氣息シ・ス　切ッ掛ケ　機那[4]
既熟　氣隨氣儘　貴族　氣附キ・ク　木梨少書記官
寄宿所　基數　規則書(諸)　拮据黽勉　危難
記述　築キ・ク　木曾路　拮抗シ・ス　疑難等
技術　築キ換エ・ウ　木曾林區　～　氣ニ入リ・ル
～　疵所(きずしょ)　歸村　～(相)　記入シ・ス
～(諸)　傷付ケ・ク　毀損　喫茶代價　記入押印致シ・ス
技術生徒　歸省　危殆　詰責シ・ス　歸任
歸順　～　北風　切手　絹羅紗
寄書　～等　北川大尉　狐　期年
貴所　議政　歸宅　氣褄[2]　疑念
氣象　～　～　詰問シ・ス　記念碑
氣性　～等　～シ・ス　吃立シ・ス　既納
旗章　犧牲　北日耳曼ガゼッ(キタゼルマン)ト　規程　乙亥(きのとい)
喜悚　奇石　規定　氣ノ毒
徽章　鬼籍[1]　穢(きたな)シ　旗亭　～
窺傷シ・ス　奇說　來リ應ジ・ズ　議定　～(オ)
机上　季節　來リ降(くだ)リ・ル　～　～サマ(オ)
歸城　氣節　疑團　～シ・ス　騎馬
議場　貴說　戲談　議定書　牙
～　氣絕シ・ス　氣違イ染ミ・ム　奇的列論(キテレツ)　氣配〔相場〕

1) 過去帳　2)「客の機嫌氣褄」(c)　3) 気取り　4)「小笠原島へ機那コーヒー苗植付(うえつけ)の爲め」(c)

跪拝シ.ス
氣魄
木橋
瀛帆
歸坂シ.ス
儀範
黍
嚴シ
忌引中
黄平布等
寄附
～
～シ.ス
～等
氣風
寄附金
歸服
奇福[1]
起復シ.ス
忌服
～
～(無)
木札
器物
～
～等(諸)
記文
記聞[2]
奇文
騎兵
器皿
義兵義擧
棄兵採新
奇兵隊(舊)
騎兵隊伍
欺騙
規摸

冀望
期望シ.ス
企望シ.ス
企望仕リ.ル
騎砲工輜重兵
希望心
擬寶珠
氣前
極リ.ル
極リ文句
君　《名》
氣味
～
～(御)
機密
奇妙
奇妙頂來
饑民
義務條理
極メ.ム
極メル　《口語》
記名
～
～(無)
基名
記名公債證書
記名紙
記名調印シ.ス
鬼面
肝
肝煎
議目
膽玉
着物
膽太シ
議問
疑問

客(オ)
虐[3]
客足
却下シ.ス
逆行シ.ス
虐政
逆勢
逆徒
逆匪
脚夫
逆謀
客待チ
脚彎(両)
覬覦
杞憂
喜憂
既有
急
球
級
宮
笈
求
窮
～
～シ.ス
給
～
～シ.ス
戯遊
舊惡
救醫
～
～シ.ス
救育所
宮腋[4]
舊緣

救援
急御呼出シ
舊恩
休暇
舊家
救回シ.ス
舊慣
舊患
舊觀
舊慣故俗
舊規
舊誼
汲々
岌々
休業
究極
鳩居堂
給金
給銀
給金高
舊君
求刑
～
～シ.ス
休憩(御)
休憩所
～
～(各)
救荒
急御用
窮困
救濟シ.ス
究策
急施
休止
宮祠
仇視ナシ.ス

舊時
給仕
舊事
急事
救治シ.ス
窮治シ.ス
給仕小使
休日
牛車
舊主
吸取シ.ス
舊習
九州臨時裁判所
～
～(舊)
舊守地
救恤
～
～シ.ス
救恤委員
救恤醵金
救恤事件
急所
救助
～
～シ.ス
急症
宮妾
舊稱
舊城
舊職
舊臣
窮尋シ.ス
急進稅則
休戚
咎責
～

1)「奇禍一變シテ奇福トナリ」(b)　2)「浪花記聞欄内に」(c)　3)「～祝融虐ヲ逞フスル亦タ甚シカラスヤ」(e)　4)「宮腋妃嬪の平常を」(c)

～シ.ス　休戰　舊藏　休息　～　～(御)　～遊バシ.ス　(御)　～シ.ス　急促　休息仕度　休息所　～　～(御)　急卒に《副》　舊体　及第者　及第生徒　休置シ.ス　宮中　球中　九鼎大呂　仇敵　宮殿　球燈　～　～等　舊道　牛痘　牛鍋　急難　牛肉　牛肉商　牛肉店　牛肉屋　牛乳　舊任

舊任者　牛馬　窮迫　休泊(御)　舊幕　舊幕政府　休泊旅宿　舊藩　牛皮等　舊物　休兵　舊弊　～　～連　義勇兵　救補シ.ス　急報　舊法　窮乏　～　～シ.ス　窮民　～　～等　急務　～　～中　糾問　～　～(御)　～シ.ス　～中　～等(御)　舊約　給與　～　～方

～シ.ス　牛羊視シ.ス　舊來　窮理　窮理日新[1]　久留　急流　舊領　丘陵　舊例　舊曆　舊臘　給祿　清シ　擧　虛　漁　馭シ.ス　御意　御衣　强　卿　狹[2]　驕[3]　興　變シ.ス　驍[4]　狹隘　驕威　境域　教育シ.ス　教育簡易科　教育書等　教育史略　供一饌[5]　教員　～

～方　强雨　强雨泥寧　恐悦　～　～等　變應　～　～シ.ス　變應善遇　響音　教化　教科　狂花　橋下　境堺　教會　境外　驚駭シ.ス　境界論地　恐嚇シ.ス　教學　共學舍　教科書　胸間　脇間　兇悍　强悍　教官室　兇器　狂氣　協議　～　～致シ置キ.ク　～シ.ス　～上　～中

～ナシ.ス　協議社　協議熟談　協議濟ミ　狂喜舞躍　供給シ.ス　强々　洶々　恟々　曉々シ.ス[6]　恐懼　狂愚　教訓上　行啓　～　～遊バシ.ス　狂言(新)　狂言繪番附　鞏固　凶荒　鄉校　教校　校合　僥倖　～　～シ.ス　行幸　行幸圖　强國　～　～(諸)　俠骨　教唆シ.ス　狹窄　仰山　教師(諸)　教師輩

1)「世ノ所謂窮理日新ノ工夫ヲ云フキハ」(b)　2)「狹ヲ變シテ濶トナシ」(e)　3),4)「驍たり驕たり」(c)　5) 清国の家庭教師の，一食つき　6)「番外一番ハ曉々せす他の駁議ヲ任す」(e)

教師等
俠士
鄕試中
凶事
教示
～
～シ・ス
～下(くだ)シ・ス(御(ご))
行事
行司
供試貨幣
驕奢
業者
行者
强弱
梟首シ・ス
教授
～
～シ・ス
教習
供出
供述
～
～シ・ス
教授法
恭順謹愼
狹少
喬松
教塲
供狀
行商
驍將
行狀
京女郎
狂人
兇刃
强勢

匡正シ・ス
矯正シ・ス
矯正シ・ス(相)
强請シ・ス
行政
行政官吏
行政縣官
行政部
行跡
境線
供饌
强壯
競爭
～
～シ・ス
教則
强促
强促手段
共存衆館[1]
驕惰
兄弟
强大
橋臺
凝滯シ・ス
驚歎
～
～シ・ス
京地
供置シ・ス
業中
供殿
仰天シ・ス
仰天ナシ・ス
競點射證
兇徒
鄕黨
協同

～
～シ・ス
教道
教導
協同一致
協同會社
共同下水等
協同合社
教導師
共同社
教導職
教導團
共同黨[2]
教導取締(とりしまり)
京都裁判所
京都本願寺
京都本隆寺
驚破シ・ス
競賣シ・ス
强迫
～
～シ・ス
恐怕
共犯
兇匪等
怯夫
恐怖
～
～シ・ス
胸部
堯風舜雨
脇服シ・ス
胸壁
兇變
教法
驚報
强暴

共謀シ・ス
教法家
兇暴殘忍
兇暴視シ・ス
業務
～
～上
響鳴シ・ス
經文
共有
～
～シ・ス
鄕友
共有金
共有地
教養シ・ス
鄕里
胸裏
共立中學
共立人
橋梁
～
～等
協力シ・ス
協力商店[3]
强烈
行列
～
～(御(おん))
强魯[4]
共和
共和政治
共和政体
共和政府
共和政論(非)
共和黨
虛榮

漁翁
炬火
許可相成リ・ル
許可相成リ・ル
(御(ご))
許可致シ・ス
許可下シ・ス(御(ご))
許可シ・ス
巨魁
巨害
拒害除患
巨額
虛僞
拒救挽回シ・ス
漁業
醵金
～
～シ・ス
極
曲
局外
旭輝
旭旗
極刑
極困餓死
玉座
旭日重光章
旭日小綬章
曲從
～
～シ・ス
極清
極大
玉体
局長
極點
極度

1) 共存同衆館〔第 4 表參照〕 2) コンミュニズム 3) 消費組合 4)「強魯ノ兵ヲ惱セシハ」(e)

局務　局面　極論シ.ス　巨鯨(一)　去月中　擧行　～　～シ.ス　拒抗シ.ス　巨豪　擧國　去歳　拒遮シ.ス　虚弱　居住　～　～シ.ス　擧首奮擧(ばく)シ.ス　居所　魚商　虚飾　漁人等　渠帥　虚勢　擧世　御製　拒絕シ.ス　漁船　馭卒　居多　巨大　居宅　許諾　～　～シ.ス　擧朝　魚腸

魚店　擧動　魚肉　去年　巨擘　漁夫　御物(ぎょぶつ)　虚聞　去暮　虚妄　毀譽褒貶　～　～シ.ス　巨萬　～　～(幾)　清水寺　清水堂　魚網　魚油　許容　清ラカ　距離　巨利　居留　～　～シ.ス　渠流[1]　居留公使　居留地　魚獣　巨力　距離里數　魚類　嫌イ.ヴ　氣樂　綺羅(きら)紅裾(こうきょ)

霧　奇利　切リ[2]　切リ.ル　義理　切リ入リ.ル　切落シ毎　伐卸シ.ス　桐額　切株　切口上　切殺シ.ス　切裂キ.ク　切下ゲ.グ　切支丹(キリシタン)　キリシチャン　切死(にに)シ.ス　希臘(ギリシヤ)兵　切捨テ.ッ　基督一致敎會　基督敎　基督敎民　起立シ.ス　切付ケ.ク　起立者　切戸口　斬取リ强盜　桐苗　切拔キ.ク　切放チ.ッ　切判形　開盤(きりばら)キ.ク　切幕　桐山石川縣令　寄留　～　～シ.ス

寄留届　器量　技倆　氣力　機力　切レ〔布〕　切レ.ル　奇麗　歸路　～　～(御)　妓樓　記錄　記錄掛リ　木六駄[3]　キロメエトル　議論シ.ス　議論中　際(きわ)　疑惑　～　～シ.ス　際立(きわ)チ.ッ　極(きわま)リ居リ.リ　際物(きわもの)師　禁　吟ジ.ズ　錦衣　金衣玉食　均一　金員　金員取立方　金圓　金貨　欣賀シ.ス　銀貨　銀價

銀河　近海　銀塊　檎獲シ.ス　勤學　金額(惣)　銀側時計(かわ)　金函　近岸　錦旗　欣喜　～　～シ.ス　近況　～　～中　僅々　金銀　金銀貨　金銀鑛　金銀箔紙(はくし)等　謹賀(きんが)　謹啓(きんげい)　金穴　金券　金權　謹言　禁錮　～　～シ.ス　近郊　近鄕　銀行(各)　銀行(諸)　銀行(両)　銀行等

1)「强雨渠流ヲ生ス」(e)　2)「三幕目の切り」(c)　3) 狂言の題名

銀行株高
近郷近在
銀行國
銀行紙幣
銀行集會
銀行條例
銀行稅
銀行手形
銀行發起人等
銀行役員
金穀等
禁獄
～
～致シ.ス
近國
禁獄人
筋骨
窘困
欽差〔職名〕
近歲
近在
近在所々
欽差大臣[1]
近山
禁止
～
～シ.ス
近時
銀地
銀地金
銀地七寶
近事評論
金鱗
金主
禽獸
謹述
僅少

近小
～
近所近邊
金數
近世
禁制
近接
～
～シ.ス
緊切
欣羨シ.ス
欣然
銀錢
金象嵌卣[2]
勤續
金屬
近村
勤惰
勤怠
錦地
巾着
近町
謹直
金鍔〔菓子〕
勤點
近島
均同
銀銅器物
銀鼠
近年
金納
金牌
金盃
銀盃
～
～等
金箔

金屏風
～
～等
金米[3]
金瓶樓
近邊
勤勉勞力シ.ス
欣慕
～
～シ.ス
近報
金滿家
吟味
～
～シ.ス
～上
～仕リ.ル
勤役年間
金融
緊要
近來
金蘭
金利
金力
近隣
禁令
勤勞
～
～等
金祿
金祿公債
金祿公債証券
金祿公債証書
～
～先生

苦
愚
具
～
～シ.ス
工合
區醫
杭
喰イ.ウ
～
～終リ.ル
悔イ.ユ
區域内
區域名稱
喰過ギ.グ
喰違イ
喰尽シ.ス
喰詰メ.ム
喰詰メ士族
悔イ恥ジ.ズ
クインスランド
クラブ
寓シ.ス
空氣
空虚
空言
宮祠
宮司
寓處
空船
偶然
空乏
空論
苦役
區會
苦界
區劃

軀幹
苦艱
莖
釘
苦境
苦叫
弘教僧侶
區々
括リ.ル
潛リ.ル
括リ緒
公家衆
愚見
區戸長等
區戸長職務
草
腥イ　《口語》
區裁判所
草刈籠
草木
草取リ
草葉
草花
腐レ緣
公事
區寺
簸當リ
挫キ.ク
挫キ身
愚者
口授
～
～シ.ス
九十七カ村
九重ノ塔
九十六カ町
驅除

1)「日本ユ駐剳の清國欽差大臣」(c)　2) 卣はたる，酒を盛る器　3)「金米併納」(b)

苦情
具状
　～
　～相成リ.ル
　～シ.ス
九小區〔区画〕
驅除方
鯨尺
具申
　～
　～シ.ス
樟（くす）
屑糸
崩シ.ス
藥
崩レ.ル
崩レ落チ.ッ
癖
區制
口說
曲者
苦戰
具膽（くせん）
糞
糞汗[1]
管
軀躰
九大區〔区画〕
碎キ.ク
碎ケ.ク
下シ陽イ.ゥ
菓物
　～
　～(諸)
下リ魚
下リ物
件（くだん）

九段坂招魂社
愚痴
口數
口穢ナシ
驅逐
　～
　～シ.ス
口車
啄（くちばし）
口走リ.ル
區長(舊)
區長等
區長總代等
具陳シ.ス
鞋（クツ）
屈シ.ス
苦痛
　～
　～シ.ス
覆（くつがえ）シ.ス
覆リ.ル
蜷起シ.ス
屈强
倔强
屈曲
屈指
　～
　～シ.ス
屈縮シ.ス
屈辱
屈沮シ.ス
屈撓シ.ス
口傳
九店社〔會社〕
九店丸〔船〕
九等警部
口說キ.ク

口說キ立テ.ッ
功德
功德利益
宮內卿
宮內省中
苦難
國(御)
國中（じゅう）
國重大書記官
國風(オ)（ぶり）
國許
區入費
公人役
苦熱
配リ.ル
區費
首絵リ
首引（びき）
供奉致シ來リ.ル
供奉シ.ス
供奉中
供奉ナシ.ス
工夫
　～
　～(新)
颶風
供奉官員
區分
　～
　～シ.ス
區分表上
區別
　～
　～致シ.ス
　～シ.ス
窪（くぼ）
凹ミ.ム

凹ミ出シ.ス
熊
隈
熊谷學校
熊谷裁判所
熊谷寺
熊野神社
熊野社（やしろ）
熊本縣令
熊本士族
熊本支廳
熊本人
熊本隊
熊本鎭臺
熊本丸〔船〕
組
與シ.ス
組ミ.ム
汲ミ.ム
組合
組合イ.ゥ
組入レ.ル
汲受ケ.ク
組頭
酌換ワシ.ス
組込ミ.ム
組立テ.ッ
組附キ.ク
汲取リ.ル
汲取り方
汲取リ人
區民
區務所(各)
區名
雲
蜘蛛

曇リ.ル
苦悶（くもん）
口悔涙（くやし）
悔ミ
悔ミ.ム
供養
藏
暗シ
位
　～
　～シ.ス
喰イ込ミ.ム
倉替エ
暮シ
暮シ.ス
　～
　～遊バシ.ス
（御）
　～居ル
比（くら）べ.ブ
比べ考エ.ゥ
區吏
庫裏（くり）
操上ゲ.グ
繰合セ.ス
繰糸場（ば）
繰替エ.ゥ
　～
　～置キ.ク
栗々坊主
操込ミ.ム
クリストホア・コロンボ號〔船〕
繰出シ.ス
繰引（くりび）キ[2]
廚

1)「糞汗（くそあせ）たらして」(c)　2)「射撃しおがら繰（く）り引きよ胸壁に據り」(c)

栗燒
苦慮
～
～シ.ス
繰綿
狂イ
狂イ.ウ
苦シサ
苦シ紛レ
苦シミ
苦シメ.ム
車(御)
車井[1]
車坂門內〔施設〕
久留米飛白
廓
～
～中
暮レ
暮レ.ル
吳レ.ル
吳々　《副》
吳々も　《副》
紅
久禮郵便局
黑
畔
黑シ
苦勞
愚弄
グロオセス号
〔船〕
黑髮
黑川十五等出仕
黑々
黑地
黑田開拓長官

黑玉
黑羽藩士
黑天鵞絨
黔ミ.ム
桑
加エ.ュ
企テ居ル
クワックイ[2]
《方言》
桑名藩士(舊)
區割リ
加ワリ.ル
軍
群
軍醫監
軍醫正
勳一等
訓晦シ.ス
郡界
軍樂隊
軍監〔職名〕
軍纛(各)
勳擧
郡區外
郡區內
郡區戶長
郡區長
郡區廳
郡區廳舍
郡區吏員
君權內
薰香
軍功
君子
軍事
軍事會議
君子人

勳四等
軍事避病院
君主
群集
～
～シ.ス
軍需局
勳章
郡書記
君臣
勳人
軍人(各)
郡制
軍制
軍勢
薰染シ.ス
軍裝
軍屬
郡村
～
～(各)
軍隊中
軍團
郡中
君長
郡長
軍長
勳等
訓導
勳二等
軍備
軍費
軍服
クンフリック
〔船〕
軍帽
群牧

群馬縣令
軍務
郡務所
君命
郡名
訓盲院
軍門
郡邑
軍用
群羊
軍用金
軍律
軍吏副
訓練
勳六等

毛
氣[3]
下
實に　《副》
卿　《代名》
兄　《代名》
景
計
徑
警シ.ス
揭シ.ス
慶シ.ス
藝
慶安〔年号〕
經緯
～
～シ.ス
繫維シ.ス
經營
～

～シ.ス
警衛
形影
經營措置上
溪淵
慶應〔年号〕
慶應義塾
經過
～
～シ.ス
～シ來リ.ル
慶賀
警戒
形骸
警戒憤激シ.ス
畧畫
計較シ.ス
警官
計官
溪間
京畿
景氣
～
～(不)
刑期中
藝妓
～
～等
輕氣球
輕騎兵
藝妓舞子營業
輕擧
揭擧致シ.ス
揭擧シ.ス
鯨魚
藝業上
荊棘

1)「いつかへ巡る車井の轆轤せわしき出世湯と」(c)　2) 尺とり虫の一種　3)「産の氣」(c)

輕々　《副》
輕々地に《副》
經驗
輕減シ.ス
經驗熟練シ.ス
稽古
　～
　～シ.ス
經國
揭載
經濟
　～
　～上
輕罪
輕罪者
經濟書
經濟論
警察
　～
　～用
警察官
　～
　～等
警察官吏
警察區畫
警察事務
警察出張所
警察費
　～
　～中
警察分署
警察本署
計算シ.ス
計算上
計算書中
計算書類
警視

罫紙
京師
輕視シ.ス
繼嗣シ.ス
揭示
形似
敬事シ.ス
警視醫學校
刑事課
警視官
刑事裁判官
警視隊
警視第一課
警視第三課
警視廳
警視病院
警視分署
警視本署
警視本署長官
頃者
傾斜シ.ス
藝者
藝者氣取リ
傾斜仰慕シ.ス
揭出シ.ス
揭出シ得.ウ
藝術
藝術叢誌
景象
警鐘
繼承シ.ス
形情
形狀
　～
　～等
景狀
刑場

敬上
　～
　～仕リ.ル
形情緩急
藝娼妓
敬神
形勢
傾城
警世新誌
形跡
　～
　～上
螢雪
迎接シ.ス
經線
惠賜シ.ス
繼送物等
携帶
　～
　～シ.ス
境内
警柝
惠澤
景致
輕重
　～
　～シ.ス
慶長〔年号〕
京兆[1]
慶長小判
輕重大小
兄弟(諸)
兄弟中
兄弟妻子
惠投
藝人(諸)
競馬

輕薄
刑罰
經費
警備
警備掛リ
經費勘定帳
經費金
警蹕
輕侮シ.ス
警部等
警部心得
警部試補
警部巡査
景物
警部補
藝振リ
繼母
敬慕
刑法
警報
刑法草案
輕砲兵
刑名
揭名シ.ス
藝名
契約
經由致シ.ス
經由致シ來リ.ル
莖葉
形容
　～
　～シ.ス
惠賚シ.ス
鷄卵
警吏
刑律
計慮シ.ス

敬禮
　～
　～シ.ス
敬禮式
經歷
　～
　～シ.ス
溪路
ケエト号〔船〕
毛織リ
怪我
下界
汚シ.ス
怪我人
下款[2]
激シ.ス
擊劍術
激昂
劇劑
劇症
劇場
激水急湍
激戰
　～
　～シ.ス
擊柝[3]
激漲シ.ス[4]
激怒
激動
激動暴發シ.ス
激發シ.ス
劇評
檄文
逆旅
激浪
激論
下稿

1) 首府　2)「府縣事務章程下款第三十九條」(a)　3)「擊柝四声にて御出棺」(c)
4)「諸川一時に激漲し」(c)

今朝
袈裟
罫粟
消シ.ス
夏至
下知シ.ス
消印シ.ス
氣色
下車
下車下馬致シ.ス
下宿
〜
〜様
下旬頃
下女
化粧道具
下水
下水際
刪リ.ル
懸想シ.ス
懸想ナシ.ス
桁
下駄
氣高シ
蹴立テ.ッ
下駄屋
桁行キ
下段
決
欠
決意シ.ス
欠員
血液
結果
血氣
決議
〜
〜シ.ス
歇議衆[1]
月給
結局[2]《名》
欠減
結構
〜
〜等
決行
〜
〜シ.ス
結合
〜
〜シ.ス
〜シ.ス(相)
決算
〜
〜シ.ス
〜成シ下サリ.ル(御)
結社
〜
〜シ.ス
結衆[3]
潔淨
月色
決心
〜
〜シ.ス
結束シ.ス
結帶シ.ス
決斷
月旦
決定
〜
〜致シ.ス
〜シ.ス
〜シ難シ
欠點
ケット[4]
潔白
月波樓
月表
月篭
月俸
月報表
結末
月末
月夜
決約
結約
欠用
月曜日
氣取リ.ル
下人
懸念
〜
〜シ.ス
蹴外シ.ス
蹴放シ.ス
下評シ.ス
下品
氣振リ
閥シ.ス
煙
下落
〜
〜シ.ス
下痢
下劣
〜
〜シ.ス
下郎
險阻シ
險
劍
賢
儉
妍
券
謙
檢シ.ス
獻ジ.ズ
減
嚴
嚴に《副》
現ジ.ズ
眩ジ.ズ
險惡
元惡[5]
權威
見一[6]〔珠算〕
檢印
〜
〜シ.ス
現員
檢員帳
現受米
減役
檢閱使
喧嘩
絃歌
減價
縣會
見解
限界
言外
縣會議場
玄海丸
懸隔
〜
〜シ.ス(相)
限晝シ.ス
原額
喧嘩口論等
顯官
兼官
玄關
縣官廳
獻寄シ.ス
嫌疑
〜
〜シ.ス
建議シ.ス
建議者
減却シ.ス
研究
〜
〜シ.ス
研究講明シ.ス
研究錬磨シ.ス
言語
〜
〜等
現況
兼勤
獻金
〜
〜シ.ス
現金
嚴禁
元勳
檢計〔職名〕
劍戟
件々
涓々[7]
權限
建言

1)「十時に至り歇議衆皆退散せり」(c)　2)「歲計結局ノ時ニ於テ」(a)　3)「葬送にハ〜結衆六人を率ひ」(c)　4) 毛布　5) 元兇の意　6)「八算見一」(c)　7)「涓々ノ害ヲ涓々ノ初メニ豫防スルノ工夫」(b)

～
～シ.ス
嚴譴
建言書
堅固
健康
～
～上
權衡
～
～(不)
堅廣
兼行シ.ス
喧囂
原稿
現行
權衡輕重
堅剛無比
嚴刻
原告總代人
原告代言人
乾坤
撿查シ.ス
賢妻
減殺シ.ス
現在
～
～シ.ス
現在患者
撿查員
撿查官
撿查官員
撿察事務
撿察捕吏
幹山燒[1]
撿視
絹糸

撿事
元使[2]
原始
元治〔年号〕
撿事課
撿事局
撿事局長
元始祭
原質
現時通貨
縣社
儉奢
賢者
黔首
堅守シ.ス
嚴重
嚴肅
顯出致シ.ス
顯出シ.ス
撿出シ.ス
現出シ.ス
原書
減除シ.ス
賢相
券狀
献上
減少
～
～シ.ス
現象
現狀
源勝院
献上品
顯職
兼職
權臣
驗震器[3]

元帥
減水シ.ス
券數[4]
權數[5]
間數
減數
現世
牽制シ.ス
～
～(相)
縣稅
減省
～
～シ.ス
絃聲
牽制互抑
牽制スル等
堅石
譴責
現籍
建設
～
～シ.ス
建設スル等
顯然
健全
堅全
儼然
嶮岨
減租
絃側
献替
兼帶シ.ス
減退
軒輊
縣地
縣治

建築シ.ス
建築上
建築工程
建築修繕費
建築長
建築法
縣知事
縣治提要
現虫アルコオル漬
顯著
原著
縣廳(舊)
縣廳下
縣廳内
原調
涓滴
圈點
原傳
軒燈
撿討等
縣道
絃燈
原頭
減等
減等赦典
儉德
元和〔年号〕
權内
縣内
元和年中
兼任
肩任シ.ス
献納シ.ス
犬馬
現場
玄蕃石

建白シ.ス
建白書
現發シ.ス
原犯
原被[6]
原被告
原品
絹布
献付シ.ス
元服
見物(惣)
見物シ.ス
現物
見物人
見物番
玄武丸〔船〕
見聞
～
～シ.ス
見分
～
～シ.ス
原文
原簿
憲法
減法
嚴法
權謀術策
權謀變詐
枳椇(植物)
原本中
研磨シ.ス
玄米
撿見
嚴密
嚴密煩苛
縣民

1) 乾山焼　2) 元の国の使者　3) 地震計　4)「券數六万七千八百六十七枚債主一万四千三百五十三人」(c)　5) 権謀術数　6) 原告と被告

兼務
件銘
顯明
厳明
原野
倹約
源由
原理
權理者
建立(けんりつ)シ.ス[1]
權畧
源流
懸慮シ.ス
權力
權利論
縣令(前)
堅牢
元老
元老議官
兼六園
見六[2]
眩惑シ.ス

個
錮(こ)[3]
餬(こ)[4]
戸
～
～毎
子等
濃シ
鼓シ.ス
糊シ.ス
伍
期(ご)
小商人(あきんど)

故意
戀
鯉
請イ
戀シ
請イ出デ.ズ
小池
小石
小石川砲兵本廠
戀イ慕イ.ウ
糞(こいね)イ.ウ
糞クは　《副》
戀イ煩イ
稿
工
項
交[5]
巧
倹
香
校[6]
候[7]
行
廣
航シ.ス
抗シ.ス
耗シ.ス
考シ.ス
較シ.ス
校シ.ス
講ジ.ズ
甕ジ.ズ
～
～玉イ.ウ
困ジ.ズ
～
～果テ.ッ

斯ウ　《副》
號
～
～シ.ス
鄕等[8]
考案
苟安
行爲
厚意
好意
黃萎シ.ス
拘引
～
～(御)
～シ.ス
～ナシ.ス
股淫
後胤
拘引繫獄シ.ス
降雨
蝗雲
耕耘
幸運
幸榮
公益
效益
拘役
交易利潤
公園
～
～内
宏遠
高遠
公園地
好惡シ.ス
好惡取捨
甲乙[9]

高價
弘化〔年号〕
光華
好果
降下シ.ス
曠過シ.ス
航海
～
～シ.ス
～中
公會
後悔シ.ス
蝗害
港外
慷慨
號外
慷慨家
航海學
航海術
慷慨悲歌
航海免狀
航海歷史中
高閣
航客
磽磅
後學
工學
工學者
航過スル等
廣濶
狡滑兒
狡滑族
交換
～
～致シ.ス
～シ.ス
更換

後患
高官方
畢丸
强姦
高官貴紳
高官顯職
廣貫堂〔店〕
交換法
光輝
香氣
高貴
興起シ.ス
講議
交誼
剛毅
講議室
幸吉丸〔船〕
後脚
後宮
購求
～
～シ.ス
考究
講究シ.ス(相)
號泣シ.ス
皇居
公許
～
～シ.ス
～シ置キ.ク
行擧
抗拒
後擧
甕去シ.ス
香魚[10]
口供(假)
公共

1)「先帝の石像を～建立せんと」(c)　2) 珠算用語　3)「杖(じやう)・錮(こ)の二罪」(c)　4) 魚卵「肉及び餬(こ)」(c)　5)「四五月の交」(d)　6) 学校　7) 気候　8)「宿驛浦鄕等ハ」(e)　9)「其純粹ノ度甚ダ甲乙ナキカ故ニ」(c)　10) あゆ

惶驚
硬強
興行
　～
　～致シ・ス
　～シ・ス
　～中
工業
鑛業
功業
廣業〔会社〕
剛強
工業資本
公共心
功業世界
興行場（ば）
興行場所(諸)
梗強不屈
紅裾茜裙（せんくん）
合金
甲群
行軍シ・ス
行軍式
甲家
高下
口徑
工藝
合計
　～
　～シ・ス
攻撃
　～
　～シ・ス
好劇者流
攻撃線
膏血
高潔

礦穴
豪傑
好結果
航權
效驗
公權
厚眷
后見
高見
甲縣下
廣言
江湖
向後
口語
航行
　～
　～シ・ス
港口
江口
功効
孝行
公行
鑛坑
坑口
紅光
煌々（こうこう）
香合
甲號
嚣々
皇后宮
　～
　～(両)
嚣々然
皇后ノ宮
公告
　～
　～シ・ス
侯國

皇國
廣告文
廣坐
高坐
交際
　～
　～上
公債
　～
　～(諸)
光彩
公裁
虹彩炎
公債課
公債掛リ
交際官員等
公債證書(舊)
公債證書(諸)
耕作
工作
工作局
工作局長
考察
　～
　～シ・ス
興産
恒産
礦山
高山
　～
　～(一)
犢牛（こうし）
公使
　～
　～中
公私
考試
孝子

高士
格子外
講師等
行使シ・ス
工事
麹
好餌
嵩ジル
鄉士
孔子畵
公使館(各)
公使館屬
好時節
膠漆
口實
曠日（こうじつ）
工事日
校舍
巧者
公爵
攻守
工手
巧手
攻取シ・ス
廣衆
攻襲シ・ス
講中
講習所
　～
　～中
講習生
講述
口述
口書
高所
甲所
工女
高尚

　～
　～シ・ス
公稱
　～
　～シ・ス
公商
工商
講誦シ・ス
交情
攻城
口上
酵情
皇城內
豪商
　～
　～(一)
号鐘
强情
工商者
强情者
交情友誼
紅色
公事旅行中
後進
行人
工人
後人
好人物
行進方位
洪水
好事家
好事者
後世
公正
行星
更正シ・ス
好政事

公正無私
好政略
鑛石
～
～等
功績
講席
孔席
降雪
紅舌
巷說問答
孝節錄
交戰
光線
公選
～
～シ.ス
黃泉
口錢
鑛泉
公然
公選會
鑛泉場
公撰法
控訴
～
～シ.ス
貢租
强訴シ.ス
宏壯
高僧
高燥
抗爭シ.ス
構造
豪壯
校則
梗塞シ.ス

强賊
控訴狀
控訴上告手續
鄉村(各)
交代シ.ス
抗對シ.ス
宏大
皇太后宮
廣大無量
光澤
耕宅地
公達
口達(御)
講談
講談會
講談直論シ.ス
耕地
甲地
好地
高地
紅茶
航着相成リ.ル
紅茶製法
蝗虫
桁杜工
降雫シ.ス
光緒〔年号〕
校長
宏張
交通
好通
更痛
航通シ.ス
高低
皇帝
抗抵シ.ス
拘泥シ.ス

後定期試驗
孝悌忠臣
公敵
更迭
甲鉄
甲鐵艦隊
好天氣
好典法
昊天罔極[1]
紅燈
貢糖
口頭
高等
後頭
皇統
公道
講堂
～
～等
孝道
强盜
合同シ.ス
弘道館
浩蕩深大
强盜放火僞造賣
　貨人命犯
港內
構內
項內
後難
後任
後年
高年
効能
貢納
豪農
効能書キ

～
～中
豪農富商
洪波
攻破シ.ス
工場
向背
公賣
～
～シ.ス
向背好惡
公賣代價
紅白
侯伯
公伯
厚薄
廣漠
紅白旗
厚薄淺深
紅白縮緬
耕耙細碎シ.ス
興發シ.ス
毫髮
業腹紛レ
公判
後半年
公判欄內
口碑
耗費シ.ス
紅眉
後備
後備軍
公費生
交付
～
～シ.ス
礦夫

公布相成リ.ル
公布シ.ス
降附シ.ス
工部
荒蕪
豪富
工部卿
幸福
康福
洪福
降服
～
～シ.ス
幸福安寧
幸福者
工部權大技長
工部省
講札
工部大學校
工部大輔
荒蕪地
礦物
孝婦傳
好父母
被ブリ.ル
口吻
後文
行文
～
～中
公聞中
頭
工兵
～
～(各)
公兵
公平

1)「昊天罔極涓埃ノ能ク」(e)

～	曠野	黄龍丸〔船〕	～シ.ス	極（ごく）《副》
～(不)	合譯	行旅	五戒	穀雨
工兵營所	膏腴	考慮シ.ス	御會始（ごかい）メ	虚空
工兵大隊長	剛勇	香料	碁客	黒雲
好癖	功用	好屓（こかげ）	木蔭	國運
神戸交易社	効用	合力（ごうりょく）	木蔭續キ	國益
神戸裁判所	紅葉	効力	焦シ.ス	國益民利
～	孝養	光臨	小堅シ	國王
～等	公用	恒例	涸渇シ.ス	國華
後篇	高陽社員[2]〔職名〕	宏麗	五カ年賦	國會
行歩	糠糎[3]	木嵐	木嵐	國界
黄蘗	公用文	行禮シ.ス	呼喚（こかん）(御)	獄外
公法	後來	皇靈神殿等	枯乾シ.ス	國會議院
好法	向來	航路	沍寒	國家經濟
公報シ.ス	香蘭社	紅絽	古記	國家重事
号砲	小賣リ	香爐	古稀	極寒
貢米	黄鸝	功勞	孤危	國旗
合米	公理	公論	狐疑シ.ス	酷虐
豪邁	公利	高論	語氣	國境
毫末	行李	後論	漕去（だ）リ.ル	刻苦
傲慢	高利（か）	高論卓說	漕出シ.ス	～
傲慢自負	小賣價	講和	漕付ケ.ク	～シ.ス
香味	小賣商店	講和條約	漕列ネ.ヌ	刻苦馳驅シ.ス
功名	公立	護衛シ.ス	古器物	國計
巧妙	公立學校	護衛シ奉リ.ル	胡弓	國權
豪民	～	古往今來	呼吸シ.ス	國憲
公務	～(各)	五大橋	故居	刻限（ころ）頃
～	公立小學校(各)	小踊リシ.ス	漕寄セ.ス	國庫
～上	合率比例（コオヒイ）	珈琲	古金銀	國光
高名	小賣直段（ねだん）	珈琲苗	古金銀銅貨	國債
公名	拘留	珈琲碗	刻	告罪シ.ス
公明[1]〔法令〕	～	氷屋	～	國債局
公明法	～中	胡笳	～シ.ス	國産
後面	興隆	古歌	穀	國資
蝙蝠傘	～	戸外	酷	國事
高門	～シ.ス	誤解	哭シ.ス	告示
閘門	合流シ.ス	～	獄	～

1)「陰制公明兩法ノ進歩ナシ」(e)　2)「演説者は高陽社員ユて擔當（たんとう）せらるゝよし」(c)
3)「糠糎ヲ簸テ」(e)

～シ・ス
獄司
國事犯
國事犯律
國手
～
～(某)
國儘
國書
酷暑
黒處
國情
極上品
極上物
黒色
國書文章
國人
～
～中
石數
國是
國勢
國政
國稅
告訴
～
～シ・ス
國體
石代
石代相場
小口
獄中
黒點射證
國帑
國土
穀問屋
哭慟シ・ス

國內
國難
黒板
國費
～
～(御)
小首
極微
黒白
國品
極貧
國風
國分寺
國法
國民會
國民軍
告諭致シ・ス
告諭致シ置キ・ク
極樂世界
小倉分營
國亂
獄吏
獄裏
國立銀行
國立銀行條例
國力
國蓮院
獄牢
五君
五郡
後家
～
～サマ
固形体
虎穴
孤月
御家人

五縣下
沽券地稅額
午後過ギ
糊口
戸口
湖口
御光
後号
此處何處
五穀
護國
護國資治
心地
～
～シ・ス
心地好シ
小言
九重丸〔船〕
心當リ
心得(御)
心得吳レ・ル
心得書キ
心得方
心得違イ
心懸ケ・ク
～
～罷リ在リ・リ
志シ・ス
心立テ
心付キ・ク
心ナラズ《副》
心根
試
試ミ・ム
試ミに《副》
心持ヨシ
心安氣

心許シ・ス
快シ
古今
五言八韻
庵
巨細
後妻
小作
互錯シ・ス
小作人
小作未納金
御座候イ・ウ
古刹
御座ナシ
御座船
御座リ・ル
故山
腰
輿
故師
虎子
越シ・ス
故事
吾子
午時
～
～頃
五色
乞食狩
五色縮緬
五色羽二重
互市場
癇疾
後日
五十カ年賦
牽强
古事付ケル

五十錢銀
古史傳〔書名〕
小島
沽者
戸主
～
～(前)
固守シ・ス
五洲
五十日祭
五十花嫁
扈從
故障
湖上
後生
小蒸氣
小蒸氣船
五小區
小姓組
小姓奉公シ・ス
誤植
午食
製エ・ウ
湖心
古人
故人
小新聞
湖水
戸數割リ
梢
午頭天王
後世
五星
戸籍
古昔
五夕
戸籍帳

戸籍面
庫船
古銭
御前
古戦跡
去年
小僧
護送
〜
〜シ.ス
コソ〳〵泥棒
擧ッて《副》
擧りて《副》
午餐
〜
〜シ.ス
古代
答エ能イ.ウ
答エ難シ
炬燵
誤脫シ.ス
子店
此度
木精
兒玉宮內權大書記官
故智
此地ノ人
固着シ.ス
孤注
五中隊
蝴蝶
伍長
伍長心得
戸長職務
骨
兀

忽焉と
小遣
小遣部屋
骨節
忽然
ゴット[1]
骨堂
骨董物
小手
籠手田滋賀縣令
古傳
誤傳
琴
事等
古銅
古陶器
古銅器
五等賜金
五等出仕
五等年金
古銅佛
事欠キ.ク
事柄
五德
ゴト〳〵《副》
事狀
殊更《副》
殊更に
今年
事濟ミ
言問團子
五斗取リ
異リ.ル(相)
殊ノ外に《副》
言葉(御)
言葉戰イ
事比羅宮

事寄セ.ス
小鳥
諺
斷リ
斷リ.ル
〜
〜(相)
〜申シ.ス(オ)
粉茶
古二分判
誤認シ.ス
捏ネ直シ.ス
五年越シ
此間
近衛
近衛局
近衛隊
近衛鎭臺
近衛兵
近衛兵營
近衛砲兵
近衛砲兵隊
近衛步兵
此中
此世
誤伐シ.ス
拒ミ.ム
阻ミ止メ.ム
午飯シ.ス
媚ビ.ブ
木挽キ大工
小膝
古筆手鑑
五百羅漢念數
誤謬
枯苗
虎豹皮

辜負シ.ス
鼓舞シ.ス
古風
吳服渡世
拳
五分稅
古物
小舟
小降リ
古墳
子分
誤聞
五分署
御幣擔ギ
古法
後報
午房〔植物〕
古法家
古木
覆シ.ス
毀チ.ッ
覆レ.ル
胡麻油
狛犬
小前
細カに
胡麻カシ.ス
細〳〵と
小間物
濃ヤカ
困リ.ル
垢
小耳
御冥加上稅
護謨
小麥
小結〔相撲〕

小娘
籠メ.ム
古名將
米市場
米广
米相庭
米櫃
米屋
五免〔御免〕
薦
交モ
小餅
小戻リ
兒守女
子守奉公
小屋
肥シ.ス
小山
ゴヤン号〔船〕
固有
己有
小緩ミ.ム
今宵
誇揚シ.ス
御用
〜
〜(何)
御用掛リ
御用行李
御用筋
御用取扱
古來
堪エ.ウ
堪エ兼ネ.ヌ
娛樂
慫シ.ス
凝シ.ス

1) 神

御寛
～
～ジ.ズ
～ナサリ.ル
狐狸
懲リ.ル
孤立
古陵
御料
誤了シ.ス
コルフェット[1]
コレ　《感》
古例
古櫪毛鑑[2]
虎列剌
虎列剌患者
頃合
虎狼
故老
五六長官
轉ゲル
轉ゲ落チ.ッ
轉ビ寢
衣
古話
悔シ
小脇
困
婚
紺
溷[3]
根シ.ス
混ジ.ズ
今　《連》
懇意
婚姻
恨怨

婚嫁
困臥シ.ス
今回
困臥輾轉罷リ在リ.ル
根幹
根基
婚儀シ.ス
困却
～
～シ.ス
困窮
根據
今曉
困苦
困苦酸辛
今月
根源
根元心底
今後
混淆シ.ス
混交シ.ス
金剛鑑〔船〕
混合地金
金剛石
混淆駁雜
懇々
コンサアバチイブ黨派[4]
今歲
混雜
今時
今次
悃謝シ.ス
今昔
今春
言上

權少教正
權少警視
權少書記官
渾身
懇親
痕跡
懇切
混接シ.ス
權大警部
權大講義
權大書記官
魂膽
權中教正
權中警視
今朝
根抵
混同シ.ス
コンナ　《連体》
困難
困敗顚覆
昆布
婚幣
困乏
コンマンドオル[5]
今明日中
懇命
今夜
困阨
紺羅紗
根理
建立
～
～シ.ス
～ナシ.ス
權令
權令代理

混和シ.ス
昏惑シ.ス
差然[6]
査シ.ス
左も
座
坐
～
～シ.ス
サア　《感》
差違
妻
歲
最
才
宰シ.ス
詐爲シ.ス
材
在[7]
再應
榮花[8]
財貨
罪科
再會
～
～シ.ス
際會シ.ス
災害
～
～中
西海新聞
才學
祭官
最寒

最寬
佐尉官
～
～等
在檻中
最寬法
災飢
再起シ.ス
猜忌シ.ス
再擧
在京
財況
西京丸〔船〕
在局
在勤
最近報
細工
災區
最愚
採堀
細工物
妻君
歲計
材藝
再擊シ.ス
裁決
歲月
再見
際限
財源
最後
再行[9]
再興
最高
在校中
在鄉
西鄉札[10]

1）軍艦の型の一種　2）毛は手の誤植か　3）廁　4）保守党派　5）仏国の勲章名　6）「さはさせじ」(c)　7）「草加在」(c)　8）「菜花ノ黄雲ヲ漲ラス者」(e)　9）再発行　10）「西鄉札が通用するのせさるのと云ひ爭ふ」(c)

西郷大將
西郷文部卿
西國
再告シ・ス
最酷律
細砂
細瑣
歲々
細碎シ・ス
幸先*
再三
財產讓與法
妻子
才子
祭祀
〃
〃致シ來リ・ル
祭事
才識
祭式(御)
祭日
債主
〃
〃(各)
齋主
祭主
裁種シ・ス
財主
再製シ・ス
罪囚
在住
再出シ・ス
才女
在署中
細少
採樵[1]
再衝[2]

最上
西上シ・ス
最小事件
最上飛切リ
再伸
再審
再振シ・ス
再審裁判
再製シ・ス
財政
在世
濟世利民
罪跡
摧折凋枯
賽錢
最先[3]
最前
財錢
再撰擧
催促
〃
〃シ・ス
細大
最大
最第一[4]
最大禍害
最大節目
最大難事
採擇
〃
〃シ・ス
埼玉縣立學校
埼玉縣令
再調
在廳
再調查
在廷

祭典
在天
再度
菜糖
才取リ
〃
〃連
災難
歲入
再任
罪人
罪人拒捕律
最熱[5]
裁培
再犯
裁判(御)
裁判シ・ス
裁判(前)
罪犯
裁判掛リ
裁判官
西坂京報
裁判所(原)
濟貧恤窮等
財布
祭服
財物
再報
裁縫
再萌
裁縫物
財本
細民
濟民利人
細目
〃
〃(諸)

材木
材木問屋
祭文等
在野
最優物
採用致シ・ス
採用シ・ス
在來
采覽異言〔書名〕
在留
在留公使
最艮
最艮品
才力
財力
材力
祭禮
罪戾
幸　《名》
幸　《副》
些影
遮ギリ・ル
囀リ・ル
坂
茶菓
性
境
榮エ・ユ
榊(眞)
差額
逆ゴト
搜シ・ス
坂下
探シ見ル
座頭
座頭役
座方

酒樽
逆手
肴
善惡ナシ
佐賀之役
溯リ・ル
坂路
酒家
盛リ
盛リ・ル
下ガリ・ル
查官
佐官
左官
左欵
左眼
先(御)
唉キ・ク
割キ・ク
詐僞
魁新聞〔新聞〕
先供[6]
唉殘リ・ル
先程《副》
先物
作業
作業場
詐僞律
策シ・ス
作
作爲シ・ス
柵外
昨曉
鑿堀
索見シ・ス
作工
鑿孔工手

---

1)「斧柯入らす採樵來らす」(c)　2)「洪波ノ再衝ニ先ンジテ」(b)　3)「市塲ニ流通セシムルヲ最先ノ行歩ナリトス」(e)　4)「恥べきの最第一よ有レ之候」(c)　5)「氣候ハ〜最熱を九十二度とす」(c)　6)「先供ノ間違ヨリ敢ナクモ朝敵ノ汚名ヲ蒙リ」(e)

鑿採シ.ス　～(オ)　差置キ.ク　差向イ.ウ　左袒シ.ス
作事シ.ス　～相成リ.ル　差掛リ.ル　差向キ《副》　札
錯峙シ.ス　～相成リ.ル　座敷(オ)　差向ケ.ク　察シ玉イ.ウ
作事掛リ　(オ)　指シ藥　差物(さしもの)工　察シ遣リ.ル
搾取人　～置キ.ク　差込ミ.ム　詐取　颯(さつ)と
削除シ.ス　鎖鎚シ.ス　差障リ.ル　差許シ相成リ.ル　殺意
删除說　査公　指圖　座處　殺一家三人條
索然　左顧右眄シ.ス　指揮(サシヅ)シ.ス　些少　撮影シ.ス
昨朝　瑣々　指揮(サシヅ)ナシ.ス　詐稱シ.ス　雜貨
昨冬　支エ.ウ　差迫(セマ)リ.ル　鎖擴家[3]　座付
昨年中　～　差添エ　坐食　座付茶屋
昨年來　～アリ.リ　差シタ《副》　砂洲(さす)　雜給
作文　佐々木少佐　差出シ.ス　流石《副》　雜居
～　捧ゲ.グ　差出シ人　流石に《副》　～
～等　坐作進退　～　流石は《副》　～シ.ス
作文解環〔書名〕　笹啼キ　～共(とも)　授ケ.ク　雜魚
作物(もつ)　囁キ居リ申シ.ス　差シタル《連》　～　雜業稅
昨夜　障碍(ササワリ)　差支エ　～給イ.ウ　薩軍
櫻　注(さ)*シ.ス　差支エル《口語》　サスレば《接》　雜誌
櫻川學校　指シ.ス　差支エ.ウ　砂石　～
佐倉鎭臺　刺シ.ス　～　左折シ.ス　～中
探リ得.ウ　插シ.ス　～居リ.リ　嘸(さぞ)　雜種稅
探リ聞キ.ク　サシて[1]《副》　差遣ワシ.ス　誘イ.ウ　雜出シ.ス
座繰リ製糸場　サシも《副》　差止メ　坐睹(ざぐ)　薩人
探リ索メ.ム　匕(さじ)　差止メ.ム　左側　殺人
策畧　坐視シ.ス　～　沙汰　雜石
策論　差上ゲ.グ　～置キ.ク　～　雜草
鮭　差當リ　差延(さしはさ)ベ.ブ　～シ.ス　薩賊
裂ケ.ク　差出ダシ　挾ミ.ム　佐田神社　雜題中
提ゲ.グ　差出ダシ得.ウ　插シ花　定リ居リ.ル　察知シ.ス
下ゲ.グ　差出ダシ置キ.ク　左司馬守(さしばのかみ)　定メ　雜沓
叫ビ.ブ　差出ダシ難シ　差引キ　～　～
下戻シ(御)　差出ダス等　差引キ.ク　～(御)　～シ.ス
下渡シ(御)　差入レ.ル　差引精算シ(候)等[2]　定メ.ム(相)　雜費(諸)
下渡シ中　～　差シ水　定メ置キ.ク　雜品
下渡シ.ス　～置キ.ク　差向イ　定メ難シ　撒布シ.ス
～　左思右考　定メて《副》　殺風景

1) そんなに　2) 候は助動詞　3)「時の大学頭ハ無類一本木の頴撰(えりよう)家にてありしかハ」(e)　4)「八年十月～再ヒ破潰シテ殺氣トナリ」(b)

殺氛(ぶん)[4]
薩兵
雜報中
雜報等
雜報記者
雜報欄內
雜木(ざつぼく)
薩摩芋
薩摩魂
雜問
撮譯[1]
殺戮
～
～シ・ス
察了シ・ス
雜料
偖も
扨テ置キ・ク
偖々(さてさて)
蹉跌
～
～シ・ス
里
～
～方
敏シ
砂糖
砂糖製場
里歸リ
諭シ・ス
～
～置キ・ク
悟リ・ル
～
～易シ
佐土原區長所

左ナガラ《副》
左ナキだに
左ナケレば
左ノミ　《副》
差配シ・ス
差配人
～
～等
裁キ
捌キ方
沙漠
捌ケ・ク
捌ケ方
サハ左リナガラ
《接》
砂張(さはり)佛器
寂シ
鎖閉
差別
左邊
左方
左傍
サボナイト中
樣
樣々
覺シ・ス
妨ゲ
～
～ナシ・ス
妨ゲ・グ
左迄
彷徨(さまよい)居ル
寒シ
寒サ
侍(さむらい)
醒メ・ム

査明
鮫島公使
鮫島特命全權公
使
座元
室(さや)[2]
左右
～
～シ・ス
坐右
作用
左樣
皿
更
左ラば　《接》
溫習(サライ)[3]
擢(さら)イ・ウ[4]
更〳〵　《副》
暴シ・ス
晒シ綿
距リ・ル(相)
去リとて《接》
去リ得・ウ
サリスブリイ侯
〔職名〕
去リナガラ《接》
獼猿(さる)
去ル　《連》
然ルは　《接》
左ルを
撒兒比亞(サルビア)國境
撒兒比亞兵
猿渡國手
沙礫
去レども《接》
左レば　《接》

左廊
茶話等
澤井二等警視屬
騷ギ
騷ギナサリ・ル
騷ギ散ラシ・ス
爽ヤカ
左腕
產
～
～シ・ス
粲[5]
粲[6]
參シ・ス
算シ・ス
贊シ・ス[7]
散ジ・ズ
參ジ・ズ
斬
三因
餐宴
殘炎
贊化
酸化
產科
山罅(さんか)
山下
參會
斬害シ・ス
殘害シ・ス
山岳
酸化窒素
三月限(ざり)[8]
酸化鐵
山間
參觀

參看
算勘上
慙汗
巉岩奇石
散葉シ・ス
參議方
參議(兩)
讒毀
殘虐シ・ス(相)
三業[9]
產業
蠶業
三局[10]
散髮(ザンギリ)
殘金
參詣
～
～シ・ス
斬刑臺
參詣人
慘劇
三縣
散見シ・ス
三絃
～
～等
三鈷
珊瑚
參考
～
～シ・ス
參校
～[11]
～シ・ス
三光寺派
三貢生[12]

1)「電報の撮譯(つまみほんやく)を紙上へ掲(かゝ)けたるが」(c)　2)「刀劍の室(さや)」(c)　3)「娘が宅の溫習(さらい)には」〔舞ニツイテ〕(c)　4) 人をさらう　5)〔贊の意〕「粲を博うせんとて」(e)　6)〔燦の意〕「粲として」(e)　7) ほめる　8)「三月限平均前号より兜町二銭～」(c)　9) 農工商業　10)「元警視三局の跡」(c)　11) 学校に来ること　12) 三人の貢生

三鑛物
三國通覽等〔書名〕
慘刻無道
慘酷猛烈
斬罪
散雜原《副》
山蠶
散々
三參議
蠶紙
產資[1]
三士
三氏
參事
三四校
三四等屬
三舍[2]
蠶種
殘酒
三州
產收シ.ス
三十一番舘
三十九小區
三十五カ年賦
三十後家
三十五縣
三周祭
三十小區
三拾八貫文替エ
蠶種原紙
算出
～
～シ.ス
產出
～
～シ.ス
算術
～
～中
產出者
產出高
刪除シ.ス
贊助シ.ス
芟除シ.ス
蠶商
贊稱シ.ス
山上
慘狀
參塲[3]
三升入リ
三小區
三條太政大臣
產殖
蠶食
蠶織
散賑シ.ス
三新聞
山水
算數
參政
贊成シ.ス
產石(新)
慘然
三先生
慘楚
殘賊
散退
參內
～
～シ.ス
三大區
三大字[4]
三大隊
簒奪シ.ス
產地
參着
山中
山頂
參朝等
三鎭臺司令長官
サンデエ・スクウル・タイムス〔新聞〕
山巓
三都
山道
殘黨
三等巡查
三等屬
三等伶人
慘毒
山內
算入シ.ス
散入シ.ス
攙入シ.ス
殘忍
殘忍酷薄
殘念
產婆
參拜
～
～(御)
～シ.ス
酸鼻
三費中
殘品
三府[5]
散布シ.ス
三奉行
山腹
產物
～
～等
三分シ.ス
散兵
殘兵
散步シ.ス
算法
讒謗
～
～シ.ス
參謀局
山砲隊
參謀部中
讒謗律
山砲榴彈
三品
三品親王
散漫シ.ス
山脉
殘務
殘夢
三文字[6]
山野
參與シ.ス
殘餘
參與職
蠶卵
散亂シ.ス
蠶卵紙
三利[7]
山陵
山林
山嶺
慘烈
三聯隊
山麓

士

史
詩
資
師
嗣
詞
試
市
仕負セ.ス
爲給*イ.ゥ
字
辭
～
～シ.ス
持シ.ス
地合イ
仕上リ.ル
仕合セ
～
～(不)
思案
～
～ナシ.ス
「シアンドマルス」本舘[8]
思案投ゲ首
私意
旨意[9]
至易
恣意
弑シ.ス

1)「貯蓄シテ出院後ノ產資ニ充テシム」(e)　2)「三舍を避く」(c)　3) 来場の意　4)「東京府の三大字を」(c)　5)「三府を遊歷して」(c)　6)「額に温泉寺の三文字を書す」(c)　7) 三つの利点　8)「「シヤンドマルス」會塲」に同じ　9)「本訴の旨意ハ」(c)

思惟シ・ス
誣イ・ウ
強イ・ウ
～
～兼ネ・ヌ
強イて《副》
強イ・ユ
侍醫
シイアイランド[1]
詩歌
飼育方〔職名〕
椎茸
椎茸筥
粗
仕入レ・ル
支院
寺院
祠宇
賜雨[2]
地歌局[3]
仕打チ
仕打場
時運
自營
侍衛士官
使役
～
～シ・ス
使役夫
シ・エム・エス・エン社
私怨
鹽
汐
肆横[4]
汐風

仕送リ・ル
潮煙リ
潮路
シオシオ《副》
鹽相場
鹽濱
賜暇
確と《副》
然も《接》
自家
耳窩
時下
四海
刺開シ・ス
市街
～
～中
死骸
次會
自害シ・ス
仕替エル《口語》
刺客
然ク《副》
史學
私學
私學校黨
仕掛ケル《口語》
仕掛ケ・ク
仕掛ケ花火
仕掛物
云々
併シナガラ《接》
仕方
仕方落チ
仕方ナシ
自活シ・ス

地金
加之《接》
シガミ附キ・ク
叱リ・ル
叱リ附ケ・ク
叱リ罵リ・ル
然ルも《接》
然ルを《接》
而ル後《接》
然レば《接》
士官
祠官
～[5]
～等
時間
次官
～
～等
耳管
士官學校
士官學校長
士官生徒室
志氣
四季
詞氣
式(御)
式(假)
指揮シ・ス
指揮(御)
布キ・ク
～
～玉イ・ウ
播キ・ク
仕儀
時機
事機

時期
～
磁器
時氣[6]
自記シ・ス
直キに
時宜
事宜
兒戲
シキイトカツウン[7]
指揮官(惣)
識見
敷島物語[8]
識者
式場
仕着(御)
直訴シ・ス
仕來リ《名》
敷地
敷キ詰メ・ム
敷キ列ネ・ヌ
敷キ並ベ・ブ[9]
式部頭
式部寮
識別感覺シ易シ
樒〔植物〕
敷物
支給
～
～致シ・ス
～方
～シ・ス
持久
支給金額
支給品
死去

～
～シ・ス
思擧[10]
指教
私業
試業
示教
事業(一)
事業(新)
事業內
試業科
持兇器强盜
持兇器盜
始業式
四限[11]
直話
賜金
資金
自禁シ・ス
至近至微
至愚
軸
地口行燈
四苦八苦
仕組ミ
士君子
繁シ
死刑
字形
慈惠金
慈惠資
慈惠主
死刑部中
慈惠方法
繁々《副》
茂リ・ル

1) 米国種草綿　2)「賜雨不時ニシテ飢饉荐リニ臻ル～」(e)　3)「浄瑠璃局一所明清局長歌局各二所地歌局三所」(c)〔芝居〕　4)「彼ノ肆横ヲ折キ彼ノ侮慢ヲ挫キ」(e)　5) 神主　6)「時氣ニ關セス晴雨ニ係ハラス」(b)　7) 水雷火裝置の名称。「一個のシキートカツーンのみハ薄きギユツタペルチヤを以て包み」(c)　8) 芝居題名　9) 長歌の一部。「ふきふへし眞砂より多く」(e)　10)「斯思擧ヲ行ハレシ段」(e)　11) 四月限の略

至堅
私見
試驗シ.ス
四縣宛
治驗
時限
試驗科目
試驗室
試驗濟ミ
試驗手續等
試驗場
〜
〜等
死後
支牾
〜[1]
〜シ.ス
嗣後
自己
爾後
死後遺物讓與法
施行
〜
〜相成リ.ル
（御）
〜致シ.ス
〜致シ難シ
祇候
梓行
思考シ.ス
駛行シ.ス
伺候シ.ス
時候
事項
〜
〜(一)
侍講

證号會[2]
時候後レ
證号供養會
四國[3]
自國
時刻
地獄
仕事
仕事場
シコナシ
仕込ミ.ム
錣
瑕痕[4]
而今而後
仔細に　《副》
自在に　《副》
地先
刺殺
視察シ.ス
自殺シ.ス
資産
四山
持參
〜
〜シ.ス
持參金
死屍
四肢
氾々[5]
志士
孜々　《副》
私事
使事
死兒
指示
〜
〜シ.ス

師事シ.ス
字子[6]
兒子
爺々
琴々
時々　《副》
辭シ去リ.ル
子々孫々
死失シ.ス
自失シ.ス
時日
獅子舞
死者
支社
使者(御)
寺社奉行
旨趣[7]
事主
自主
自首シ.ス
四周
四集シ.ス
始終　《名》
始終　《副》
侍從
〜
〜(両)
四十三カ村
至重至大
侍從試補
自修社
四十二番舘
止宿
〜
〜シ.ス
〜シ居リ.ル
〜中

止宿人
自主自由
嗣出
支出
〜
〜致シ.ス
〜シ.ス
耳順
四書〔書名〕
支署
子女
兒女
次序
詞訟[8]
死傷
〜
〜シ.ス
刺衝
〜
〜シ.ス
詞章
祠掌
〜
〜等
疵傷
刺傷
翅抄
四省
支消シ.ス
嗤笑シ.ス
市場
至情
史乘
市上
治定相成リ.ル
（御）
四小區

詞訟代言
試植シ.ス
辭職
士女子
地所割リ
指針
使臣
私信
〜
〜中
士人
私人
自身
地震
〜
〜シ.ス
慈親
自信シ.ス
自刃
時辰儀
私信電報
賤男
靜カ
賤ガ家
雫
靜・鎭マリ.ル
〜
〜給イ.ウ
沈ミ.ム
沈メ.ム
靜メ.ム
施政
〜
〜上
市政
至誠
資性

1) くいちがう　2) 仏会の一　3) 四つの国　4)「國權ニ多少ノ瑕痕ヲ與ル者ナリ」(b)
5)「氾々トノ洋中ノ舟ノ如ク」(e)　6)「活版の字子明朝様なれバ」(c)　7)「本訴の旨趣」(e)cf. 旨意　8)「敢テ論鋒ヲシテ詞訟ノ局面ニ觸レシメザルナリ」(b)

時勢　時代　質入レ　實印　漆黒
時政　地大工　七奇　實益　實際上
施政家　四大區中　七騎落チ[2]　室家[7]　失錯
死生存亡　至大至重　七郡　膝下　執事
咫尺　次第順叙　七公子　失火　實子
事蹟　士大夫（したいふ）　七州中（ちゅう）　～　實施シ.ス
使節　慕イ行キ.ク　七條米會所　～シ.ス　實事
施設　從イ與リ.ル　七小隊　實家　十思學校〔學校名〕
次節　從エ.ウ　七條停車場（ば）　實價
時節　支度　七大區　悉皆《副》　實施擧行シ.ス
自然《副》　自宅　七大字[3]　實額　實質
慈善　支度金　七廳　十カ國　實証
自然力　下心（したごころ）　七島表（おもて）[4]　十カ年賦　實情
自訴シ.ス　下拵エ（したごしらえ）　七等出仕　確（しっ）カリ《副》　濕薪[9]
四相[1]　下鞘（したざや）　七等屬　漆器　執政
思想シ.ス　仕出シ　質渡世　濕氣　失政
地藏尊　親シク《副》　質鉢[5]　實究　實勢
止息シ.ス　親シミ.ム　七百六十六噸積　實距[8]　實迹
士族輩　～　質屋　實業　實說
士族等　～(相)　支柱（じちゅう）　實況　濕沾シ.ス
士族書生　認メ.ム　地中（じちゅう）　十斤入リ　實踐シ.ス
士族總代　～　寺中（じちゅう）　疾苦　十錢銀
仕損ネ.ヌ　～(相)　支廳　シックリ《副》　失措
士卒　～アリ.リ　輜重　實形　疾速
子孫　認方（したためかた）　支廳經費　實景　實体
仕損ジ.ズ　四達　輜重部　實驗　實態
親シ　仕立テ.ッ　輜重兵　～　實高（じつだか）
自他　下紐　七里詰（づめ）[6]　～シ.ス　實地檢查
爾他　下向キ　質（しち）　～上　實地試驗
死体　慕ワシ　失　實見シ.ス　失墜シ.ス
支体　紫檀　室　執權者　實體（じってい）
死胎　示談　疾　實効　嫉妬
慕イ.ウ　質（しち）　實は　實功　十等屬
至大　自治　實意　實行　室內
時態　シチイオフペキ　～　～　實男子
事体　ン号　～(不)　～シ.ス　失念仕リ.ル

1)「同人ハ四相（シソウ）ヲ悟ル智識ニテ」(e)　2) 能の曲名　3)「正三位楠正成墓の七大字」(c)　4) 畳表の名　5)「質鉢置きて漸くよ其日を送る痩世帯（やせひばち）」(c)　6「幷七里詰之者七里外ノ端數ハ～」(c)　7)「吾人ノ身体吾人ノ室家ノ如キ至近至微ノ事ニ至テハ」(b)　8)「實距十里未滿ニシテ」(e)　9)「採拾摘伏濕薪ヲ束ヌルカ如ク」(e)

失敗
實費
實父
疾風
疾風迅雷
實物
實父母
疾病
疾病人
地坪
實母
失望シ.ス
七寶
七寶會社
七寶燒
～
～等
質朴
實務
地紬（つむぎ）
實名
質問（やつら）
字面
實力
實力理財
失禮
實例
子弟
耳底
自邸
子弟私擅用財條
シテエオフ東京
號
支店
市店[1]
史傳
～

～中
四天王寺
至當
祠堂
兒童
自動
四等巡査
指頭書畵篆刻家
四等屬
侍讀
仕遂ゲ.グ
仕留メ.ム
地取リ[2]
市內
地內
品カスリ[3]
品川丸
品切レ
品々
支那人
支那人民
支那製
支那政府
支那大地
支那地方
支那糖
支那內地
皺切（なび）リ.ル
支那貿易
支那文字
品物
至難
次男
死ニ.ヌ《ナ変》
死ニ.ヌ《四段》
死ニ失セ.ス
死ニ際

死鯨
死ニ樣（ざま）
死人
自認シ.ス
地主
思念
志念
次年
篠
凌ギ.グ
偲ビ.ブ
忍ビ居ル
忍ビ逢イ.ウ
忍ビ出デ.ズ
忍ビ越エ.ユ
忍ビ妻
忍ビ寄リ.ル
支配下
支配シ.ス
芝居
芝居小屋
支配人
柴折戶
芝公園內
芝新門
瞬（しばたゝ）キ.ク
新發田分營
柴山象嵌工
支拂イ
仕拂イ[4]
支拂イ.ウ
仕拂イ.ウ
縛リ.ル
縛リ上ゲ.グ
芝離宮
師範學校
師範生徒

師範分校
私費
自費
慈悲
自費生
師表
辭表
持病
痺レ
自負
時風
地袋
死物
ジフテリア病
澁谷大神宮本社
私忿
時分
自分方
自分勝手
時分柄
紙幣（新）
時幣
辭柄
紙幣局長
四邊
支辨
～
～シ.ス
自辨シ.ス
侍補
慈母
至寶
私報
施法
脂肪
死亡シ.ス
死亡トモ[6]

司法卿
自暴自棄
死亡者
司法省中
死亡比例
紙墨
死沒
絞・搾リ.ル
資本家
資本金
島（しま）
揣摩
仕舞イ.ウ
縞柄
次幕
島々
島田[6]
始末（不）
紙末
始末書
自儘（つまさき）に
島物語
締（くゝ）リ
〆（しま）リ.ル[7]
地廻リ
市民
士民
四民
事務內
事務家
事務掛リ
事務官
事務局
事務局員
事務室
事務所
事務章程

1)「市店頗ル高潔ナリ」(e)　2)「都府の地取りハ海邊より追々と爪先（つまさき）登りなるゆゑ故よ」(c)　3)「干鰯ハ品カスリの所買人あり大よ騰貴」(c)　4) 国庫または金庫からする支払い　5) 發病（死亡トモ）ノ惣員(a)　6) 島田まげ　7)「瓜操る珠數の括（くゝ）り緒（お）も切れて〆らぬ放蕩無頼よ」(c)

事務長
占ムル等
注連（シメ）
占メ得.ゥ
締メ.ム
～
～置キ.ク
〆て　《副》
指命
使命
紙名
七五三飾リ（シメ）
締革
締切リ
締切時限
〆殺シ.ス（しめ）
示シ
締メ大皷
紙面
地面
下（しも）
耳目
耳目鼻口
下手（したて）
地元
下ノ關事件
諮問シ.ス
自問自答シ.ス
社（御）（おん）
社（何某）
謝シ.ス
蛇
謝意
社員
斜映
寫影シ.ス
瀉下シ.ス

車駕
這回
社會士人
社會黨
～
～(非)
射求シ.ス
邪曲
謝金
癪
酌
七五三飾リ（シメ）
～
～(オ)
爵位
若干員
若干圓
若干額
若干金
若干區
若干分
若干名
借金
～
～シ.ス
借區券
弱國
借財
弱酸性
杓子
弱小
雀舌[1]〔茶名〕
借錢
赤柄檀
借地シ.ス
借地料
赤銅
赤銅色

尺度計
酌人
若年
司藥場[2]（ば）
釋放シ.ス
借家（や）
借用
借用証
借用主
酌量シ.ス
射撃
～
～シ.ス
射撃演習致シ.ス
邪見
社號
社告
社寺
～
～等（とう）
謝辭
社主
奢侈遊惰
射證[3]
謝狀
寫眞
～
～シ.ス
寫眞師
寫眞板礎
寫眞屋
寫眞藥
邪推
砂石中
社則
遮斷シ.ス
遮斷遏絕シ.ス

社地
社中
社長
舍弟
射的
射的會
射的手
射的場（ば）
社殿
社內
蛇ノ目
娑婆
車馬
這般
社費
車夫
～
～等
射放
寫本
邪魔
～
～致シ.ス
邪魔物
三味線
三味線彈キ
遍羅紀行
シャム人種
社名
赦免
～
～シ.ス
シャモンド〔船〕
社用
舍用
砂利
舍利別[4]

社寮丸
車輪
「シヤンドマルス」會場[5]
シヤンノン〔船〕
上海綠茶
豕油[6]（し ゆ）
主として　《副》
朱
種
壽
主意
殊異
趣意等
殊域
趣意書
手淫
朱印
～
～(御)（ご）
朱印鑑(御)（ご）
市邑
私有
雌雄
～
～トモ
豪
州
臭
周[7]
宗
修シ.ス
自由(不)
事由
住
～
～シ.ス
銃

1)「一掬の雀舌，鳳牙（茶名）香氣鼻を衝て」(c)　2)「東京横濱の司藥場に於て尚ほ經驗（けいけん）を遂げたるに」(c)　3)「射的に有用ふる射證（さって）」(c)　4) シロップ　5) Champ-de-Mars, パリ博覧会の会場　6) ラード　7)「橢圓アリ周ト長徑トヲ以テ」(c)

～
～シ・ス
醜悪
周圍
衆意
獣醫科
獣醫生
獣醫生徒
秀逸
十一等出仕
十一小區
衆員
驟雨
修營シ・ス
自由營業
従役シ・ス
衆怨
縦横
宗恩寺
集會
～
～シ・ス
集會費用
舟客
收穫シ・ス
收穫等
就學
～
～(不)
～シ・ス
収額
修學
～
～シ・ス
重學[1]
衆學者
習學所

就學生徒
習慣
銃丸
臭氣
集議
衆議
銃器
什器
秋季皇靈祭
衆議討論
住居
～
～(御)
～シ・ス
宗教
～
～(無)
～上
習業
就業
衆教論署
住居人
愁苦
従軍
従軍記章
襲撃シ・ス
集權
州縣(諸)
柔劍
州縣吏人
終古
秋後
醜行
舟行
集合
～
～シ・ス

秋毫
銃工
集合試驗
聚合積累
集合配置シ・ス
集合力
十五銀行
囚獄
自由國
囚獄所
十五小區
十五等出仕
十五磅砲
集在シ・ス
集財銀行
集殺シ・ス
十三小區
宗旨
收支
終始　《副》
儳視シ・ス
習字
重資
住持
従事
～
～致シ來リ・ル
習字科
十字形
自由自在
十四小區
十七大區
習字帖
終日　《名・副》
従者
收取シ・ス
拾取シ・ス

收受
～
～シ・ス
舟揖
蒐集シ・ス
主従
聚住シ・ス
習熟シ・ス
袖手傍觀
～
～シ・ス
衆庶
住所
収証
愁傷
衆商
重傷
銃傷
周章狼狽
就職
收贖
修飾
～
～シ・ス
羞辱
住職
重職
終身
執心
脩身
終審
衆人
囚人
重臣
修身齊家
修身談
終身祿

秋水
修正
～
～シ・ス
収税
重税
修正委員
聚星館
自由政治
修正設
自由製造
収税高
就席
衆說
周旋
～
～シ・ス
修繕
～
～シ・ス
～中
～等
十全
修繕整頓シ・ス
修繕費
衆僧
従僧
習俗
充塞シ・ス
衆多
醜体
滞滯シ・ス
十大區
住宅
衆智
修築
～

1) 力学

～等　秋分　守衛　祝辭　取碎[4]
酋長　充分(不)　戍衛兵　宿所　主宰シ.ァ
衆聽　終文館(舊)　酒宴　粥廠(じゅく)　珠算
讎敵　修補　主翁　～　授產(じょ)
讎敵視シ.ス　衆望　主家　～(各)　授產所
姑(しゅうと)　重砲　～　縮小シ.ス　授產所入リ
囚徒　從僕　～(舊)　熟酔中　授產人
～　充滿シ.ス　首會　祝聲　授產場(ば)
～共(ども)　周密　首魁　肅然　從三位
～等　衆民　主客　肅然と《副》　種子
秋冬　住民　主幹　熟達シ.ス　主旨
州同[1]　自由民權　主眼　熟談仕リ.ル　趣旨
自由黨　醜名　守舊　熟知シ.ス　朱字
拾得シ.ス　什物(もつ)　需求シ.ス　塾長　主事
集屯シ.ス　十文字(もんじ)　守舊者　孺子
十二小區　十雄士[2]　守舊主義　宿泊シ.ス　從四位
十二一ト重　修養シ.ス　守舊黨　熟否　從七品
十二拇臼砲彈　鷲翼　修行　祝文　種實
收入　襲來　修業中　祝砲　取捨
～　縱覽　授業時間　夙夜(しゅく)　～
～(諸)　～　受業料　祝融[3]　～シ.ス
～方(かた)　～シ.ス　珠玉　熟覽シ.ス　儒者
～シ.ス　縱覽人　宿　熟練　種々《副》
收入稅(諸)　縱覽場(ば)　～　～　受授
住人　収利　～シ.ス　～シ.ス　～
重任　銃獵　祝シ.ス　熟話仕リ.ル　～致シ.ス
從任シ.ス　銃獵免狀　熟シ.ス　手藝　授受
拾人取リ　衆力　祝筵　從五位　～
收納金　蹂躙　宿價　趣向　～致シ.ス
宗派　～　祝賀　～　種々異樣
收買シ.ス　～シ.ス　宿客　～(御)　種々雜多
自由賣買　蹂躙撲滅シ.ス　祝旗　～(新)　種々樣々
就縛シ.ス　聚斂シ.ス　熟議　酒殺(こう)　授受方法
重箱　修路　熟語　～　手書
衆評　醜陋　熟考シ.ス　～等　朱書
衆賓　十六挺建(たて)　熟察シ.ス　手工等(しな)　～
習風　自由論者　祝詞　主行者　～シ.ス

1) 清朝の職名　2)「加入の俳優(やくしや)を取り交(ま)ぜて尼子十雄士(あまこじふゆうし)の古きを表(おもて)よ」(c)　3) 火事
4)「土國砲臺ノ取碎ニ付テノ爭論ハ」(d)

朱章
殊勝
主唱
首唱
〜
〜シ.ス
主上
主唱者
受章者
受賞者
酒色
酒食
主人夫婦
繻子
珠数
守成
手跡
主説
朱舌[1]
酒饌
主僧
酒造
酒造營業
酒造家
手足
首足
種族
〜
〜(一)
殊俗
守卒
手澤
手段
酒池肉林
手中
主張シ.ス
出[2]

出院
出火シ.ス
出棺(御)
出檻シ.ス
出願
〜
〜致シ来リ.ル
出御
〜
〜マシマシ.ス
出京
〜
〜相成リ.ル
〜致シ.ス
〜シ.ス
〜ナシ.ス
出金
〜
〜致シ.ス
〜シ.ス
出勤
〜
〜シ.ス
〜ナシ.ス
出軍
出家
出航
出港
〜
〜シ.ス
出向(御)
出殺
出獄シ.ス
述作シ.ス
出產シ.ス
出仕
〜

〜致シ.ス
出所
出生
出塲
〜
〜シ.ス
出陣
出水
術數
出世
出征
〜
〜シ.ス
〜中
出精シ.ス
出席致シ.ス
出席シ.ス
出席中
出世湯
出船
〜
〜シ.ス
出訴
〜
出踪
出來
〜
〜シ.ス
出立
〜
〜(ゴ)
〜ナシ.ス
術中
出廳シ.ス
出張ナシ.ス
出張ナリ.ル

出張警部
出張先キ
出張所
〜
〜(各)
出庭〔出廷〕
〜
〜シ.ス
〜
〜シ.ス
〜
〜シ.ス
〜シ難シ
〜ナシ.ス
出途法
出入
〜
〜シ.ス
出賣シ.ス
出賣鑑札
出發
〜
〜シ.ス
出版
〜
〜シ.ス
出帆
出品シ.ス
出品ナリ.ル
出品者
〜
〜中
出品主
出品高
出品人
出府シ.ス
出兵

出浚シ.ス
出門(御)
出門シ.ス(御)
出獵
〜
出葬(御)
樹頭
種痘濟ミ
從二位
主任
主任者
受罰者
首犯
守番致シ居リ.ル
首尾
朱引キ
〜
〜外
〜內
種苗
首府
腫部(一)
修復シ.ス
守兵
酒癖
種別
殊別(各)
殊方[3]
首謀
朱明[4]
主務
主務員
主務課
樹木
須臾
授與

1)「眼光星の如くユして朱舌を吐き」(c)　2)「彼得堡九日出」(c)　3) 他国　4) 中国明朝

～
～致シ.ス
～シ.ス
主用
主要
需要・需用
～
～シ.ス
受容
授與式
修羅場（しゅらば）
手裏
修理
～
～シ.ス
受理
～
～(不)
～シ.ス
修理太夫（しゅりのだいぶ）
首領
受領
種類
酒類
酒類稅則
～
～中
壽齡
手禮
酒樓
～
～(一)
手彎(両)[1]
竣シ.ス
順
準
鶉衣[2]

純益
純益金
順廷(御)
春夏
悛改
巡回
～
～(御)
～シ.ス
～中
春夏秋冬
巡官
順環
循環シ.ス
準官吏
春季皇靈祭
準據相成リ難シ
準據シ.ス
純金
蠢愚
閏刑
巡見シ.ス
竣功
巡行
巡幸遊バシ.ス
(御)
巡幸日誌(御)
巡査等
巡査交番所
巡査心得
巡査懲罰例
巡査屯所(舊)
瞬時
巡視
～
～シ.ス

順次
巡視船
純質
遵守
～
～シ.ス
春秋
順從
馴從シ.ス
春初
準少尉
純粹
竣成
純然
春草
峻速
潤澤
馴致シ.ス
蠢動シ.ス
順道(御)
巡島記
殉難
準備
～
～中
準備金
春風
順風
春分
遵奉シ.ス
春眠
蠢眠
俊餘[3]
春來
巡覽(御)
准陸軍少尉
准陸軍少尉試補

純良
順路(御)
署
緒
書シ.ス
自餘
諸員
～
～共（ども）
署員
私用
使用
～
～等
枝葉
試用シ.ス
商
証
～
～シ.ス
妾
稱
章
症
賞
～
～シ.ス
將
庄
相[4]
揣
省(御)
誦シ.ス
頌シ.ス
消シ.ス
生ジ.ズ(相)
生ジ來リ.ル

消〔記号〕
滋養
冗
杖[5]
塲
嬢様(オ)
乘ジ.ズ
小安
少尉
傷痍
～
～等
上位
上威
攘夷
上意(御)
正一位
證印
承引シ.ス
上院
承應〔年号〕
松應寺
商家
唱歌
～
～シ.ス
上下（しょうか）
上下（じょうか）
城下
～
～(舊)
照會
～
～シ.ス
商會
紹介
生涯

1) 手のまがり　2)「鶉衣全躰ヲ蔽フニ足ラズ」(b)　3)「彼ノ蘿蔔ハ農家餕餘ノ雜物中ニ混淆スルヲ知ラスシテ」(a)　4)「出テヽハ將トナリ入リテハ相トナリ」(b)　5)刑罰の一

障碍
傷害
　～
　～シ.ス
情海
城外
照會按
小會議
上下院（じょうか）
翔鶴〔船〕
商客
小學
小岳
乘客
小學教育
小學教員
小學教科書
小學教則
　～
　～中
小學校(各)
小學校內(一)
小學生徒
乘客船
正月
松花亭
松花堂
小花瓶
消火夫
小科目
召換
承歡
將官
償還
　～
　～シ.ス
誦完シ.ス

上官
條款
情願
詳記
　～
　～シ.ス
抄記シ.ス
證記シ.ス
商議
小妓
娼妓
　～
　～輩
蒸氣
情誼
上議院
　～
　～中
小瀛船
蒸氣船
彰義隊
償却
　～
　～相成リ.ル
　～シ.ス
燒却シ.ス
償却濟ミ
償却年限
小休
　～
　～遊バシ.ス
　(御)
昇級
　～
　～シ.ス
上級
上級生

償給平均シ.ス
消去シ.ス
小魚
商況
商業上
商業等
上京
　～
　～シ.ス
狀況
常業
商業學校
商業事務
商業社
少教正
商業世界
償金
賞金
正金（きん）
消滅
小金額
小區
　～
　～(各)
　～(何)
　～內(何)
　～(兩)
常杭（くい）
將軍
揔軍
小軍艦
賞勲局（じょうくん）
上下（じょうげ）
　～
　～シ.ス
小憩(御)
少警視

少警部
衝撃シ.ス
淨潔
證券
　～
　～(舊假)
　～(新假)
小言
條件
證券紙
小言子〔筆名〕
証券雛形
証券文
証據
商賈
稱呼
商估
唱呼シ.ス
唱呼シ來リ.ル
正午頃（ごろ）
上古
正五位
將校
　～
　～(諸)
少功
昇降シ.ス
小講義
昇降口（ぐち）
昇降所（じょ）
彰功錄[1]
正五九[2]
上告
　～
　～シ.ス
上告金
相國寺

正午時
証據立テ.ッ
尚古黨
証據人
　～
　～共（ども）
　～等
招魂祭
招魂祭式
招魂祠
招魂社
招魂大祭
少佐
攘鎖
正作[3]
蕭索
硝酸
稱讚
　～
　～シ.ス
消散シ.ス
賞賛シ.ス
稱賛嘆美シ.ス
正三位
賞詞
　～
　～(御)
笑止
將士
將師
商肆
賞賜
　～
　～シ.ス
小子
燒死シ.ス
障子

1)「本局ノ彰功錄ニ登記スルヤハ」(c)　2) 忌月(正月・五月・九月)　3)「正宗正作の折り紙」(c)

曩時[1]	醸酒家	～	商船	～シ.ス
少時	抄出	～(御)	～	笑談シ.ス
情死	照準	～シ.ス	～中	上端
～	～	～中	蕭然	串戯
～シ.ス	～シ.ス	～仕リ.ル	乗船	承知
城市	上旬	上進	乗船切手	～
城趾	照準遡付シ.ス	常人	正遷宮	～(不)
正四位	小暑	焦心苦慮シ.ス	上訴ナシ.ス	～致シ.ス
尚歯會	小書	上申書(御)	少壯	詳知シ.ス
正直	証書(一)	正眞正銘	蹤踪	召致シ.ス
上式	証書中	上申簿	上奏シ.ス	上地
小試驗	省除シ.ス	正眞無垢	醸造	掌中
小室	擲除シ.ス	精進料理	～	焼酎
詳悉	松梢	將帥	～シ.ス	省中
～	招承	常水	正倉院	塲中
～致シ.ス	昭々	上水	醸造石高	城中
～シ.ス	少々　《副》	～	醸造税	條中
焼失シ.ス	賞状	～(両)	醸造高	上中下等共
消失シ.ス	床上	上水筋(両)	常總物[5]	焼酎醸造税
情實	胥壊	少數	掟速	上中等
消失品	上相	昌盛	消息往來	上壁紙
抄紙部等	上將	小盛	正体	上陳シ.ス
商社	上昇シ.ス	招請シ.ス	招待(御)	訟庭
～	情状	情勢	招待シ.ス	章程
～(某)	條々	上世	情態	～
傷者	疊々	常勢	狀態	～外
商者	常情	上請シ.ス	常態	上出來
小社(一)	照々乎	醸成シ.ス	醸退	掌典
抄寫シ.ス	清淨光寺	上税ナシ.ス	小隊長	賞典
乗車	小商細戸[2]	證跡	小隊長心得	裝點[6]
焼酒	猩々緋	焦石[3]	承託	商店
嘗受シ.ス	小書記官	蹤跡	沼澤	小傳
城主	粧飾シ.ス	上席	承諾	掌典補
成就シ.ス	正眞	定席[4]	～	賞典祿
召集	小心	小石橋(一)	～シ.ス	譲渡
招集シ.ス	照信	詳說シ.ス	上達	常度
小銃	上申	小說好キ	～	小島(一)

1)「休兵媾和ニ曩時ノ猶豫オモ爲サヽルヘシ」(b)　2)「小商細戸ハ皆舗店ヲ閉ツルニ至ルヘシ」(b)　3)「今に於て焦石路傍よ磊々さり」(c)〔淺間山〕　4) 寄席　5) 常陸・上総・下総の産物　6)「階掛りの出を幕切れにせしゝ實に絶妙諸事高尚よして其裝點も至れり盡せり」(c)

小堂　～シ.ス　少婦　升麻　稱譽シ.ス
鐘堂　～仕リ.ル　小富　上米　丈餘
上等　～ナシ.ヲ　錆腐　ジョウマイ　剩餘
上頭　上納書　勝負　鎖子[4]　讓與シ.ス
蒸騰シ.ス　上納証書　蒸腐シ.ヲ　娘妹等　慫慂シ.ス
上等裁判所　乘馬　上部　照魔鏡　從容
～　賞牌　上風　小滿　稱用シ.ス
～(各)　～　淨福寺　情味　稱揚シ.ス
上等士族　～(新)　滋養物　靜脉　逍遙シ.ス
上等種族　勝敗　滋養分　小民　常用
上等小學　商賣　笑柄[2]　商務　昇陽社
上等石炭　～　昌平館　冗務　賞與金
上等中學　～(諸)　常平局[3]　聖武帝經切　擾乱シ.ス
小都會　～上　小片　詳明　勝利
誦讀シ.ス　招泊シ.ス　償辨シ.ス　證明　小利
淨土宗大林寺　上博骨頭　小變遷　省名　商理
衝突　正八位　召募　照明　條理
～　賞罰　～　証明シ.ス　上陸
～シ.ス　蒸發シ.ス　～シ.ス　消滅シ.ス　～
省內　小範圍內(一)　商法　消滅ナシ.ヲ　～シ.ス
小兒　消費　詳報　消耗品　上流
正二位　～　小邦　蕉門　昌立寺
証人　～シ.ス　消防　定紋　精靈
商人(諸)　消靡シ.ス　消亡シ.ス　狀屋　商量
商人等　焦眉　商法會議　抄譯　淨瑠璃等
上人(何)　冗費　商法會議所　硝藥　つぼね　淨瑠璃局[7]
承認シ.ス　常備　消防掛リ　定約[5]　奬勵シ.ス
證認シ.ス　常備軍隊　消防方　條約義務　條例
情人　消靡高[1]　消防組　條約書　～
焦熱地獄　常備兵　消防繰練　條約面　～中
少年　常備補充定員　商法注意組　條約譯[6]　定例
常年　照票　消防夫　常夜燈　常例
樟腦　証憑　～　醬油　～
上納　賞品　～等　招誘シ.ス　～外
～　商品　消防服　賞與　定例會議
～致シ.ス　上品　消防ポンプ　～シ.ス　小禮服
～方　上品位　商法律　賞譽　掟路(一)

1)「全國人各箇平均ノ消靡高」(d)　2)「野蠻ヲ徵スルノ笑柄トシタシ」(b)　3)「今般大藏省中へ常平局を設け」(c)　4)「門はヒッタリ鎖子か下れハ」(c)　5)「無利足の定約にて」(c)　6) 条約の訳文　7)「地歌局」参照

娼妓（ジョウロ）
賞祿
正六位
商論
唱和シ.ス
ショオ種族[1]
ショオトヘンド[2]
諸河
諸家
諸課
書畵
初會
書畵會
諸客
初學
女學校
初學須知
書畵先生達
所轄
所轄長官(各)
所轄分署
書畵幅
書翰
～
～中
所管
諸鹽
暑寒
諸官
所含
女官
書記
～
～シ.ス
暑氣

庶幾シ.ス
書記生等
除却シ.ス
諸魚
除去シ.ス
處行シ.ス
所業シ.ス
食
～
～シ.ス
～シ得申シ.ス
燭
軾（しょく）[3]
職として
職員
殖益社
織機
職權
職工
～
～(諸)
～等(諸)
職工家
職工師
職工手
職工物
植栽致シ.ス
殖產
殖產家
殖產興業
食事
職事
植字機
職掌
～
～上
觸衝シ.ス

職掌柄
織紝（じん）
蝕盡シ.ス
殖生
～
～シ.ス
燭臺
食堂
職任
職人
～
～(諸)
～等
職人体（てい）
食費
植物
植物試驗場（じょう）
屬望
～
～シ.ス
殖民場（じょう）
殖民人
殖民地
職務
～
～上
職名
食物
食料
職猟免狀
諸郡
叙勳
所化
處刑
處刑濟ミ
處決
諸件

所見
諸險
緒言
諸彦
女權
助言
諸公
諸侯[4]
諸侯[5]
諸港
曙光
諸工
女皇
助講
諸侯國
女紅場[6]
除蝗錄（こう）
所在
所作事
諸山
諸氏
諸士
諸子
書肆
諸事
初時
所持致シ.ス
所持致シ居リ.ル
所持シ.ス
女史
諸式
書式等
所持金
所持人
所持品
諸社
書籍（じゃく）

諸種
諸州
諸宗
諸術
叙述シ.ス
初旬
所々
～
～(各)
諸署
諸書
諸處
徐々と　《副》
諸省
諸將
諸詔
初條
書狀
所々方々
書信
所信
諸神
書生
諸生
處世
所製
諸稅
助成シ.ス
除稅地
諸稅帳
女生徒
～
～等
初席
初節
所說
諸川

1) アメリカインデアン　2) 速記術　3)「軾ニ憑リテ」(e)　4) 封建諸侯　5)「九州諸侯」(e)　6)「又同所女紅場も追日盛大ユ赴くに付」(e)

所詮
所措
所藏シ.ス
所藏主
所屬
〜
〜(各)
除族
諸隙
世帶
處斷
初段
處置
〜
〜下サレ.ル
(御)
〜シ.ス
初峡
所長
署長
初丁
初手
初度
諸等
諸道
諸僮
所得
書牘
所得稅
初日
諸人
叙任請書式
初年
諸派
初發生
諸般
初犯

所犯
諸藩
諸費
諸品
諸物
所聞
處分(御)
處分相成リ.ル
處分相成リ難シ
處分致シ.ス
處分シ.ス
序文
處分施行シ.ス
初編
諸方
諸邦
除法
處方箋
諸民
庶務
諸務
庶務局長
書面伺イ
所望
書目
書物
所有シ.ス
所有權
所有財産
所有殘物
所有者
所有地
所有主
所有物
所用
所要
所用廳

助力
所領
書類
諸路
女郎
所論
爾來　《副》
兒雷也親分
白上新潟大書記
官
白川橋
白ケ.ク
白洲
鉢
不レ知不レ知《副》
知ラセ
〜
〜(オ)
知ラセ.ス
白波
白刃
白拍子
調ベ
〜
〜中(御)
調ベ.ブ
調ベ替エ
蝨
虱絞リ[1]
私利
尻
臀後[2]
知リ.ル(相)
知リ得.ウ
知リ居リ.ル
知リ難シ
知リ給イ.ウ

事理
尻居[3]
後エ
自力
私利私便
ジリジリ《副》
退キ給イ.ウ
屁ケ.ク
私立
自立シ.ス
侍立シ.ス
自立社
支流
志慮
思慮シ.ス
治療
〜
〜方
〜シ.ス
〜中
〜等
治療法
資力
思慮分別
四隣
絲縷
汁粉
効シ
標シ
記シ.ス
知ル邊
指令(御)
指令相成リ.ル
(御)
指令シ.ス
指令中(御)
指令等

指令書(御)
司令長官
至廉
白
代
城
白シ
白瓜
代カケ[4]〔代掻〕
白金巾
白寒冷紗
白高麗
白小麥
白地
白博多織
代物
白木綿
白リンネル
持論
仕譯ケ書
仕業
眞
信
〜
〜ジ難シ
臣
新
神
深
親
寢
〜
〜シ.ス
診シ.ス
仁愛
塵埃等
新案

1)「虱絞りの手拭に」(c)　2)「臀後ゟ繩を結ハんと」(c)　3)「堂と尻居ゟ倒るゝ妻を」(c)　4)「田の代カケ」(c)

審按仕リ・ル
眞意
瞋恚
新入リシ・ス
秦越視シ・ス
人煙
新大橋際（ぎわ）
臣下
眞價
新開相成リ・ル
人海
新開地
清客
心學（しんがく）
殿（しんがり）
神官
清官
新患（じんこ）
人間（じんかん）
眞官吏
新奇
新規
振起シ・ス
審議
　～
　～シ・ス
信義
信僞
新舊
鍼灸
深宮
賑救
神境
申供シ・ス
新業
神教丸
新橋雜話〔書名〕

蜃氣樓
宸襟
呻吟苦惱シ・ス
辛苦
甚九[1]〔甚句〕
神宮祭主
神宮司廳
辛苦經營シ・ス
進軍シ・ス
深閨
進擊
　～
　～シ・ス
　～シ來リ・ル
新券
新古
眞箇（じんこ）
神庫
人戸
人後
信仰
　～
　～シ・ス
新港
進攻
深更
進行シ・ス
親好シ・ス
信号
信号火箭
神國
申告シ・ス
眞言宗
審査
　～
　～シ・ス
宸裁

震災
親祭（御）
人才
審査官
　～
　～輩
審査總裁
審査官長
診察
　～
　～シ・ス
診察料
新塞
深山
深山幽谷
心志
心思
新紙
　～
　～(一)
新誌(某)
深思
紳士(一)
眞事
人士
人事
縉士豪族
審悉シ・ス
眞實
信實物（もの）
信者
　～
　～連
人車
仁者
神社
神社費

新酒
眞趣
進取
眞宗亳摂寺
信州蠶卵紙
信州善光寺
眞宗僧侶
心中立テ
眞宗本願寺派寶
　滿寺
進取學士
伸縮
　～
　～シ・ス
心術
賑恤
賑恤費
浸潤シ・ス
陣所
眞賞
心情
身上
進上致シ・ス
尋常
尋常醫院
尋常一樣
尋常科
尋常教則
仁情厚意
尋常才識
尋常人
尋常人民
尋常圖書
眞商人
尋常榴彈
寢食等
心身

駸々
森々
清人
　～
　～中
信心
眞人
眞神
人身
駸々乎（しか）
信心者（しんじんしゃ）
駸々然
新燧〔会社〕
心醉シ・ス
神髓
進水式
進ゼル《口語》
眞正
神政
新製
　～
　～シ・ス
進征
新政
新勢
申請
　～
　～シ・ス
眞誠
人世
人聲
眞正記者
親戚
　～
　～等
新石
人跡

1)「甚九を譖ひ」(c)

深切
～
～(不)
～メカシ.ス
新設
～
～シ.ス
新說
新設擧行シ.ス
神饌
新鮮
神前
進前シ.ス
荏苒
新撰旅團
清祖
親疎
新創
新造[1]
新造
～[2]
～シ.ス
神葬式
神速
親族
迅速
親屬眷類
進退
神體(御)
身代
神代
甚大
身代限リ
進退出處
進達
～
～相成リ.ル

(御)
～シ.ス
心膽
薪炭
宸斷
審斷
診斷致シ.ス
診斷書
新地
神地
人智
新築シ.ス
新築燈臺
新築落成シ.ス
新茶
心中
陣中
伸暢シ.ス
伸張シ.ス
振張シ.ス
新調シ.ス
進捗
～
～シ.ス
申陳シ.ス
新陳交替シ.ス
清廷
神田
神殿
～
～(假)
信徒
進渡シ.ス
進度
進登シ.ス
新道
神童

進動
～
～シ.ス
震動シ.ス
人道
神道事務局
神道事務分局
新富座
人肉
進入
～
～シ.ス
新入
滲入シ.ス
侵入シ.ス
新任
新任者
新年
心念
新年宴會
新年式
親王
～
～(兩)
人馬
心配
～
～シ.ス
信牌
親拜
心配騷ギ
心配周旋シ.ス
新堺魚河岸[3]
人馬車行
新橋停車場
甚八夫婦
振發シ.ス

進發シ.ス
締リ棒
針盤
審判
～
～中
眞美
神秘
神扉
信憑
神符
神風連
眞福寺
神佛
眞物[4]
新聞(各)
新聞(諸)
新聞(某)
新聞(兩)
新聞中
人糞
新聞記者
～
～輩
新聞紙(諸)
新聞社
～
～(各)
新聞社長
新聞條例
新聞好キ
新平民
新兵衛夫婦
新部屋
進歩シ.ス
辛棒
～

～ナシ.ス
新法
信報
申報致シ.ス
信奉シ.ス
人望
眞方位
新法成典
神木等
親睦講和
新米
親身
親密
親密繁盛
信民
清民[5]
人民(各)
人民中
深霧飛雪
身命
神明
人名
～
～等
人命
神明神社
人命律
新面目(一)
親目シ.ス
人目
審問
～
～(御)
尋問
～
～致シ.ス
～シ.ス

1)「客新造ヲ愛スレハ寛淫市塲島田多ク」(e)　2)「新造之分ハ」(a)　3)「新塲魚河岸へ談判して」(c)　4)「厥ノ眞物ヲ多クシ」(b)　5) 清国民

～申シ上ゲ.グ（御）	親和シ.ス(相)	水槽	炊夫	數號(前)
		吹奏シ.ス	推服シ.ス	數氏
深夜		推測シ.ス	炊焚シ.ス	數次
晨夜	**巢**	衰頽	水分	數字
新役	酢	衰替	隨分	數時間
神輿	圖シ.ス	吹田組	隨分トモに《副》	數日
信用	粋	水池	水兵	數種
娠孕シ.ス	吸イ.ウ	推知シ.ス	水泡	數週間
臣等	推シ.ス	水中	水防世話掛リ	數所
震雷	髄	衰凋シ.ス	衰滅	數章
眞理	隨意	推擢シ.ス	～	數條
心裡・心裏	隨一	垂天	～シ.ス	數村
眞利	水火	水天宮	水面	數町
審理	西瓜	出納	水雷	數挺
人力車等	水害	～	水雷火	數度
人力車夫	水火夫	～上	水雷船	數人
賑糧	水旱災	水樋	水利	數年
侵凌シ.ス	推究シ.ス	隧道	水陸	數品
心力	水魚	水道	水量	數歩
震力	水銀	出納局	推量シ.ス	數本
新綠	翠月樓〔建物〕	出納局長	推理力	數里
人力	推古 〔年代〕	出納常平局	水路	數輛
盡力シ.ス	推考シ.ス	出納帳簿	水路通信	數驛
森林	隨行シ.ス	水道橋	數閲月	數學
～	水校會	出納表	數科	數學會社
～中	水質	出納簿	數回	數カ村
親臨シ.ス	水車仕掛ケ	吸イ取リ.ル	數塊	樞機
深林中	水車渡世	水難	數ヵ所	數句
親類	水腫	隨伴シ.ス	數箇條中	數郡
人類	水銃	衰微	數君	數言
新令	隨從	～	數家	數歳月
神靈	水上警察	～シ.ス	數月	數十カ村
新曆	水神	隨筆シ.ス	數軒	數創
新路	水神祭リ	隨筆中	數件	數村
針路	惴々焉	水夫	數戸	數韋
辛勞	水星	～	數箇	數倍シ.ス
心勞シ.ス	垂涎シ.ス	～等	數項(前)	數葉 〔数世〕

樞要
樞要機密
數量
据エ.ウ
〜
〜得.ウ
〜置キ.ク
据膳
据付ケ.ク
末永ウ《副》
素袍
圖畵
〜
〜等
透カサズ《副》
透カシ.ス
瞞シ.ス
透シ語ライ.ウ
透シ慰メ.ム
須賀神社
ズカズカと《副》
縋リ.ル
透
好キ.ク
杉
過ギル《口語》
杉宮內少輔
杉宮內大輔
鋤鍬
過ギ去リ.ル
過ギ行キ.ク
救イ
スクウネル[1]
直樣《副》
過世
少ナィ《口語》
少ナクも《副》
勝レ.ル

菅
少シ宛《副》
少シも《副》
過シ.ス
スコッチ[2]
凄シ
杜撰
條立テ
圖室
頭上
す印〔記号〕
鈴
凉シ
雪ギ.グ
進ミ寄リ.ル
勸メ
〜
〜(オ)
勸メ.ム
硯
硯箱等
裾
裾模樣
簾名号
スチレエジュ[3]
捨テアリ.リ
捨テ置キ.ク
捨テ置キ難シ
捨テ置ケル[4]
棄テ難シ
捨テ賣リ
駐車場
棄鐘[5]
素的滅法
ズドン[6]
砂地
漁リシ.ス

沙濱
頭腦
素早シ
術
西班牙公使館
西班牙領
須ラク《副》
スペンセル銃
ズボン
ズボン下等
住居
〜
〜シ.ス
〜ナシ.ス
住マイ.ウ
〜
〜アリ.リ
〜居リ.リ
澄マシ.ス
清マシ.ス
濟マシ.ス
墨
隅
炭
濟ミ.ム(相)
住給イ.ウ
棲巢
住替エ.ウ
濟方
住込ミ.ム
炭小屋
隅々
隅田丸
住友組
墨ヌリ[7]
住ノ江丸〔船〕
天皇

圖面
〜
〜上
相撲
相撲營業
角力好キ
角力取リ
李
掏摸
摺切リ.ル
摺込ミ
摺立テ.ッ
摺物
銳シ
圖陋戶長
スワ《感》
諏訪中教正等
坐リ.ル
寸
ズンと《副》
寸草
寸衷
寸鉄
寸法

背
瀨
是
制
〜
〜シ.ス
生[8]
精
政
生《代名》
性

正
靑
成
姓
淸
製シ.ス(相)
製シ始メ.ム
生シ.ス
稅
贅シ.ス
勢威
誠意
政意
生育
征夷府
生員
晴雨
晴雨暑寒
世運
精液
盛宴
聖恩
靜穩
聲價
成果
稅外
精確
西客(一)
精覈シ.ス
星學[9]
政學
稅額
稅額掛リ
星學者
精確調査
盛夏大暑
生活

---

1) schooner, 船の形　2)「「スコッチ」と唱なふる帽子」(c)　3)「「スチレージュ」ト稱スル極下等ノ客室アリ」(d)　4)「餘りのとに捨て置けず」(c)　5) 捨金　6)「西南のヅドン」(e)〔西南戰爭〕　7) 狂言の題名　8) 生命, 生活　9) 天文学

～
～シ.ス
醒花亭
征韓
生還
西舘
請願
～
～致シ置キ.ク
～シ.ス
稅關
稅關官吏
征韓論
成規
盛氣
精氣
清暉艦
請求シ.ス
逝去シ.ス
制御シ.ス
制御シ得.ウ
政教
精强
西教
生業
成業シ.ス
正教會
青玉
制禁
稅金
西隅
生計
～
～上
政刑
精計シ.ス
政權

制限シ.ス
省減シ.ス
稅權
清儉端嚴
制限論
正誤
～
～シ.ス
成功
～
～シ.ス
成効[1]
精巧
製工
正鵠
征行
性行
精工社〔会社〕
正權
精査
精細
政策
製作シ.ス
製作器械
製作品中
制札面
生產
製產
精算
～
～シ.ス
正算等
生產會社
生產作業
生死
製紙
正視シ.ス

制止シ.ス
生齒中
政治
政事
～
～上
世事
生兒
正時
政事家
盛式
製絲器械
製紙器械
制シ聲
製糸所
製糸場
製紙分社
逝者
聖主
勢州地方
整肅
成熟シ.ス
整肅嚴正
製出シ.ス
生出シ.ス
政術
聖詔
清淨
西人
聖人
成人シ.ス
盛衰
西陲
井水
～
～中
盛衰隆替

青々
正々
西征
整齊シ.ス
生成シ.ス
製成シ.ス
精々　《副》
整々蕭々
精製分析料
成績
盛饌
精撰シ.ス
生前
凄然
精粗
星霜
～
～(幾)
青草
腥僧
製造シ.ス
製造等
製造家
製造局
製造者
製造所
～
～等
製造高等
製造人
～
～(某)
～共
製造場
製造品
製造物
製造法

生存シ.ス
政体
世態
聖代
贅澤
精出シ.ス
世談
西地
盛地
製茶
井中
掣肘シ.ス
成長
～
～シ.ス
世潮
生長シ.ス
整調シ.ス
製調シ.ス
制定
～
～シ.ス
製鉄所
成典
盛典
青天
晴天續キ
政途
生徒(各)
生徒等
制度
政黨
聖堂
靜動產
青銅錢
生動力
盛德

1)「然レ𪜈其成効固ト一二ケ月ノ期ス可キニアラズ」(c)

整頓
～
～シ・ス
西南
脆軟
西南事件
西南西
西南戦役中
西南騒擾
西南ノ役
西南ノ變
請納
税納致シ・ス
成敗
征伐
～
～シ・ス
生蕃
正非
成否
整備シ・ス
制表課
製品
政府(舊)
政府(諸)
政府(新)
政府(無)
西部
清風
腥風血雨
正服
征伏シ・ス
制伏シ・ス
正副考官
正副戸長
西部撿閲使
政府黨

政府吏員
成分
成文律
靜平
生捕(せいほ)シ・ス
生母
西方
成法
政法
製方[1]
正榜[2]
稅法
製法書
西北
正北
西北位
西北隅
西北西
西北地位
精米
舍密(セイミ)[3]
精密
精密調査
生民
政務
～
～上
生命
晴明
聲名
姓名(オ)
誓盟私約
姓名錄
西門外
製藥
省約(せいやく)
製藥場

西洋
～
～形(がた)
西洋醫家
西洋館
精養軒
西洋皿(さら)
西洋紙
西洋商船
西洋人
西洋玉コロガシ等
西洋木綿
西洋料理
西洋料理店
生等(せいら)《代名》
性來
星羅林列シ・ス
整理
～
～シ・ス
生理
正理
精理
正理事
生理書
成立
政署
勢竜丸〔船〕
青龍丸〔船〕
精良
正良
清凉
勢力
精力
政令
生靈

精勵
成例
清冷
靜冷
精勵刻苦シ・ス
西曆
整列シ・ス
清烈甘芳
正路
清朗
青樓中
製莫掛(かけ)リ
正論
世論
ゼウス〔宗派〕
セエエント・テレエズ[4]
セエブル[5]
セエブル陶器
セエロン号
脊負イ・ウ
～
～居ル
セオリ・オフ・レジスレエション[6]
世界
～
～(全)
～中
世界邦國
悴(せがれ)メ
席
籍
積
堰キ來・ク
積怨

石灰
席貸
席貸業
席貸渡世
關ガ原時代
斥候
石工
積載シ・ス
石材
赤子
昔時
昔日
昔者
赤酒
席主
席上
赤色
積雪
寂然
石像
堰キ立チ・ッ
急キ立テ・ッ
石炭
石炭油(あぶら)[7]
石炭屋
席亭
尺牘(とく)
責任
昔年
積年
石腦油(ゆ)
寂寞(せきばく)
席末
赤飯
石盤
赤飯料
石碑

1) 製造　2) 清朝の貢生の一　3) 化学　4) メダルの名　5) セーブル産陶器の略
6) ベンサム氏の著書名　7) 石油

席費	節儉	切羽詰リ.ル	逼・迫リ.ル	全驛
碑面（セキヒ）	～	折半シ.ス	責メ.ム	遷延
石櫃	～シ.ス	切腹仕リ.ル	攻メ.ム	專横
責付シ.ス	節減	節分	責メて　《副》	前王
積忿累恨	～	接吻ナシ.ス	責メ掛ケ.ク	前屋
關守（ゆ）リ	～シ.ス	絕壁	責メサイナミ.ム	全化シ.ス
石油湧井	拙妻	切望シ.ス	施與シ.ス	先會
赤痢	拙策	說明	競合イ.ウ	全快
赤龍丸等〔船〕	說示シ.ス	～	競上ゲ.グ	～
寂寥	拙者	～シ.ス	セリ出シ.ス	～シ.ス
石類	接種料	～中	芹麩　〔科白〕	～ナシ.ス
施金	拙商連	絕命シ.ス	施療	前回
囤戸（ゼゲン）	絕勝	說諭	～	前會
世故	絕食	～	～シ.ス	先覺
施治（じ）	設制シ.ス	～(御（ご）)	施療券	泉岳寺
施主	節省	～ナシ.ス	施療簿	詮方ナシ
施種券	節々	設立	日耳曼（ゼルマン）政府	專館
世情	接續シ.ス	～	世話(オ)	潺湲（せんかん）
則蘇（ゼスイト）的宗徒	接待シ.ス	～相成リ.ル	世話シ.ス	船艦
セセラ笑イ	絕大的	拙劣	忙（せわ）シ　《形》	全還シ.ス
世俗	切斷	切論シ.ス	世話掛リ	詮議
脊丈（たけ）	設置	說話	世話役	～
切	～	脊戸	線	～(御（ご）)
拙（せつ）	～シ.ス	瀨戸石	戰	～中
節シ.ス	雪中	錢（ぜに）	撰	船妓
接シ.ス(相)	折中シ.ス	錢失イ	善	前期
截開シ.ス	設定シ.ス	施入シ.ス	全	全給シ.ス
殺害シ.ス	窃盜	是認シ.ス	漸	撰擧相成リ.ル
折角　《副》	舌頭	狹（せば）メ.ム	善惡	撰擧方
折檻	窃盜條	是非　《名》	專意	撰擧シ.ス
節義	窃盜賊	是非　《副》	千位	戰況
絕奇	說得シ.ス	是非とも《副》	戰意	船橋
說教	褻瀆シ奉リ.ル	是非に　《副》	專一	宣教シ歩キ.ク
接近	褻瀆諧謔	是非曲直	禪宇	專業
～	切迫	是非ナシ	前衛	賤業
～シ.ス	～	世評	戰役	宣教師
～シ.ス(相)	～シ.ス	狹シ	全益	撰擧則

撰擧人
選擧法
前金
全軍
仙化(げ)シ・ス[1]
前刑
全計
鮮血
先月
前月
專權
選權
宣言シ・ス
前顯
全權
前件
前言シ・ス
全權委員
全權公使
千古
戰後
線香
潛行シ・ス
閃光轟響
宣告
　～
　～シ・ス
前告
前刻
全國人
宣告文中
前後左右
前後中
先妻
專裁
千載
前罪

穿鑿シ・ス
穿鑿中
千挫不屈
戰死
　～
　～シ・ス
尖嘴
賤視シ・ス
戰時
戰事
全紙
善事
漸次　《副》
漸次に　《副》
戰死者
先日
前日來
千思万考シ・ス
船首
船主共(どう)
先住[2]
煎汁
千住大橋
饘粥(せんじゅく)
擅出[3]
前述
前書
洗除シ・ス
船匠
戰勝
戰場
全捷
全章
前章
前條
全條
先陣

漸進
全身
專心一意
泉水
淺水洲渚(しょ)
船數
全數
詮術(せんすべ)
先生
　～
　～方
　～樣
專制
蟬聲(せん)
全盛
善政
前世
全晴
專制舊治
專制抑壓
專占シ・ス
漸々
戰々兢々
先々月
前々号
先祖
淺草寺
船造手
全損
船体
先代
全体
仙臺表(おもて)
仙臺新聞
仙臺日々新聞
千田大書記官等
戰端

專斷
　～
　～シ・ス
前段
全團
戰地
千瓲(ち)
痊治(せん)シ・ス
全治
前知シ・ス
戰地歸リ
全治者
先着(ご)(御)
先着シ・ス
船中
　～
　～(全)
船長
前兆
船底
撰定シ・ス
遷都
全都
前途
全土
髯奴
戰鬪
尖頭
船頭
煽動
先導(ご)(御)
先導シ・ス
全島
先導者
戰鬪度數
潛匿シ・ス
詮ナシ
船內

先入
　～
　～シ・ス
撰任
　～
　～シ・ス
專任シ・ス
先年來
前年
洗馬
專賣
專賣權
船舶
　～
　～(諸)
船舶商賣(ご)
先發(御)
先般
　～
　～來
善美
全備
　～
　～ナシ・ス
前非
前比
淺膚
先夫
全部
船腹
潛伏シ・ス
潛伏ナシ・ス
千分中
前文
全文
餞別
先鋒

1) 遷化　2) 前の住職　3) ほしいままにすること

戰報
前法
前報
瞻望冀仰シ.ス
戰沒シ.ス
千万
　～
　～人
千万世
千萬里程
專務
　～
剛明
全滅シ.ス
前面
專門
專門學者
前夜
　～シ.ス
前約
全癒
　～
　～ナシ.ス
占有シ.ス
專有シ.ス
專用
　～
　～シ.ス
前來
戰亂
千里〔船〕
千里軒〔馬車屋〕
染料等
善良
全量
善隣
先例
先例舊慣
線路

前論
其《代》
粗惡
粗惡視シ.ス
沮遏シ.ス
素意
沿イ.ヴ
添イ.ヴ
　～
　～アリ.リ
添イ逐ゲ.グ
疎迂
草
　～[1]
　～シ.ス
僧
奏
　ソウ《副》
裝シ.ス
操シ.ス
像
增
贓[2]
草案
相違シ.ス
惣員
贈右大臣
漕運シ.ス
造營
　～
　～シ.ス
相益社談〔雜誌〕
相應
僧王祠
宗家

桑芽
葱芽
增加
造化
造花
蒼海
總額
總頭
增加兵
僧官
送還
象嵌
創基
創起シ.ス
葬儀
爭議
相競
漕競
奏供シ.ス
創業
創業者
贓金
遭遇シ.ス
象牙撥*
相見
剏建シ.ス[3]
增減
　～
　～シ.ス
　～等
總見院
總見院殿
操觚
倉庫
相互
操行
糟糠

崢嶸
轅合
　～
　～シ.ス
双光旭日章
倉皇憂懼
早婚
草根
創痕
草根木皮
莊嚴
總裁
贓罪
捜索
　～
　～中
雜作等
壯士
壯志
雙紙
葬事
掃除
　～
　～シ.ス
　～等
總ジて《副》
相識(舊)
掃除口
宋室
壯者
造酒家
創所
騷擾
奏上シ.ス
贈正四位
草色
裝飾

　～
　～シ.ス
增殖
　～
　～シ.ス
裝飾品
增進シ.ス
增水シ.ス
總數
贓數
蒼生
增稅シ.ス
送籍
踪跡
送籍證
裝節[4]〔裝飾?〕
騷然
造船
造船工業上
造船工手
造船私社
造船所
葬送
　～
　～(御)
早々《副》
忽々《副》
屢々《副》
想像
　～
　～シ.ス
總則
相續
　～
　～シ.ス
　～等
惣体

1) 下書き　2)「贓にハ坐贓の罪もあり」(e)　3) 創建　4)「古代之裝節ニ模倣シ」(a)

壯大
總代
增大シ.ス
惣代人共
惣体論
總高
送達方
相談シ.ス
相談中
相談ナシ.ス
相知[1]
裝置
送致シ.ス
箱中[2]
早中晚
桑楮
早朝
增貼
〃
〃致シ.ス
增長シ.ス
總出
壯丁
創定シ.ス
送遞シ.ス
早天
桑田
僧徒
爭鬪
〃
〃シ.ス
双刀
草頭
相當(不)
相當シ.ス
掃蕩シ.ス
送到シ.ス

騷動
爭獰桀黠
總督
瘡毒
左右ナシ
雜爰
挿入シ.ス
奏任
奏任官
壯年
相壑書
增發シ.ス
早晚　《副》
奏判任
總費
藏品
送付
〃
〃シ.ス
送付スル等
僧父
賊物
造物主
壯兵
造幣規則
造幣所(新)
桑畝
桑圃
增補
增募シ.ス
聰明
草綿
草木
雜物
〃
〃中
總門

裝藥シ.ス
送輸
雜用　〔経費〕
騷亂
叢裡
草履
總理衙門
創立
〃
〃シ.ス
〃爲シ.ス
族立シ.ス
創立證書
僧侶
總領
惣量
壯麗
繰練
〃
〃中
繰練演習
繰練場
爭論
添エ.ゥ(相)
添エ.ュ
添エ渡シ.ス
素懷
屬
族
〃
〃シ.ス
賊等
俗に
即位
續飮ナシ.ス
賊焰
足下　《代名》

屬下
屬官
〃
〃(舊)
俗眼
屬官吏
即金
息金
賊軍
屬工手
即刻　《副》
即今　《副》
息災
即死
即時　《副》
俗耳
即日　《名・副》
束脩
續出
息女
賊將
俗稱
速進
俗人
賊又
速成
〃
〃シ.ス
賊勢
即席
屬籍
族籍
賊巢
續々　《副》
測知シ.ス
族長等
足痛等

賊徒
屬島
賊黨
賊盜律
息男
賊難
粟稗
束縛
〃
〃シ.ス
屬落
仄聞シ.ス
賊兵
足歩
賊名
測量
測量課
測量船
狙撃シ.ス
訴件
底
其處　《代名》
齟齬
〃
〃シ.ス
底意
其處彼處《代名》
其處此處《代名》
ソコ〳〵《副》
粗忽
底津石垣
害ナイ.ゥ
其許　《代名》
素志
訴旨
組織シ.ス
素質

1)「從來相知ノ」(e)　2)「二箇ヲ箱中ニ發見シタリ」(b)

阻住シ.ス
訴出シ.ス
阻障
訴訟用
訴状
～
～等
訴訟畧紙
訴訟對審
訴訟代人
訴訟入費
粗食
素食シ.ス
謗
謗リ.ル
素心
組成
～
～シ.ス
粗製
～
～シ.ス
租税課
租税局長宛
疎斥シ.ス
祖先
粗々[1]
祖宗
粗糙[2]
粗造
注ギ入レ.ル
麁朶[3]
沮滞シ.ス
粗大
育チ.ッ
育テ
育テ.ッ

～
～兼ネ.ヌ
育テ上ゲ.グ
育テ方
措置
～
～シ.ス
粗茶
卒〔兵卒〕
疎通シ.ス
卒業
卒業者
卒業証書
卒業生
卒業生徒
卒業免状
卒然《副》
袖
訴庭
袖ガラミ
外
訴答文例
戸外出
備エ
供エ.ウ
備エ置キ.ク
備エ奉リ.ル
備エツモノ
其方
備ワリ.ル
其ノ上《接》
其ノ上に《接》
其方共
蕎麥
岨
傍
疎薄

仄ダテ.ッ
聳エ.ユ
粗品
祖父母
祖母
粗暴
染ミ.ム
～
～居ル
背キ.ク
～
～(相)
疎融
空
空嘯キ.ク
諳ンジ.ズ
剃落シ.ス
剃立テ.ッ
夫レ等
夫では《接》
夫でも《接》
夫とも《接》
夫に《接》
某
～
～共
夫レ是レ
外レ玉
夫トナク《副》
夫ナリ《副》
夫ナレバ《接》
夫ハソレハ《副》
夫故《接》
揃イ
～
～(御)
揃イ.ウ

粗漏
揃エ.ウ
徐々《副》
村
損
～
～ジ.ズ
存ジ居リ.ル
存ジ奉リ.ル
村驛
損益
損益算
存外《副》
損害金
蹲踞
～
～シ.ス
尊敬シ.ス
尊嚴
存在シ.ス
村市
損資
損ジ
存ジ(御)
損失
村社
存書シ.ス
損所
損傷シ.ス
存ジ寄リ.ル
存置シ.ス
尊重シ.ス
ソンナ《名・連》
村内
ソンナラ《接》
存念
損敗

損埋シ.ス[4]
村民
～
～原
～等
損耗
～
～シ.ス
村邑
村落
村吏
存立
～
～シ.ス
損料
村老田婆

田
多
他共[5]
体
～
～シ.ス
堆
態
待シ.ス
對シ.ス(相)
代
臺
題
～
～シ.ス
大惡蝗
大安
大尉
大意

---

1)「粗々たる點畫を以て」(c)　2) あやまちの意　3) 粗朶　4)「田畑を損埋し」(c)
5)「其他共渾テ本文ニ準據」(c)

題意
臺石
大石燈籠
第一嚶鳴社
第一禁[1]
第一藏庫
第一甲[2]
第一國立銀行
〜
〜等
第一集合處
第一守線
第一小隊
第一大隊
第一大隊長
第一中隊
第一讀會
第一方面
第一名
第一流
第一課
第一期生
第一區
第一黨
大員[3]
大院[4]
退院
〜
〜シ.ス
退院掛ケ
退院願書
大雨
大雨烈風
對映シ.ス
大英斷
大堰
大王

大晉
大過
大火
大家(諸)
代價(總)
代價等
大會
〜
〜(一)
大概
大害
隊外
大會議
體格
對格
大嶽
大學校
大學ノ頭
大喝
大官
大患
大旱
對岸
代官(舊)
大旱雲霓
代官規則
大勸進
大患難
大奸物
大義
大機關
代議士
大吉日
代議人(舊)
代議人中
代議人共
代議人等
大紀念碑

大丘監使[5]
退去
〜
〜シ.ス
大擧シ.ス
滯京シ.ス
大業
大教院
大教校
大教正〔職名〕
大强勇
大議論
大金
代金
大區
〜
〜(各)
〜(何)
〜內
待遇
〜
〜シ.ス
大區會
第九小區
大工職
第九大區
大工棟梁
大群
大君殿下
大勲位
大計
大兄
大警部
大劇戰
大下落
大權
代言師

代言人
〜
〜等
幇間
太古
大湖
大皷
隊伍
大幸
滯貢
對衡シ.ス[6]
對抗シ.ス
對抗シ.ス(相)
題号
大講義
大公至平
大交代
第五課
第五課長
太古器
第五銀行
大國(諸)
大獄
滯獄
第五十六國立銀行
第五大區
第五方面
大根
大佐
大祭
滯在
〜
〜シ.ス
〜中
大祭式
待罪書

退散シ.ス
第三課
第三期生
第三區
〜
〜內
第卅國立銀行
第三拾四國立銀行
第三大區
第三大隊長心得
第三旅團
第三聯隊
太子
大志
太史
大寺
對峙シ.ス
大師
大地
大事
題字等
第四課
第四課詰
第四期生
大事業
第四區
大試驗
大事件
第四十一國立銀行
第四十四國立銀行
大シタ《連》
第四大區
第七大區
第七聯隊

1) 一番目の禁止項目　2) 科挙で第一位の者　3)「能幹ノ大員ヲ派シ」(e)　4)「大院に盈ち〳〵たり」(c)　5) 大丘は，朝鮮の地名　6) 釣合う

大七樓
第四方面
大社
貸借(しゃ)
大沙漠
大守(前)
大儒
第十一大區
第十一聯隊
大集會
第十五銀行
第十國立銀行
第十五國立銀行
第十五大區
第十七大區
第十三區中
第十大區
第十二大區
退縮
大綬章
退出
　～
　～(御)
　～シ・ス
大暑
大書シ・ス
代書
　～
　～等(とう)
大將
退省
對照シ・ス
代償シ・ス
臺上
大小區
大小輕重(だいしょうかるめ)
大小豆(だいしょうず)
大丈夫

大小便
大書記官(各)
退職
大食シ・ス
代書人
第四旅團
大審
對審シ・ス
滯陣シ・ス
大尽
大臣(兩)
大審院
大審院詰(づめ)
大臣參議詰者
大尽力
大豆
　～
　～(新)
大水門
大數(だいすう)
代數學
大勢
泰西
大青蝶(こう)
大聲疾呼シ・ス
大政府
大切
　～
　～(御)
大船
大戰
對戰
代船シ・ス
大曆
大象
大属〔職名〕[1]
怠惰

大体
大々[2]
代々
大隊營
代替券狀
大隊長心得
怠惰放逸
大團圓(一)
大膽者
隊中
隊長
退廳シ・ス
隊付キ
大抵《副》
對敵
泰斗
對等
帶刀
大道
大同小異
大東寶鑑〔書名〕
大統領(前)
大當惑シ・ス
臺所用
大都府
大納言
大難易
第二課
第二區
第二十九國立銀行
第二十國立銀行
第廿四區
第廿七國立銀行
第廿二區
第二十六國立銀行

第二小隊
第二大區
　～
　～內
第二大隊
第二中隊
第二日曜
第二丁卯(ていぼう)〔船〕
第二丁卯鑑
第二方面
第二聯隊
大任
退任
代人等(ら)
代人規則
體認從事シ・ス
代人相當
怠納等
大破
大杯
代拜(ご)(御)
代拜シ・ス
大白〔星〕
滯泊
大博覽會
第八大區
第八聯隊
大半
大繁昌
第百國立銀行
大評判
大府(一)
乃父
大分《副》
大風
大風雨
大風暴雨

大拂底
太平〔船〕
泰平
大兵
臺兵[3]
代米
太平海
代米納
大變
大變動
逮捕
　～
　～シ・ス
大砲
大方[4]
大木
大法主(ほっす)
大本
大麻
大名
　～
　～(諸)
タイムス〔新聞〕
タイムス記者
除名
泰名學校
体面
題目堂
大約《副》
大有丸〔船〕
貸與シ・ス
大陽〔太陽〕
大要
代用
　～
　～シ・ス
大陽面

1)「該縣の大属」(c)　2) 橙のこと　3) 鎭台兵　4)「幸ニ大方ノ示教ヲ仰ガント欲スルナリ」(b)

平ラカ
平ラギ.グ
平ケシ
大亂
大亂大危
大利
代理シ.ス
代理ナシ.ス
代理者
大利大益
對立
〜
〜シ.ス
代理人
大署《名》
大署《副》
滯留(御)
大流行
大獄
体力
大禮服
大聯(一)
大廊
大老
大六[1]
第六區
第六大區
〜
〜內
第六第五方面掛リ
對話
臺灣砂糖
台灣蕃地
多雨
堪エ兼ネ.ヌ
堪エ難シ
堪エ.ユ
絕エて《副》
絕エズ《副》
絕間
橢圓
手折リ.ル
斃レ死シ.ス
多寡
高[2]
互イ
違イ.ウ
〜
〜(相)
打壞シ.ス
他會社
違エ.ウ
高雄丸
高桑[3]
高聲
高サ
高崎醫學校
高崎警察署
高崎二等侍補
高島礦
高島炭礦
高瀨舟
田方[4]
高臺
多寡大小
高千穗丸
高机
高手小手
高直〔高値〕
鉱
高直段
高橋大書記官
高梁郵便局
高天原
高見込ミ
高山神社
資財
寶
寶橋
他管
瀧
薪
抱寢シ.ス
瀧ノ川村辨天
焚殘リ
焚火
瀧見ノ御茶屋
他教
他鄉
卓
託シ.ス
澤庵
類
濁音
卓見
澤山
卓子等
濁酒
卓上
濁水
卓絶
宅前
卓然
宅地
卓布
逞シ
逞シュウシ.ス
巧ミ.ム
手繰リ寄セ.ス
貯エ
貯エ.ウ
丈
竹
他家
長ケ.ク
竹製
竹中開示院
建ノ御殿[5]
竹野屋
竹橋
〜
〜外
竹橋大尉
他縣
多胡石摺[6]
他國
田子ノ浦丸
田作
他策
他事
多事
慥カ《名》
慥カ《副》
出シ掛ケル
慥メル
出シ印
酵ミ.ム
他宗
他洲領
他出シ.ス
他所
多少
太政官經費
太政官札
太政大臣
多數寄セ算
助カリ.ル
助ケ
〜
〜(オ)
援ケ上ゲ.グ
携エ.ウ(相)
携エ得.ウ
携エ來リ.ル
尋ネ
〜
〜(御)
尋ネ來リ.ル
尋ネル
尋ネ當テ.ツ
尋ネ來.ク
尋ネ廻リ.ル
尋ネ行キ.ク
多勢
他船
黃昏
〜
〜頃
昏暮時分
足息[7]
他族
多々《副》
正シ
墮胎
戰イ
戰イ.ウ
戰イ敗レ.ル
敲キ.ク
叩キ出シ.ス
但シは《接》
但シ書
〜

1) 荷車　2) 金高　3) 桑田の一種　4)「地租金ノ內田方ニ限リ〜半額」(a)　5)「建ノ宮」〔大正天皇〕の御殿　6)「天覽に供せし書畫は〜汪梅鼎山水〜多胡石摺」(e)　7)「暮らしの足息を得しと」(c)

～中
糺シ見ル
忽チ（ただす）ミ・ム
唯々（ただただ）《副》
疊
疊ミ・ム
漂イ・ウ
漂ワシ・ス
ダダラ大盡メカシ・ス
多端
太刀（御）
立チ・ッ（相）
立チ難シ
立チ難シ（相）
立チ申シ・ス（相）
立會イ
立會イ・ウ
立合裁判所
立上リ・ル
起居（たちい）
立至リ・ル
立出デ・ズ
立入リ・ル
～
～難シ
立歸リ・ル
立替ワリ・ル
立木
立聞キ・ク
立木判事殿
《人名》
立去リ・ル
立連ナリ・ル
立止（どま）リ・ル
立退キ・ク
立昇リ・ル

立跋（はだか）リ・ル
忽チに《副》
立廻リ
立見海軍少尉
立見陸軍少佐
立戻リ・ル
立行キ・ク
立寄リ（御）
立寄リ・ル
～
～（御）
立分レ・ル
達シ・ス（御）
達シ相成リ・ル
（御）
達シ得・ウ
達シ置キ・ク
達シ置キ・ク（相）
達て《副》
脱印
脱殻シ・ス[1]
タツキ[2]
達シ（御）
達シ書（御）
達シ書（諸）
達シ越シ・ス
達シ濟ミ
奪取シ・ス
脫出シ・ス
脫走
唯ッタ
龍田神社
タップリ《副》
奪掠
～
～シ・ス
堅

建テル《口語》
立テ・ッ（相）
立テ置キ・ク
立オ山〔女形〕
立テ兼ネ・ヌ
建テ切リ・ル
建具
建具師
建具職
建坪
達テ列ネ・ヌ
建場所
建札
建増（たてまし）
奉リ・ル
～
～給イ・ウ
立テ廻シ・ス
建物
～
～（諸）
樹物（タテモノ）
立物
立物俳優（ヤクシャ）
建家
他動
譬エ・ウ
譬エ《副》
迚（たど）リ來*・ク
迚リ出*ル
族（たどん）
棚
束ネ・ヌ
他無シ
タナイス號〔船〕
田中文部大輔（だゆう）
掌（たなごころ）
田邊少警部

渓（たに）
谷少將
谷森太政官書記官
他人ラシ
多人數
種板
種違イ
胤直父子〔人〕
多年
他念
樂シ
樂シミ
樂シミ・ム
～
～居リ・リ
頼（たの）ミ
～
～（オ）
頼ミ・ム（相）
田面（たのも）
頼母シ
他派
煙草
莨（たばこ）入レ
烟草作（さく）
煙艸稅
煙草店頭
田畑
～
～等
束ネ・ヌ
旅（たびしょ）
旅所
旅立チシ・ス
度々《副》
旅寢

旅人
他府縣
～
～下
多分《名》
多分《副》
多分に《副》
喫（タ）ベル《口語》
喰ベ納メ
他方
他邦
多方
多忙
玉
玉川砂利
玉串（おん）（御）
魂消（たまげ）果テ・ッ
卵
玉轉（ころが）シ
騙（だま）シ・ス
騙シ諭（さと）シ・ス
玉造（つくり）稻荷
玉藻學校
賜（たまもの）
靈屋
堪リ・ル
黙（だまむけ）リ・ル
手向（ため）
溜
溜メ・ム
矯（た）メ・ム
揉メ・ム
爲に《接》
試シ
袂
他藥
易（タヤス）シ

1) 卵からかえること　2) 手段

太夫（たゆう）
撓ミ・ム
便リ
頼リ・ル
垂*ラシ・ス
タラ〳〵《副》
垂乳根（たらちね）*
鱈尼經（だら）
足ラヌ勝（が）チ
足ラワヌ勝チ
足リル《口語》
多量
樽
垂井郵便局
樽詰メ彈薬
垂レ・ル
誰彼（たれかれ）
誰人（たれびと）
誰モ彼（か）モ《副》
誰モ彼（かれ）モ《副》
垂レ分レ・ル
束子（タワシ）
戯（たわむ）レ
嘆（たん）
～
～ジ・ズ
短
端
彈（たん）ジ・ズ
團
暖
談
～
～ジ・ズ
～ジツケ・ク
斷ジて《副》
斷ジ易シ
單位
單一純同
單位論者
團圓[1]
檀家
彈劾シ・ス
短褐
歎願
彈丸雨聚
彈丸雨注
歎願書
膽氣
彈器
探求シ・ス
探窮シ・ス
斷金
歎渓（たん）[2]
短徑
團結シ・ス
斷言シ・ス
斷乎
炭坑
談合
～
～シ・ス
探行シ・ス
單光旭日章
炭礦舍
炭坑舍員
淡黃色
單行法令
團子天王
探索
～
～中
單刷
男兒
談示
端緒
誕生
彈正臺
男女生徒
炭薪
單身
丹心
箪笥
端正
端正善良
旦夕
歎惜痛惋（えん）シ・ス
斷然
歎訴
～
～シ・ス
～ナシ・ス
歎息
～
～シ・ス
段々《副》
探知シ・ス
檀中
丹頂
短長
丹頂白鶴
緞（だん）通
探偵
～
～方〔職名〕
～シ・ス
～中（ちゅう）
斷定シ・ス
探偵專務〔職名〕
擔當
～
～致シ・ス
～シ・ス
～シ得・ゥ
探討
單獨執事
旦那
旦那視シ・ス
擔任
～
～シ・ス
淡泊
淡泊物（ぱく）
丹波出張牧畜場
掛リ
斷髪
談判
嘆服シ・ス
短文
探聞シ・ス
談柄
反別
田圃（ぼう）
探訪者
反物
探問シ・ァ
彈薬
探幽摘伏
單用
貪利
耽淪シ・ス
團練[3]
媛嬬
談論致シ・ス
談論シ・ス
談論會
談話
～
～シ・ス
暖和
談話會
血
治
智
チと《副》
小サシ
知音（いん）
遅引シ・ス
チェック[4]
遅延
～
～シ・ス
地價
～
～等
地下
盟（ちかい）
誓イ・ゥ
違イ
違イ・ゥ
治外法權
地價書上ゲ通リ
地價額
近キ《名》
近付キ・ク
～
～玉イ・ゥ
近寄リ・ル
地價割
遅緩
痴漢
知己
知己朋友
地球上
地球上（全）
地球圖
地峽
知行內

1)「團圓に至らしむ」(c)　2) 硯　3)「諸州縣團練の兵丁」(d)　4) 番号札，チッキ

契リ
契リ・ル
～
～初メ・ム
馳駈シ・ス
智愚
逐一　《副》
逐一に　《副》
知遇
築港
蓄財シ・ス
竹紙
逐條
蓄積シ・ス
築造
～
～シ・ス
竹帛
竹片
筑摩縣廳（舊）
地形
地券
知縣[1]
智見
地券證
地券狀
～
～（新）
地券臺帳
地券帳
地券面
地窖
池溝
地誌
知事
～
～（舊）

～（前）
～公
血汐
地質
知悉シ・ス
千島近海
智者
治者
稚弱
智術
知所
地上
地誌署
地印〔記号〕
知事令
池心
智人
地圖
地勢
チセイ[2]
地租改正局
地租改正事務局
地租金
治体[3]
横奪シ・ス
乳
乳房
千々に
父親
父母
縮メ・ム
地中
池中
治朝
秩序
窒素
窒息シ・ス

秩祿公債
秩祿公債証書
馳騁シ・ス
智德
因
因に《接》
智嚢
千葉縣令
千葉判事補
窒扶斯病
地物
チブル號〔船〕
池邊
地歩
治法
地方（各）
地方官會議
地方官會議院
地方官廳
地方官吏
地方裁判所
地方政府
地方税規則中
地方廳
地方長官
～
～（各）
地方分權
地方役所
遲慢
地味
緻密
緻密馴雅
地名
知名（不）
茶入レ
茶園

茶菓子
茶器
着
着意シ・ス
着棺
着盥シ・ス
着眼
着櫃[4]
着御シ玉イ・ウ
着京
～
～シ・ス
着港シ・ス
着坐ナシ・ス
嫡子
着實
着車（御）
着手中
着手ナシ・ス
着手落成届
着床
着々　《副》
着任
着坂シ・ス
着府シ・ス
着服
着目
着輿（御）
着用
～
～シ・ス
着帶（御）
着論シ・ス
茶室
茶人
茶人學
茶水錢[5]

チャゼエ造船場
茶代
茶種
茶々無茶に《副》
茶亭（一）
茶道具師
茶箱
茶話
茶店
茶名
茶屋
茶屋々々
茶料
茶碗
チャンネル鑑除[6]
チャンネルスクエドロン[7]
チヤンブルオフコンメルス[8]
衷
誄シ・ス
註シ・ス
中尉
注意
～
～（御）
～（不）
～致シ・ス
中央
中央政府
中央美術館
鑄貨
沖海[9]
虫害
中外物價新報
中學課

1）清國の官職　2）朝鮮語。韓国出入品税　3）「自由ノ治体ヲ採澤シ」(b)　4）「埋葬地へ着櫃」(c)　5）「香燈錢〔孔子の牌位に献ずる金錢〕四百文程茶水錢〔生徒の飲用する茶代〕一吊二百文程」(d)　6),7）英国の，海峡艦隊　8）chamber of commerce 商工会議所　9）「錨鎖ヲ切リ捨テ沖海ニ向テ出船ス」(c)

中學師範科生
中間
忠義怖敬心
抽氣ポンプ
中級
誅求シ・ス[1)]
中警視〔職名〕
中劇場
忠言
忠告
～
～シ・ス
忠告社
忠魂
仲裁
駐在
～
～シ・ス
駐在官
駐劄
～
～シ・ス
仲子
蟲刺
注思シ・ス
中止シ・ス
中止ナシ・ス
注射シ・ス
中旬
～
～頃
中將
中情[2)]
中小學區數
晝食(御)
忠臣
中心

註進・注進
～
～シ・ス
稠人
中人[3)]
中心政府
忠親王祠[4)]
忠誠
中正
鑄成シ・ス
柱石
抽籤
抽籤法
鑄造
晝餐
～
～(御)
中除
中除長
中段
躊躇シ・ス
中廳
鑄鉄門
中途
中堂
中等位
中等判任
中毒
鑰板
中風
中分シ・ス
忠憤義勇
忠平夫婦
中米
稠密
注目シ・ス
注文

～
～(御)
～シ・ス
注文品
晝夜
晝夜併學
中立
中署
中流[5)]
駐蹕(御)
中和黨
著
長[6)]
町・丁
蝶
朝[7)]
兆
丁[8)]
膓
聽
吊シ・ス[9)]
長ジ・ズ
貼ジ・ズ
帳合
吊慰法[10)]
調印
～
～シ・ス
鳥羽[11)]
懲役人
懲役場
～
～內
超越シ・ス
朝家
廳下
超過
～

～相成リ・ル
～シ・ス
町家
超加シ・ス
超駕シ・ス
懲戒
～
～シ・ス
町會所
懲戒處分
懲戒例
蝶形
長官
聽官〔職名〕[12)]
朝規
朝議
長久院
聽許シ・ス
調金
長徑
長計表
朝憲
徵候
彫刻
～
～シ・ス
雕刻家
彫刻スル等
調査
～
～シ・ス
調劑
吊祭料
調査局
長策
銚子
長次官

懲治檻入レ
長次男
聽者
長者
聽取シ・ス
聽衆
徵收
～
～シ・ス
鳥獸
聽從シ・ス
兆象
徵証
～
～シ・ス
嘲笑シ・ス
頂上
重盛
調食室
調進シ・ス
潮勢
調製
～
～方
～シ・ス
長逝シ・ス
朝夕
朝鮮窯
長泉寺
朝鮮米
町村
～
～(各)
～(何)
～毎
町村會議
町村人民
町村費

1)「其出金ヲ誅求シ」(b)　2) 心の中　3) 普通人，中等人　4)「忠親王祠又僧王祠ト云」(e)　5) 川中(かわなか)の意　6) 長所の意も2例含む　7) 朝廷のこと　8) 双六の采の目　9) 横死を吊し　9),10) 吊は弔の俗字　11)「鳥羽モ亦重モニ婦人ノ裝飾ニ用ウル～」(d)　12)「其門內ニ聽官ナル者アリテ」(d)

町村割リ
長大
頂戴
～
～致シ・ス
釣桁[1]
雕琢シ・ス
暢達シ・ス
長短
～
～等
長歎大息シ・ス
打擲シ・ス
廳中
牒中
喋々
～
～シ・ス
提灯
帳面
朝敵
調度
丁度
町内
廳内
長男
町人
帳塲
嘲罵
～
～シ・ス
朝拜
朝非暮是
重複シ・ス
長文
徵兵
徵兵使

徵兵選擧
徵兵年齡
徵兵令
帳簿
～
～(諸)
～上
朝暮
徵募
～
～外
重寶
～
～(不)
眺望
～
～シ・ス
長寶丸〔船〕
徵募兵
脹滿
町名
帳面
廳門外
朝野〔新聞〕
朝野
朝野記者
調藥
朝野社
朝野新聞
貼用
～
～方
～シ・ス
朝陽丸
調理致シ置キ申
シ・ス
調理シ・ス

鳥力
彫鏤(ル)シ・ス
鳥類社會
調練大鼓
貯金
貯金預リ所
貯金法
貯金方法
直[2]
勅[3]
直管區長
勅許シ・ス
直經
直言
直言激論
勅語
直接シ・ス
直線
勅奏官
勅奏任
勅奏任官
勅奏判任官
勅任
勅任官
著作譯述シ・ス
杼軸[4]
著述
著述家先生
著書
貯藏シ・ス
著大
貯蓄
～
～シ・ス
一寸見(チヨツトみ)
猪肉
楮幣

チヨロマカシ・ス
結髽(チヨンマゲ)
散ラシ・ス
チラホラと《副》
治亂
塵
地理
地理學
地理局
地理測量課
塵溜メ
塵葉(ちりつば)
地理風俗記
縮緬
知了シ・ス
智力
智力平均論
雉盧[5]
痴話
朕　《代名》
陳
～
～ジ・ズ
鎭火
～
～シ・ス
珍奇
珍器
丁幾(チンキ)
沈毅
賃銀
珍金寶石
賃粉切リ
沈思熟慮
鎭守シ・ス
陳述
～

～仕リ・ル
鎭守府
枕上
鎭將府
鎭靜シ・ス
賃錢
珍膳美味
沈滯シ・ス
鎭臺
～
～(各)
鎭臺兵
鎭臺兵卒
珍重シ・ス
鎭定
～
～シ・ス
陳套
枕頭
闖入シ・ス
陳品所
鎭府
鎭撫
陳腐言
沈沒シ・ス
陳列
～
～致シ・ス
陳列會
陳列館
陳列塲
陳列品

ツ《符号》
突(つ)と《副》
追シ・ス

1)「上古ノ水瓶，鏡，釣桁」(c)　2)「迂を化して直となす」(e)　3) 勅任官の略　4)「士人ノ奔命ニ疲レ黎庶ノ杼軸ニ竭キ」(c)　5)「閑室ニ雉盧ノ呼聲ヲ聞キテ」(e)

遂（ついえ）《副》
費（ついえ）
追憶シ.ス
追加
～
～シ.ス
追加表
追願シ.ス
追却シ.ス
追賞
～
～シ.ス
追贈シ.ス
一日頃（ついたち）
衝立（ついたて）
衝立越シ
追逐シ.ス
追徴
～
～シ.ス
追徴處分
序（ついで）
序に
追納
追捕
追慕シ.ス
追放シ.ス
墜落
通ジ.ズ(相)
通運會社
～
～等
通過シ.ス
通學
～
～シ.ス
通學修行(御)

通客冶郎（やろう）
通關シ.ス
通觀シ.ス
通御
～
～遊バシ.ス
通計
通券
通航
～
～シ.ス
通行(御)
通行シ.ス
通好
通行止（どめ）
通行門
通筭表
通ジ
痛所
通商
通常
通常會議
通商工事
通商互市
通常歲入
通常茶菓
通商貿易
通信
～
～シ.ス
通信委員
通信者
痛省（せい）シ.ス
痛惜シ.ス
通船
～
～シ.ス

通達
～
～シ.ス
痛歎シ.ス
通知
～
～(御)
～致シ吳レ.ル
～シ.ス
通同構辯[1]
通讀シ.ス
通辨シ.ス
通法
通報相成リ.ル
通名
通用
～
～シ.ス
通用貨幣
通覽(御)
通覽遊バシ.ス
通理
通例
通韋(御)
杖（つかい）
使
使イ.ウ
～
～居ル
～果シ.ス
番（つが）イ.ウ
遣イ拂イ
～
～共
遣イ拂イ.ウ
事（つか）エ.ウ
番（つが）エ置キ.ク

仕人（つかえびと）
掌（つかさど）リ.ル
束ネ.ヌ
摑ミ.ム
抓（つか）ミ出（だ）シ.ス
摑ミ取（と）リ
疲レ
疲レ.ル
遣ワシ.ス
～
～置キ.ク
～玉イ.ウ
月毎
即（つ）キ玉イ.ウ
突キ.ク
就て《接》
就（つ）ては《接》
吐（つ）キ.ク
次ギ.グ
次（つい）で《接》
繼ギ.グ
月光（つきあかり）
突合ワセ
繼到リ.ル
繼受ケ.ク
月極（ぎ）メ
衝潰（くず）シ.ス
春米渡世（つきごめ）
築地本願寺
月中（ツキ）
調神社
月末
附添イ.ウ
突出シ.ス
突立（つきた）テ.ツ
月々（つきづき）
突貫キ.ク

繼綴ジ.ズ
月中
月並ミ
突除ケ.ク
月番
春減リ
月見御所
築山
月割リ
机
尽シ.ス(相)
佃（つくだ）[2]
熟々（つくづく）《副》
償（つぐな）イ.ウ
筑波縕
ツグミ居ル
作リ
造替エ.ユ
作リ方
作リナシ.ス
附ケル《口語》
附ケ置キ.ク
附ケ下（お）シ.ス(御)
告ゲ奉リ.ル
告ゲ玉イ.ウ
附人（つけおん）(御)
附箋（ふだ）
漬物
～
～等
附焼刃
都合(御)
辻占（つじ）
辻詰
辻待チ
辻文部權大書記官

1)「通逃ト通同構辯ノ二事ヲ防止スルヲ得ハ」(b)　2) 佃節の略

傳エ誤リ.ル
津田岡山縣大書
　記官
津田議官
拙シ
傳ワリ.ル(相)
土
土芋
土浦支廳
土コネ
戊辰（つちのえたつ）
土屋邸
筒
恙無シ
續キ物語
續ケ打チ
筒先
謹シミ.ム
筒袖
突立チ上リ.ル
堤
包ミ
包ミ.ム
葛籠（つづら）
夙（つと）に
都度
集イ.ウ
　～
　～來リ.ル
集（つど）エ.ウ
勤メ
勤メ.ム
　～
　～(相)
　～來リ.ル(相)
務メて
勤メアゲ.グ

綱
繋ギ.グ
　～
　～置キ.ク
繼留（つなぎと）メ.ム
綱引（つなひき）
常々
角
募リ
椿
唾（つばき）シ.ス
潰（つぶ）シ.ス
咳（つぶや）キ.ク〔呟〕
潰レ申シ.ス
潰地（つぶれち）
壺
坪數(惣)
蕾
夫（つま）
爪繰リ.ル
爪先登リ
ツマサレ.ル[1]
詰ラヌ　《連》
詰リ　《副》
摘ミ.ム
積來リ.ル
罪シ.ス
積上ゲ.グ
積石等
積入レ.ル
積置キ.ク
積送リ.ル
積卸シ.ス
積重ネ.ヌ
積金（きん）
摘草（つみくさ）
積込（こみ）

積込ミ.ム
積貯エ.ウ
積出（だ）シ.ス
積立テ
積立テ.ツ
　～
　～得.ウ
積立金
積取リ.ル
積荷
紬引（つむぎびき）工女
颶風（つむじ）
爪
詰（つめ）[2]
詰メ.ム
　～
　～居リ.リ
詰合イ
詰合イ.ウ
詰切リ.ル
詰所
爪彈キ
詰寄セ.ス
詰寄リ.ル
積（つも）リ
積リ.ル
露
强イ　《口語》
强キ　《名》
强氣
熟々（つらつら）
熟々と
連ナリ.ル
　～
　～(相)
貫キ.ク
列ネル　《口語》

列ネ.ヌ
釣リ.ル
　～
　～置キ.ク
釣合イ
　～
　～(不)
釣出ダシ.ス
釣鐘
釣橋
鶴
鶴龜
敦賀丸　〔船〕
劍（つるぎ）
吊シ.ス
連レ
連レ.ル
　～
　～申シ.ス(オ)
連歸リ.ル
連込ミ.ム
連出（だ）シ.ス
連立チ.ツ
連立チ歩行（ある）キ.ク
徒然（つれづれ）
無情（つれな）シ
連行キ.ク
劈（つんざ）キ.ク

手(両)
出合頭（がしら）
出合塲所
手足
手當リ放題
手厚シ
　～

　～(オ)
手當（てあて）
手當金
出歩行（ある）キ.ク
手合ワセ.ス
帝
邸
亭
丁[3]
呈シ.ス
定位[4]
帝位
定員
定運
庭園
帝王徒
帝王黨
低價
定價
低下
　～
　～シ.ス
定額
定額金
定價旅籠料
定價表
停刊
定欵
定規
定期
程規
定規試驗
提供シ.ス
定見
定限
遞減致シ.ス
抵抗
　～

1)「身につまされしも花盗人（ぬすひと）の自業自得」(c)　2)「土橋の詰（つめ）よ」(c)　3) 丙丁の丁　4) 貨幣の品位を定めること

～シ・ス
抵抗說
抵抗論辨シ・ス
帝國
～
～（新）
体裁
提糸[1]
涕泗
停止シ・ス
程式
帝室
停車場
亭主
呈出發露シ・ス
提障
抵觸シ・ス
鄭人
定成シ・ス
遞送（御）
遞送シ・ス
遞送配達シ・ス
定則
停滯不流
邸宅
偵知シ・ス
艇中
庭中
提調[2]
蹄鉄工
定點
低度
程度
泥土
抵當
～
～（無）

堤塘
低頭シ・ス
抵當物
邸內
庭內
定認狀
丁寧
泥濘
碇泊
～
～シ・ス
低卑
貞婦
堤防
弟妹
締盟
定名定位[3]
定約
締約
～
～シ・ス
低落シ・ス
出入リ
～
～シ・ス
庭燎
手入レ
食卓
テエブル号〔船〕
手踊リ
手織リ
手掛リ
出掛ケ・ク
出掛ケル《口語》
手數（御）
出稼ギ
出稼ギ娼妓

出方〔芝居茶屋〕
手紙
手輕
敵
～
～シ・ス（相）
出來
～
出來兼ネ・ヌ
出來上リ・ル
敵愾
出來方
適宜《名》
適宜《副》
擲棄シ・ス
敵抗シ・ス
敵國
敵視シ・ス（相）
溺死人
敵情
適切
出來高
～
～（現）
適當
～
～（不）
敵黨
摘發シ・ス
適否
敵兵
的面〔覿面〕
摘要
摘用シ・ス
適律
適齡
適例

手際
手癖
手子萬天々と[4]
手頃
手先
出先
手提トロンク[5]
弟子
弟子僧
手順
手燭
テ印〔記号〕
手數
～
～等
手數料
手ズカラ
手摺レ
手製
手狹
出揃イ・ウ
手代
手出シ
出鱈目草紙
手帳
鉄
撤シ・ス
鉄塊
鐵纜
鋲管
デッキ
鐵橋
手附ケ金
鉄工
鉄鋼
鉄甲船
鐵船

鋲造
手傳イ・ウ
手傳イ吳レ・ル
手續キ書
鉄棹
鐵道
～
～用
鐵道際
鐵道構內
鉄道線路
鐵道列車內
鉄扉
鐵砲
鋲炮ノ間[6]
鉄砲腹
手詰メ
徹夜
鉄路上
手道具
手取リ
手內職
テナイス号
〔船〕[7]
手習イ
手馴レ・ル
手ニ手ニ
手拭
掌
出端
手配
手筈
出外レ・ル
出刃庖丁
手早シ
手廣
テプツレエ号
〔船〕

1）「〔本邦ノ〕提糸ハ～○斷糸多シ○縫糸多シ」(a) 2）とりしまること 3）本位貨幣の名目と品位とを定めること 4）「四月九十両日手子萬天々と興行する」(c) 5）手提げトランク 6）「鉄炮の間と唱へしお座敷」(c) 7）「タナイス号」も見よ

手振り
手辨當
手前
手前勝手
手間取り.ル
出廻り.ル
出水
出店
出迎エシ.ス
出迎エ.ウ
出向キ.ク
テモ　《感》
デモクラチック黨
デモクラット黨
手許
デモ泥[1]
手モ無ク　《副》
寺
照シ合ワセ.ス
照シ見玉イ.ウ
寺田屋
手ランプ
テレカラフ[2]
帝列並油
手練手管
手分ケシ.ス
手業
天
典[3]
恬[4]
轉ジ.ズ
點ジ.ズ
傳
天意
轉移シ.ス
傳移シ.ス

天宇[5]
轉衣　〔仏教〕
田園
轉訛
天下(全)
點火シ.ス
點畫
田樂燈籠
天花痘〔病名〕
點火夫
添翰
癲癇症
天氣
天機
電氣
天機伺イ
轉居
　～
　～シ.ス
傳敎師等
天惠
典刑
點檢
　～
　～シ.ス
點檢濟ミ
典故
恬乎
天幸
電光
天災
甜菜
天産
天蠶會社
天産物
展示シ.ス
天竺桂油

點者
田舍
田舍漢
店主
轉住シ.ス
傳習中
天主敎
天主堂
添書
天正　〔年号〕
天上
天壞
天井
轉塲シ.ス
傳稱シ.ス
殿上人
天眞
轉陣
電信
電信會社
電信架線
電信局
天津城
電信線
電信中央局
電信賃錢
天神橋
電信文
電信分局
天瑞寺
點數
天性
傳聲致シ.ス
轉籍寄留致シ.ス
轉舌
傳說
　～

　～シ.ス
點線
轉戰
　～
　～シ.ス
恬然
電線
傳染
　～
　～シ.ス
傳染病
天造物
天則
典則
塡塞シ.ス
田高
傳達シ了リ.ル
天地
田地
田地持チ
點茶式
天誅暗殺
天朝
天長節
テンツクドンツク　〔写声〕
天帝
展轉
店頭
點燈
天道
顚倒
點燈費
轉任
天然
天然自然
天然痘〔病名〕

天皇
天王寺
天王寺蕪
天皇陛下
傳播シ.ス
轉賣シ.ス
田畠
天秤
天賦
轉覆シ.ス
テムプス新聞[6]
田夫野人
天麩羅
傳聞シ.ス
轉變
田畝
　～
　～(各)
天保　〔年号〕
天保通寶
天保年間
天馬
天滿青物市塲
傳馬船
顚末
天滿橋
天明　〔年号〕
顚滅
轉免
天文臺(假)
田野
添用シ.ス
傳來
天覽
　～
　～シ.ス
天理

1) 泥棒でもしようの意　2) telegraph　3) 儀式　4)「恬として」(d)　5)「大風一掃天宇清ク」(b)　6) Temps

天鵞[1]
傳令シ・ス
傳令掛リ
傳令使
傳話機

戸
砥
途
賭シ・ス
兎[2]《副》
度
投網（とあみ）
問（とい）
訪（と）イ・ウ
問合セ
問イ方
戸板
獨逸公使
獨逸政府
獨逸人
問屋（といや）
～
～(諸)
黨
當《名》
盜
磴
燈
等[3]
套〔記号〕
蕩シ・ス
討シ・ス
堂
同ジ・ズ
動ジ・ズ

ドウ《副》
ドウか《副》
ドウして《副》
ドウも《副》
堂と《写声》
冬衣
同意
～
～(不)
～シ・ス(不)
撞一撞シ・ス
統一シ・ス
同一般
同意味
堂宇
鬪毆中
東下
投下
同價
銅貨
黨魁
東海
等外
東海道筋
東海道物
當該人
等外吏等（ら）
等外吏員
頭角
同學シ・ス
統轄シ・ス
ドウガナ《副》
等閑
洞觀シ・ス
騰貴
～
～シ・ス

冬季
投機
登記シ・ス
投棄シ・ス
投歸シ・ス
討議
～
～シ・ス
銅器
動議
胴衣（ぎ）
銅器會社
陶器店（てん）
陶器燒
等級
討究シ・ス
逃去
同居
～
～シ・ス
同郷
同業
同業記者中
東京宮城
東京協義社員
東京警視本署
東京藝者
東京市街
同業者
東京上等裁判所
東京大學
東京鎭臺
東京築地區裁判所
東京日々新聞
東京火消シ
東京風（ふう）

東京吹よせ新聞
東京府廳
東京府病院
東京丸〔船〕
當局
當局者
當金[4]
道具
～
～(諸)
同宮[5]
道具屋
同君
當家
同家
統計
東經
投繋シ・ス
統計家
統計學
統計要署
同家製（け）
洞穴
同月
刀劍
撞見シ・ス
同縣人
當港
當行
騰降
凍合シ・ス
同校
同公
同港
同好
同行シ・ス
當國

黨獄
東國
當今
等差
動作
盜罪
同罪
東西縱橫
東西南北中（ちゅう）
當座凌ギ
搗殺シ・ス[6]
銅山
答辭
湯治
～
～中
同志
～
～中
～輩
同視シ・ス
同時
同寺
童子
～
～等
銅地
湯治歸リ
荅式
同識見
同視混淆シ・ス
同志者
洞悉シ・ス
當日（御）
謄寫シ・ス
導者
同車シ・ス

---

1)「黃鵠天鵞」(b)　2)「兎（と）せん斯せん（かく）」(c)　3)「女子ノ男子ト～等ヲ均フスル」(e)　4)「當金廿五圓ヨて」(c)　5) 伊勢神宮をさす　6)「大槌ヲ以テ之ヲ搗殺シ焚盡セリ」(e)

當主
～
～方（がた）
桐樹
同種
當秋
刀銃
同舟
投宿シ.ス
同宿シ.ス
當春來
答書
當所
當初
盜所
投書シ.ス
當塲
騰上
～
～シ.ス
東上シ.ス
同症
同商等（ら）
同上
同情
東照宮
同商賣
當省名
動植物
當署詰
投書人
投書櫚内
唐人
蕩尽シ.ス
道心(新)
道人
同心協力シ.ス

騰水器
糖水酒
ドウセ《副》
當世
統制シ.ス
動靜
銅製
～
～等
塔世橋畔
當節
東遷
當然
洞然
銅錢
同船
蕩然汗漫
投扇競
ドウゾ（ママ）《副》
逃走（そう）シ.ス
盜賊(準)
逃走自首シ.ス
盜賊
道俗
道祖神
當村
同村外
當臺[1]
燈臺
動体
同隊中
道臺[2]
東大寺
到達
東地
到着
～

～シ.ス
島中
燈柱
登廳シ.ス
同廳
同町
同丁[3]
同調所〔ガスの〕
當直警部
同枕致シ居リ.リ
疼痛
藤造（とうづくり）リ
登梯（ママ）
同店
東都（とうと）
貴（とうと）シ
唐土
滔々
到頭*《副》
磴道
同等
同島
同黨
同道
～
～シ.ス
～ナシ.ス
堂々
藤堂邸(舊)
道德
～
～上
貴（とうと）ビ.フ
頭取
島内
堂内
東南

盜難
童男
東南東
投入シ.ス
童女
當人
～
～(オ)（ち）
同人等
當年中
黨派
頭髮
騰發シ.ス
盜犯
登攀シ.ス
島蠻
當否
凍筆
投票
投錨
～
～シ.ス
投票數
豆腐
盜風
動物
唐物屋
當分
糖分
同文
～
～(前)
同文言
荅辨
～
～シ.ス
～シ兼ネ.ヌ

荅辨書
當方
悼砲[4]
逃亡
同胞
東方戰爭
東方論
東北
東北東
稻米
動脈
動脈瘤
燈明器械
島民
黨民
當務
透明
黨名
同名
同盟會
頭目
蜀黍（とうもろこし）
同夜
同役
ドウヤラ《副》
燈油
黨與
～
～シ.ス
東洋
登用シ.ス
動搖シ.ス
當用口
東洋市場（しじょう）
東洋人
東洋人民
黨與心

1) 当鎮臺の意　2) 清国の官職名　3) 書物の，その丁　4)「八分時毎に悼砲を放ち」(c)

トウラアブ門[1]
到來
道樂
動乱
胴亂
道理(不)
逗留(五)
逗留シ.ス
棟梁
同僚
黨類
同類
荅禮シ.ス
燈籠
登錄
～
～シ.ス
謄錄シ.ス
登錄辨理シ.ス
道路地
道路堤防費
討論
～
～シ.ス
討論會
當惑
～
～シ.ス
十日町組
遠ザカリ.ル
通シ.ス
トオパズ〔宝石〕
通リ.ル
通リ掛リ.ル
通リ掛リ
都下
徒過シ.ス

都會
土塊
度外
渡海船
兎角に
咎メ.ム
說キ.ク
解キ.ク
研ギ.グ
說出シ.ス
說起シ.ス
時借リ
時々　《副》
時々に　《副》
渡御
土京[2]
途切レ摸様
常盤
常磐神社
常磐樓
德
督シ.ス
夙ク　《副》
疾クに
篤と　《副》
毒
得意
得意先
～
～(諸)
得意場
特科
讀下シ.ス
德川家
德川三代將軍
德川從三位君
德川將軍

督監シ.ス
特許
特揭シ.ス
特權
獨銛
德行
篤志
特旨
讀史
得失
篤疾
得者
讀者
毒蛇
讀書
讀書癖
得心シ.ス
篤信仕リ.ル
獨身
特撰幹事
督促
德大寺宮內卿
德田海軍大尉
德澤
戶口
得點
特典
疾々　《副》
獨任シ.ス
毒波
犢鼻褌[3]
毒物
德兵衛夫婦
特別
特別賞牌
德望
毒虫

特立シ.ス
獨立シ.ス
獨立國
獨立人民
獨立單行シ.ス
獨立不羈
獨力
髑髏
土軍[4]
解ケ.ク
時計
時計屋
床
何處
徒行
兎斯ウ　《副》
渡航シ.ス
土功[5]
土國砲臺
床ノ間
處得顏
所々
年(御)
徒死
閉ジ.ズ
同志
年數
年頃
土質
年月
年波
年增
年增盛リ
豊島丸
吐瀉
土砂
吐綬鷄[6]

途上
土將[7]
圖書局
塗飾シ.ス
圖書板權
年寄リ
～
～共
妬心
都人
土人
渡世
土性
土政府[8]
渡船
渡船場
土藏
土臺
戶棚
～
～(お)
途端
塗炭
トタン
トタン岩
栃木新聞
栃木新聞社
土地種
ドチラ　《代名》
爺サン(オ)
ドツと　《副》
途ツ追イツ《副》
突起シ.ス
嫁ギ.グ
德利と　《副》
突昇シ.ス
突進シ.ス

1) ペルシャ首府テヘラン市中の門　2) トルコの首府　3)「我カ犢鼻褌ヲ補ヘテ」(e)
4) トルコ軍　5) 土木工事　6) 七面鳥の異名　7) トルコの將軍　8) トルコ政府

突然　《副》
ドッチゼイトン
　新聞[1]
咄々（とつとつ）　《感》
突入
　～
　～シ.ス
土手
徒弟
土帝[2]
土廷[3]
兎テモ角テモ
爺（トト）サン
度々（どど）
都々逸（どどいつ）
徒黨
怒濤
届キ.ク
茶毒
届
　～
　～(無)
　～方
　～等
届ケ.ク
　～
　～(お)
　～相成リ.ル
　～出（いだ）シ置キ.ク
届出（とどけいで）
　～
　～シ.ス
届ケ越シ.ス
届書（しょ）
届濟ミ(御（お）)
届ケ出ル《口語》
届ケ漏レ

滯リ
滯リ.ル
調イ.ウ(相)
整エ.ウ
止（とど）メ
留（とど）メ.ム
　～
　～置キ.ク
　～申シ.ス(お)
蟠カシ.ス
稱エ
稱エ.ウ(相)
唱エ居リ.ル
唱エ來リ.ル
誰方（どなた）　《代名》
隣（となり）
隣リ.ル
怒鳴リ.ル
怒鳴リ込ミ.ム
隣町
斗南藩士(舊)
兎ニ角　《副》
兎ニ角にも《副》
兎ニモ角にも
　《副》
利根川組
毆
賭博
飛バシ.ス
土橋（どばし）
都鄙
徒費
　～
　～シ.ス
鳶
飛ビ.ブ
飛上リ.ル

飛入リ.ル
飛ビカカリ.ル
飛來リ.ル
飛切（きり）　《副》
飛込ミ.ム
飛出シ.ス
飛立チ.ッ
飛散リ.ル
飛付キ.ク
飛乘リ.ル
飛火
土俵
土俵入リ
戸扉
都府
屠腹シ.ス
土兵
徒歩運動
土木
奴僕
土木課
唐（とま）
塗沫シ.ス
泊リ
　～
　～(御（ん）)
泊リ.ル
留（とま）リ.ル
泊リ客
泊郵便局
富（とみ）
富（とみ）に　《副》
富岡製絲場
富小路侍從（とみのこうじ）
富屋組
土民
止（と）メ.ム

留（とめ）置キ.ク
友
舳（とも）
共[4]
共に(相)《副》
兎モアレ《副》
兎モ角　《副》
點（とも）シ.ス
燈火（トモシビ）
共潰レ
友杼（とも）知[5]
共々（ともども）　《副》
共～に　《副》
伴イ.ウ(相)
伴イ兼ネ.ヌ
共寢
都門
兎ヤ角　《副》
戸山學校
屠羊說
土曜日
　～
　～毎
豐國社
豐國神社
豐松袋烟艸等
虎
ドラ[6]
渡來
　～
　～シ.ス
捕エ.ウ
　～
　～得.ウ
捕ワレ.ル
鳥
捉（とと）リ.ル(相)

取居ル
取難シ
取來リ.ル
取染メ.ム
取合イ.ウ
不取敢（とりあえず）　《副》
取揚ゲ.グ
取上ゲ高
取扱イ方
取扱イシ.ス
取扱イナシ.ス
取扱イ人
取集メ.ム
取入レ.ル
取行イ.ウ
　～
　～申シ.ス
取押エ.ウ
　～
　～置キ.ク
鳥尾中將
取落シ.ス
取換エ.ウ
取掛リ.ル
取掛ル等
取圍（かこ）ミ.ム
取片付ケ.ク
取換（かえ）シ.ス
取極リ.ル
取極メ
取極メ.ム
　～
　～(お)
取崩シ.ス
取消シ
取消シ.ス
取捌（さば）キ.ク

---

1) ウイーンの新聞名　2) トルコ帝　3) トルコ朝廷　4)「今宵（こよい）ハ夜とゝも語（かた）らひて」(c)　5)「友杼知多波牟禮遊布」(c)　6)「ドラハ放蕩ノ俚語ナリ」(e)

取仕組ミ・ム
取鎖メ・ム
取仕舞置キ・ク
取締リ
取締リ・ル
取締リ筋
取締リ役
取調ベ
～
～(御)
～致シ・ス
～置キ・ク
～置キ申シ・ス
～中
～申シ・ス
取調ベ主務
取調ベ書
取調ベ濟ミ
取調ベ高
取縋リ・ル
酉税額
取糺シ中(お)
取立テ
～
～方
取建テ[1]
取付キ・ク
取次ギ
取附キ寒サ[2]
取次招牌
取膳イ
取繕イ・ウ
取續キ
取續キ・ク
堡
取留リ・ル
取々
取直シ・ス
取除ケ・ク
～
～中
取退ル
取殘シ・ス
取除キ・ク
取計イ
取計イ來リ・ル
取放チ・ッ
取拂イ・ウ
取引
～
～シ・ス
～上
取引所
取引條例
取擴ゲ・グ
取卷キ・ク
取交ゼ・ズ
取纏メ
取纏メ・ム
取結ビ・ブ
取設ケ・ク
取持チ・ッ
取戻シ
取戻シ・ス
取リモ直サズ　《副》
取物
土領[3]
度量衡
度量尺
努力
取寄セ・ス
取分ケ　《副》
弗
奴隷
奴隷傭人
トレエド[4]
吐露シ・ス
泥
徒勞
トロカデロ園中
トロカデロ古物館
トロカデロ本館
泥水稼業
トロロと[5]《副》
トロロ汁
鈍
頓悟
屯在シ・ス
遁竄シ・ス
頓死等
遁辭
頓着シ・ス
頓首
屯署
緞子
呑噬
～
～シ・ス(相)
遁走
飛ダ　《副》
遁逃
ドンドコドン
《写声》
ドンナ　《連》
鳶
內會議
內外勤
內外交涉
內外人
內外親疎
內海砲臺
內閣
～
～(新)
內廓
內閣議會
內閣顧問
內閣宰相
內閣雜誌[6]
內患外寇
內儀(オ)
內議員
內勤
內見シ・ス
內訌
內國債
內國種
內國商賣
內國人
內國通運會社
內債
內濟
內財
內旨
內侍
內使
乃至　《接》
內示シ・ス
內心
內人
內達
～
～(御)
內勅
內々　《副》
內部
內務[7]
內務卿輔事務局
內務省中
內務省出張所
內務少輔
內務省用地
內命
內約
內約定
內洋
內乱
名腕[8]
苗木
直シ
猶且　《副》
尚更　《副》
等閑
癒・直シ・ス
尚々　《副》
癒リ・ル
仲*
長・永
永井玄蕃
長歌局[9]
長柄傘
仲買
～
～等
仲買商等
仲買人
中川一等警視補
中坐[10]
長崎表

1)「家作取建にも差障り」(c)　2) 冬の始めの急な寒さ　3) トルコ領　4) trade　5)「蔦トロヽとチョロマカス」(c)　6)「魯國ノ內閣雜誌ハ～ト明言セリ」(d)　7) 內務省の略　8)「何れも名腕の人々ふれヽ」(c)　9)「地歌局」参照　10) 寄席の，中坐

長崎女　～
長崎海軍出張所　～上
長崎上等裁判所　眺メ
流シ・ス　詠メ・ム
中仕切リ決算　～
中軸　～居ル
流シ先[1]　長持
流シ塲　長物語
中洲　長屋
中仙道筋　中屋舗
媒　永ラク《副》
～　流レ
～シ・ス　流レ・ル
媒人　流レ込ミ・ム
中津士族　流レ渡リ・ル
中津黨　長脇差
永富座　長煩イ
中々《副》　泣キ・ク
中々に《副》　雍ギ・グ
長々と《副》　亡骸
中ニ就キテ《副》　啼聲
永年　泣キ沈ミ・ム
中旬　雍ギ倒シ・ス
～　泣キ出シ・ス
～頃　慰ミ(御)
半バ　慰メ・ム
～　無クシ尽シ・ス
～頃　泣ク泣ク《副》
～シ・ス(相)　亡クナリ・ル
長引キ・ク　投ゲ・グ
仲間　投合イ・ウ
～　投掛ケ・ク
～等　歎カワシ
汝命　嘆キ
中正樓　嘆キ・ク
中村樓　嘆キ悲シミ・ム
投込ミ・ム
投棄テ・ツ
投付ケ・ク
投遣リ・ル
名子[2]
仲人
名古屋鎭臺
名護屋丸〔船〕
名殘リ
情ケ
情ナシ
梨子
爲シ居ル
爲シ得・ウ
爲シ置*キ・ク
爲シ難*シ
爲シ兼*ネ・ヌ
爲シ吳*レ・ル
爲シ果テ・ツ
成シ下シ置キ・ク
馴染ミ
馴染ミ・ム
詰リ・ル
茄子
何故《副》
名高シ
宥メ・ム
宥メ諭シ・ス
宥メ賺シ・ス
夏
捺印致シ・ス
捺印シ・ス
夏衣
名面
ナドか《副》
七重
斜メ
何かの
何も
何氏
何會
何學
何ガナ《副》
何カハ《副》
何官
何區(第)
何クレトナク《副》
何郡
何氣ナシ
何縣
何國
何心
何品
何シロ《副》
何地
何處[3]
何卒《副》
何トナク《副》
何々
～
～圓
何人
何府
何分署(第)
何某
ナニマレと[4]《副》
何モ蚊モ《副》
何物
何ヤカ《副》
何ヤ蚊ヤ《副》
何ヤラ
何故《副》
難波古圖
何ハ兎モアレ《副》
名主
名告
名乘リ・ル
鍋島家
鍋島侍從
鍋島藩
鍋島藩邸(舊)
ナポレオン迦遺砲
生意氣新聞[5]
生意氣新聞社
名前
生疵
腥シ
遊惰者
慈《副》
鯰
生鱠
生鰯
生味噌
波
並ミ
並ミ居ル
並木
浪々[6]《副》
浪ノ花
並ミ旅行
南無《感》
南無阿彌
南無妙
嘗メ・ム
納屋
惱マシ・ス
～
～奉リ・ル

1) 流し場　2)「名子又ハ小作ト唱ヘ」(ａ)　3)「教導圀入學願～何國何郡何處産」(ａ)
4)「わきて心を尽しなよまれと不自由ふる者ハ家財をつくして」(ｅ)　5) 新聞名　6)「差出ス銚子浪々受けて」(ｅ)

懊ミ(御)
艱ミ・ム
楢
慣イ
奈良縣權令(舊)
鳴ラシ・ス
奈良朝
奈良漬
並ビ・ブ
〜
〜(相)
竝ビ興リ・ル
竝ビ立チ・ッ
並べ・ブ
習ワシ・ス
慣ワセ　《名》
成居*ル
成難シ
成兼ネ・ヌ
成玉イ・ウ
成立チ・ッ
成田不動〔寺〕
鳴響キ・ク
業平橋
成行キ・ク
活業
鳴渡リ・ル
成島圖書頭
成丈　《副》
成可丈　《副》
成可ク　《副》
成程　《副》
馴レ・ル
〜
〜合イ・ウ
〜初メ・ム
繩

苗代
繩目
何
〜圓
〜月
〜石
〜錢
〜日
〜人
〜年
〜年頃
〜番地
〜枚
難
〜
〜ジ・ズ
何でも　《副》
何と　《副》
何とか　《副》
何とも　《副》
南緯
軟竿
難儀
〜
〜シ・ス
南向シ・ス
男子
難事
汝
〜
〜等
軟弱
軟弱屋嬴
難澁
難所
男色
難船

難戰苦闘
南側
難題
何ダカ　《副》
南朝[1]
南天樹
難闘苦戰
何トナク《副》
何ナク　《副》
垂ントシ・ス
何ニも
男女老若
難破シ・ス
軟敗シ・ス
南巒寺
何人
難病
南部
南風
南方
南北
南北戰爭
何等　《副》
南鐐[2]

ニ〔記号〕
〜
〜号
荷
煮ル
似合(不)
似合イ・ウ
二上リ
新潟行在所
新潟新聞

新治縣參事(舊)
煮壺[3]
二圓札
臭イ
匂イ・ウ
二階座敷
亡シ・ス
苦笑イ
二盪
二業
二行物
握リ・ル
ニギリイスム[4]
握リ飯
賑ワシ
賑ワイ
賑ワイ・ウ
賑ワイアイ・ウ
膳シ・ス
肉
憎シ
肉眼
肉食妻帶
肉食
肉身
肉筆
嫉ミ
惡ミ・ム
肉店
荷車
荷車挽夫
二君
二軍
逃ゲ・グ
〜
〜來リ・ル
逃出デ・ズ

逃失セ・ス
逃歸リ・ル
逃去リ・ル
逃支度
逃出シ・ス
似氣ナシ
逃延ビル《口語》
逃迷イ・ウ
活路
逃行キ・ク
逃走リ・ル
二公
二國
二國立銀行
ニコ〜《副》
ニコニコ顔
二三合高
二三等馬醫生
二士
二氏
西シ・ス
西海岸
西潟判事殿
錦
錦樣陶器[5]
西陣織物會所
西隣リ
西ノ內紙
西ノ宮稻荷
西半球
西本願寺
西村組
廿五國立銀行
廿五座[6]
廿三夜待
二十四郡
貳拾四小區中

1)「南朝の忠臣」(c)　2) 南鐐銀　3) 油田の俚言　4) nihilism　5) 錦模樣の意　6) 太太神楽の俗称

二十七小區
二十六小區
二術
二小區
二條城
二小隊（にしょうたい）
鮮綻粕（にしんしぼりかす）
二政黨
二川（にせん）
尼僧等
二像
二束三文
二村
荷駄
二隊
二題
二大件
二大新聞
二大隊
～
～宛（ずつ）
煮焚キ道具
似タモノ夫婦
荷足（にたり）
日月星辰（にちげつせいしん）
日限（にちげん）
日後[1]
日時
日常
日々新聞〔新聞〕
日用
日曜日
日用品
日蓮宗
日勤ナシ・ス
日光（にっこう）
煮膏[2]

似ツコラシ
ニッコリ《副》
日誌
日子
日誌掛リ
日章
日新
日數
日帝[3]
日當
日報〔新聞〕
日報記者
日報社
日報社長
二帝
二黨
二等警視屬
二等巡査
二等少警部
二等大警部
二等伶人
荷イ・ヰ
荷イ來・ク
貳人曳キ
荷主
～
～等
二年期
二ノ舞（にのまい）
二輩
二府
二風
二婦人
二分シ・ス
二分署
二品（にほん）
日本暗射地圖

日本官廳
日本官吏
日本教育史畧
日本絹布
日本語
日本公使
日本公使舘
日本國一致教會
日本史
日本償金
日本商人
日本新聞
日本人民
日本製品
日本政府
日本船
日本測量船
日本地誌畧
日本刀
日本橋魚市場
日本葉烟草（にほんたばこ）
日本服
日本米
日本民法
日本畧史
二枚摺リ
荷物
～
～（諸）
～等
荷物運送船
煑焼キ（にやき）
二役
入院
～
～シ・ス
入用

入院患者
入營
入荷
～
～シ・ス
入家
入學
～
入學試驗則
入學願イ
入館シ・ス
入檻ナシ・ス
入御（にゅうぎょ）
入港
～
～シ・ス
入校
～
～シ・ス
入札場
入舍（にゅうしゃ）
入舍相成リ・ル
（御）
入社シ・ス
入定（にゅうじょう）シ・ス
入場シ・ス
入津[4]
～
～シ・ス
入船
入圍
入湯
入夫
入門
入用

～
～（御）
入浴
～
～シ・ス
入浴人員
入輦（御）
柔和
如意[5]
如意（不）
遶圍議案
女房
女房氣取リ
女子（にょし）
女犯（にょぼん）
似寄リ
類似リ・ル
白眼合（にらみあい）
白眼合イ・ヰ
庭
～
～中（にわじゅう）
二和賀踊（にわかおどり）
庭先（御）
鷄
庭廻リ
姙[6]
認可
～
～シ・ス
任官
忍堪シ・ス
人氣
～
～（不）
任期

1)「日後漸ク世ノ開明ニ隨ヒ」(e)　2)「莫宕根を熬膏（にっこう）とし或ハ丁幾（ちんき）とし」(c)　3) 日耳曼（ルマン）皇帝　4)「奥州船二艘入津ありし而已よて」(c)　5) 仏具　6)「姙ヲ防ク」(c)

認許
人間
人間界
人間世界
任所
人情
～
～(無)
刃傷
～
～シ.ス
任職
人参
～
～等
人参製造會社
人數
人撰
～
～シ.ス
人相書キ
人足
～
～等
任地
人畜奴
認定シ.ス
人頭[1]
人皇
人夫
人別
任免
任免廢改
任用
～
～シ.ス

縫仕事シ.ス
繍物
抜シ.ス
練田屋
抜リ
～
～(オ)
抜キ.ク
脫ギ.グ
抜足差足
抜取リ.ル
抜放シ.ス
擢ンデ.ズ
拭イ
～
～敢エ.ウ
抜ケ.ク
抜ケ出デ.ズ
主等
盗人
盗ミ.ム
～
～吳レ.ル
盗取リ.ル
ヌックリ[2](副)
布子
布張
奴婢
沼
沼地
濡シ.ス
塗リ.ル
塗屋
鹽膚木
濡レ.ル
濡手
濡レ鼠

根
音
直　〔値〕
寢.ヌ
寢ル　《口語》
俟邪
寢入リ.ル
願
～
～(諸)
願イ奉リ.ル
願イ上ゲ奉リ.ル
願イ出シ.ス
願イ出
願イ期限
願イ下ゲ
願イ濟ミ
願イ出ル《口語》
願イ届
寢カシ.ス
願ワクハ《副》
願ワクバ《副》
葱
直組
猫
寐言
根ザシ.ス
捻ジ.ズ
～
～合イ.ウ
根ジケ.ク
捻ジ伏セ.ス
ネショナリール
ゼッチング新聞[3]
捻ジリ合イ.ウ
涅斯篤安寺院

涅斯篤安宗徒
妒シ
妬ミ.ム
値段
熱
熱血
熱心
熱地
熱中シ.ス
熱閙
熱望シ.ス
寢泊リシ.ス
寢取リ.ル
涅槃
寢耳
眠リ.ル
根本
閨
狙イ
狙イ.ウ
念
年
年會
年月日
年間
年季明ケ
年金票
年月
年限
年號
懇
撚糸
撚糸會社
撚糸製品
年中
年度
年內

ネン寢
寢ネ兒半天
年々
年々歲々
年番出張
年賦
念佛
念佛三昧
～
～シ.ス
年分[4]
年報
年末休暇
年來
念力
念慮
年齡
年歷

野
膿
能[5]
～
～等
能[6]
農家
農學
農學校
農學生
能幹
納期
農業
納金方
農具
農國
農産

1) 人数　2) ぬっと　3) ベルリンの新聞名　4)「年分四朱の利足」(c)　5) 能狂言の，能　6) 才能

農産社
農産物
農事
農事通信
能者
曩者
腦漿
腦髓
腦中
腦病
農夫
納附
能文
農民
〃
〃等
納涼店
能力
腦力
遁シ.ス
逃レ出デ.ズ
軒
軒先キ
軒下
軒提灯
軒並ビ
軒端
除ケ.ク
鋸
殘シ置キ.ク
殘リ
熨斗糸
ノシャバリ出シ.ス
野津少將
〃
〃君

載セ居ル
望マシ
望ミ.ム(相)
望人
望ムラクハ《副》
ノタ打チ廻リ.ル
野立(御)
後月輪御陵
咽喉
長閑
長閑シ
長閑*サ
罵リ.ル
罵リ散シ.ス
罵リ励マシ.ス
延シ.ス
暢ビ.ブ
序ベ.ブ
伸ベ.ブ
述ベ終リ.ル
延岡警視署詰
延米
上セ.ス
噛
登リ詰メ.ム
野馬追イ
飲マセ呉レ.ル
飲ミ.ム
飲喰イ
呑込ミ.ム
飲料
野村文部大書記官
野面
乘リ.ル
〃
〃出シ.ス

乘合イ
乘上ゲ.グ
乘組
乘組ミ.ム
乘組人
乘越エ.ユ
乘込ミ.ム
〃
〃居ル
乘込人員
乘込人
祝詞
〃
〃等
乘戻シ.ス
暖簾
ノレンビュルグ博物館長
呪イ殺シ.ス
惚氣

ハ〔記号〕
齒
派
〃
〃シ.ス
葉
塲共(兩)
バアク形[1]
バアズ号〔船〕
輩
灰
敗
肺
ハイ《感》
拜(御)
拜シ.ス

拜シ給イ.ウ(御)
排シ.ス
廢シ.ス
倍シ.ス
牌位
配意シ.ス
這入リ.ル
賣淫
賣淫市塲
賣淫女
賣淫犯則
賣淫婦
梅雨
拜謁
拜賀
敗壞
〃
〃シ.ス
徘徊シ.ス
媒介
俳諧師
配劃[2]
廢官
肺患
拜觀シ.ス
拜觀人
賣却
〃
〃シ.ス
賣却献呈シ.ス
賣却代
賣却法
廢墟
廢業
陪鑒
敗軍
拜啓

排撃シ.ス
廢縣
拜見
〃
〃致シ.ス
背後
配劑
背山
牌子
廢止
〃
〃シ.ス
陪徘シ.ス[3]
敗衂
敗衂挫折
癈疾
癈疾者
拜借
〃
〃シ.ス
媒妁
拜借金
拜受
蹉出シ.ス
背書[4]
陪乘
〃
〃(御)
陪食(御)
培植シ.ス
陪審シ.ス
陪審員
拜趨屈從シ.ス
敗績
排斥
〃
〃シ.ス

1)「英國バアク形商船」(c)　2)「右一萬圓を以て出品高～ヨ配劃」(c)　3) 徘は五倍
4)「名ケテ背書ト曰フ(書ヲ背ニシテ之ヲ誦スル故ナリ)」(d)

排泄シ.ス　配付相成リ.ル　～　白雲　博物學品
廢絕シ.ス　配布シ.ス　～(御)　薄運　博物館
敗戰　馬醫部　破壞シ.ス　幕下　博物局
沛然　配分　破潰シ.ス　駁議　博物塲
配送　配兵　破戒無慙　薄給　白峯丸
肺藏　敗茅臭[3]　捗取リ.ル　白金　白米
配達　賣ト先生　果敢ナシ　莫逆　薄命
～　陪堉シ　墓塲　駁撃シ.ス　白面書生
～シ.ス　拜命　齒噛ミ.ム　白黑　舶來
～シ能イ.ウ　～　計ライ　舶齋　舶來品
配達塲　～シ.ス　計ライ申シ.ス　舶載シ.ス　博覽
ハイダマキ号　敗滅　圖ラズ《副》　白糸　博覽會掛リ
配置　廢滅　料ラズも《副》　白蛇　博覽會塲
～　～　計リ難シ　白酒　～
～シ.ス　～シ.ス　破毀　麥酒　～外
排置シ.ス　背面　～　泊宿　幕吏
敗蹟シ.ス　賣藥　～シ.ス　白狀シ.ス　白絲礬
背馳シ.ス　賣藥營業者　破棄シ.ス　白人　莫連者
背馳シ.ス(相)　賣藥規則　吐キ.ク　白刃　馬口勞
廢帝　俳優　脖　幕臣　駁論シ.ス
拜呈シ.ス　賣與シ.ス　剝ギ.グ　薄稅　烈シ
拜殿　培養　剝ギ去リ.ル　白雪　勵マシ.ス
賣店　～　萩地暴動　漠然　勵ミ.ム
買奴[1]　～シ.ス　吐キ散シ.ス　莫大　派遣
煤燈[2]　配與金　破却シ.ス　剝奪　～
梅毒　入リ.ル　破瑾シ.ス　白痴　～シ.ス
排破シ.ス　廢立　伯　白晝　箱
賣買シ.ス　倍量　博シ.ス　白丁着　箱入リ娘
賣買中　拜禮(御)　泊シ.ス　薄德　箱書
賣買等　拜禮シ.ス　縛　爆々　箱舘裁判所
賣買高　背戻シ.ス　～　麥飯菜羹　函舘産
賣買表中　排列　～シ.ス　幕府　函舘新聞〔新聞〕
賣買戻シ　葉唄〔端唄〕　駁シ.ス　～　箱詰
廢藩　生エ.ユ　馬具　～(舊)　運ビ.ブ
背反シ.ス　覇歐　白堊　瀑布　～
廢藩置縣　羽織　拍按鼓舞シ.ス　博物　～申シ.ス
賣品　墓　雹雨　博物園　白楊

1)「自主ノ權利ヲ失ヒ買奴ト爲リシ醜名ヲ」(e)　2) ランプ　3)「敗茅臭ノ如キ惡臭」(e)

破碎シ.ス
挾ミ.ム
～
～居ル
鋏ミ取リ.ル
破産
～
～シ.ス
橋
端
箸
恥
把持シ.ス
愧ジ入リ.ル
階掛(はしがか)リ
階子(はしご)
橋錢
端(はした)*1)
端日數
端里數
端船(はしぶね)
始メ出シ.ス
馬車(御(おん))
馬車馬
馬車繼立所
播(は)種
～
～シ.ス
播種地
派出シ.ス
馬上
場所柄(オ)
柱
恥ジライ.ウ
走リ.ル
～

～出(で)ル
走リ往キ.ク
走リ寄リ.ル
バス2)
場末
恥カシ
辱シメ.ム
外シ.ス
外レ
外レ.ル
走セ.ス
～
～出デ.ズ
～來リ.ル
馳セ到リ.ル
馳セ參ジ.ズ
馳セ登リ.ル
走セ廻リ.ル
馳セ戻リ.ル
走セ行キ.ク
馳セ寄リ.ル
破船
破損
破損所
旗
礑(ハタ)と　《副》
肌
機織(はたおり)工女
促織(はたおり)虫様(よう)
畑
旅籠(はたご)
旅籠店(みせ)
畑作
果シ.ス
跣足(はだし)
畑地
廿年(はたち)

將又　《接》
肌身
旗下(はたもと)
機屋(はたや)
動作(ハタラキ)
働キ.ク
働人等(はたらきびと)
促(はた)リ.ル
鉢
鉢植エ
八王子新糸(しんいと)
八カ村
鉢形城主(舊)
破竹
八縣
八十二番舘
八十六カ町
八小區
八幡宮
八幡公園內
八幡社
～
～內
八幡神社
八幡太郎鞍掛松
發(はつ)(御(おん))
撥シ.ス3)
ハッと　《副》
罰
～
～シ.ス
初市(はついち)
發覺シ.ス
八角
發堀汲取(きゅうしゅ)シ.ス
八景
發見

～
～シ.ス
發現シ.ス
抜劍
跋扈
發港
發行
～
～(御(ご))
～シ.ス
發行規則
發行紙幣
八算　〔珠算〕
八氏
發射シ.ス
八州
發出シ.ス
發出數
拔除シ.ス
抜抄シ.ス
初調べ
發信
海獅(ハツス)　〔海獣〕
抜萃
～
～シ.ス
發生
～
～シ.ス
發生現出
初節句
發船場
發葬祭4)
初相場
罰則
發兌
～

～シ.ス
發達
～
～シ.ス
バッタリと《副》
パッタリ《副》
バッテエラ船
發吐シ.ス
發動シ.ス
拔刀
八等出仕
八等屬　〔官名〕
ハッドソン號
〔船〕
初音
發賣
～
～シ.ス
撥々
發病
發錨シ.ス
抜錨
～
～シ.ス
伐氷
八方
伐木
發明
～
～(新)
～シ.ス
～シ得.ウ
發明形(けい)5)
罰目
發輿(御(ご))
末流(ばつ)
發令

1) はしため　2) 澳国の勲章名　3)「天津ニ運往シ撥シテ災區ニ至リ」(e)　4)「燒發葬祭の次第」(c)　5)「其小銃ノ種類ハ「トルチニー、ヘンリー」ノ發明形ノ物ノミニシテ」(d)

～
～シ.ス
發聲(御)
發露シ.ス
發論シ.ス
果テ
果テ.ッ
派手
馬丁
パトオム土民[1]
波止場
鼻
鼻頭
鼻唄
鼻緒
花籠
鼻毛
噺(オ)
話シ.ス
離シ.ス
咄シ合イ.ウ
落語家
咄聲
花菖蒲
花園
放チ遣リ.ル
花火
花婿
花道(兩)
花嫁
離レ.ル
蹴ネル
刎ネ起キ.ク
母上
母御
婆々
馬場

破敗シ.ス
母氏
母親
憚リ.ル
母子
母人
幅廣
馬脾風
飯匕倩〔蛇〕
省キ.ク
羽二重
馬糞
侍リ.ル
濱廷遼舘[2]
濱縮緬
濱邊
嵌リ.ル
濱離宮
嵌リ込ミ.ム
食ミ.ム
～
～(相)
ハム[3]
葉向
破目
箝メ.ム
派名
嵌メ物
場面
刃物
早鐘
林
生シ.ス
林內務少輔
早メ.ム
流行リ.ル
流行モノ

腹
～
～(オ)
拂イ(諸)
拂イ方
拂イ.ゥ(相)
拂イ置キ.ク
拂イ難シ
祓イ詞
拂込ミ濟ミ
拂下ゲ
～
～(御)
～相成リ.ル
拂イ代價
拂イ出シ.ス
腹一杯
拂イ除ケ.ク
拂戻シ高
拂イ物
拂イ渡シ.ス
腹帶
晴ラシ.ス
原田大佐
腹立チ.ッ
腹立チ上戶
パラ～と《副》
波瀾
針
梁
玻璃
張リ.ル
張上ゲ.グ
張込ミ.ム
張笊
張出シ.ス
貼付ケ.ク

罵詈誹謗
張廻シ.ス
春
～
～頃
遙カ
遙カに《副》
春木座
春雨
遙ル遙ル《副》
晴レ
晴レ.ル
晴レて《副》
脹レ.ル
破裂
～
～シ.ス
破裂丸[4]
晴渡リ.ル
破牢
藩
判
～
～ジ.ズ
煩
半箇月
半カ年
半頃
半歲餘
半冊
半月
半日
半年
半年(前)
反シ.ス
反シ.ス(相)
叛シ.ス

番
晩
パン
範圍
～
～內
範域
搬運船舶
繁榮
繙閱シ.ス
半襟
繁華
犯科
半開
挽回
～
～シ.ス
～シ難シ
半額
バンガラス[5]
犯姦
煩簡
判官
半期
蠻氣
反轡
輓近
萬頃
繁劇
判決
～
～シ.ス
判決狀
板權
板權書目
番号
万口一談

1) パトオムは，地名　2) 政府の迎賓館　3)「我か祖先ハ皆中國～に住せしに「シャム」ハムの誤りか人種の爲めよ逐ハれて」(d)　4)「兇徒アリテ破裂丸ヲ投シタリ」(b)　5)「「バンガラス」及紫水晶」(c)

萬國
萬國公法黨
萬國博覽會場
萬古燒
叛根
反魂丹〔薬〕
判裁
犯罪
萬歲
犯罪人
半紙
藩士等(舊)
飯時
萬事
判事指令錄
半死半生
判事補
反射
犯者
藩主
〜
〜(舊)
搬出濟ミ
萬緒
繁昌
〜
〜シ.ス
反狀
汎艦汎濫[1]
半小隊
蕃殖
〜
〜シ.ス
犯觸シ.ス
半信半疑
半數
〜

〜ズツ
藩政
半稅
万世
帆船
判然
〜
〜致シ.ス
〜シ.ス
半藏御門
帆走船
半藏門外
犯則
藩屬
反側子[2]
萬卒
番卒
晩餐
〜
〜シ.ス
反對論者
半高
万端
坂地[3]
判知シ.ス
番地
〜
〜等
半智半開
番茶
番附
判定シ.ス
晩田

坂都[4]
半途
半島
反動
番頭
半道敵〔芝〕
伴頭名前
坂東武士
番頭役
反動力
判取リ
範內
万難千苦
盤若湯
判任
叛人
犯人
番人
判任官
販賣
〜
〜シ.ス
藩々
萬々
泛々
半部
頒布
反覆
半腹
萬物萬事
半分
判文
番兵
判別シ.ス
萬邦中
万民
繁務

判明
繁茂
〜
〜シ.ス
半夜
頒與シ.ス
斑爛[5]
範籬內
半流
伴侶
板聯シ.ス

火
比
碑
燈
緋
被[6]
日毎
批シ.ス
秘シ.ス
簸ル
美
悲哀シ.ス
非違
贔屭
〜
〜連
秀デル《口語》
緋衣
比叡鑑
微影幽響
神益
〜
〜シ.ス
美惡

日覆
被枉屈者
微温
彼我
被害
控エ
扣エ.ウ
扣エ.ユ
比較
〜
〜シ.ス
〜シ來リ.ル
皮革
費額
〜
〜中
比較量
引カサレ.ル
東
東側
東在
東多賀城趾
東本願寺
干潟
ヒカヒカ[7]《副》
日柄
光
氷川神社
彼岸
美觀
引キ申シ.ス
延て《副》
挽キ.ク
〜
〜出シ.ス
彈キ.ク
被疑

1) 汎濫は泉　2) ひより見の者　3),4) 大阪　5)「絳赤の極めて斑爛なる色を以て」(c)
6) 布団　7)「白刃をヒカ〜閃かす」(c)

誹毀シ.ス
誹議シ.ス
引合イ
引合イ.ウ
引合イ人
引揚リ.ル
引上ゲ
引上ゲ.グ
引揚ゲ.グ
率ル(相)
惹キ出シ.ス
引受ケ
引受人
引移シ.ス
引移リ.ル
引起シ.ス
引起シ見ル
引換エ.ウ
〜
〜申シ.ス
引返シ.ス
引換準備金
引キ來リ.ル
引込ミ.ム
《自動》
引込ミ.ム
《自動》
閑居リ.ル
引下リ.ル
引裂キ.ク
引去リ.ル
引箄
引汐
引締メ.ム
引摺リ來リ.ル
引出シ.ス
引立チ.ッ

引違エ.ウ
引足リ.ル
引違エ.ウ
引繼ギ.グ
引連レ.ル
引連レ歸リ.ル
引手茶屋等
引捕エ.ウ
引取リ.ル
引取人
引放チ.ッ
引拂イ
引拂イ.ウ
引札手合
引幕代
美姫名媛
引戻シ.ス
被及シ.ス
美擧
悲況
卑怯
引寄セ.ス
引分ケ.ク
引渡シ.ス
〜
〜方
〜相成リ.ル
(御)
費金
低シ
樋口活版所
卑屈
卑屈固陋
卑屈根情
卑屈柔順
比丘尼橋
悒々と　《副》

髭
秘訣
備決シ.ス
鄙見
飛蝗
非業
微香
鼻孔
被告シ.ス
被告者
被告總代
被告代
被告代人
被告代理人
被告人
被告本人
〜
〜共
日頃　《副》
膝
膝頭
久方[1]
鬻ギ.グ
秘策
贔
贔屓
疵〔庇〕
久シィ　《口語》
久シ振リ
跪キ.ク
久松學校
悲慘
比箄シ.ス
必至と　《副》
肱
〜
〜(両)

美事
土方一等侍補
美質
〜
〜(御)
日締計算
犇キ.ク
飛車
毘沙門
美醜
尾州公
尾州士族
尾州邸(舊)
美術
美術館
美術品
比準
避暑
飛翔
微少
非常警備
非常事變
非職士民
聖
美人
翡翠玉
ピストル
悲凄シ.ス
美晴
美制
碑石
丕績
美蹟
卑賤
微賤
美善
肥瘠

皮相シ.ス
秘藏
〜
〜シ.ス
備足シ.ス
ヒソヒソ《副》
顰
潜ミ.ム
〜
〜居ル
〜居リ.ル
潜ミ匿レ.ル
顰メ.ム
肥大
ヒタサラ[2]《副・方言》
浸シ.ス
只管　《副》
只管に　《副》
左足
左利キ
悲歎
〜
〜シ.ス
飛馳シ.ス
被治者
筆
必シ.ス
引掛ケ.ク
筆記シ.ス
筆記人
畢竟
吃驚
吃驚仰天
筆硯
必行實施
提ゲ.グ

1)「ひさかたのとしのはしめを」(c)　2)「ひたさら{ひたすらふり}引申候」(e)

筆算　筆紙　必死　羊　必需　必定　弼臣　筆數　畢生　筆勢　筆蹟　必戰　必然　ヒッソリ閑《副》　ヒッタリ《副》　備中産　筆頭　逼迫シ.ス　引張リ.ル　匹夫　筆鋒　筆墨　蓽門圭竇[1]　必要　必用　必用書籍　筆力　旱　人(オ)　費途　匪徒　人達　非道ィ《口語》　一足　一息　一打チ　偏に《副》

一方ナラザル　一方ナラズ《副》　人柄　一際《副》　美徳　一癖　人聲　一腰[2]　一言　一入《副》　人質　人知ラズ《副》　人知レズ《副》　一筋　人達イシ.ス　人達エ　一度*《副》　一ツ家　一ト攫ミ　一ツ處　一ツ橋御門　一ツ塲所　一粒撰　一通リ《副》　一通リナラズ《副》　人ト爲リ　人幷　一日　人々等　一筆　一風呂　一先《副》　一纏　一連　一目　火止石油

一詣シ.ス　獨　一人暮　獨身　獨リ息子　雛形　～　～等　雛形計算　火繩銃用　非難　～　非難スル等　非人　槍　丁卯　丁巳　日延　日ノ丸　火ノ見櫓　火箸　槍皮　槍皮葺キ　火鉢　非番　比々《副》　日々に《副》　靡費シ.ス　微々　美々シ　響キ　響キ.ク　日比谷練兵塲　批評シ.ス　避病院　妃嬪

皮膚　批誣シ.ス　被服　疲弊シ.ス　裨補シ.ス　誹謗罵詈シ.ス　美本　暇　～　～(オ)　日增に《副》　瀰滿シ.ス　姫　非命　飛鳴シ.ス　罷免シ.ス　費目　～　～中　火元　冷却　冷カシ歩行　キ.ク　非役　百花　百害百損　百官庶僚　百工　百工學術　百載　百事　百姓　～　～共　～原　百姓家　百折

百折不撓　百千　百年期　百八長屋　百八魔王　百物　百分比例　百分率　百万蒼生　百万塔　百有餘鄕　冷シ.ス　百拜　百般　百方　冷ヤカ　謬計　謬見　謬誤　避孕　費用(總)　費用シ.ス　費用等　表　～　～シ.ス　評　～　～シ.ス　～シ得.ウ　～シ難シ　票　病因　病院(各)　病院等(假)　病院醫師　病院教師

1)「忽チ化シテ蓽門圭竇トナル矣」(b)　2)「一ト腰を抜き放し」(c)

病院長
評價
評可
氷塊
漂客
評價人
標記
評議
～
～(御)
～上
～中
～中(御)
病氣等
評決
病犬
病後
兵庫政廳
兵庫丸
錨鎖
標示シ.ス
病死
～
～シ.ス
病者
標出シ.ス
病症
病狀
病勢
病体
飄然
日傭倒シ
標艇
表晏シ.ス
廟堂
～
～上

平等
病毒
病人
漂泊シ.ス
表皮
漂々
渺々
病父
病弊
病名
表面
漂遊シ.ス
標掠騙欺
氷烈紋[1]
評論
評論辨義シ.ス
比翼
火除地
ヒョロヒョロ《副》
開キ初メ.ム
平グケ
ヒラクチ[2]《方言》
開ケ.ク
開ケカカリ.ル
閃メカシ.ス
閃メキ.ク
平家
平山一等書記生
平山權大教正
平山廣島縣少書記官
非理
肥料
晝
～

～(御)
～頃
比類
ビルオブライツ[3]
翻シ.ス
翻リ.ル
晝餉(御)
晝鳴キ
晝間
比例シ.ス
美麗
卑劣
平レ伏シ.ス
拾イ.ウ
拾イ取リ.ル
疲勞
廣ガリ.ル
廣ゲ.グ
廣サ
廣澤參議
廣島縣令
廣島地方
廣島鎭臺
廣島丸
廣メ
廣メ.ム
日割リ
貧
～
～シ.ス
瀕シ.ス
瓶
品位
品價
貧家
瓶器

貧窮
貧苦
敏謙
品行
品行評
貧困
貧困者
敏才强記
品質
貧者
貧弱
品種
品主
顰蹙シ.ス
敏捷
貧人
～
～(衆)
頻數
品數
品數度量表
稟請シ.ス
擯斥シ.ス
貧賤
便船
愍然
貧賤者
貧村
昊天
品評シ.ス
貧富
貧福
黽勉
～
～シ.ス
貧乏
貧乏人

貧民
～
～(一)
～中
貧民社會
品名
紊亂シ.ス
憫諒シ.ス
品類
檳榔子

布　〔記号〕
普　〔記号〕
婦
負
訃
腐
賦
賦シ.ス
附シ置キ.ク
武
歩合懸リ
不安
撫育シ.ス
封ジ.ズ
舞雩
風位
封印
風雨
風雅
風雅人
風氣
富貴
富貴昌榮
封金
風琴等

1)「白高麗氷烈紋耳管花瓶」(e)　2) 竅　3) 法令名。Bill of Rights

風景
楓梧
風光
風光節物
富者
風習
風勢
風說シ.ス
風前
風俗
風致
風潮
風休
癲癲者
風土
封筒
風波
風帆
風帆船
風評
風聞
風味
風流
風流三昧
風力
笛
殖エ.ユ
敷衍
不穩
不可
賦課
〃
〃シ.ス
夫家
斧柯
富家
負荷シ.ス

附加シ.ス
部下
附會シ.ス
腐壞シ.ス
深入リシ.ス
深川淨心寺
深川富岡門
深疵
不覺
不學
富嶽
不學無文
深サ
深澤大尉
不可思議
深手
深情
附還シ.ス
俯瞰シ.ス
武官
〃
〃方
不軌
吹キ.ク
〃
〃來リ.ル
葺キ.ク
不義
吹上ゲ.グ
吹上御庭
吹出シ.ス
噴出シ.ス
吹出デ.ズ
吹井戸
吹送リ.ル
吹起リ.ル
吹下シ

吹倒シ.ス
吹貫
〃
〃等
吹捲リ.ル
吹矢
普及
〃
〃シ.ス
不朽
不急不利
撫御シ.ス
不興
富强
奉行
不興氣
富强盛大
附金
賦金
不勤
服
伏
〃
〃シ.ス
復シ.ス
服シ.ス
河豚
不虞
幅員
副院長
服役
〃
〃シ.ス
〃中
服役期限
福岡縣令
福岡人民

復歸シ.ス
復舊
〃
〃等
副區長
副區長心得
復古
副貢生[1]
副戶長
副齋主
服沙包ミ
副使
副社
福島縣令
復寫
復習
服從シ.ス
復習日限
服飾
腹心
覆審
覆審裁判
副水師提督
服制
〃
〃等
復製種
復撰議員
服裝
輻輳
〃
〃致シ.ス
〃シ.ス
副總裁
腹中
副長
副長官

福德
復讀
腹病
腹部
副榜[2]
覆亡
副本
含メ.ム
服藥シ.ス
服用
服樣[3]
膨シ.ス
福利
服量
副領事
父君
更ケ.ク
父兄
不敬
武藝
不景氣續キ
武家生レ
不潔
武家屋敷
闌ケ行キ.ク
耽リ.ル
府縣(各)
府縣(諸)
府縣(何)
府縣(某)
府縣下(各)
府縣內
誣言
附言
府縣會
府縣官
府縣官員

1)「副貢生ニ爲ス可キ者ナリ」(d)　2) 清国の職名　3)「服樣ハ勿論英風」(c)

府縣裁判所
府縣社
府縣職制
府縣稅
府縣廳
～
～中
府縣長官宛(何)
府縣廳舍
府縣廳名
府縣費
府縣民會
不幸
富豪
符合シ.ス
富國
布告(御)
布告相成リ.ル
布告案
布告文中
武庫司
負債
～
～等
夫妻
不在
負債者
負債高
塞ガリ.ル
塞ギ.グ
無沙汰
相應シ
不參
釜山僉使〔職名〕
父子
伏シ.ス
不時

藤
武士
～
～(舊)
無事
藤井廣島縣令
伏拜ミ.ム
不思議
節吳レ立チ.ッ
富士山〔船〕
無事太平
藤田組
藤棚
不實
不慈不仁
浮腫
不習
不熟
不受不施派
不順
婦女
扶助
不勝[1]
負傷
～
～シ.ス
不詳
不祥
富商
不淨
武將
不消化物
負傷者
扶助金
婦女子
扶助料
不審

普請
不振
富人
武人
不筋
襖
襖紙
布施
不正
府稅
賦稅
～
～シ.ス
不正不理
伏鉦〔仏具〕
附籍
防ギ得.ゥ
防ギ難シ
浮說
父祖
扶桑一
不慥不當
不足シ.ス
附屬
～
～シ.ス
～シ.ス
～シアリ.リ
夫卒
蓋
札
豚
～
～等
舞臺
二タ親
付托シ.ス
布達致シ.ス

布達中(御)
兩ツナガラ《副》
二人娘
負擔
～
～ナシ能イ.ゥ
淵
不治
淵邊伊賀守
附着シ.ス
府中
部中[2]
府朝
部長
～
～(各)
浮沈
普通
不通
普通文字
佛貨[3]
物價
～
～(諸)
物價記者
二日續キ
佛官[4]
拂曉
佛教
物具
佛語
佛工手[5]
佛國公使〔職名〕
佛國人
物產中
物產工業
物產圖中

物產稅
物質
～
～中(各)
物主
佛彙工手[6]
佛將[7]
物色シ.ス
佛人
佛政府
佛像
物鉢
佛牒
フッツと《副》
佛帝[8]
拂底
沸騰シ.ス
佛童[9]
物品(一)
物品中
物品等
物品識名〔書名〕
佛法
佛用
フツリ《副》
物理
物理學
物理全志〔書名〕
佛律[10]
物料
物類
筆
太々シ
太シ
不動
不同
舞蹈

1)「不勝の天気」(c)　2)「又ロ授ノ部中ニハ修身養生ノ外」(b)　3),4),5),6),7),8),9),10) 佛は，フランス

不動産
不動産說
不動尊
不德
不得止論
懷（ふところ）
太物（ふともの）
太物商人（ふとものあきうど）
布團（フトン）
山毛欅（ブナ）
船改所（ふなあらためしょ）
府內
部內
船卸シ（ふなおろし）
舟子
船賃
船都合
船乘リ
船橋
船人
　～
　～共*
船町橋
船持（ふなもち）
船盛リ[1]
無難
赴任
不納
　～
　～シ.ス
布海苔
腐敗シ.ス
腐敗物
浮薄
布帛
布帛店
府藩縣長官

不備
浮標
賦稟
不愍
不服
不文（ふみん）
部分
　～
　～(幾)
不分明（ふぶんみょう）
不平
不平顏
不便
踏マエ.ウ
不滿
侮慢
文（ふみ）
降リ.ル
踏ミ.ム
踏過リ.ル
踏繪
踏歷（ふみおこ）エ.ウ
踏込ミ.ム
踏ミシメ.ム
踏臺
踏ミニジリ.ル
踏ミハズシ.ス
踏毀（ふみやぶ）リ.ル
府民
不向キ
不明
不毛
麩（ふすま）
不問
武門
殖（ふや）シ.ス
冬
富有

不豫(御)
不用
附庸
附與金
無賴
部落(諸)
白金（プラチナ）
ブラブラ《副》
不爛[2]
腐爛シ.ス
ブランケット
ブランデエ
振リ
不利
不理
振リ.ル
降リ.ル
古（ふる）リ.ル
振合イ
振賣リ仕リ.ル
振返リ.ル
撒掛（ふりかけ）ケ.ク
振鼻シ.ス
降頻*リ.ル
振捨*テ.ッ
振立*テ.ッ
ブリッキ形[3]
ブリッキ鏝
降續キ.ク
振放チ.ッ
振拂イ.ウ
振廻（ふりまわ）シ.ス
振向ケル《口語》
不慮
不良
不猾
武力

古シ
震イ.ウ
古甲（ふるかぶと）
古瓦（ふるがわら）
古着商
舊癖（ふるきず）
古着渡世
古鄕（ふるさと）
古足袋（ふるたび）
古葛籠（つづら）
古道具屋
振舞イ
振舞イ.ウ
古谷少警部
古綿（わた）
觸レ.ル(相)
布令
無禮
觸出シ(オ)
不廉
風呂
父老
附錄
ブログリイ政府[4]
風呂敷包ミ
プロテスタント
風呂場
プロビテンス瀛船會社（ママ）
フロリック号〔船〕
不和
不破と[5]《副》
部分（わけ）シ.ス
分等[6]
文意

文運
分營
文化〔年号〕
分解
　～
　～シ.ス
文客
文學
分轄シ.ス
文化年中
文官
紛議
文久〔年号〕
分業
分局
　～
　～(各)
　～中
　～內
分家
　～
　～シ.ス
憤激
聞見
分權
分限
分遣兵等
文庫等
分枝
　～
　～(各)
豊後口（ぶんごぐち）
豊後地方
豊後ノ守
文采
分散
分子

1) 料理名。「鯛ノ船盛（フナモリ）」(e)　2)「僅カ三寸不爛ノ小キ一ツノ天秤ニテアリキ」(e)　3) 二本の帆柱のある形　4) 仏国政府の名　5)「ロ車ヨ不破と乘せられしを」(c)　6)「板權返納の分等」(a)〔等は，などの意〕

紛失
～
～致シ.ス
～シ.ス
紛失物
分署
文書
紛擾
文章
分署巡査(各)
分署長(各)
分署詰(何)
奮進
焚燼シ.ス
文人畫中
文人墨客
奮進勇前
噴水器
文政　〔年号〕
文政年間
分析
～
～シ.ス
～上
分析法
奮戰シ.ス
奮然
憤然
糞代
分隊(一)
文壇
聞知シ.ス
文中
分廳
文躰
糞溺
分取リ.ル

糞尿
分任シ.ス
憤怒
～
～シ.ス
紛紜
分配シ.ス
分配仕リ.ル(御)
分配金
分泊シ.ス
憤發
～
～シ.ス
文武
分付シ.ス
文武官
文物
紛々
紛々擾々
粉壁
分別
分別シ.ス
分別盛リ
分別帳
墳墓
文墨
粉末片碎
ブン廻シ
分明
文明器物
文明進度
文面
分與シ.ス
分離
～
～シ.ス
分流

～
～シ.ス
分量
奮勵・憤勵
～
～シ.ス

辺*1)
平
兵
～
～(諸)
聘シ.ス
平安
平安無事
弊衣
閉院
～
～シ.ス
兵營
炳焉
米鹽
平穩
平穩自由
平價
陛下
兵科(各)
兵科(諸)
兵科(何)
併科シ.ス
米價
閉會
幣帛
米艦
兵器
兵氣

平居無事
平均(不)
平均シ.ス
平均シ.ス(相)
米金
平均數
平均稅
平均相場
平軍方2)
平家
閉口
幷行シ.ス
平衡シ.ス
米穀
米國產
米國種
米國人
閉鎖
～
～シ.ス
兵事
～
～外
平時
平治　〔年号〕
米市
兵事新聞
平日
敝社
並書シ.ス
兵廠
平常
閉場
米商
米商會社
閉場式
平常配置

米人
平水
兵制
兵勢
平生
米政府
兵燹
平素
屛息
鄙俗
兵卒等
兵隊
～
～(各)
平坦
兵端
平定
兵丁
聘唐3)
弊竇4)
平寧無事
平年
米納
米麥
鄙風
平伏シ.ス
ヘイヘイ　《感》
平民中
平民社會
平愈
米郵船
併用
兵亂
兵力
平和
平和條約
僻シ.ス

1)「道のへの」(e)　2)「平軍方臆病連ハ」(e)　3)「聘唐ノ命家ニ下ルヤ」(b)
4)「勉勵ヲ加ヘテ弊竇ヲ防キ」(e)

避易シ.ス
碧海青天
壁間
碧血
壁上
僻邑寒村
僻陋
部崎燈臺
下手象棋
隔リ.ル
　～
　～(相)
隔チ.ッ
隔テ
隔テ.ッ
別異シ.ス
別火浴水仕リ.ル
別儀
別區
別軍
別甲
別策
別冊
別視シ.ス
別シて　《副》
別紙雛形
別時法會
別社會
別種
蔑如シ.ス
別條
別人
別題
別宅シ.ス
別段
別手組
別働

別表
別立
紅羽二重
紅無垢
平凡代言人
經巡リ.ル
部屋
ヘラルド〔新聞〕
ヘラルド記者
減リ.ル
縁取リ.ル
秘魯政府
白耳義代理公使
ベルジック号〔船〕
伯林條約
篇
偏
　～
　～シ.ス
編
　～
　～シ.ス
變ジ來リ.ル
辯
辨
　～
　～ジ.ズ
變異
偏倚シ.ス
便益
變化
　～
　～シ.ス
變改シ.ス
辨解シ.ス
變革

匾額
勉學
　～
　～シ.ス
變革スル等
變換
　～
　～シ.ス
返翰(御)
返還シ.ス
偏奇
便宜(不)
ペンキ
勉强
　～
　～シ.ス
勉强刻苦
ペンキ塗リ
變化
辨慶
偏見
變更
　～
　～シ.ス
返濟シ.ス
辨濟殘金
編纂
　～
　～シ.ス
變死
片時
偏私シ.ス
返事
變事
編者
扁鵲[1]
返射爐

編修
編執
編輯
　～
　～シ.ス
編輯者
編輯長
　～
　～(假)
　～(前)
　～(前假)
　～(前々)
編集人
便所
　～
　～(假)
辨償
　～
　～シ.ス
編製
編制
　～
　～シ.ス
編製濟ミ
編制表
辨舌
變遷
變則塾
辨知シ.ス
辨知ナシ.ス
篇中
編綴シ.ス
便殿
辨天堂
變轉不定
辨天嬢

返答
變動
辨當
編入
　～
　～相成リ.ル
　～シ.ス
返納
　～
　～方
　～方(御)
　～シ.ス
返納年賦
辨駁
　～
　～シ.ス
邊鄙
褊裨[2]
便否
返附致シ.ス
返付シ.ス
ベンベラ着物
辨明
　～
　～シ.ス
變亂
辨理
便利(不)
勉力
　～
　～シ.ス
變例
返禮
勉勵
　～
　～遊バシ.ス
(御)

1) 中国春秋時代の名医の名。転じて名医　2)「豈甘シテ之ガ褊裨トナランヤ」(e)

～シ.ス
勉励尽力ナシ.ス
駢列
辨論討議

ホ　〔記号〕
帆
歩
～
～シ.ス
捕
補シ.ス
保シ.ス
保シ難シ
保安
布衣(一)
保育事業
捺印
～
～シ.ス
砲
苞
報ジ.ズ
奉ジ.ズ
報ジ來リ.ル
棒
亡
謀
某方
某様
某氏
暴悪
防遏シ.ス
方位
暴雨
暴雨迅雷

法會
～
～(御)
貿易上
貿易銀等
貿易銀共
貿易銀貨
貿易史
貿易市場
貿易主義
貿易條例
貿易通商
貿易品
望遠鏡
法王
茅屋
放火
～
～シ.ス
放歌シ.ス
崩芽
法衙
鳳牙
芒花
法外
望外
妨害
～
～シ.ス
～ナシ.ス
法學
法學家
防火隊
邦官
奉還
～
～シ.ス

傍観シ.ス
傍観ナシ.ス
傍観坐視シ.ス
傍観者
寶器
蜂起シ.ス
放棄シ.ス
傍議
忘却シ.ス
暴虐
俸給
俸給表
暴擧
防禦
～
～シ.ス
法教
防禦扞制
防禦法
某區
暴遇虐待
棒鎖
某家
奉迎
～
～シ.ス
奉迎送シ.ス
砲撃
某月
法權
封建
寶劍
方言
法源
保元　〔年号〕
妄言
封建侯族

封建政體
茫乎
方向
方匡
奉公
～
～(御)
～シ.ス
砲熕
報效致シ.ス
某侯
某校
暴行
暴行兇悪
奉公口
邦國
報國
報告(諸)
報告(前)
報告仕リ.ル
亡國
報告新紙
保護者
望湖堂
方今
方策
豊作
暴殺
謀殺シ.ス
暴殺暗刺
邦産
芳志
帽子
防止シ.ス
某寺
放肆淫逸
某生
法式

報者
報謝
謗者
保守
防守
芒種
某州
奉祝
豊熟
～
～シ.ス
褒賞
鳳詔
法象シ.ス
豊饒
坊城式部頭
褒賞辭令書
褒賞物
奉職
～
～シ.ス
～シ居リ.ル
～中
紡織(各)
奉職廳
方針
邦人
乏人
傍人
暴振枉行
坊主
法制
方正
砲聲
暴制
某生
法制局

方正忠良
寶石
紡績所
妄(ぼう)說
暴說
防戰
　～
　～シ.ス
呆然　《副》
冒訴
奉送シ.ス
包藏シ.ス
奉送迎
法則
邦俗
妄測
砲卒
　～
　～等
保存(ほうそん)
　～
　～シ.ス
綳繃
帽帶
寶丹
芳譚雜誌
報知(ご)
報知シ.ス
報知記者
棒千切(ぎり)
報知新聞
庖丁
傍聽
　～
　～シ得.ウ
　～シ玉イ.ウ
暴漲シ.ス

傍聽記
傍聽記事
傍聽人
鳳勅
法庭
捧呈シ.ス
防停シ.ス
放擲シ.ス
放擲輕視シ.ス
法典
方途
方度
封土
法度
暴徒
　～
　～等
放蕩
法堂
報道
　～
　～シ.ス
冒頭
暴動シ.ス
暴動中
放蕩家
放蕩無賴
捧讀シ.ス
暴徒亂賊
砲墩(とん)[1]
包入シ.ス
某人
豊年万作
奉納
　～
　～シ.ス
砲發シ.ス

暴發シ.ス
包被シ.ス
豊阜
暴風
暴風怒濤
抱腹絕倒シ.ス
彷彿
髣髴領畧シ.ス
孑孑(ボウフリ)
砲兵
奉幣
奉幣使
砲兵支廠
砲兵隊
砲兵大隊
方便(ほうべん)
砲礮(ほうほう)
方法等
方々(ほうぼう)
鋒鋩(ほうぼう)
某々(ほうぼう)
咆勃潰亂
暴慢無禮
邦民
葬リ.ル
方面
　～
　～(各)
　～(何)
放免
　～
　～シ.ス
方面掛リ〔職名〕
法網
寶物
鳳紋
坊ヤ

朋友
　～
　～等
包羅シ.ス
寶來社
蓬來丸
放埒(とう)等
法理
法理學
法律上
法律中
法律案
法律家
法律研究所
法律書
昌領シ.ス
法令
暴戾
法蓮寺
妄(ぼう)論
吼(ほ)エ.ユ
頬(ほお)
捕獲シ.ス
外々(ほかほか)
保管中
簿記
簿記法
募金
　～
　～シ.ス
反古(ほご)
僕
トシ.ス
トシ置キ.ク
牧シ.ス
北緯
北位

北榮座
北海
北極星
北行シ.ス
墨字
墨守シ.ス
墨汁等
北巡
　～
　～(御)
墨書
　～
　～シ.ス
穆如
牧塲
木石
木石瓦礫
木石土砂
北端
北地
牧畜
　～
　～等
墨堤
墨突[2]
北布[3]
北部
牧夫
墨沫
撲滅
北洋丸
北鯢
捕鯨(とう)等
捕鯨組
帆桁
保險

1)「四方環ラスニ砲墩ヲ以テス」(d)　2)「墨突黔ムヲ得サルカ如キ」(e)　3)「咸鏡道産の布ハ北布と云至て地紬上品の由」(c)

募雇シ.ス　細棹　北方　～　本據
歩行シ.ス　細引キ　布袋爺（おやじ）　～得.ウ　奔競シ.ス
誇リ.ル　細々と《副》　鋪店　堀發キ.ク　本業（ぎょう）
穂先キ　菩堤　佛　堀鑿チ.ッ（うが）　本行
簿冊　菩堤寺　施シ得.ウ　堀起シ.ス（ほりおこ）　本局（ほんきょく）
墓參　菩堤所　程無ク《副》　堀織部（ほりおりべ）　盆暮（ぼんくれ）
星　螢　ホトホト《副》　堀試ミ.ム（ほりだ）　本家
乾シ.ス　螢火（ホタン）　程能シ（ほど）　堀出シ.ス　本月中
保持シ.ス　釦　邊リ（ほとり）　堀取リ.ル（ほりとり）　本源
縦に（ほしいまま）《副》　牡丹　傍リ近シ　堀端（ほりばた）　本行
欲シガリ.ル　墓地　保認シ.ス　補力（ほりょく）　本校
干シ葉　～　帆縫（ほぬい）　堀割（ほりわり）　本号中
保釋　～內　骨　葡萄牙（ポルトガル）人　本國
保釋金　ホッと《副》　骨折リ（ほねおり）　ボルカ号〔船〕　本罪
補充　沒シ.ス（ぼっ）　仄カに（ほのか）《副》　ボルワアド号　盆栽
募集　發意（ぼっい）　通播[2]　〔船〕　本山
～　發駕（ぼっが）（御）　捕縛　纜縷（ともづろ）　本寺
～シ.ス　發會（ぼっかい）　～　亡ビ.ブ　本式
補助　發起（ぼっき）　～シ.ス　亡ボシ.ス（ぼんぼし）　本質
～　～　～ナシ.ス　本の《連》　本社
～氏[1]　～シ.ス　捕縛人　本位　本宗
～シ.ス　發議（ぼつぎ）　墓碑（ぼひ）　本意　本住寺
保証シ.ス　～　屠リ.ル（ほふり）　～　本署
保証シ難シ　～シ.ス　歩兵　～(不)　本省
保証書　發起人（ぼっきにん）　募兵(新)　翻異シ.ス　本所學校
保証人　發起主（ぼっきぬし）　歩兵生徒　本淫坊[3]　本心
ボスニヤ境界　發句（ほっく）　歩兵中隊　本受取書　凡人
保薦　發言（ほつげん）　略（ほぼ）《副》　本科　本籍
保全シ.ス　～　譽（ほまれ）レ　本價　盆石
墓前　～シ.ス　讃メ.ム　盆花　本船
補足　沒収シ.ス（ぼっしゅ）　保有シ.ス　本官　～
～　法主（ほっしゅ）　保養(御)　本舘　～內
～シ.ス　發足シ.ス（ほっそく）　保養シ.ス　本貫　疎然
保續　發程（ほってい）　城壘（ほりい）　本盧　本訴
～　發途（ほっと）シ.ス　堀　本願　奔走
～シ.ス　勃動振興シ.ス（ぼっ）　彫　本願寺　～
細サ　發熱（ほつねつ）シ.ス　堀リ.ル　本氣　～シ.ス

1)「金祿公債証書先生ガ補助氏ノ外行ヲ祝フ」(e) 2) 他国へ逃げる家来 3) 本因坊の掛詞

～中　間毎
本草質問會　マア《副》
本則　マア～
本隊　舞
本宅　毎家
本地　毎會
本朝　毎鑑
本店　毎期
本堂　枚擧シ.ス
本通リ　毎月末
本人共　毎戸
本年中　舞試ミ.ム
煩惱　毎歳
本塲所　毎週表
本花道　毎省
本犯　埋葬
凡百　～
本部　～シ.ス
喞筒　埋葬地
本普請　埋築
本舞臺　毎度
本分　毎日
本坊(假)　毎年
本邦　埋蔽シ.ス
本末　毎篇
本丸(舊)　毎々
本名　毎夜
本務　參ラセ.ス
本物　參リ(オ)
本文　參リ.ル
飜譯　參リ上リ.ル
～　前島三等出仕
～等　前島審査官長
飜譯係リ　前島內務少輔
本來　～
本路　～君
本論　前尻

前原警察署　眞麻　任シ.ス　任セ置キ.ク　勾玉　賄(諸)　賄券　賄表中　賄役　賄料等　間ガナ透ガナ　曲リ.ル　罷リ出デ.ズ　卷　卷キ.ク　蒔・撒キ.ク　卷上ゲ　卷烟草　蒔付地所　卷物　紛ラシ.ス　破浪版　紛レ.ル　幕　幕明キ　幕切レ　枠　枕　～　～シ.ス　枕邊　敗　負ケ.ク　髷　枉ゲ.グ

負ケ公事　孫　馬士　誠　誠シヤカ　實ラシ　眞逆*《副》　眞砂　眞砂新聞　正シク《副》　勝リ.ル　增シ　增シ.ス(相)　況て　交エ.ウ　交エ用イ.ユ　增高　呪イ　眞面　雜リ居リ.ル　交リ　～　～(相)　鱒　貧シ　丈夫　股　又と《副》　又もや《副》　跨リ.ル　又候《副》　瞬キ.ク　又傳話　俣野一等中警部　又々　マダラ

街　町中　待チ.ッ(相)　待チ.ッ(オ)　待チ得.ウ　待チ居リ.ル　待チ奉リ.ル　待チ給イ.ウ　町預ケ　待受ケ.ク　間近　間近シ　間違イ　間違イ.ユ　待搆エ.ウ　町中　町々　町家　町家續　町用掛リ　待詫ビ.ブ　松　眞赤　松ガ枝　松方大藏大輔　松方副總裁　末期　抹却シ.ス　眞黑焦　末期　末後[1]　眞向　末項　眞最中　眞ツ先キ　抹殺シ.ス　末社

1)「妻ノ末後ヲ思ヘバ」(e)

松平圖書頭　随意～　回リ椽　實　見替シ.ス
松平三河守　免カレ難シ　廻リ來.ク　見玉イ.ウ　密柑
松平陸奥　眞似　滿[3]　《名》　見合イ(御)　未完
松平陸奥守　眞似ル　《口語》　滿　《連》　見合イ.ウ　神酒
末段　眞似ル等　萬一　《副》　見上ゲ奉リ.ル　幹
火寸　招キ　萬一に　《副》　見當リ.ル　右等
松並木　招キ寄セ.ス　蔓延　見誤リ.ル　右等
末年　正午頃　～　見顯シ.ス　右脚
眞ッ裸　眶　～シ.ス　見合シ.ス　右側
松原　マホメダン宗　滿會　見合セ　右手
松原社[1]　間々　万金　〔料亭〕　見合セ.ス　右樣
松伏學校　見エ.ウ　漫言空語　～　砌リ
松村大佐　豆　滿塲　～(御)　見極メ.ム
松本新聞　豆ガラ　マンジル[4]　見合セル《口語》　～
松本藩士(舊)　老實～シ　慢心シ.ス　見出シ.ス　～難シ
祭リ.ル　磨耗　漫酔シ.ス　見出デ.ズ　水屑
政　間モナク　《副》　萬世橋　三井寺　見苦シ
萬里小路皇太后　魔物　滿塞シ.ス　實入リ　身グルミ
宮大夫　守リ.ル(相)　滿足　見受ケ.ク　未決
的　眉　～　身動キ　未見
窓　繭　～シ.ス　見失イ.ウ　眉間
纏イ.ウ　迷イ.ウ　瞞着シ.ス　身賣リ　神輿
惑イ　～　滿潮　外飾　身拵エ
惑イ.ウ　～出シ.ス　滿天　見エ.ュ(相)　見事
圓か　眞夜中頃　眞中　見エ給イ.ウ　詔シ.ス
纏リ.ル　丸シ　萬年　見エル　《口語》　見込ミ(御)
間取リ　丸で　《副》　万八樓　見エ隱レ　見込ミ通リ
惑ワシ.ス　丸龜分營　萬福　三重縣令　見込ミ.ム
間ナシ　圓々珍聞　マンヘエガン號　見送リ　～
眞名子〔愛子〕　廻シ.ス(オ)　〔船〕　見送リ.ル　見込書
學ビ.ブ　廻シ下サレ.ル　漫々　見覺エ　未濟
～　(オ)　万々一　身重　操
～得.ウ　廻シ床　滿面　見終リ.ル　陵
間ニ合イ.ウ　眞綿　漫游　磨キ.ク　未止
間ニ合ワセ　眞綿掛リ　～　見掛ケル《口語》　短カシ
マニファクチュ　廻リ　～シ.ス　味方　短手
ウア[2]　廻リアルキ　萬暦　〔年号〕　身勝手論　身支度シ.ス

1) 松平家の祖先を祭った社　2) 「「マニファクチユーア」ト「トレード」トノ關係」(e)
3) 「滿ヲ持スルノ」(b)　4) 甜菜の一種

未熟
身上
見知リ・ル
微塵
御簾
水揚ゲ器械
未遂
湖
水嵩
自カラ《代名》
看過ギ・グ
水汲ミ男
水漉シ器械
水先免状
水攻
水灘相成リ・ル
水溜
壬戌
壬子
癸酉
水呑百姓
水吐キ
水引キ
見済マシ・ス
見ス～
水物
店
見セ・ス
～
～申シ・ス
見セル《口語》
未製品
未製理
未整列
店前
見世物
味噌

溝
未曾有
味噌桶
三十路
溝渠
三田育種場
満シ・ス
亂シ・ス
見立テ・ツ
紮レ・ル
亂レ入リ・ル
亂レ焼キ
路
満チ・ッ
見違イ・ウ
路スガラ《副》
道筋
～
～(御)
道幅
密
三井會社
三井銀行
三井組
三井茶商社
三井物産會社
三日續ケ
貢献
見繼ギ・グ
見盡シ・ス
三ツ口
見付ケ・ク
密使
密視シ・ス
密絨糸[1]
密接シ・ス(相)
密賣淫

密賣婬
密蜂
三菱會社
～
～等
三菱滊船
三菱社
密附
三又
見積リ
見積リ・ル
御堂(両)
見咎メ・ム
水戸黄門
見届ケ呉レ・ル
認メ得・ウ
認メ居リ・ル
認メ印
水戸屋
綠
綠ノ林[2]
見取レ居ル
皆《副》
水上
漲リ・ル
身投ゲ
見做シ・ス
湊地
南
南側
皆々
南半球
南御堂
源
～
～シ・ス
見習イ・ウ

身態
見悪シ
嶺
未納
身ノ上
身ノ上話
身ノ回リ
見計イ・ウ
身幅
見張リ
身分
見惚レ・ル
見本
見本品等
見舞イ・ウ
身罷リ・ル
見迷イ・ウ
見廻リ・ル
見廻リ役
未満
耳
耳慣レ・ル
耳古シ
未明
身持
～
～(オ)
身元
宮
宮風神社
宮方
宮城縣令
脉絡
土産
土産物
洛
都座

都鳥
宮崎臨時裁判所
宮崎臨時出張病
院
視易シ
宮本外務大使
御幸*
御幸門
御代
妙
明《連》
妙案
冥加
妙見祭リ
明後《連》
妙工
妙手
明神田
名代(御)
名代人
明朝
明日當リ
明年
冥罰
妙用
名利
妙齢殊色
未來
見ル～《副》
未練
見分ケ・ク
民
民益
民家
民會
民間
民間事業

1)「撚糸及ひ密絨糸の類」(c)　2) 緑林，盗賊

民業
民刑事共
民權
民權家
民權政治
民權說
民產
民產工藝
民事課
民事新訴
民庶
民情
民心
民人
明淸局[1]
民生
民籍
民積金
民選縣會
民智
民治
明朝樣
民費規則
民風
民部省
民兵
民法
民利
民力

迎イ
向イ座シ.ス
迎エ奉リ.ル
昔堅氣
昔ノ
麥
無機体
剝キ取リ.ル
麥湯等
無給
報イ
酬イ.ウ
酬イ.ユ
厪ミ.ム
ムグリ込ミ
ムグリ込ミ.ム
無形
無藝大食
無限
無源
婿
無辜
無效
向
無号
向カ岡射撃場
向正面
聟養子
〜
〜致シ.ス
無根
無罪
武佐寺
貪リ.ル
〜
〜(相)
貪リ取リ.ル

無算
無慘
虫
虫氣
無實
蒸風呂
無宿
矛盾シ.ス
無上
無情
筵
無心
〜
〜(五)〔御〕
無尽
無數
息子
結ビ初メ.ム
結ビ合セ.ス
結ビ付ケ.ク
結ボレ.ル
無稅
無籍
無双
夢想シ.ス
無体
無代
無駝花
無斷
無智
鞭ウチ.ッ
無賃
六ツカシ
睦ジ
睦ミ合イ.ウ
無燈
空シ

胸
棟
上棟
無念
無筆
宜
無名
〜
〜氏
無益
無用
村
村方
村上藩(舊)
村雲
紫水晶等
紫幕
村々
村役
村役人
無理
無理不法
無理無法
無慮
無量
無料
無力
無力無權
無類
無論　《副》

名印
明應　〔年号〕
明王
名家
〜
〜(諸)
明解シ.ス
明確
銘鑑樣
銘肝シ.ス
明記
〜
〜シ.ス
名義
明言シ.ス
迷眩シ.ス
銘香
明公閣下
明告相成リ.ル
(御)
明細
明細書
明細表共
名産
明示(御)
明示シ.ス
明治維新
明治丸〔薬〕
明識シ.ス
明治勳章
明治政府
名實
明者
明主
盟主
名手
名稱

無
無爲
無印
無緣塚
無價
向イ

芽
妻合セ.ス
姪
明
明暗

1) 参照「地歌局」

明証
明詳シ.ス
名状シ.ス
明書公許シ.ス
名所古蹟
名人
～
～輩
明說(五)〔御〕
名箋
名僧
銘種
明知シ.ス
明知シ能イ.ウ
名馬
明媚
冥福
明文
名分
名簿
明法
名望
銘々
冥々中
盟約
名邑
名譽
名譽面目
明瞭
～
～(不)
命令
～
～シ.ス
明暦〔年号〕
名論
迷惑

～
～(五)〔御〕
～シ.ス
迷惑當惑シ.ス
牝牛
目掛ケ.ク
妾奉公
目方
目角
目鏡
目鏡違イ
墨哥西人民
目腐レ金
惠ミ
惠ミ.ム
盲者
繞ラシ.ス
盲世界
周
循環
繞リ.ル
眼先キ
目ザシ.ス
目覺シ
飯
召
召シ.ス
召上リ.ル
召出シ.ス
飯桶
召仕
召仕イ.ウ
召捕リ
召捕ワレ.ル
飯櫃
目印
雌

珍ラシ
メゼエン條約
目立チ.ッ
滅シ.ス
滅却シ.ス
滅多に
目褄
愛デ.ズ
～
～給イ.ウ
愛デ慈シミ.ム
愛デ育テ.ッ
目出度シ
愛デ喜ビ.ブ
目途
妻ノ君
目鼻
目早シ
目安
莫大小
綿
面シ.ス
免ジ.ズ
棉衣
免役概則
面會シ.ス
免官
面議シ.ス
免許
免許鑑札
免許料
面晤
綿亘[1]
綿糸
面從腹非等

免除
免狀
面色
免職
～
～等
免稅
免稅鑑札
免稅年季明
面接
面談
～
～致シ.ス
免黜シ.ス
面倒
～
～(御)
面縛シ.ス
面部
綿布
面目
～
～共
綿密
面々

裳
喪
摸シ.ス
最《副》
盲瘂
盲啞院(假)
儲ケ
設ケ
設ケアリ.リ
設ケ置キ.ク

毛細管
申シ難シ
申シ來リ.ル
申シ上ゲ.グ
～
～置キ.ク
申シ合セ.ス
申合セ規則
申出デ
申請ケ.ク
申聞ケル
申越シ(御)
申越シ.ス
申込ミ.ム
申込ミ書
申シ達シ.ス
申立テ
～
～(御)
申シ談ジ.ズ
申付ケ置キ.ク
申傳エ
申述ベ.ブ
～
～置キ.ク
申開キ
申シ分
孟春〔船〕
猛將
申譯
～
～(御)
申渡シ
申渡シ.ス
申渡シ書
蒙塵
盲人

1)「山脉連聯り綿亘數里一大長阜を爲すのみ」(e)

猛勢
毛織
妄想
詣デ・ズ
朦昧
蒙昧頑陋
猛烈
燃エ・ユ
燃エ上リ・ル
燃エ出デ・ズ
燃エ移リ・ル
朋黄
朋黄純子
モオニングポスト〔新聞〕
痘
摸擬シ・ス
捥ギ取リ・ル
目
目シ・ス
沐[1]
默シ・ス
木阿彌[2]
默許
～
～シ來リ・ル
目撃
～
～シ・ス
沐猴
木工長〔職名〕
木材
木材表
默止シ・ス
木製燈臺(舊)
目前
默然

木像
目途
木盃
木樋
默盟
木曜日
默禮シ・ス
目錄
目論見
～
～中
若シも　《副》
若シや　《副》
文字
茂生シ・ス
摸造
～
～シ・ス
悶エ・ユ
擽ゲ・グ
默止シ兼ネ・ヌ
齋シ・ス
餅
持チ居ル
持チ來リ・ル
持合イ〔保合〕
用イ・ウ(相)
用イアリ・リ
用イ居リ・リ
用イ來リ・ル
用イ方
持出デ・ズ
持歸リ・ル
餅菓子
持川[3]
持切リ
持崩シ・ス

持越シ・ス
持込ミ・ム
持去リ・ル
持出シ・ス
望月〔謠曲名〕
持主
持運ビ・ブ
持前
餅屋
持山
持行キ・ク
持寄リ壎
持渡リ・ル
勿体ナイ
以テノ外
尤モ
尤モ千万
縫レ
縫レ・ル
玩ビ居リ・リ
持テ餘シ・ス
モデスト〔船〕
持テ囃シ・ス
固　《副》
基
～
～シ・ス
本居中教正
元方
元金
元金高
戻シ・ス
元締
元田皇后宮太夫
基キ・ク
元手
髻

元桝
求メ
求メ・ム(相)
元々　《副》
元結
悖リ・ル
戻リ
戻リ・ル
戻リ路
最中
者共
者等
物置
物音
物語リ
物語リ玉イ・ウ
物差シ
物シリ人達ヅラ
物好キ
物凄シ
物凄ジ
モハメダン
モハメット教徒
摸範
模範者
摸倣
～
～シ・ス
摸本中
揉ミ・ム
～
～合イ・ウ
紅裏
籾種
揉
木綿
木綿業

木綿羅紗
桃
腿
燃シ・ス
摸様等
催シ
～
～(オ)
催シ・ス(御)
最寄
貰イ・ウ
～
～ナサリ・ル
(オ)
貰イ合セ・ス
貰イ受ケ・ク
貰イ切リ・ル
貰イ溜メ・ム
漏シ・ス
盛リ・ル
盛岡雜誌
森參事
森全權公使
森邊
モルヒネ
漏レ・ル
漏レ聞キ・ク
洩レ無ク　《副》
諸共
醪
門(諸御)
門衞
門下
門外
紋切リ形
門戸
文言

1)「去る三日沐罷て歸京せられ」(c)　2)「元の木阿彌なり」(c)　3)「即ち喜藏其外の持川となり」(c)

門主
門人
門前
～
～(御)
問題
門地
門徒
問答
～
～シ.ス
門内
門閥
文部
文部省
文部大輔
文盲

矢
屋〔家〕
野
ヤイ《感》
刃
夜陰
家内
八重櫻
夜學
夜學校
家數
家形
夜間
焚キ.ク
燒棄テ
燒鍋
燒拔キ.ク
燒蛤

燒拂イ.ウ
燒物師
八木陸軍少佐
役・益
約
～
～(假)
～シ.ス
厄
譯
～
～シ.ス
役當
役員
藥價
藥局
約言シ.ス
藥劑
譯司[1]
藥室
藥師如來
俳優(總)
役者中
譯出シ.ス
譯述
役所
～
～(諸)
約定
約條
約定書
約定証書
約條濟ミ
約定高
約束シ.ス
藥筒
藥湯

厄難
役人
～
～様方(御)
役場
藥品
譯文
藥舖
役廻リ
役名等
藥用
藥料
役割
燒ケ.ク
燒ケ跡
夜景
燒ケ落チ.ッ
優シ
野菜
矢先
屋敷
屋敷跡
屋敷添地
養イ.ウ
～
～居ル
養イ方
養イ取リ.ル
社
猟〔漁具〕
安[2]
安イ《口語》
安シ
安尾張屋
安直
休ミ
休ミ.ム

～
～(相)
～居リ.リ
休ミ茶屋
休ミ所
廉物買イ
安～《副》
安ンジ.ズ
安ンジ玉イ.ウ
痩セ.ス
痩セ衰エ.ウ
痩セ世帶
疲歷
痩セ細リ.ル
野戰砲
耶蘇
野草
耶蘇教
耶蘇教師
～
～等
屋臺手踊リ
矢玉
夜中
野猪
奴
矢ッ張リ
窶シサ
雇イ
～
～共(諸)
雇イ居リ.ル
雇イ上ゲ.グ
雇イ醫
雇イ入レ
雇イ入レ.ル
雇イ婢

雇イ外國人
傭イ工錢
雇イ付ケ.ク
雇イ人
雇イ人受ケ宿
雇イ主
～
～(舊)
雇夫
宿シ.ス
宿ナシ《名》
宿主(各)
宿屋
～
～等
宿リ
簗
柳
家主
屋根
屋根傳エ
屋根船
矢野軍醫
矢張リ《副》
夜半
野蠻政府
藪
破リ.ル
破レ.ル
破レ笠
夜分
野砲
野砲々兵
山岡宮內大書記官
山尾工部大輔
山駕籠

1)「少年ハ～譯司と共ニ毎朝蒸氣學を講習すへし」(e)　2)「三合安にて」(c)

山方　山形縣令　山縣近衛都督　山縣陸軍卿　山口縣令　山口侍補　山坂　山崎練兵場　山里オ庭[1]　山師　山路　山路主任　山下門内　山路傳イ　山科海軍々醫　山砂利　山ナス《連》　山畑參軍　欵冬[2]　山幕　山々　暗　止ミ難シ　病ミ・ム　闇世界　病ミ惚ケ・ク　孀婦　動モスレバ《副》　夜來　槍　遣リ置キ・ク　遣リ濟シ・ス　槍付キ　遣取リ　ヤレ《感》　弊莚　野郎

柔ラカシ　和ギ・グ　止事無*シ　湯　輸シ・ス　結イ・ウ　遺骸　遺言　由緒　結納金　夕　有　勇　幽　～[3]　～シ・ス　尤　優　誘引シ・ス　悒鬱　勁雲　有益　有益至便　有益品　有益便利　遊客　遊學　～　～シ・ス　夕方　憂患　勇敢　勇敢義膽　郵寄[4]　勇氣

誘起シ・ス　遊戲　有機体　有機物　遊興　憂苦　憂慮シ・ス　悒慮慷慨　夕暮レ　有形　勇剛　猶與會　有功受賞　憂國　雄才大畧　幽洒閑雅　有志　有志輩　有司　憂死シ・ス　有事　有識者　有志者　友實　有志人　優柔　郵書　遊所　遊女　勇進シ・ス　友人　融通　～　～ナシ・ス　遊說シ・ス　有髯社會　郵送

～　～シ・ス　勇卒　夕餐　遊惰　優等　誘導　遊蕩冶郎　郵便受取書　郵便規則　郵便切手　郵便局　郵便條約　郵便稅　郵便船　郵便線路　郵便端書　郵便物　郵便報知新聞　勇婦　有夫　有夫奸　雄辨　雄辨舞筆　遊步　郵報　～　～シ・ス　遊民　勇名　幽冥　優游　悠々と　猶豫　～　～シ・ス　～ナシ難シ

有餘　有用　遊覽(御)　憂慮シ・ス　有力　幽靈　遊歷シ・ス　遊歷中　優劣　硫黃　床　愉快　床下　浴衣　湯鑵　緣由　雪　行キ兼ネ・ヌ　行キ逢イ・ウ　行キ通イ・ウ　往來　～　～シ・ス　行倒レ・ル　行違イ　行届キ・ク　行向イ・ウ　遊行寺　行衛　行ク先キ　行末　湯氣　論告シ・ス　論旨　輸出シ・ス　輸出稅　輸出入

1)「皇城内舊本丸山里お庭」(c)　2)「欵冬の類へ年中青々として」(c)　3)「谷幽に林深く」(c)　4) 郵便による寄書

～
～シ・ス
輸出品
輸出物品
輸出米
喩書
譲リ受ケ
譲リ受ケ・ク
揺リ塲〔強請場〕
輸送
～
～シ・ス
豊カ
諭達
～
～(御)
～致シ・ス
委ネ・ヌ
湯出鮹
湯鍋
輸入シ・ス
輸入定高
輸入税
輸入品
輸入物
指
指環
弓矢
夢にも《副》
夢現
夢見ル
努ヘ《副》
湯本
愉樂
許リ玉イ・ウ*
揺リ潰シ・ス
怨ガセ

緩ミ
弛ミ・ム
緩々《副》
餘
夜毎
余等《代名》
酔イ・ウ
宵宮
餘員
餘韻
能ウ《副》
要
幼
陽
擁シ・ス
庸醫
洋醫
用意シ・ス
用意等
容易(不)
養育
～
～シ・ス
養育院
養育訓導シ・ス
養育人
養育米
妖怪
容喙
～
～シ・ス
鎔解シ・ス
溶解物
洋客
洋學

洋菓子
洋舘
羊羹
腰間
要求
～
～シ・ス
楊弓店
楊弓塲
～
～等
洋教
要具
要撃シ・ス
妖言
揚言シ・ス
洋行
鎔鑛所
揺兀掀舞シ・ス[1]
養蠶
養蠶家
養蠶尊敬社
養子
要旨
洋紙
用紙
幼兒
用事
羊兒
養子相續人
容赦
洋酒
湧出シ・ス
窯術製品
要所
養女
幼少

養生
養生家
養生淺說〔書名〕
洋人
用心シ・ス
用心シ置キ・ク
様子(御)
用水
用濟(御)
要スルに
洋製
養成シ・ス
要請シ・ス
養生舍
洋製服
容積
妖說
擁簇シ・ス
壅塞
様態
容体
～
～(御)
用達
用達テ・ッ(ゴ)
用地
～
～(御)
幼稚
幼稚園
洋中
幼冲
窈窕
傭賃
～
～等
要點

幼童
搖動
用度掛リ
傭人
用人
幼年
幼年生徒
洋白銀
洋品
養父
漾布[2]
傭夫
腰部
洋風
洋服
養父子
妖氛
壅敝シ・ス
養母
用法
～
～等
洋砲
容貌
洋帽
用向キ(御)
羊毛
要用
揚々
漸々
要領
要路
養老
庸碌
洋和
餘蘊
餘嬴

1)「船体ハ怒濤ノタメニ揺兀掀舞シ」(e)　2)「漾布の如く」(c)

沃度〔薬品〕
沃度鐵舎利別〔薬品〕[1]
歐羅巴人
餘暇
余貨
豫科
夜風
餘輝
夜着
餘儀無シ
餘興(御)
欲
能シ.ス
浴シ.ス
抑壓
～
～シ.ス
浴客
～
～中
翌月
浴劑
翼賛シ.ス
浴室(御)
翌日
浴場
欲情
抑制
～
～シ.ス
抑制駁御シ.ス
翌朝
翌年
欲深シ
欲望
～

～シ.ス
欲目
翼々
能～《副》
抑留致シ置キ.ク
ヨシナに《副》
横
横截リ.ル
横須賀造船所
横須賀造船所詰官
横須賀分營
横須賀丸〔船〕
横タエ.ウ
横ワリ.ル
横町
横綱
横濱英字新聞
横濱瓦斯〔市営〕
横濱瓦斯局
横濱瓦斯燈
横濱裁判所
横濱裁判所長
横濱市民
横濱人民
横濱税關
横濱毎日新聞
横濱郵便局
横戀慕
餘財
豫算
～
～シ.ス
豫算額
豫算表
豫算簿
餘資
好シ[2]《副》
艮シや《副》

擧ジ.ズ
吉井一等侍補
芳川電信局長
竦蒼張リ
ヨシナに《副》
擧ジ上リ.ル
芳野丸
吉原大藏大書記官
餘情
豫審
與人
豫審裁判
～
～相成リ.ル
世捨テ人
四隅
寄席
寄セ.ス
～
～居ル
～來リ.ル
寄木
豫設
寄セ引キ掛ケ割リ算
寄セ引キ混用算
餘喘
餘所
裝イ.ウ
昇送シ.ス
裝オイ.ウ
餘所目
踈立チ.ッ
涎
餘地
餘虫

四ツ[3]
豫定シ.ス
夜永
夜鳴
夜ナ～
米藏臨時病院
餘念
世ノ中
餘派
餘白
豫備
～
～シ.ス
呼集メ.ム
喚出シ.ス
呼起シ.ス
豫備金
呼聲
豫備兵
呼出シ
～
～(オ)
呼出シ.ス(御)
呼出シ相成リ.ル
呼出シ狀
呼立テ.ッ
呼止メ.ム
呼迎エ.ユ
呼戻シ.ス
豫備役員
呼寄セ.ス
餘風
餘燼
豫防
～
～シ.ス
與望

豫防心得
豫防治療
豫防法
豫防藥
夜參リ
ヨマシ麥[4]
讀ミ得.ウ
嘉ミシ.ス
讀上ゲ.グ
讀到ル毎
讀賣新聞〔新聞〕
讀了リ.ル
讀書キ
讀ミ方
讀聞セ.ス
黄泉
夜路
嫁
嫁入リ
餘モ[5]《副》
ヨモや
四方八方話
餘裕
夜々《副》
世々《副》
寄リ.ル
倚リ.ル
撚*リ.ル
寄合イ
寄合イ.ウ
寄集リ.ル
寄來.ク
寄集イ.ウ
據
喜ビ
喜ビ居リ.リ
喜ビ給イ.ウ

1) 舎利別は，シロップ　2)「好シ又彼等ヲシテ」(b)　3)「四ツに渡つて負け勝を付けんものと」(c)　4)「所謂ヨマシ麥ゝて肝心の滋養分たる眞の味を洗ひ流し」(c)　5)「餘も忘れはせまじ」(c)

宣シキ　《名》
萬代（よろずよ）
ヨロ～～と《副》
輿論
輿論衆議
弱シ
齢（よわい）
齒（よわい）シ・ス[1]
弱キ　《名》
弱氣
弱リ・ル
四親王
據（よんどころ）ナシ
四割麹（よんわりこうじ）

ラアゲルビイル[2]
來往シ・ス
來會
～
～シ・ス
～シ給イ・ウ
雷管
來觀
～
～シ・ス
來客
來月
來源
來迎（こう）寺
來日（じつ）
來者
雷獸
來春
來書
～

～中
雷震
雷聲
來請シ・ス
來着シ・ス
來電
雷同阿諛（ゆ）
來年
禮拜
～
～シ・ス
癩病
來訪
雷鳴
來由
磊々
磊落
來歷
樂（らく）[3]
落
落決
～
～シ・ス
落札シ・ス
落字
落失シ・ス
落城
落成
樂善會
落第シ・ス
落着
～
～シ・ス
樂中
烙鐵法
落電シ・ス
落票

落雷
羅紗
螺線
裸体
臘虎（ラツコ）皮
臘虎獵
喇叭（ラツパ）
～
～等
ラドカ号〔船〕
刺麻（ラマ）〔宗教〕
亂
覽
欄干
亂絮（らんじょ）堆綿
蘭人
濫製濫造
亂賊
藍靛（らくん）[4]
亂徒
欄內
亂入シ・ス
亂入打擲シ・ス
濫費
～
～シ・ス
乱舞等
ランプ
亂暴
亂暴狼藉
亂民
鑾輿
濫用
爛々
襤褸
鸞輅（らんろ）[5]

理シ・ス
リイチスタグ[6]
吏員
利益金
離緣
～
～シ・ス
離緣狀
履（り）靴
理解シ・ス
離乖（かい）シ・ス
理外
利害得失
利害得喪
理化學
力役（りきえき）者
力士
力者
力ミ・ム
鯉魚
利金
～
～(總)
陸
陸揚ゲシ・ス
陸海
陸海軍
陸海軍卿
陸軍
陸軍營
陸軍會計一等副監醫
陸軍會計軍吏
陸軍會計軍吏副
陸軍會計軍吏補
陸軍樂隊
陸軍官

陸軍卿
陸軍教師
陸軍々醫
陸軍撿閱使
陸軍裁判所
陸軍裁判中錄事
陸軍士官學校
陸軍事務
陸軍主任
陸軍少尉
陸軍少尉試補
陸軍將官
陸軍將校
陸軍少佐
陸軍少將
陸軍少輔（しょうゆう）
陸軍大佐
～
～(前)
陸軍大將
陸軍中佐
陸軍中將
陸軍徒刑場
陸軍二等軍醫正
陸軍始メ
陸軍服
陸軍兵
陸鄕
六兕（りくじ）[7]
陸續（ぞく）
陸地
理屈
～
～(不)
陸通[8]
戮力同心
陸路

---

1)「人ト齒スルヲ得セシメザリシヨリ」(e)　2) lager beer　3) 千秋楽　4) 藍玉（あいだま）　5) 天子のお車　6) Reichstag, 議会　7)「彼の六兕が運果（かいりあひ）よてハあらさる歟」(c)　8)「米人ハ幾星霜の跡に南北陸通の美擧を視るを得む耶」(d)

履行シ・ス
離婚
～
～シ・ス
理財
～
～上
理財家
離散
～
～シ・ス
利子
利實
利潤
吏人
利刃
利人
利世經國
履踐シ・ス
里俗
律
立案シ・ス
立夏（りっか）
利付
立憲政體
立志學舍
立志社
立志社員
律書
立錐
立派
立派奇麗
立派過ギル
《口語》
律法
～
～(某々)

立方[1]
立法
立法官
律例
律令[2]
立論
里程
里程便覽
利刀
利德
利得上
離背
理非曲直
理不尽
利札（りふだ）
理平シ・ス
離別シ・ス
裏面
利益(御)（りやくご）
畧
畧記
畧記術〔速記術〕
畧言シ・ス
略史
畧取シ・ス
掠奪
畧服
畧報
畧論シ・ス
流[3]
隆渥
龍王湯（とう）〔薬〕
留學
硫化炭素
琉球藩地
流血不祥
流行シ・ス

流行景況
流行病
榴霰彈
硫酸鐵
流失シ・ス
流水
隆盛
隆替
溜滯
流彈
榴彈
流通
～
～シ・ス
流燈
流風
流亡シ・ス（リュウマチス）
僂麻質斯症
龍紋
留養（りゅうよう）
柳葉針（りゅうしん）[4]
流落致シ居リ・ル
利用シ・ス
量
了
～
～シ・ス
陵(御)（りょうご）
粮（りょう）
料
良
領
～
～シ・ス
諒シ・ス
療シ・ス
両回

両君
両箇
兩名
両位[5]
良家
了解(不)
了解致シ難シ
兩艦
両官
領議政〔職名〕
両脚
凌虐シ・ス
両橋
良玉
料金
両軍
両郡
両家
両縣
～
～下
両件
了簡シ・ス
両舷
両公
両校
両号
両告
兩國中村樓
兩國橋
梁材
良材
良策
諒察シ玉イ・ウ
両山
両氏

獵師
～
～共（ども）
漁師等
領事
療治
～
～シ・ス
～中
両字
領事館
領事廳
良質
両日共（ともに）
両者
両社
良種
領主(舊)
両州
獵銃
領收証書
両所
兩署
良書（りょうしょ）
糧餉
兩省
兩商
両條
～
～共（ともに）
粮食
糧食費（りょうじひ）
療治料
両親
良心
量數
兩生

1)「立方・圓體」(e)　2)「憲法及律令ヨ憑（よ）リ」(d)　3) 流儀　4)「柳葉針ヲ以テ一腫部ヲ截開スルニ」(a)　5) 貨幣の両本位

良政	量目	履歴書	吝惜	～シ.ス
兩石	良冶[2]	理論	凜然	禮
両說	療養	吝	鱗屬[4]	～
良善	～	霖雨	隣村	～(御)
両側	～中	隣屋	隣地	靈
僚屬	両樣	隣家	輪番	例外
～	料理向キ	臨機	輪番幹事	黎霍
～(諸)	料理店	臨御	隣比	靈岸寺
両村	料理屋	～	臨模シ.ス	冷氣
兩單[1]	寥々	～遊バシ.ス	倫理	例規
領地	兩曆	鄰境	林立	令君
兩地	両老	隣近		麗潔
両廳	旅客	臨月		囹圄
兩途	綠槐[3]	林檎	壘	靈光
兩度	綠環	臨幸	累	例刻
両黨	綠樹	～	類シ.ス	例祭
兩頭	綠松蒼竹	～遊バシ.ス	類外	～
両道	綠赤	～マシマシ.ス	壘柵	～(御)
諒讀	綠門	鄰交	類似	例歲
領内	旅券	臨時	～	令子[5]
漁場	旅行	臨時會議	～シ.ス	禮式
粮販	旅行者	臨時糾問所	類燒シ.ス	禮謝
両坂	旅舍	臨時區會	類地	黎庶
兩斷	旅宿	臨時國會	類例	隸書
良美	～	臨時祭	ルウマニヤ侯	例証
療病院	～シ.ス	臨時裁判所	鏤刻シ.ス	嶺上
良品	旅人宿	臨時試驗	流罪人	令嬢君
両部	旅僧	臨時出金	留守	伶人
凉風	旅團(各)	臨時食品	～	例圖
陵墓(御)	旅亭	臨時費	～中	冷水
良方	～	臨時病院	流傳	勵精
兩法	～(各)	臨時報中	ルビイ〔船〕	零凋
陵墓地(御)	旅店	臨場シ.ス	流布シ.ス	零點
粮米	旅費	吝嗇		令德
良民	旅用	臨席		癘毒
療務	呂律	～	令	例年
	履歷	～シ.ス	～	禮服

1) 貨幣の両本位と単本位と　2) 良いかじや　3) 緑の木かげ　4)「鱗屬の中で」(c)
5)「タトヒ賢妻令子能ク自ラ立身スルトモ」(e)

例文
靈峰
禮法
禮法儀式
鈴役[1]
嶺霽寺
轢轢
歷觀シ.ス
歷史
歷事シ.ス
歷陳シ.ス
歷々　《副》
紳士
列シ.ス
列式
列車
列叙シ.ス
列塲
列女傳
裂發シ.ス
列藩
列品
列立シ.ス
レパブリカン黨
廉
連印
廉價
聯下
煉瓦
煉化家屋[2]
煉化石
聯合
連合大擧シ.ス
聯殼
連山
連日
練習

連中
練熟シ.ス
連署
廉書
連戰累勝
連續シ.ス
連帶シ.ス
聯隊長
戀着シ.ス
連黨
連彌猴[3]
練兵
戀慕
連峰
憐愍
連名
連名簿
連夜
連累
〜
〜等
戀々
練和シ.ス

ロ　〔記号〕
艫
勞
〜
〜シ.ス
老
廊
樓
牢
弄シ.ス
朗詠集
勞役

老翁
樓閣
勞苦
老健
老公
老功
老功熟練
勞作
勞作人
勞者
老者
牢舍
老弱男女
樓主
老樹
陋習
老中
老少
老松
朗誦シ.ス
樓上
勞情
老商熟賈
老人
老人夫婦
朗晴
朗晴温暖
老成人
老僧
蠟燭
陋俗
蠟燭代
壟斷
勞動
〜
〜シ.ス
蔓岩根　〔薬〕

勞動者
朗讀
〜
〜シ.ス
老若男女
老年
老農
老婆
狼狽
狼狽困竭
隴麥
勞費
老父
老婦
勞夫
老母
羅馬教
羅馬法皇
老耄爺
老爺
老幼
籠絡シ.ス
勞力
老練達識
魯營[4]
魯京[5]
錄
〜
〜シ.ス
碌に　《副》
鹿角
六君
祿券
祿券利子
六七小區
六十噸積ミ
六尺一分竿

勒助シ.ス
六小區
鹿聲
六隊
六大區
簏底
六等出仕
六等屬
六等伶人
六人扶持
錄用シ.ス
轆轤
碌々
碌々に　《副》
魯軍
露顯
〜
〜シ.ス
路次
艫舳
魯紙幣[6]
魯鷲[7]
滷汁鹽[8]
路上
魯勝土敗
ろ印　〔記号〕
魯人[9]
魯政府
ロタア号　〔船〕
魯帝[10]
〜
〜陛下
路程
魯廷[11]
露呈シ.ス
露店

1)「葬送にハ〜鈴役二人」(c)　2) 煉化は，煉瓦　3)「連猴猴重ク樹弱ク枝折レテ」(e) 4),5) 魯は，ロシア　6)「魯紙幣二万七千ルーブル」(c)　7)「央シテ鬱フルニ足ラス何ソトナレハ魯鷲捜ソトスレバ」(e)　8) アルカリ　9),10),11) 魯は，ロシア

路費
魯兵[1)]
鹵簿
路傍
露命
鹵莽
論ジ得.ウ
論ジ難シ
論意
論會
論議
～
～シ.ス
論及シ.ス
論件
論告
論旨
論師
論者中
論趣
論述シ.ス
論塲
論說
～
～シ.ス
論說文
論題
論達致シ.ス
論達シ.ス
論地
論點
論難シ.ス
論判
論文
論辨
論辨文
論鋒

論理
論理術
論理術者
論了シ.ス

輪
和シ.ス
賄賂
和歌
若シ
若イ　《口語》
和解シ.ス
若イ者等
和學者*
我儕　《代名》
吾曹　《代名》
分チ.ッ(相)
分チ架ケ.ク
若槌樓〔貸席〕
吾黨
若年增
若殿原
和歌ノ浦丸〔船〕
若松屋
若松樓
我儘
若者
我ガ家
和歌山縣廳
分リ.ル
～
～(相)
別レ
分レ難サ
和漢
脇

和氣
別*キて　《副》
和議
涌キ出デ.ズ
脇坂中務太輔
脇地
湧キ登リ.ル
辨エアリ.リ(相)
脇目
籔[2)]
分ケ.ク
分ケル　《口語》
分ケ入リ.ル
分ケ前
和合院
業・術
技
態と　《副》
災
～
～シ.ス
態々　《副》
倭杖[3)]
和親
和親交易
和親通商シ.ス
僅
煩イ
煩イ.ウ
煩ワシ.ス
忘レ遣リ.ル
早稻
和船
綿
綿入レ
私　《名》
～

～シ.ス
私　《代名》
～
～共
私　《代名》
渡
渡シ.ス(相)
渡シ.ス(御)
渡シ置キ.ク
渡シ置キ.ク(相)
渡シ方
渡シナサレ.ル
(御)
渡シ金
渡シ主
渡シ塲
渡シ舟
渡邊大政官大書記官
綿畑
綿虫
委
ワッと　《副》
和同開珍
算
和主　《代名》
詑
詑ビ.ブ
詑入リ.ル
詑書(御)
寂住イ
和文
和平
和物
和約書
藁
笑イ

笑イ.ウ
笑イ草
草鞋
藁火
藁莚
妾　《代名》
童部
割
割に
割合共
割當テ相成リ.ル
割印
割印帳
割書キ
割籠
割リ聲[4)]
割リ御幣[5)]
割註
割ナシ
割払イ
割引キ
惡シ
惡イ　《口語》
惡サ　《名》
惡戲
惡勸メ
惡工ミ
我等
吾勝チに《副》
我ナガラ《副》
我モ我モ《副》
灣中
腕力
腕力論

1) 魯は，ロシア　2)「綾取ノ籔ヲ用ヒサルカ爲ニ」(a)　3) やまとづえ　4) 珠算で，割算の九九の呼法　5)「御神體之割御幣」(c)

5　第4表　補充調査で追加した語の表（五十音順）……C表

C表は，補充調査の結果新しく追加することのできた異なり語だけを収める。A表，B表と重複するものは収めない。追加した異なり語は8,616である。ただし，人名・地名・数詞は含まない。

C表は見出しと注記とから成る。その体裁はB表に準じる。

1　見出しのうち，漢字はつとめて原文に従った。

2　頭に，印のついた見出しは，物価・広告欄に現われたものである。

(2・1)　物価・広告欄だけに現われた語は，頭に＊をつけた。

(2・2)　本文と物価・広告欄との両方に現われた語は，頭に☆をつけた。

3　片かなルビは原文のまま，また平がなルビは調査者がつけたものである。

例　相女同車（アイノリ），素轉倒（スツテンコロ）と，鵂鶹（きゆうりゆう），田畯（でんしゆん）

4　注記欄の層の名のうち，(物)は物価欄，(広)は広告欄である。なお，くわしくは 64ページ 参照。

同形，同音のかな，および同音語の排列の順序については，37 ページ参照。

第4表　追加語彙表

アア　《副》	＊秋田地廻リ	鹹草（アシタグサ）	穴堀	＊在形（ありかた）[5]
アアメットモク	＊秋津洲丸（あきつしまる）	＊蘆野郵便局	肋骨（アバラボネ）	有難連(オ)[6]
タルパシャ	商内高	足踏	虻年（アブ）	難有味
愛シ居＊ル	明壜	預リ(オ)	浮雲（アブ）ナシ	難有迷惑
愛育シ.ス	商人体（アキユウド）	預リ金	油商	＊有高
相生橋	呆レ.ル	預リ金證文	油商人	有振レ.ル
愛護	悪鬼	預リ證書	アフリカ飛蝗（ひこう）	アレ　《感》
～	悪事	預リ高	アベルコルン号	アレエ　《感》
～シ.ス	悪疾	預ケ	安房（あほう）視シ.ス	アレキサンドル
穢（あい）臭	渥朱[2]	預主	阿魔	帝
隘少	悪性同志	預ケ拂イ	天城艦	荒高下（あれこうげ）〔相場〕
溢（あい）水	悪水路	遊ビ初メ.ム	天降リ.ル	荒レ損ジ.ズ
哀聲	芥溜等	與エ呉レ.ル	天ツ日	荒地
愛善社	悪蟲	仇シ女	＊網手提（あみてさげ）	＊荒吹キ.ク
相對	悪病	新シ橋〔橋の名〕	編物	粟等（とう）
愛知新聞	揚卸シ等	アチコチと	亞米利加人	幷シ.ス
愛重シ.ス	揚卸シ.ス	アッ　《感》	アヤシ.ス[4]	淡路島丸
相銕　〔茶亭	亞元[3]	扱イ	誤リ傷シ.ス	安房神社
哀悼シ.ス	淺ィ	扱人（にん）	誤リ取リ.ル	袷
生憎	淺井備前守	厚皮	黒白（アヤメ）	併セ謂イ.ウ
相女同車（アイノリ）	麻上下	壓窄	香魚鮓（アユズシ）	暗々裡
曖昧シ.ス	淺黄木綿	壓制政治	荒　〔欠点〕	暗々地[7]
＊亞鉛ベンキ	＊麻脚絆	集メ方	洗イ上ゲ.グ	案起シ.ス
＊青板(新)	淺草市	壓滅シ.ス	＊アライ粉	安危隆替
仰ギ尊（タツト）ミ.ム	＊淺草官廩	壓抑政治	洗イ浚イ《副》	＊鞍工所
仰向キ.ク	淺草米廩（グラ）	軋轢	荒事　〔芝居〕	暗刺
青山御園	淺草橋詰	當テ事	荒汐	～
購イ置キ.ク	淺草米廩（りん）	貴人（アテビト）	荒世帯〔新世帯〕	～シ.ス
赤條々（アカハダカ）	＊朝倉山椒	跡方	荒立（ママ）チ.ッ	案ジ
赤羽根製銕局	嘲リ誹（そし）リ.ル	跡金（さん）	暴立（アラダ）テ.ッ	按ジ出シ.ス
赤羽根橋	淺瀬	跡先	改＊メ建テ.ッ	諳射圖[8]
＊赤間（あかまが）關局	＊朝塲	＊跡報	新手（アラテ）	暗處
赤松海軍少將	亞細亞部	跡戻リ	＊荒卷鮭	案事煩イ.ウ
＊秋子[1]	足輕	アナ　《感》	現シ玉イ.ウ	安心滿足シ.ス
＊秋子椎茸	足駄	アナ畏コ	＊顯レ.ル(相)	安息シ.ス

1)「秋子椎茸」に同じ　2)「宏壯美觀塗るに渥朱を以てす」(c)　3) 科挙の位　4)「あやせば笑（わら）ふて」(c)　5)「孟宗林畑地等在形の儘」(広)　6)「宗旨は真宗を尊（たふ）とみお有難連が頗る多し」(c)　7)「暗々地ニ私情ヲ逞マシフセシメント」(e)　8) 白地図のこと

暗澹
行燈部屋
按内ナシ.ス
案内状
アンポンタン
暗涙

帷幄
居合ワシ.ス
云玉イ.ウ
＊言合[1]
云聞ケ.ク
言草
言イサシ.ス
言爽テ.ッ
云立チ.ッ
言次ギ.グ
云附ケ　《名》
言併ベ.ブ
言逃レ.ル
云延ベ.ブ
云噺シ.ス
言含メ.ム
云伏セ.ス
云様
言渡シ書
醫員長
家シ.ス
家屋敷
家慶將軍
＊醫家
＊醫科
違註條例中
違註犯
鑄換エ.ウ
韋革等

醫學會社
毬栗天窓
瞋ラシ.ス
射交*シ.ス
遺棄
域外法權
蘇生リ.ル
＊息*切レ
活地獄
生存ラエ難シ
醫業
幾員
幾基
幾舟
幾層
幾方里
幾戸數
育子
育種塲
幾彈
幾程
＊異動
池田領事君
意見書
威光(御)
縊殺
石和代官所
石井國手
石井内務大書記官
醫事衛生上
石岡郵便局
石川縣令
違式詿違
石小刀
石摺大幅
石橋

石礮
維持方法
石丸造幣局長
蝟集シ.ス
異宗門
衣食シ.ス
イ印　〔記号〕
何國
何地
出雲神社
孰レモ《代名》
爲政
＊伊勢海鹿
伊勢六〔妓樓〕
急ギ足
遺族(御)
遺俗流風
磯野海軍少尉
石上 神社
依存シ.ス
抱キ上ゲ.グ
抱キ留メ.ム
居猛高
鑄出シ.ス
痛ワシサ
逸足[2]
一意
一異事
一員
一宇
＊一閲
壹圓札
壹圓紙幣
一概
一家族
＊一月期
一月限

一月渡シ
市ケ谷監獄
市ケ谷監獄署
市川流
一澗水
一義
一奇事
一業
一行置キ
一教師
一氣力
一具
一源因
一互[3]
一侯
一港
一己人
一罪
＊一劑
一事一行
一時雇イ
一主義
一塲外
一小丘
一小港
一小都會
一陣
一戰塲
一賊
一簇[4]
一大机
一大緊要物
一大群
一大菜圃
一大事故
一大事變
一大爭亂

一大發裂
＊一大要點
一男兒
一都會
一都府
一人一家
一人一己
一人前
市野屋
一悟シ.ス
一番摘ミ
＊一番白糖
一番々頭
一秒時間
一分銀
一伍一什
一婦人
一分署詰
一方面
一万五千モルゲン廣[5]
一物
一文不通
一藥
一約期限
一夜作リ
帷帳等
一要點
一両種
一厘銅貨
一老翁
一老媼
一和
壹割金[6]
＊一割引
＊遺珍
一介

1) 銀相場の用語　2)「逸足出して」(c)　3)「治亂興廢一互ニ起リ」(e)　4)「一族ノ教師〔宣教師〕又タ來航シ」(e)　5)「一万五千モルゲン廣ノ地」(e)　6) 一割に相当する金額

一覺シ・ス　一掃蕩盡シ・ス　以東　藷芋　因循シ・ス
一竿　一村中　移動費　芋掘象生　隱所
一器　＊五玉入リ　絲屑紡績所　イヤとよ《感》　印書
一級生　一地　井戸桁　＊違約人　淫所
一級生徒　一中節　居處　威容　引證シ・ス
一響　一朝一夕　糸筋　＊入込注文　☆飲水
一句　一直線　營ミ居ル　＊衣類等＊　隱宅
一計　一丁字　＊井戸ポンプ　入レ置キ・ク　＊隱宅(舊御)
一決シ・ス　一定不變　暇(オ)　入レ畳リ・ル　＊印度教
一軒屋　一跌　挑ミ合イ・ウ　入レ奉リ・ル　印度航海
一向　〔宗派〕　一店(毎)　田舍源氏〔書名〕　＊煎出シ・ス　印度墨
一國內　一嚊　稻株　違令　印度木綿
一昨々夜　壹等運轉手　否ミ・ム　入替エ等　陰部
一昨日頃　一等官　固辭ガタシ　色狂　陰蔽シ・ス
一昨朝　壹等機關手　居並ビ・ブ　色好ミ　引力說
一粲[1]　一等馭卒　稻荷(兩)　＊色摺　陰曆(舊)
一讌　一等軍醫正　稻荷祭　祝イ奴メ・ム
一使　一等出仕　稻荷神社　祝酒
一雌[2]　一等巡査　以南　岩倉少典等　憂ジ＊
一紙　一等巡査補　犬塚撿事　石清水八幡神社　右位
一子一弟毎　一等賞記　稻草　淫　初係
一社[3]　一等賞典　居殘リ　隱暗欺詐　上野山內
一株　一等勅任　溺シ・ス　印影簿　上野博物舘
一周歲　一等秘書記　委微　陰害　植半〔植木屋〕
一朱銀　一敗　意表　＊員外　＊植物
一妾　一般燈光　不審シゲ　員外郎[4]　迂遠
一笑　一般同類　イブカリ(御)　飲客　有緣
一生涯　一筆每　イベニンクポス　隱居工業　魚市
一心　一襲　ト新聞　陰險奸惡　魚町
一新シ・ス　一本勝負　遺忘仕リ・ル　＊韻語　浮ベ置キ・ク
一釘　〔一針〕　僞リ告ゲ・グ　以北　＊印行シ・ス　浮ミ出デ・ズ
一睡　出デ來リ・ル　遺墨等　淫行　浮レ出シ・ス
一寸板　遺体　今井撿事　咽喉病　浮カレ給イ・ウ
一盛一衰　夷狄視シ・ス　今石動郵便局　印刷機械　浮レ男
一世一代　移轉開業シ・ス　＊今市郵便局　＊印刷長　＊浮粉
一洗シ・ス　＊移轉機械　忌ミ憚リ・ル　印紙代　有喜世新聞
一双　＊糸(新)　醫務掛　インジニール[5]　請印濟ミ

1)「一粲を博す」(c)　2)「一雌平均七十卵ヲ孕ム」(e)　3)「一社ヲ結ハント」(e)　4) 清朝の職名　5) engineer

請賣者　打殺シ.ス　鰻屋　＊賣注文　＊運用科
＊請賣所　打過シ.ス　合點アイ.ウ　＊賣手
受ケ後レ　打捨テアリ.リ　右傍　＊賣人
受取方等　打捨テ給イ.ウ　午年　～　＊荏[4]
＊受取口　打附ケ置キ.ク　熟睡　＊～勝　詠
☆受取所　打續キ.ク　＊廐橋　賣主　鋭意シ.ス
請人　打貫キ.ク　産ミ　《名》　＊賣覘イ　營業シ.ス
受持教員　打處　産ミ落シ.ス　＊賣放シ申シ.ス　營業者
受戻シ.ス　打取リ吳レ.ル　埋草　＊賣弘メ所　＊營業本舖
請宿　內取引　梅田停車場　＊賣弘メ書肆　營業利益
＊請渡シ　打チナグリ.ル　梅ノ宮[3]　＊賣戻シ.ス　英語學校
受渡シ高　打鳴ラシ.ス　裏ウエ　賣渡シ置キ.ク　英國銀行
雨後　打拔カシ.ス　裏店　潤イ　＊英國史
＊宇治上茶　打攘　《名》　～　賣レ殘リ《名》　永悟法親王
後姿　打臥シ.ス　～等　浮氣モノメ　英字新聞
＊薄商イ　打任セ置キ.ク　裏手　上乘リ旅費　衛戍兵
後迫　打輸ケ.ク　＊裏巾　＊上放レ〔相場〕　衛戍本部
雨霰霖潦　打敗リ.ル　恨ミ啼キ.ク　＊上放レ.ル　英將[5]
薄藍　打破レ.ル　麗カ　ウン　《感》　永世供養
雨水　＊內譯書　ウラ若シ　雲雨　衛生事務
薄氣味ワルシ　打忘レ.ル　賣上利益　雲外　衛生費
薄疵　打笑イ.ウ　☆賣急ギ.グ　雲際　營繕局
＊薄取組　打割リ.ル　＊賣惜ミ工合　雲州邸　營繕費
＊薄見凜サ　鬱々　＊賣惜ミ摸樣　雲水行脚　鋭卒
雨勢　鬱々葱々　賣氣　運送　繪板
虛僞リ　鬱胸　＊賣氣張リ.ル　運漕船　英帝[6]
歌會始(御)　移シ給イ.ウ　賣子　運漕賣却シ.ス　永年利益上
打明シ.ス　鬱蒸シ.ス　＊賣聲　運送馬車　鋭筆
打當テ.ツ　鬱憤　賣込引取營業　＊溫底　＊英文
打納メ.ム　移リ香　＊賣差直等　運動器械　英文新聞
打掛リ.ル　移リ住ミ.ム　賣捌キ金　雲泥霄壤　＊英米禮記
打語リ.ル　帝[1]　＊賣捌キ廣告　運搬等　瘞埋[7]
打聞キ.ク　迂轉[2]　賣捌キ所　運搬籠　英邁卓識
＊內景氣　＊雨天勝チ　～　運搬給需　英民[8]
打消シ.ス　有德モノ　＊～(諸)　運搬人足　贏利　〔贏利〕
打チ毀チ.ッ　疎ジ.ズ　＊賣出シ兼ネ.ヌ　雲表　英領
打込　促シ　《名》　＊賣出シ摸樣　運婦等　永祿　〔年号〕

1)「其帝至て脆く」〔烏曰樹の〕(c)　2)「大地ノ迂轉」(e)　3)「同區ニ名ある梅ノ宮神職橋本某」(c)　4) 荏の油　5) すぐれた將軍　6) 英国皇帝　7)「瘞埋の塲を開創せし以来」(c)　8) 英国民

永祿寺
熒惑シ.ス
エエ　《感》
＊エエル大學校
柄木[1]
役囚
驛所
奕塲
驛人
驛村(各)
驛遞
驛遞局長
驛內
疫癘等
依怙
囘向伽陀
畵姿
　〜
繪圖引
　〜シ.ス
エスペランザ号
エセ歌世[2]
＊繪草紙屋
穢多
　〜
　〜(舊)
枝々
悅喜シ.ス
＊閱校
越人[3]
越中褌
閱了シ.ス
會得シ易シ
江戸地圖
畵番附
海老
撰リ.ル
襟紙
撰リ取リ.ル

宴安
延引ナシ.ス
掩映シ.ス
遠裔
炎々
奄々
鴛鴦窟庭
沿街
沿海大市
椽桷
＊沿革史
＊椽側川[4]
椽儀　〔仏教〕
延期談判
遠距離
捐金
　〜
　〜シ.ス
掩撃
＊遠國
宴主
閻堅[5]
捐助
　〜
　〜シ.ス
遠省
遠心
圓石
演舌ナシ.ス
＊演說集誌
演舌討論シ.ス
檐前
遠黛
遠大長久
＊遠地
緣附ケ.ク
遠圖

延納撿見
延納願イ
椽端
＊鉛版
＊遠表樹〔植〕
怨謗
鉛葉紙
遠來
延曆寺
園林

汚穢物
負イ玉イ.ゥ
生イ出デ.ズ
逐イ追リ.ル
逐イ倒シ.ス
生イ立チ.ッ
追剝ギシ.ス
＊花魁香
オ岩稻荷
快々不滿
王家
＊枉顧
王侯將相
横死
　〜
　〜シ.ス
横字新聞
歐洲大會
奥州物
歐西
應接中
應戰シ.ス
應對上
歐地
横着阿魔

王徒
　〜
　〜(舊)
王黨中
黃熱疫
往復課
往復旅費
☆歐文
歐文掛リ
横文新聞中
＊應募
横奔
御廐課
近江晒布
應務
應用
應賴藝者[6]
往來端
横流シ.ス
押領シ.ス
汚穢
蔽イ匿シ.ス
大分裁判支廳
貊犬
大岩
大甕
大借リ
大雁股
大川端
大キヤカ
＊大藏卿閣下
大藏省內
大藏大輔
＊大石數〔相場〕
大越主人
＊大坂英語學校
大坂心齊橋

大坂新聞
大皿
大猿
＊大鹽
大店
大谷光尊法主
＊大玉[7]
＊太田郵便局
＊大樽
太田樓
＊大俵
大築大佐
＊大手筋合
大手門(舊)
大鳥神社
＊大取次
大長刀
大入道
大貫郵便局
＊大蛤*
大廣間
＊大瓶
＊大節
大部屋者
大町分署詰
大神神社
大村侯
大和神社
岡本中佐
＊岡山師範學校
置キ去リ.ル
置賜縣令(舊)
置物等
＊補*エ.ゥ
置キランプ
奥樣
奥印

1)〔蝙蝠傘の〕「絹地及ヒ柄木」(b)　2)にせ歌聖　3)「越人ノ秦人ニ於ケルカ如キ」(e)
4)「〇雪隱三ケ所〇椽側川三ケ所」(広)　5)「閻堅妃嬪ハ」(e)　6)「是れは多分應賴藝者や淫賣女があるゆゑだとて」(c)　7)「鷄卵～大玉一〆目」(物)

奥書加印
奥唉
＊御髪(オイシ)毛
億兆
晩(おくて)稲
晩稲刈
億萬年
送(いい)リ
送リ居ル
送リ來リ・ル
＊送リ下サレ・ル（御）
送リ玉イ・ウ
＊送リ申シ・ス（御）
＊送リ荷
贈リ物
行イ居リ・リ
起リ・ル（相）
起リ立チ・ッ
小笹
納メ得・ウ
納メル
小澤大佐
＊汚齒
押上リ・ル
押明ケ・ク
押宛テ・ッ
＊押入レ附
怖ジ恐レ・ル
押隱シ・ス
押掛ケ
押掛ケ來・ク
押掛ケ嫁入リ
＊押込ミカネル
＊押込ミ申シ・ス

押鎭メ・ム
押立テ・ッ
押宥メ・ム
押握リ・ル
押向ケ・ク
オシメ　《名》
＊白粉*下
鈍(オゾ)シ
小田(おだて)手　〔煽〕
御爲メ筋
落チ集リ・ル
＊落*チコジレ・ル
落チ振レ・ル
乙科
＊乙朝[1]
追ッ付キ・ク
追ッ拂イ・ウ
乙藷
乙部
汚點
音爲シ・ス[2]
音沙汰シ・ス
＊劣リ
＊衰*エ《名》
驚キ入リ・ル
驚キ懼レ・ル
鬼神
男子(オノコ)
小野田大警部
己レ共
己レ等
尾羽(おは)
伯母サマ
オバサン
＊帶戸
飮肥藩(舊)

オ福面(めん)
思*シタチ
溺レ死シ・ス
オ巡リ
オメオメ
御召(おも)船
面
思イ當リ・ル
思イ誤リ・ル
想イ起シ・ス
思イ思*イ
思イ切レル
思イ立テ・ッ
思イ違イ・ウ
思イ詰メ・ム
思イ量リ・ル
重傷(オモキズ)
面白ソウ
＊表間口
面モチ
＊以爲(オモワ)ク筋(スジ)
御雇外國人
親馬鹿爺(チャンリン)爺
尾山神社
小山郵便局
母(オヤ)指
泳塲
凡ソ積リ
及ビ置キ・ク
汚吏
折リ入リ・ル
於利口連者
折リ旋(マガ)リ・ル
オルステス号
オワシ・ス
＊音讀(かく)
＊恩求(おひ)
恩給令

音曲社會
溫習
溫柔
溫柔境裏
溫柔軟弱
園城寺
音信通器
音信料
溫泉塲
溫泉行キ
溫直
女氣
怨念
溫和

菓[3]
化シサリ・ル
彼の　《連》
＊牙　〔象牙〕
賀シ・ス（相）
カアンナル[4]
＊買　《名》
買イ得・ウ
＊買イ旁(かたがた)
會（前々）
解シ・ス
海安号　〔船名〕
買入レ呉レ・ル
海員
解院
該員
＊海員試驗
＊買埋メ・ム
戒役
外役先
會筵

開筵シ・ス
怪火
改革家
貝化石
＊買方筋
快濶
廻艦
解官シ・ス
外官
外艦
會幹委員
海關稅額
海岸附[5]
會議（惣）
＊買氣張リ
海技免狀
＊改行
該峽
外教
☆開業免狀
外具
海軍權少書記官
海軍少機關士
海軍少主計
海軍水路局
海軍大機關士
海軍大佐
海軍大秘書
海軍中機關士
海軍中主計
會計定額
會計年度
解元[6]
外交官員
〜
〜中
外交政黨

1)「甲夜(そのよ)に摺立之を乙朝(あくるあさ)に配達(くばら)せんとす」(広)　2)「家々ゑ戸明(とあく)る音爲す折節」(c)　3)「文化開明ノ菓ヲ結ヒ」(e)　4) colonel, 中佐　5)「海岸附の各村にて」(c)　6) 科挙の位(おとな)

＊買聲　灰爐中　腕　快樂都府　餓鬼
外國醫員　＊開數舍　買馴染　乖離シ・ス　捜キ集メ・ム
外國通商　＊買進ミ　＊買人氣　介立シ・ス　掻キ切リ・ル
外國奉行　開成舘　飼主　該壟[3]　書付ケ等
外國兵談　改正議案　＊買狙イ等　潰裂シ・ス　書キ綴リ居ル
外國列品所　改正劵狀　＊買狙イ・ウ　回廊　＊書留郵便
掻イ込ミ・ム　改正事務　開帆　＊快論雄辨　＊書取
＊開札　開成社　回飛シ・ス　快話(一)　書並ベ・ブ
沽去リ・ル　改正收穫　＊買控エ・ウ　諧話欄內　書判(御)
檜杉　改正收穫高　＊該氷　過員　駕御シ・ス
潰散シ・ス　回籍　概評シ・ス　課員　稼業
該山　開設シ・ス　該病　替エル　科業(諸)
＊開產社內　改擇每　怪猫局長　嘉永　〔年号〕　＊課業用書
開市　快然　怪猫社會　翻リて　碓
開示シ・ス　凱旋兵士　海濱(某)　歸リ來リ・ル　嚇と　《副》
外刺　開創シ・ス　外侮　賀筵　晝一平等
該紙　＊咳嗽　快辨　賀宴　☆各家
害失　海藏寺　喙捕　＊顏*(御)　學科(諸)
會社(何)　海賊船　～　華屋　格外
會社員外　解隊等　～シ・ス　家々[4]　郭外
會社條例(諸)　開拓使下　會報　瓦解分裂　學階
會社先生[1]　＊買出シ兼ネ・ヌ　回報　花街柳簡　額外
會社長　開達　介抱ナシ居ル　抱エ入レ・ル　各學
會集シ・ス　～　海防　＊佳客　各款
改宗シ・ス　～シ・ス　外邦　畫學　撹起シ・ス
改出　＊蚘虫　〔回虫〕　＊解剖篇　揭ゲ・グ(相)　鰐魚
楷書　懷中シ・ス　該務　揭ゲ載セ・ス　各卿
改稱等　＊懷中本　開明　禾稼草木　脚氣
＊海松　開通社　＊買戻シ等　加賀藩(舊)　脚氣病院
桅檣[2]　外渡シ・ス　買戻シ・ス　掛リ(お)　碓見
會場中　會堂　＊買戻シ手口　食客　各個
外妾　會同醵金シ・ス　海門　〔船〕　罹ル等　學校幹事
外商　街頭點火料等　外門　關リ知リ・ル　學校資
外商舘　＊買イ止*メ・ム　＊該藥　夏間　學校生徒等
外妾暮シ　＊買止メ　(御)　快愉　雅觀　各國中
＊海上保險　＊買留メ模樣　會友　火氣　學齋[5]
外飾　貝取笊目　外來　掻キ・ク　各室

1) 会社の人の意　2)「桅檣より舳艫の端所よ綱を張りて」(e)　3) 壟は，浅草米壟
4)「家々ノ商旗雲際ニ飜ヘリ」(b)　5) 清国の教室

隔日等
客舍
學者君子
學者紳士
各酒毎
確守シ.ス
客秋
各酒相場
學術技藝等
學術工藝等
＊學術試驗
確守保存シ.ス
各廠
客情
學士論者
確切
確說
各川
各船
覺知致シ.ス
愕眙シ.ス[1]
＊額中
＊各店
攪動シ.ス
學年(毎)
額椽
＊各方
各方面詰
學務課長
學務官
神樂式(御)
學齡外
隱レ忍*ビ.ブ
閑老等
掛ケ.ク
過敬シ.ス
駈ケ下リ.ル

駈ケ下リ來.ク
カケス鳥
掛茶屋等
過月來
夏月中
＊花月新誌
掲ケ連ネ.ヌ
掲ケ列ネル
縣離レ.ル
翔リ.ル
加減乘除
圍イ者(御)
＊佳香
香坂一等警視
香坂一等警視補
鹿兒島縣士
鹿兒島縣令(前)
鹿兒島出張警視署
鹿兒島戰爭記
鹿兒島賊變
カコチ合イ.ウ
苛細
家財器什
風邪氣
＊嵩ミ.ム(相)
風道
飾リ立テ.ツ
☆飾リ物
加算シ.ス
家産稅
貸シ
＊華氏
貸シナサレ.ル
(オ)
河岸向キ
家事向

貸シ與エ.ウ
貸シ方
賢キ　《名》
＊貸越
＊下肢骨論
貸座敷等
貸座敷渡世
菓子商
菓實
夏日
軻
鹿島宮
鍛冶屋〔旅館〕
呵責
火酒
家醜
加出
課出
雅馴平穩
寡少等
臥床椅
臥床揚椅
假飾シ.ス
菓子錄
貸シ渡シ.ス(御)
柏原中尉
花簪
畫人
歌吹
春日神社
＊數々
瓦斯事務
カスリ疵
家政
家聲
嘉靖〔年号〕

可成的
苛稅
家稅
稼ギ
瓦石
稼ギ高
稼ギ溜メ.ム
火葬
花草
畫像
數*エイレ.ル
數*エミル
伽陀
＊過怠金
傍エ
片方
＊片假名
堅氣
頑愚人
肩先
片手
片頰
語リ.ル(相)
語リ聞セ.ス
荷擔シ.ス
難ンジ.ズ
捷
勝チ公事
火酎
河中
家中
牙籌[2]
家長
カツと　《副》
松魚
☆經節
松魚節視シ.ス

松魚獵
擔ギ込ミ.ム
活計筋
＊割減
合殺〔仏教〕
合衆國船
合宿等
黠智
勝手口
葛藤
＊活動
活潑世界
割筆
〜
〜致シ.ス
合筆
合併商社
合併分割シ.ス
合本
〜
〜シ.ス
勝山學校
＊割與シ.ス
桂*〔植物〕
假定條例中
訛傳シ.ス
合點顏
下揚
〜[3]
〜(不)
下等店
首途
門邊
鹿取神社
勾引シ.ス
家內祝
神奈川二等屬

1) 眙は，見る　2) そろばん　3) 清国で家庭教師の，住みこみ

金澤營所
金澤裁判所
金澤藩主(舊)
火難
金貸
　～
　～連
庇*イ・ゥ
過半數
＊下婢部屋
華表　〔鳥居〕
下錠シ・ス
菓品(諸)
課賦致シ・ス
株木
歌舞妓狂言
＊株金證書
下副官
株式法制
株高
　～
　～(總)
頭槌[1]
株主等
＊火鳳等
＊搆イ・ゥ
搆イ附ケ・ク
＊鎌入レ
竈割
蒲鉾狀
カミサン(オ)
紙會社
＊髮掛ケ*[2]
髮飾リ
髮飾リ職
＊髮形
上ザマ

嚙ミ盡シ・ス
紙札
髮結店等
佳妙
＊下名
＊龜節
＊螺鮹石等
假面
科目類纂等
釀シ成シ・ス
鴨羽屛風
賀茂御祖神
賀茂別雷神社
茅切リ
痒シ
下與シ・ス
傘工
傘骨
＊唐紙
カラカラと
烏金[3]
硝子越シ
ガラス障子
＊唐墨　〔産物〕
唐彫師
伽籃　〔伽藍〕
假にも
借リ得・ゥ
驅リ上ゲ・グ
＊苅稻
假受ケアリ・リ
假埋メ
我利々々盲者
假監
狩衣
假局
借出シ・ス

假建テ等
假聽
驅リ遣イ・ゥ
＊假綴ジ
刈取リ
狩取リ・ル
借人
假リ設ケ・ク
花柳
畫料點彩
カルソオ・オフ・ロオルン号　〔船〕
假令シ・ス
火爐錢[4]
可愛
川々
＊川口局
川砂利
川筋
＊爲換借リ
爲替計算
爲替法
川竹
＊河茸
川端
＊川端歌合セ
河ヒラキ
瓦
河原左大臣
變リ居ル
＊變リ申シ・ス
　(相)
代リ金
替リメ
坎[5]
漢
棺

看管
姦シ・ス
管シ・ス
感ジアイ・ゥ
關シ・ス(相)
鑑シ・ス
寒威
簡易科
官員方
環宇
官家
鰥寡
感慨シ・ス
考エル
勸學中
喚起
姦究背逆[6]
換給致シ・ス
干魚
頑愚黨
漢軍
干係(不)
感激シ・ス
觀劇者
甘結
艱險
頑固
欵好
還幸ナリ・ル
＊寒國
監獄內
官國大中小幣社
監獄第二支署
監獄本署
＊漢語字引
＊姦罪

鑑札(無)
鑑札名前書
官山中
寒士
＊漢史
扞止
姦事
感ジ入リ・ル
幹事會員
＊監事局
看者
患者(舊)
患者表
舘主
管守シ・ス
監守シ・ス
慣手
看守人
監守目盜條
姦所
疳症
官省共
感賞(御)
還償
關涉
　～
　☆～シ・ス
＊勘定(惣)
勘定方
感狀
　～
　～等
岸上
＊官省札
勘定仕上ゲ
勘定仕上致シ・ス
管城陣頭[7]

1)「頭槌劒」(e)　2)「かみかけ半ゐり衣るい等は」(広)　3)「高利烏金」(c)　4)「夏日天棚錢二三吊(～)冬日火爐錢一二吊アリ」(d)　5)「坎の卦」(c)　6) 究は，よこしま　7)「白旗ヲ思想門上ニ立テ迎テ管城陣頭ニ降ラハ」(b)

観象臺
＊官省錄事
感觸
甘心シ・ス
奸臣原
官信(半)
姦人
官生
監生
乾製
眼晴
願請シ・ス
關稅事件
磐石〔岩石〕
關接シ・ス
寒蟬
感染
完全シ・ス
煥然
＊觀泉寺
感染者
還送シ・ス
釐造シ・ス
寒村僻落
鑑休
神田川水
神田水
☆簡短
舘中
喚徵
　～
　～シ・ス
勸懲
官邸
澗底
換定シ・ス
旱天

竿頭
＊觀燈
岸頭
監督巡査
檻內
官認
看認シ・ス
姦佞
☆勸農
勸農學校
＊觀音寺
勘塲[1]
感佩シ・ス
完美
雁皮紙
＊雁皮紙摺
＊干瓢
看楓圖
奸夫沙汰
寬文〔年号〕
奸奬
簡便
官棒
觀望
含包シ・ス
期企シ・ス
願面
欵目
眼目
＊簡約
奸雄
官用
＊簡覽
官吏犯罪贖例
願立相成リ・ル
　(御)
＊官廳
翰林院

寒冷紗
翫弄シ・ス

期シ居リ・リ
机案
＊キイ[2]
議院中(兩)
議院撰擧跡
＊氣鬱
歸依シ・ス
歸營
起臥シ・ス
歸回シ・ス
機械車
器械塲
着替ニ・ウ
來掛リタマイ・ウ
義學
＊木數
聞カセ申シ・ス
　(オ)
義限
輝々
期企シ・ス
聞置キ・ク
聞終リ・ル
嶽々
奇弁異艸
＊聞書
聞澄マシ・ス
聞濟ミ　《名》
聞傳ニ・ウ
義救
義救入院
義救病者
利キ様

起業者
歸去來[3]
規矩
木具職人
＊氣崩レ・ル
器具裝飾等
＊氣草臥
＊木茸
貴君子
奇警
危劇
剞劂
貴顯方
歸縣相成リ・ル
忌嫌シ・ス
期限(無)
揮劍殺人
機嫌上戸
貴顯富有
歸縣旅費
巍乎
飢荒
機工
歸港ナシ・ス
紀号
＊既刻
僞刻シ・ス
僞詐
記載致シ置キ・ク
＊奇策
兆シ・ス
議事會
＊起死回生
＊記實
雉子橋
　～
　～內

岸邊
議事模様等
歸社仕リ・ル
滊車賃
歸宗シ・ス
寄住シ・ス
蟻集シ・ス
紀州家
義塾
技術試驗
毀傷シ・ス
歸陣
疑心暗鬼
貴紳論
畿斯
築キ建テ・ッ
疵所
危勢
祈請
歸省シ・ス
＊僞製シ・ス
喜戚
歸善
貴賤男女
競イ掛リ・ル
規則(假)
規則(御)
羈束
　～
　～シ・ス
議則
危殆險艱
北長屋(舊)
來リ住ミ・ム
奇談
器中
＊戲著

1)「勘塲とゝ勘定方といふが如し」〔炭坑で〕(c)　2)「其答式(キー)をも併せて譯悉し」(広)　3)「歸去來辭」(e)

氣遣イ
ギックリ
吉兆
切手賣下ゲ所等
切手掛リ
吃飯シ.ス
氣強シ
＊喜連川郵便局
貴殿方
軌途
机豆
祈禱(五)[1]
既倒
危篤
木戸口
＊氣直リ.ル
＊氣直リ摸様
絹地
＊疑念(御)
祈年祭
氣ノ毒相
＊氣發[2]
歸帆
規避等〔忌避〕
＊奇芬
＊紀聞
＊寄文
奇兵隊
器皿等
机邊
欺騙シ.ス
＊奇方
規法
期望
企謀熟圖
記簿法

＊基本
基本粮
＊氣ミジカキ等
奇妙希代
機務
義務者
僞名シ.ス
＊記名商牌等
記名調印
＊～
＊～致シ.ス
記名人
極メ込ミ.ム
鬼面會
鬼面講
＊肝煎
衣桁
疑門[3]〔疑問〕
客室
客人
客船
虐賊
客分
彼奴
～
～メ
牛と　《副》
窮育院
＊級外
舊額
＊休暇日
休刊
舊軌
キュウキュウ然
九家
舊穴
舊券

舊縣中
＊舊賃
給仕女
＊休日致シ.ス
舊日
給需
九州地方
九州丸
九州臨時裁判所
詰
休書[4]
救助金
求心
舊制
急走シ.ス
＊九族
朽損シ.ス
舊隊
及第
及第免狀
求智
舊忠
牛店
久德大尉
＊級内
＊休場〔相場〕
休泊
～
～シ.ス
～共
休泊驛(御)
舊幕人
休泊割(御)
給付
朽腐壞敗シ.ス
朽腹
舊邦

救命
給與衣中
久用
汲用シ.ス
舊樣
休養保護
鳩鷺
＊氣緩ミ.ム
＊氣緩ミ摸樣
醸シ.ス
＊許允(御)
輝曜シ.ス
敎
供シ難シ
饗シ.ス(御)
强威
敎育雜誌[5]
＊敎育社
敎育新聞[6]
敎育新聞社
＊敎育博物館
强威暴力
敎員傭イ
强英[7]
饗宴
＊響應シ.ス
嬌慢〔嬌慢〕
俠客
京官
曉々〔曉々〕
行刑
凶賊
狂言作者
協合シ.ス
驕傲暴戾
胸算
行道
＊敎導法

轎子等
鏡示
行事局
敎師總長
狂者
强弱等
强從シ.ス
行住坐臥
狹縮シ.ス
敎授職
恭順一致シ.ス
境上
橋上
境壞
鏡塲
行狀(不)
業數[5]
叫聲
供饌(不)[9]
行草[10]
競爭頑
～
～シ.ス
共存
＊共存同衆[11]
共存同衆舘
曉知シ.ス
胸中
橋柱
强敵
競點
狂癲
競點的
兇徒等
疆土
行道
＊敎導法

1) 五は，御　2)「宇治上茶の氣發をとり」(広)　3)「東方疑門」(b)，問題　4) 離縁状　5) 雑誌名　6) 新聞名　7) 英は，英国　8)「府下八品商残らすの業數」(c)　9) 清国家庭教師の，食事なし。参照，第3表「供一饌」の項　10) 行書・草書　11) 結社名

協同力
兇德
京都裁判所長
强迫手段
强半[1]
兇匪
仰簸シ.ス[2]
京府
驚怖
＊驚風
凶變等
兇報等
仰望シ.ス
教諭
　～
　～等
强勇
教諭奬勵シ.ス
驕陽
＊教用論
狂瀾
共立規約
共立同盟
橋梁用
協力致シ.ス
協力同心
强隣
狂狼
共和國
共和政國
共和治國
炬火
魚貝
醵金預リ所
局(御)
局課(各)
局校課(各)

玉食
＊玉軫[3]
玉人
極星
局中
曲直
曲庇
魚形
魚肆
巨室
巨商
虚稱
居常
虚飾等
擧人
遽然
巨多
御題
渠中[4]
漁場
許否シ.ス
魚腹
虚吠
御名御判
許容相成リ.ル
去來シ.ス
居留歐米人
居留地外
鉅麗
＊魚魯
キョロキョロ
綺羅錦繡
雪花菜
晃リ
切リ得.ウ
義理(オ)
＊切上ゲ

＊切上ゲ.グ
切上算
切落シ.ス
切掛リ.ル
切掛ケ.ク
＊切昆布
切込ミ.ム
霧島神宮
＊切圖
＊切捨
斬倒シ.ス
＊伐出シ.ス
切違イ
＊切近物
＊切賃等
＊切坪
切取リ.ル
切離シ.ス
切開キ.ク
切廣ゲ.グ
＊限物
杞柳
寄留ナシ.ス
姿容ヨシ《名》
滊力
＊切レ.ル(相)
＊義烈傳
蟻螻
奇話
究リ
金屋
謹戒省慮シ.ス
＊金唐紙
金環
銀釵
近境
＊金玉

勤業事務
＊金銀有高
欣々然
金銀象眼入リ
金銀泥
＊金銀時計
金窟
禁闕
近縣
金皷
金光[5]
欽仰
近鄕
銀行(何)
銀行者
＊銀行集會
＊金港堂
金穀仕拂表
銀彩
近在近鄕
金策シ.ス
金札
金札證書
謹識
近省
＊欣賞シ.ス
近所隣リ
近進シ.ス
＊金水丹〔藥〕
＊金石學
金像
銀象嵌
錦帶橋
近地
金智
巾着錢
謹勅

金殿銀堂
銀銅貨
＊金時　〔豆〕
＊謹白
金筆
銀蓋
金幣
金滿
吟味係リ
吟味願
　～
　～(御)
＊金指輪
緊要事

具シ.ス
喰イカケ.グ
區醫等
苦域
喰締メ.ム
喰竭シ.ス
區醫取締リ
喰逃ゲシ.ス
＊喰廻リ.ル
空影
空々寂々
空手徒食
隅白
空乏等
驅役
屨靴[6]
愚騃[7]
愚騃視シ.ス
＊九切[8]
句截
公卿(諸)

1)「土耳其强半を蹂躪せし」(c)　2)「車仰簸すると齊しく」(c)　3)「玉軫、素心、自餘の地仙を列し」(広)　4)「蝗ノ渠中ニ落チ集ルヲ」(a)　5)「金光を見れば忽ち転ぶ」(c)，おかねの光　6) 屨は，麻のはきもの　7) 騃は，おろか　8) 九月限

區戸長役場等　九等屬　苦シミ出シ.ス　軍法　警察兵
口隱リ.ル　＊宮內　クルプ廻轉炮　群雄　計算ナシ.ス
口籠リ勝チ　國貞大書記官　クルポ小形廻轉　計算課
草虫　國人(御)　炮　京師中
叢　國米　＊車糖　卦　經伺
鎖綱　倶發　＊暮頃　毛穴　～
苦使　☆～　暮方　詣シ.ス　～等
閭　～シ.ス　呉々と《副》　慶シ.ス(相)　經視シ.ス
梳リ.ル　頸根ッ子　紅染メ.ム　繫維　繼子
驅除シ得.ウ　縊リ殺シ.ス　グレナルチイ号〔船〕　＊奎運　警視官吏
苦辛　久保田郵便局　＊慶應義塾出版社　警視局員
楠　熊權八[1]　クレンエクル号〔船〕　刑事証人
グズグズ　汲ミ來リ.ル　京華[4]　警視第一病院
崩シ來リ.ル　組入レ　苦勞千万　罫界　警視第五病院
楠神社　組方　＊黒胡麻　經界　揭示場
楠本府知事公　組替リ.ル　黒住〔宗派〕　經魁　警視本局
區總代　與シ.ス[2]《四段》　黒田小學校　莖外　藝者好キ
區村費　組立　黒船　計較シ.ス　稽首
下シ來リ.ル　組除ケ　黒羅紗　計較シ.ス(相)　藝州口戰爭
下シ文　愚民原　慈姑　經學　刑賞
口入レ　愚民等　加エル　溪間　霓裳羽衣
口癖　區務　郡　經業　藝娼妓貸座敷稅
口籠リ.ル　區務所中(各)　軍籃中　輕擧雷同　景色
口出シ　雲天井　＊群卉中　閨君　輕卒浮薄
口電報　雲間　郡區(每)　＊雞犬　敬尊シ.ス
口留メナシ.ス　曇リ行キ.ク　郡區廳外　藝子　形体
唇　クヨクヨ《副》　郡區部　傾向シ.ス　境內(現)
驅虫法　＊位(不)[3]　＊薫香(御)　繫獄費　警備線內
グッと《副》　暮シ居リ.リ　郡縣〔制度〕　☆稽古事　勁兵
堀採　＊グランドホテル　勳功　輕勿　警保
屐足袋　郡國　警査　刑法書
屈撓　操糸器械　君相　揭載シタマイ.ウ　＊刑法審査總裁
堀發シ.ス　功力　軍籍掛リ　經財制度　傾盆覆羚[5]
銜　操越シ.ス　＊郡村吏等　揭載文中　＊契約法
＊口傳シ.ス　クリメヤ戰爭　＊軍圖(舊)　經濟錄　經由到達シ.ス
弘道　＊操戻リ.ル　＊訓點　計策　啓沃シ.ス
九等出仕　苦シミ死ニ《名》　郡費　揭札　毛織精巧

1) 三人でする，詐欺の一種　2)「何の政黨にも與みさぬと」(c)　3)「二番商に至りてハ散々不位ユ立會へり」(物)　4)「身ハ京華ノ水ニ浴シ」(e)　5)「雨勢乍ち傾盆覆羚より急ユ」(e)。羚は，かめ

毛織莫大小(メリヤス)
外科
激
激歷
激歷政治
激歷暴戾
擊劍
擊劍會
激昂シ.ス
＊ケコミ筋[1]
悋(ケ)シ辛(カ)ラヌ《連》
下直(ゲジキ)
芥子坊主
＊化粧*(御)
＊下上
下水外(ゲカイ)
下世話
外題尽シ
欠員シ.ス
月下
擊果(ゲツカ)[2]
月下氷人
決議中
決議按
＊月橘
結凝シ.ス
拮据周旋シ.ス
譎詐僞計(ケツサ)
＊決算金
缺事
結社黨與
欠所
月稅(ゲツ)
瞥然
＊血痰*等
決定(御)
結締シ.ス

血統
結黨
＊穴洞
結髮床
結尾シ.ス
結氷
＊月末(毎)
下馬銀杏
下馬札
＊下編
下僕部屋
＊下米
烟タシ
外面
＊乾〔坤の対〕
源委(トウ)等
限域
建榮丸〔船〕
撿疫委員
倦厭
嫌厭
嫌惡シ.ス
健旺
＊建瓿[3]
權外
＊縣會規則
＊現額
元龜〔年号〕
減却
～
＊～方(カタ)
＊減却法
＊減却方法
＊減却割合
建久〔年号〕
健强
喰喁(ケンギョウ)シ.ス

兼業シ.ス
兼勤シ.ス
現金高
險傾シ.ス
限月(ゲンゲツ)
＊限月米
縣々(ケンケン)
蹇々
堅硬
硯蛤〔蜆蛤〕[4]
縣鄉村社
嚴酷苛察
原告人共(ドモ)
＊撿查願イ奉リ.ル(御)
遣差シ.ス
兼濟シ.ス
現在金
＊撿查掛リ
撿查格例
撿查器
撿查濟ミ
撿查病院
見山樓
憲示
嚴師
見七〔珠算〕
堅實
見樹院〔寺〕
献酬
券狀(新)
險城
兼狀面
歉食(ケン)
原圖
件數
現生シ.ス

縣稅金
減稅高
拳石(ケンセキ)
建設地
嫌賤シ.ス
＊原撰
蹇退(ケン)シ.ス
減脫シ.ス
堅緻
建築等
建築人
顯著シ.ス
嚴冬
萱堂君(ケンドウクン)[5]
謙德
限內
賢能
嚴罰窮治シ.ス
兼備ナシ.ス
原表
現表シ.ス
賢婦
權柄
源平
兼幷主義
源平勇士
軒別
權謀術數
＊現米
＊玄妙院
縣務
嚴命
顯明正廉
原由
兼有シ.ス
豢養撫育(ケン)
劒蘭

堅艮
撿力器
險路
元老院御雇〔職名〕

子(オ)
古
午(ゴ)〔十二支〕
基(ゴ)〔碁〕
護シ.ス
＊小秋物〔經節〕
小意氣
鯉口
＊糞上ゲ奉リ.ル
戀話(ゴバナシ)
コウ《副》
坑
厚
更[6]
稿シ.ス
綱
後鴉
公案
合一
～
～シ.ス
坑員
＊剛雨
耕雲舍
＊高榮
剛銳
洪益
廣益
交易金

1)「けよみ筋追々煎出し」(物)　2)「憑信ヲ世間ニ失フノ擊果ヲ養フ」　3)「建瓿の盆ユ上りて」(広)　4)「蠣蜃硯蛤ノ～其名ヲ知ラサルモノ」(e)　5) 母堂　6)「更深けて」(c)

交樅シ.ス[1]
光艶
甲科[2]
＊航海用
荒害
劫灰
狎客
合格
＊甲掛ケ
狡猾
狡猾人
考課表
行間
公舘
降官
考官
＊合巻シ.ス
＊交換打歩
黄顔高觀[3]
＊交換元
荒飢
公議
　～
　～シ.ス
剛氣
甲起乙倒
＊講議會
剛毅不撓
公義務
講究シ.ス
荒救
＊購求(御)
皇居(假)
溝渠
抗拒シ.ス
工業技術等
公許藝妓
紅錦

貢金
耕具
後軍
紅舘羅襪
香花
耕藝
公惠學校
合計表
攻撃排破シ.ス
公言シ.ス
合縣[4]
＊光顧
囂々
＊公告
＊校刻
號哭
＊香國社
＊江湖珍報等
紅裲
＊香材
交際家
公償價格
公償証書(新)
弘濟丸〔船〕
高作
耕作地
耕作人等
工作場
　～
　＊～(舊)
後山
溝塹
公使(各)
考試シ.ス
嚆矢
好事
公使舘

～
　～等
公使舘雇
高直
＊甲日[5]
向日
孝子傳
＊剛弱共
講釋師
高手
坑主
耕種シ.ス
＊購収シタマ
　イ.ウ
廣充シ.ス
＊香樹園裏
巧熟
好手段
＊好書
公証シ.ス
甲稱[5]
行情
豪商
工商會社
光照寺
＊口上間
航進シ.ス
攻進襲撃シ.ス
苟且
皇城
公信
香水
口數
皇數
合數
貢稅
校正者

昂然
交戰策
交戰力爭
倥傯
港湊等
糠糟
高足
降賊
交誓
更代
＊講題
廣大無邊
洪大無量
豪奪シ.ス
後段
强談ナシ.ス
＊講談者
高知縣士
高知縣令
高知士人
高知人士
＊口中
皇蟲
校中
皇張シ.ス
＊皇朝史
廣通
＊交通舍
江亭
抗抵
高低曲直
高弟子
甲鋏鑑
皇天
高點
＊耕田
甲黨

高燈
降等
廣道
＊籠頭
弘道舘記
江東女學校
＊高等數學
公同樂善[7]
合得點
坑內
＊搆內(御)
河野幹事
荒敗シ.ス
攻破打滅シ.ス
甲藩
後犯
☆後半季
交番所
＊公判錄事
考妣
＊校費
高飛
後備軍籍
＊校費生
後評
厚氷
後夫
坑夫等
甲部
好風致
口腹
剛愎
倖福安全
降伏人
耕文堂〔書店〕
衡平均一
公平正實

1)「あだをまじへ交樅し」(c)　2)「定點ノ二十分滿點ヲ得ルモノヲ甲科トシ」(c)　3) 觀は,顴骨　4)「合縣後ハ」(c)　5)「甲日の輸入を甲夜に摺立」(広)　6)「諏訪の湖水谷口土地の甲稱を堀割り」(c)　7)「公同樂善ノ情」(e)

＊神戸局
＊好編
巧辯
廣褒（ぼう）
講法學社
紅墨錢[1]
候補道[2]
豪邁勇悍
傲漫强情
傲慢（ママ）無狀
港民
撹眠新誌（舊）
講明演舌致シ.ス
好文字
＊甲夜[3]
高野豆腐
高諭
强慾心
强慾者（もの）
公等（ら）　《代名》
＊光來（御）
高麗釜
＊高麗橋局
高麗丸　〔船〕
蝗卵
高利借シ
小賣直段
拘留シ.ス
合流
降虜
發寮（こう）
行旅人
行旅病人
佷戾
＊弘令社
航路（新）
航路中

皇路
効勞
光祿寺
香燭錢[4]
抗論
甲話乙說
媾和條約書
護衛兵
＊聲喨*レ
雇役シ.ス
小往來
＊氷ミツ
郡山警察署
コオント[5]
跨架（こか）
湖海
＊小買物
小蔭
古瓦片
＊五刑*
＊誤刊
漕出デ.ズ
古器玩
古器古書等
古器書畫等
狐疑默止
故墟
五經文
黑烟
國恩（御）
國害
國忌
國禁
刻苦勉强
☆國郡
鮮見大米[6]
穀菜

極最上
國產煙草上
＊國史　〔書名〕
國子監丞〔職名〕
獄舍
＊酷暑中
獄署
＊極上々
極上等
＊極上等品
＊石數（惣）
＊刻成
國祚
石高等（ら）（舊）
石高帳
告達
國中
黑點
國都
國文
國柄
＊極別品
國本
告諭
＊小メリ摸樣
故障シ.ス
後証
吉書畫
黑龍
小車
告論
固結シ.ス
苦ムシ.ス
誇言シ.ス
沽券地
袈等（ら）
五港

☆此元（ここもと）
心有リ氣
心得難シ
心掛ケ居（い）ルミ
心シライ（御）
快ヨゲ
古今東西
小ザカシ
＊小笹生（よ）地
故殺シ.ス
五雜俎〔書名〕
＊小雨
五山
ゴザンナリ[7]
漉シ得.ゥ
越シ.ス（相）
古事
誤字
腰入レ
　＊～
　＊～兼ネ.ヌ
腰掛
古實
＊小メリ摸樣
故障シ.ス
後証
吉書畫
挍ヱ上ゲ.グ
雇人
雇人盜
摺リ切リ.ル
古制
古製
誤製
　～
　～シ.ス
五層

五臟
護送費
古俗
五大洲中（ちゅう）
紛紜（ゴタゴタ）
小旦那
古柱
孤注シ.ス
湖中
孤枕
小遣帳
乞兒丐（コツジキ）
乞食者流
此方（こっち）
骨董商
＊小潰ソ
＊小潰シロ
小褄
コテコテと
五道
五等屬
事可笑シ
事柄
事柄
事々シ
事足リ.ル《四段》
詞少ナ
小供心
五弗金貨
理（コトワリ）
＊粉名（こな）
五人扶持
此ノ間中（じゅう）
近衛都督
近衛兵士
近衛砲工兵
近衛砲隊
近衛砲兵大隊

1) 清国で，家庭教師への謝礼　2) 清国の職名　3) 参照，「甲日」の注　4) 「紅墨錢」を見よ　5) count，伯爵　6) 「掃倉大米」の対　7) 「己レ古狸ござんなりと」(c)

此節（やつ）　～
此節柄　～等
好マシ　御用召
＊好ミ（御）　堪エ難シ
後唄（ごばい）〔仏教〕　懲ラシメ
午飯　コリャ[2]
＊小半剃　コルベット艦
五百石積　＊コルレスポン
＊小俵　デンス〔商業〕
孤負シ.ス　故例
呉服商（アキユウド）　由是觀之《接》
呉服店　是迄
呉服橋内（たい）　虎列剌疫
呉服物　虎列剌病者
＊小節〔鰹節〕　虎列剌旅團
五分米　要之《接》
語文　固陋
戸別（コベリ）　虎狼群中
絃　轉ゲ廻リ.ル
御邊等（ら）　＊コロノメイト
＊小本　ル〔時辰儀〕
五品　轉ビ
＊古米　轉ビ.ブ
駒下駄　衣替エ
＊小桝斗（ばかり）　コロリ[3]
駒場野農學校　＊コロン〔商店〕
因リモノ　怖（こわごわ）～
ゴムサンタラク[1]　怖サ
小兒漢（コワッパ）
ゴム水　魂
＊護謨臺　＊坤
米噛〔嚙顎〕　婚シ.ス（相）
＊米持筋　混化シ.ス
湖面　困却致シ.ス
菰冠リ　困窮士族
午夜　根據
小屋掛ケ　今古

渾合シ.ス　西海新聞　最大勢威
＊金剛号　在方　最大本源
金剛杖　細管　在廳地
混合物　西教寺　最著明
金剛輪寺　最狹少　祭典（御）
言語同斷　再決　再渡
コンコン《副》　～　再答書
＊混々新話[4]　～シ.ス　在任
＊根菜（ごん）　再建　再拜
勤式　歳貢　再犯
岡十官（コンシユル）　再興シ.ス　＊再版シ.ス
昏唖迷夢　在校　裁判上
恨怒シ.ス　西郷中將　歳晩
金堂　西國學士　裁判局
權ノ助〔職名〕　細索　在佛
金毘羅丸　＊再刷仕リ.ル（さいほつ）　歳暮
金比羅利生記　才思　才鋒
昆布場　再四　細報
困獘　歳市　財寳
～　＊再試業者共（ども）　裁縫術
～シ.ス　＊採實　裁縫店
昏暮　＊彩車（はつ）　再發
困厄疾苦　最弱小國　才名
懇友　催主　罪目
坤輿　債主等　材木小屋
懇話　罪障　材木物置
在職外　サイモット隊[6]
在職中　祭文語リ
ザア[5]　宰臣　採用（御）
左アラヌ　＊濟生家　最要
菜　塞跡　宰理シ.ス
詐爲（ママ）　菜蔬　才良
最一　細草　採錄
在院中　洒掃（さいそう）　幸橋門外（がい）
再緣シ.ス　妻帶　ザエ〔才〕
崔嵬（さいかい）　最大强威　冴＊エ渡リ.ル
再解院　最大强國　棹（さおさ）シ.ス

1）藥品名　2）「コリヤ斯（こ）ふしては居られぬ」（c）　3）コレラ　4）書名　5）ロシヤの皇帝，ツァー　6）魯土戰爭の記事中

茶果等　酒好キ　定マリ.ル(相)　小夜衣　参詣人
酒井飛彈守　賤スミ.ム　嗟嘆　＊晒芋粉　饑口
＊堺紡績所　叫ビ廻リ.ル　雑貨(諸)　サラリ《副》　惨酷
捜シ當リ.ル　下ゲル　察觀シ.ス　サリスボリイ侯[5]　惨刻苛察
＊坂仕立　鎖港人　雑器　殘酷非道
酒樽等　左コソ《副》　＊雑卉　然＊ル《連》　＊珊瑚珠
肴(御)　囃喉塲　雑業　猿轡　殘痕餘迹
肴屋　支エ兼ネ.ヌ　剔行シ.ス　申年　蠶祭
＊坂水[1]　大角豆　殺死[2]　騒ギ立テ.ッ　＊三叉學社
査官等　査察シ.ス　雑誌中(諸)　騒ギ回リ.ル　三山
先賣物　私言　雑種稅表　佐和少警視　殘資
先驛　私語キ.ク　剔出シ.ス　障リ.ル　暫時間
咲揃イ.ウ　耳語キ告ゲ.グ　殺尽シ.ス　筭〔算〕　參者
＊先拂　差シウツムキ.ク　＊雑稅法　賛　＊纂輯シ.ス
先觸　＊挿畫入リ　殺虫藥劑　餐〔飲食物〕　筭出等
先役　差押エ置キ.ク　察知了解　＊纂　讃稱シ.ス
＊作業課　差シ掛リ《副》　察當[3]　讒シ.ス　＊三上[7]
差金　差紙　サッパリ《副》　三會[5]　三場〔科挙試験〕
作意　挿付等　雑費　山海　三少將
＊佐久瓦　差拒ミ.ム　＊雑品　殘害シ.ス　＊三上新[8]
柵杭　＊差添人等　雑報欄内　讒害シ.ス　＊三職[9]
嘖々　＊差出シ置キ.ク　撮譯シ.ス　賛化學校　殘燭
錯雑混淆シ.ス　差出シ難シ　査定シ.ス　三學　＊三新法
＊作詩精選　＊指直　左提右挈　散學　酸辛勞苦シ.ス
昨秋來　差覗キ.ク　座頭　＊算學新誌　産數
昨春　差扣エ　砂糖店　＊三學部　算數梁
案端　＊差引額　諭シ透カシ.ス　賛化校　筭數問題
鑿刀　差引キ見ル　里人　三蠶　産出シ.ス
＊作評　差回シ.ス　眞田〔紐〕　筭記シ.ス　刪正シ.ス
＊作物(諸)　刺身(オ)　佐野議官　讒毀シ.ス　三節
策問　差縋レ來.ク　左馬[4]　＊三宜社　殘雪等
櫻田學校　詐取財條　錆　＊産業雑誌　潜然〔潜然〕
錯亂シ.ス　差許シ(オ)　妨ゲシ.ス　三教師〜〜中　三層
＊作例　詐稱官員　鮫島全權公使　山村僻地
＊下ゲ兼ネ.ヌ　擦リ.ル　座元等　＊殘金高　三大臣
＊提籃　佐竹陸軍中佐　左モナクは《接》　三隅　筭段
避ケ嫌イ.ウ　定マリ居リ.リ　鞘當　散華　三帝

1)「○油十樽に付坂水百四十五圓」(物),「地水」の対　2)「人命例中殺死姦夫ノ條ニ曰ク」(b)　3)「一度も察當を受けず」(c)　4)「車の左馬の脚を」(c)　5) 第3表「サリスブリイ侯」に同じ　6)「～の三會を開き」(c)　7),8) 繰綿の品目　9) 佛國の代言人・代書人・目代人をさす

三等官
三等少警部
三等勅任
三人連レ
三人扶持
三年越シ
斬伐シ.ス
三百石積
産品
三伏
残物
＊三法論綱
三木
＊三本引キ
山門通リ
散薬
三様
三禮〔仏教〕
散落シ.ス
＊三論

子〔十二支〕
紙
兒
＊地
辭シ去リ.ル
慈愛
仕揚ゲ
思案橋
＊詩歌等
仕出ダシ.ス
寺宇等
細衣
自營自立シ.ス
至遠
紫燕

仕置
仕置條例
鹽鮭
シオシオと
＊潮干時
＊潮満時
鹽炙
＊字音假名遣附
賜暇中
嘴喙シ.ス
仕甲斐
＊字解
自家神祭
地方
叱リ威シ.ス
耳眼[1]
士官室
士官生徒
識
敷方
敷金
至貴至大
式日
指麾扇
＊式題
直繼〔輸送〕
式部掌典
式文
資給
支給料
至急力士
式様
至強
＊示教(御)
色欲
＊仕切
頻リと

四近[2]
＊地金銀
資金主
至緊至要
悉忍[3]
軸物
支家〔分家〕
濕氣
慈惠
慈惠主(各)
止血法
私劍暗刺
試驗場(各)
試驗法中
試驗方法
四顧シ.ス
市虎
死期
指向シ.ス
＊時候アタリ〔病〕
＊施行順序
諡号法會
地獄藝者
醜草
シコ玉《副》
侍坐シ.ス
資財家
刺殺シ.ス
自産
持參シ能イ.ウ
次三女等
慈施
～
～シ.ス
事々
蚩々炭々

時々刻々
志士仁人
次日
時日等
獅子奮迅
孳々勉勵
四社
駟車
私借
～
～シ.ス
自若
四捨五入
四州
自脩
四十口取リ[4]
至重至嚴
＊時習社
自首氣隨
四宿
止宿官員
止宿家
侍女
自助
指誦シ.ス
史乘
治定
～
～(御)
嗜食シ.ス
辭職シ.ス
自助社
始審
至仁
靜岡縣令
靜岡新聞
靜々

仕濟マシ.ス
沈メ枠
至性
至正純艮
＊資生堂
時世風俗
士籍
志節
死戰
私擅
紙簽
自然と
賜饌料
志操
使僧
思想外
思想境上
思想境裏
思想門上[5]
四則
仕損イ
次第(御)
次第柄
次第々々に
下着
下着シャツ
仕出シ.ス
下調ベ
認メ遣シ.ス
下包ミ
仕立上ゲ.グ
仕立直シ.ス
ジタバタ《副》
＊下放レ
＊下往キ《名》
＊下往キ摸様
示知シ.ス

1) 耳目　2)「家を失ひし四近の土人が」(c)　3) 悉は，はじる　4) 繰糸器械　5) 参照「管城陣頭」の項

＊七科書〔書名〕
＊七月限（ぎり）
七月渡シ
七子[1]
七十卵
七十六ケ寺
七小區
自治心
七戸牧牛場（しちのへ）
七分利息
雌蟲
持重
支張教會[2]
＊室外
仕付[3]
失敬
實決
失誤
實施シ.ス
＊實試濟ミ
十州
＊實稱
執政閥
實勢實力
實相
失踪届
實躰（たい）
濕地
實地檢查シ.ス
實体（ていしつてんぱつ）ラシ
七轉八倒
嫉妬深シ
實否
失謬
疾兵
疾病等
＊地坪（總）

＊七宝社中
質問中
執拗
シテ　《接》
私定シ.ス
自轉
四斗入リ
指頭
枝黨
市童
四等編修官
自得
死徒廢錮シ.ス
品（何）
品柄
品川避病院
品川樓
支那饑民
仕ナシ.ス
＊品拂ナ
＊品澤山
地ナラシ
仕惡シ
地主（各）
地主惣代人
凌ギ　《名》
篠塚兄弟
不忍地中（ママ）
忍ビ往キ.ク
祠拜
時閥作家
柴工
芝公園地
～
～內
柴原千葉縣令

仕拂イ置キ.ク
仕拂イ殘金等
仕拂譯（わけ）
此般（しはん）
師範
＊～
～シ.ス
＊師範科
☆師範學科
師範學校（兩）
師範學校費等
＊字引
地引帳
次便
士風
四分金
實布的里質斯（ジアテリチス）[4]
持佛
自分と　《副》
自分署詰（つめ）
紙幣高
耳邊
四壯（はち）
次報
死亡届
死亡人
四方八方
搾リ取リ.ル
＊四本引
終＊イ（オ）
仕舞置キ.ク
仕舞込ミ.ム
島田大軍醫
＊島田髷
自儘
地廻リ物

自慢
四万六千日
染込（しみ）ミ居リ.リ
＊地水[5]
市民等
事務（總）
事務上
事務等
事務所（新）
＊事務場（ば）
飼馬（しめ）
示シ合イ.ウ
霜
事目
下ザマ
霜ナス　《連》
霜柱
＊詩門
自問自答
舍員
社會現像（ママ）
＊謝儀
私約
＊尺〆
借宅シ.ス
＊赤銅板
弱閥
借家（ヤ）シ.ス
雀躍
借家人
借用金
借用証書等
ジヤケツト短衣
車後
邪行
麝香猫

麝香ノ間詰
煮粥（しやじゆく）
籍甚シ.ス
寫眞畵師
寫眞圖
寫眞店
車聲
社說中
謝絕ナシ.ス
社說欄外
社倉
社倉金
社則中
邪智
シツポ高帽
射的場（だ）
車道
射入シ.ス
車馬道
～
～（假）
社願
社友
～
～中
＊上海支店
酒（しゆ）（御）
儒
誦シ.ス
樹陰
雌雄
＊輯中（しゆう）[6]
從
＊絨
＊十一月限（ぎり）
＊收益

1)「竹林七子」(e)　2)「比列剌（ヴイレラ）ハ支張教會ヲ設立セル所ロノ堺ニ亂ヲ避ケシガ」(e)
3)「樹木の仕付」(c)　4) 病名　5)「坂水」の対　6)「宛名准訓導教員館中」(a)，宛名

酬恩
衆夥
＊集會(惣)
集會時限
就學(不)
＊十月限米
＊衆雅賓
自由ケ間シ
＊衆舘[1]
鷲旗
秀義
臭氣止メ
集居シ.ス
宗教(無)
宗教境裏
就業者
脩金
集金高
集金方法等
祝言
集合シ.ス(相)
從行シ.ス
集合所
＊集合新誌
＊紬小切
＊十五小区
十五夜
秀才(諸)
揉碎シ.ス
執持シ.ス
秀峙シ.ス
十字軍
自由主義
輯集シ.ス
秀俊
＊住所(御)
就將社

住所書キ
醜辱
收贖金
＊自由人民
銃聲
修正案
自由製作
＊修製所
自由政府
住籍
秀絕シ.ス
修撰[2]
愀然
周旋掛リ
宗仙寺
從前高
周旋奔走シ.ス
愁訴シ.ス
衆賊
囚卒
愁嘆
愁嘆書
＊紱反物
舟中
＊袖珍シ.ス
＊袖珍本
宗敵
囚徒中
秀特者
十弗金貨
＊十二月限
十二三社
十二小區
収入金
収入豫算
十人切リ
収納

収納人
收買價格
愁眉
衆評ナシ.ス
＊紱服
＊輯文
＊輯文評選
銃砲
什寶
州民
愁憂
十有三州
＊集覧
收攬シ.ス
縱覧致シ.ス
縱覧所
縱覧通券
修理築工シ.ス
住立〔仏教〕
銃獵シ.ス
銃獵好キ
＊重林寺
獸類
☆秋冷
執論シ.ス
首街
主課掛リ
手簡
主義(新)
主議[3]
守舊頑固風
守舊固槩
執行
〜
〜シ.ス
授業初メ
＊受業料

祝シ合イ.ウ
＊塾
熟按シ.ス
熟考再思
熟覩
＊〜
〜シ.ス
＊熟字
肅清シ.ス
宿昔
縮摸シ.ス
淑戞
宿料
主計監(両)
朱袴
守護シ奉リ.ル
＊首号〔第一号〕
主宰
取財
銖錙
守者
株守シ.ス
授受概則
手術
守將
主將
壽昌院〔寺〕
酒食揚代金等
＊樹身
受信人共
手跡(御)
修繕
主聰[4]
受託人
手段(新)
主治者
戌〔十二支〕

出嫁等
出火信号
出刊シ.ス
☆出棺
出京シ難シ
術策内
出署シ.ス
出狀人
出診
出身
＊出張(御)
出張員
出張所等
出張人員
恍惕測隠
出店シ.ス
出店主
出頭仕リ.ル
＊出賣仕リ.ル
＊出賣人
出板發賣致シ.ス
出版物
出費金額
出品中
出品物
出品目錄
出榜シ.ス[5]
出輸米
殊定シ.ス
酒店
衆徒
種痘
種痘遊バシ.ス(御)
儒道
授讀

1) 共存同衆館　2) 清朝の職名　3)「右申立の主議を熟考するに」(c)　4)「主聰ヲ焚惑シ」(e) 聰は聰の俗字　5) 掲示すること

修復(しゅうふく)中
殊別
主簿〔職名〕
樅木
取用シ.ス
＊需用(御)
需用者
修羅叫喚
酒冷着爛
従六品
純
巡回試験等
☆瞬間
純金環
＊准許
准訓導
尊卑賛筆〔書名〕
巡行中
巡査方(かた)
巡査警衛等
巡査胴メ
巡査屯所
巡査帽子
＊醇疵(し)
巡視先
春情
準繩
＊純水
諄然
順天府
準盗
准如法主
春氷
純風
淳朴
春陽
＊春薬新誌

純利
准陸軍曹長
准陸軍中尉
順良
巡察(る)
准流
巡禮姿
順路(御)
書(御)
鋤シ去リ.ル
諸位
書院
施用シ.ス
私用シ.ス
＊使用頃
紙業中
賞シ給イ.ウ
常
情意(しょういと)
正糸
小異同
少尉補
攘夷論
冗員
淨衣(え)等
昌榮
昭映シ.ス
小演說
將家
燒火(とう)等[1]
上花
商家(一)
小會
＊詳解シ.ス
生害(御)
障害ナシ.ス
定會(じょうかい)

照會濟ミ
錠鍵
小學生徒(新)
小學童兒
宵旰(かん)
賞翫シ.ス
條欵
乘艦シ.ス
小旗
商旗
祥忌
燒棄
將碁
小義學
蒸溜機關
將基倒シ
蒸氣鉄管
消却シ.ス
小丘
定給
照據シ.ス
乘御
小橋
商業算術等
上局
蒸溜力
商業(何)
償金始末
小區扱所
小宮司
小區議員(各)
小郡
＊小計
小憩シ.ス
上刑
小憩休ミ(御)
商惠社

徒徑法
上下貴賤
猖獗
〜
〜シ.ス
＊証券(假)
狀元[2]
昭乎
照合シ.ス
小香玉園
＊證據金(半)
生國
正午時過ギ
証據立テ
正紺
招鬼祭日中
招魂(ママ)追福
上材
情罪
繩索(とう)等
少佐心得
剩殘
小史(一)
訟師等
商事
冗事
上使返リ
正七品
使用者
小酌
松樹
＊醸酒
＊小銃胴宛
椒酒辛盤
抄出
承順シ.ス
尙書〔職名〕

消除シ.ス
＊乘除シ.ス
掌上
＊上々
上々吉
證書書換エ等
証書高
證書文中(じゅうし)
＊上印
銷尽シ.ス
燒盡シ.ス
上進シ.ス
上申書等
憔悴(ママ)シ.ス[3]
醸生(ママ)シ.ス
上清酒毎(ごと)
小雪
悚然
上船
障礙
醸造家
床側
小賊
消息帖
照代(ママ)
粧臺(だい)
＊上玉
上段
小池
昌地
＊承知下サレ.ル(御)
城地
＊上帙
上中數[4]
上長官
小弟

1) 灯火　2) 科挙の位　3) 憔悴　4)「上中數ニ入ルモノヲ中等トシ以下ヲ下等トス～」(c)

小亭
小堤
上帝
粧點シ.ス
昇殿
＊詳傳
譲渡等
上等棧敷
上等従前開業醫
上等數
上等品
定得意
正弗
＊庄內古〔相場〕
小兒醫者(元)
上人松
少年子弟
＊商牌等
商賣向キ
商舶
正八品
城端郵便局
小判事
＊常費
定日
消費スル等
常備本軍
＊上日和
情禍[1]
＊娼婦論
上文
小文典
上分別
正平〔年号〕
詳辨シ.ス[2]
從放シ難シ
正法

情法
定法
召募格例
＊上本穀
＊正米
＊上磨キ〔蠟〕
掌務
証明シナシ.ス
消滅解散シ.ス
定目
證約
条約(舊)
条約濟ミ
＊醬油造藏
遡遡
湘流
丈量
～
～等
丈量入費
証例
条例(假)
奬勵賞揚シ.ス
奬勵保護シ.ス
掟路
正六品
諸驛
諸家
諸花
諸科
除害銃獵
＊女學
＊女學書
＊初學生徒
所轄船
諸款
諸官中

除官
書記課
庶吉士[3]
庶吉士舘
諸具
職課
食客
食机
職業上
職工
～
～等
織紅所
贖罪金
＊職制
＊辱知
食蟲鳥
＊食毒
職任上
食料等(諸)
諸權
初告裁判所
如今
書載明示シ.ス
初冊
諸氏等
初時
所持(御)
所持ナシ.ス
助字
諸色
諸史百家
諸司百官
諸車
＊暑邪
除社シ.ス
書籍館

書籍代
助手
＊諸證
署丞〔清朝職名〕
女丈夫
書信中
初審裁判所
諸生中
書生体
女生徒(舊)
初裝[4]
書送シ.ス
所藏品
諸族
諸卒
諸卒名簿
所存(不)
諸太夫
世帶分ケ
初太刀
書棚
處置(御)
諸虫
暑中休ミ
＊所著
舒暢シ.ス
女帝
諸桶
諸堂
諸道報告
＊書牘文
庶人
暑熱
所罰
＊助費
＊助費生
＊諸病

處分下サレ.ル
(御)
處分手續
助補シ.ス
諸法
書房
庶民
書面等
諸役
所有中
諸流
書林
＊字類
諸嶺
諸老
至來シ.ス
白紙
知ラセナシ.ス
(オ)
白齒
調ベ掛リ
調ベ書
調ベ方
尻尾
尻輕シ
私立學[5]
尻目
シリユス，ヒリップ号
至夏
資料
治療專務
記シアリ.リ
使令
辭令書
～
～等

1)「賽錢ヲ投シ情禍ヲ祈ランヨリ」(e)　2) 詳辯　3) 清朝の職名　4)「初裝ノ節～一箇宛支給シ」(c)　5) 私立学校

司令將官
司令長官代理
事歴
白痴（シレモノ）
侍郎〔朝清職名〕
素人
＊白角天[1]
＊白頭　〔能〕
＊白胡麻
私論
仕分ケ.ク
診
辰　〔十二支〕
審シ.ス
審按シ.ス
心意
新意
深意
人意
～
～外
神院
新大橋
新屋
神樂（シンガク）
☆新艦
宸翰
新慣
神官俸給
神忌
新規稼ギ
審究シ.ス
信許シ.ス
振擧
＊新橋雜記
新曲
新規渡シ

辛苦シ.ス
＊陣具
神宮
神供（じんく）料
新群
迅鯨号
神鎌（けん）
眞劍勝負
信仰(五)　〔御〕
新蝗（こう）
親交シ.ス
親交シ.ス(相)
進航シ.ス
進講シ.ス
人巧手足[2]
信號書
＊新小梅
新穀
清國人
神護景雲〔年号〕
新裁[3]
＊新才　〔塩〕
＊新債
賑濟シ.ス
薪材
審査官專務
＊診察下サレ.ル(御)
＊診察所
清產〔清国產〕
＊新纂
新山
深山窮谷
進士
＊新史
新紙(諸)
新誌

神視シ.ス
神式(御)
參差（し）縱横
眞實　《副》
心趣
身首
人主
信宿
心術上
☆新書
賑助
新匠
＊審詳
＊新上　〔繰綿〕
眞淨院
尋常營利
尋常代人
尋常投書
尋常分板
神職
心神
縉紳
審訊中
秦人
人臣
人身上
人身中
深邃（すい）
薪水
新燧（すい）社[4]
進勢
眞性
＊眞成
新稅
眞正完備
新切序（ついで）(御)
心切（ママ）ラシ

浸漸シ.ス
神饌料
＊新泉樓內
新訴
新葬
新創銀行
新創銀行者
人造臭シ
親屬等（とう）
人体
伸達シ.ス
新建（だて）
人膽
新築(諸)
新築中
新築金
申牒致シ.ス
申暢シ.ス
伸張
進潮
新廳
深沈猛鷙（し）
心痛(御)
審庭
＊新訂
宸殿
震怒シ.ス
人頭
神道教導職
神道葬儀
新富座風[5]
新入シ.ス
陣羽織
人馬差繰リ方
新橋〔新しい橋〕
新板　〔新版〕
＊新帆

審判書
～
～中
＊新評
振舞シ.ス[6]
親父
新聞上
新聞紙屋
新聞者
新聞社員
新聞種
針砭（べん）
辛抱ナシ兼ネ.ヌ
申報シ.ス
眞法
親睦
新前
＊新實　〔蠟〕
新店
深密
親密シ.ス(相)
臣民
新名
人名例中（ちゆう）
眞面目
新沐
人目
陣屋
信用致シ.ス
迅雷
審理中
人力挽キ
＊新律
尽力中
親類方（がた）(御)
親類許（もと）

1) 白色角形寒天　2) 義肢　3)「新裁の衣を服し新沐の髪を梳り」(e)　4) マッチ会社の名　5)「新富座風に～改めて」(c)　6)「兵氣ヲ振舞スルノ機」(b)

申令
清暦
親話
新藁

ス〔記号〕
数カ所
衰
翠雨樓上
水旱
随官[1]
＊水哉社
垂示(御)
炊事掛リ
水師提督
水上
水神祭
瑞西人
水性
水聲
酔体
＊水土
出納課
出納尚書[2]
推挽シ.ス
＊粋美
＊瑞林寺
衰亂
水樓
水路局
数員
＊数罪
数代
数枚ズツ
数粒
数羽

数家
数街
雛妓[3]
数種類
数郡區
数語
数國
数十回
崇信シ.ス
数說
数彈
数百歳
数百羽
数婦
数萬巨額
＊末ロ[4]〔樹木〕
据付*等
＊据付機械
＊頭重シ
過ギ越シ方
漉立テ居ル
過ギツ頃
スクウネル形
素見
筋合
筋子
＊頭上
＊錫入リ
煤拂イ(御)
＊進ミ(不)
進ミ出ル
涼ミ牀
進ミ行キ.ク
棄リ.ル
ズッシリ
スッチャンチャ

ン《写声》
素轉倒と
ズドンと
沙地
歷
スプリント
スプレエウ鳥[5]
須磨ノ浦丸
＊墨繪紋
濟ミロ〔訴訟〕
炭問屋
住吉神社
角力芝居興業等
摺上ゲ小麥
摺方
摩付ケ.ク
摺附木
擂鉢
摺寄リ.ル
＊駿河半紙
鯣
素浪人
＊スワリ〔相場〕
寸志
寸青[6]
＊寸珍
＊寸珍本

盛
製シ置キ.ク
制遏シ.ス
制歷
政意
正員
青雲

清婉
勢焔
聲援
生還シ.ス
靜寛院宮様
誓願寺
清議[7]
正義黨人
正義名分
＊製業
征軍
清潔
成限〔成規？〕[8]
制限法
製作中
＊製作申付ケ.ク
製作所(假)
生殺
生殺與奪
靜産〔不動産〕
霄散シ.ス
聖旨
精思
精絲
姓字
政治政略
＊誠實義塾
製紙人
生者
生受シ.ス
勢州船
＊勢州建テ
清酒造
生出
製出
聖書
請怨

＊清賞
生殖
政事論
聖識
＊製圖
盛衰興廢
盛衰存亡
盛衰浮沈
製圖器械
聖世
襄々
整正
整々
整々堂々
精選
井然
生草
星霜(幾)
製造資金
製造所等(諸)
製造スル等
製造人名
生息
西賊
政談家
整置シ.ス
篶竹
製茶場
誠忠
誠忠誠義
製調
＊精訂
制定(御)
生徒(毎)
西土
政度
政統

1) 随行官　2) 英国職名　3) おしゃく　4)「末ロ一尺ヨリ一尺二寸迄」(広) 5)「「スプレーウ鳥」～愚按ニ「カケス鳥」ニハアラサルカ」(e) 6)〔田に〕「寸青ヲ殘サス」(a)
7)「陳審李隋等清議ノ党」(e)　8)「家祿賞典祿ノ成限ヲ改メ」(c)

西堂
青銅製
征討總督
征討費
西南戰爭
西南燈臺
＊西南風
西南變動
西南暴徒
西南亂徒
＊稅納シ・ス
世波
精美
贅費
聲評
＊清氷
＊製氷
生兵
制帽服
西北風
☆精妙
正名(めい)
姓名等
精明
誓盟
＊稅目
西門
＊製藥學
☆製藥所
聲譽
西洋醫
西洋醫事
西洋飾リ
西洋形船
西洋器械
西洋筭
＊西洋作リ

西洋風
＊西洋葡萄
西洋摸造
制抑シ・ス
盛隆
＊政理論
整列式
清廉
生路
＊西路
製莨(ろう)
贅論
ゼエムス号
世界
～(前)
～中
世界人民
戚家
＊石角
石礮
石膏製
石齒[1]
積矢
碩儒
石炭酸
石炭山(やま)
積蓄
赤道
關取
＊石版入リ
石筆
責付
石壁
箒棚(ぜきほう)[2]
責問シ・ス
石油
石油會社

夕陽
施財主
世事〔世辞〕
則蘇的(ゼスイト)教
截シ・ス
接過シ・ス
殺害ナシ・ス
說教所
說教席
絕家
節敬
雪月
切齒シ・ス
拙者共
攝社
切齒扼腕シ・ス
拙僧
＊雪霜
雪隱
＊～
～(惣)
接續着手ナリ・ル
接對シ・ス
切斷シ・ス
雪竹
窃盜犯數
節婦
說諭相成リ・ル
＊節用集
＊拙等(ら)《代名》
竊弄シ・ス
接話
錢高
施入
施飯等
是非得失

施無畏閣
責苦
責メ立テ・ッ
＊セメンエン
＊セライ風(カゼ)[3]
＊セリ賣致シ・ス
芹野金山
塞爾(せるびや)民兵[4]
日耳曼(ぜるまん)國會
日耳曼帝
＊仙
前鴉
漸壓政治
先王
泉下
＊全科
＊全快(御)
仙樂
先覺者
先學者
詮方ナサ
全完シ・ス
全管
前議
前給致シ・ス
宣教シ・ス
前業
撰擧會
～
～中
全局
選擧帖
撰擧人
千金
髯君
全戸

前後シ・ス
踐行シ・ス
髯公
千石船
船司
專使(御)
全旨
前時
戰死者
簷事府[5]
戰者
選取シ・ス
＊先脩
千秋万歲(ばんぜい)
千種萬狀
＊全書
先請(しょう)〔仏教〕
船將
戰狀
氈上
全省
千狀萬態
染色
穿蝕シ・ス
淺深輕重
☆全圖
全穗
前姓
前說
閃々
～
～シ・ス
＊戰線
專擅壓縛
扇篷(ぞう)[6]
戰爭事件
＊喘息＊

1)「石齒稜起(いわかどつきたち)」(c)　2) 清国の日除け棚　3) 競合風　4) 塞爾は塞爾維の誤？　5) 清朝の官庁　6) うちわ

船隊
千態万狀
洗濯女
洗脱
全地
煎茶席
前停
線度
煽動シ.ス
戰難
善男子
船難証書
鮮肉
撰拔
闢發シ.ス
千萬
先般中
＊前半季
＊全備シ.ス
船便
前便
戰氛
穿壁踰墻[1]
戰亡
千枚張リ
千萬里
全面
專門(諸)
專門科
專門學
專要
＊潜龍鯊
善良政府
千兩娘
洗禮
穿顱術

殂シ.ス
＊添イ申シ.ス
(相)
疎雨
双
漕シ.ス
層(幾)
挿加シ.ス
增價
＊增過
總轄所
贈官
創期
贈寄シ.ス
爭局
巣窟
惣計呼ビ高
雜弦粗調[2]
窓戸
＊倉庫(御)
蒼皇狼狽
窓戸紙錢[3]
操觚者
造作(無)
＊双ザラメ
掃除方
掃除受負人等
掃除人
繰糸塲
惣〆メ.ム[4]
唼嚅シ.ス[5]
造酒
槍術
草書
＊叢書
總稱シ.ス
騷擾シ.ス

增上寺內
裝飾品等
早世シ.ス
造成シ.ス
增生シ.ス
＊草生地
早饌
窓前
＊澡泉紀遊
造船工學
掃倉大米[6]
爭奪世界
早旦
爭端
＊相談仕リ.ル
(御)
相談ズク
送致
送致手續
甑中
惣町
增重シ.ス
蒼天
藏匿
糟粕
糟粕者流
相塲師
早發
相塲屋
相塲割
藏版(御)
臧否
壯夫
臓腑
壯武勇悍
爭辨論難
增補等

＊增補改字シ.ス
總務
双務
總名
草木等
草木苗
桑楡
霜葉
桑葉
總禮樂〔仏教〕
總禮伽陀
爭亂
總理事務局
造立
☆總論
爭論シ.ス(相)
爭論ダネ
副住ミシ.ス
ソオサリズム黨[7]
曹達水
沮拒シ.ス
惻隱
屬員
賊魁
息金
屬國省卿
＊續集
速進シ.ス
俗世界
賊地
＊促迫
若干宛
卽用
速了
測量中

測量等
測量學
屬隷
底で　《接》
ソコソコに
＊蔬菜
ソシアリズム黨
楚囚
訴訟外
素知ラヌ
素心[8]
麁疎
塑像
粗朶工作
育チ
粗知シ.ス
素地
卒爾
率先
袖(両)
外書
外函
外面
備エアリ.リ
備替エ
＊備エ米
備エ餅〔供餅〕
蕎麥屋
素服
素振リ
染メル
染メ出シ.ス
＊空合
＊空豆
夫ノミナラズ
《接》
粗鹵

1) ルビ「こそ～」　2) ルビ「しやみのこえざれうた」　3) 清国家庭教師の謝礼　4)「惣〆めて八百圓」(c)　5)〔鹿に雪花菜を〕「投け與ふれハ群來て唼嚅す」(c)　6)「斛見大米」の対　7) 社会主義党　8)「玉軫」の項参照

溯論シ.ス
頽壞シ.ス
村醫
大會シ.ス
存意
＊大海上
村嫗
大額
損札
太學〔清国の〕
遜志
大學士
尊者(某)
太學遊士〔職名〕
尊稱
大厦高屋
尊信シ.ス
大厦高樓
尊崇シ.ス
大科目
村入費
代替リ
損品
大關係
尊奉貫徹
大飢饉
損亡
退却シ.ス
損毛歩合
大嫌イ
村落中
大工小屋
尊覽
＊第九十五國立銀行
存留シ.ス
退軍中
大群蝗
タアアキン号〔船〕
帶劍シ.ス
大醫
代言
＊～
＊～
＊～致シ.ス
＊～先生
代言委任
頽委シ.ス
大鼓(オ)[1]
第一觀業場
帶甲
第一議案
對抗
第一銀行
＊對合
第一後備軍
太后宮[2]
第一次會
＊大講談筵
第一小隊附
大皇帝
第一船將
＊大幸福
第一聯隊長
大好物
第一會
大國(各)
大異變
大黑
對映シ.ス(相)
＊第五十七國立銀行
大根先生
大災
滯在ナシ.ス
＊大祭日
滯在日當
第三甲[3]
第三項目
第三策
＊第三十五國立銀行
第三十三國立銀行
＊第七十四國立銀行
第三十四籤
第三中學區
第三讀會
第三方面
大字
大試業
第十區
大失策
大失敗
太子堂
☆貸借上
泰宗寺
第十四區
第十四大區
第十八銀行
＊第十八國立銀行
退縮シ.ス
退縮減却シ.ス
大序
待招
＊對症
大小等
代償
大丞〔職名〕
退職シ.ス[4]
退職者
大清紀事
大尽氣取リ
大圖
對數上
＊代數書
大旌
＊大正漢語字彙
大勢論
大施餓鬼
大節
～
～(毎)
☆大川
泰然
對戰交爭シ.ス
大層に
大賊
大ソレタ《連》
大膽
大團圓
代地
体中
代賃
退庭シ.ス
大黨派
＊大東野史
大統領中(諸)
大統領舘
ダイド号〔船〕
胎內
第二會
第二勸工場
第二銀行
第二甲[5]
＊第二國立銀行
第二次會
第二次讀會
第二師範學校
第二十三國立銀行
第二十七番銀行
第廿大區
第二讀會
第二分局
第二分局長
＊大捻[5]
大ノ字形
頽敗
＊大博士
滯泊シ.ス
＊太白豆
第八區
＊第八十五國立銀行
大般若經等
貸費
大尾
大悲況
＊貸費生徒
貸費病者
＊第百一國立銀行
＊第百十五國立銀行
大病院(舊)
退避離遁シ.ス
☆貸附シ.ス
餒腐

1) たいこ持ち　2)「雍正九年に～天主堂を毀ちて太后宮をあらため建る時」(e)　3) 科挙の位,「第一甲」は第3表にあり　4) 辞職　5)「〇石炭油一箱大捻三圓三十錢〇中捻三圓二十錢」(物)

大福餅
大不景氣
大佛殿
大紛亂
隊兵
太平海郵便滊船會社
大變更
大砲打チ方等
大豐作
松火（タイマツ）
怠慢シ.ス
＊ダイマント入リ[1]
大名(オ)
大名育チ(オ)
＊大妙藥
タイムス新聞
退名シ.ス[2]
体面
太悶着
大邑
乃有學舍（だいゆう）
大雷
＊大來社
平ラカ
代覽(御)
＊代理店
滯留
大倫
大祿
第六大區
多淫
堪ヱ遣リ.ル
殊エタマイ.ウ（タ）
倒レ木
＊高氣[3]〔相場〕

高崎縣令
高崎分營詰
＊高潮
高飛ビナシ.ス
高直待チ（ね）
高張提灯
高帽
高彫リ
高宮神社
他議
抱キ上ゲ.グ
焚出シ等
焚出シ塲
抱キ取リ.ル
焚火ナシ.ス
他業
他鄕旅客
他區
琢シ.ス
磔シ.ス（たく）
＊卓乎
擇善會
卓榻（とう）
巧ミ.ム
內匠課
濁亂シ.ス
卓立シ.ス
蓄エ得.ウ
貯エ置キ.ク
貯エル
蓄エ金
多氣競ベ[4]
武田菱
竹中采女正（うねめのしょう）
竹中丹後守
竹橋內（ない）
竹橋事變

竹矢來
竹槍
猛リ狂イ.ウ
他縣下
紙鳶（たこ）
多言
多產
多士
出シ吳レ.ル
出シ遣リ.ル
慥（たしか）(不)
他生
他將
タジロギ.グ
＊打診圖譜
多數人民
助ケ.ク(相)
扶ケ乘セ.ス
携エ歸リ.ル
尋ネ方
尋ネ出シ.ス
＊尋ネ成シ下サレ.ル(御)（オ）
尋ネ來.ク
戰イ.ウ(相)
戰イ得.ウ
疊潜リ（くぐ）
漂イ行キ.ク
崇リ
立會イ吳レ.ル
立チ開リ.ル（あずか）
立所に
立乘リ.ル
立働キ.ク
立話
＊立廻リ米

立寄リ遊バシ.ス(御)
達シ相成リ.ル
達シ置キ.ク(相)
脫走ナシ.ス
脫走組
脫走力士
塔頭（タッチユウ）
脫逃シ.ス
尙ビ.ブ(相)
龍卷
巽
＊巽風
奪了シ.ス
立テ[5]
建網
立替金
堅切リ（たて）
＊立手形
＊立相塲
立テ通シ.ス
他黨
掌（タナツコ）
田邊少警視
田邊陸軍中佐
谷口少書記官
谷少將君
谷森宮內少書記官
他人行儀
田沼邸(舊)
種(御)
菜油（タネ）
種日（ひ）
種物
樂ミ(オ)
樂ミ待チ.ッ

樂ミ行キ.ク
賴ミ置キ.ク
賴ミ申シ.ス
煙草專制
度每
旅路
旅立チ
他夫
懦夫
他負債
多分は
給＊ベ.ブ[6]
給ベ了リ.ル[7]（タ）
他邦人
他邦人民
多寶塔
＊玉糸
玉川上水
玉突臺
＊～
～等
＊瓊浦丸（たまのうら）
玉箒（タマボウキ）
玉屋
＊溜リ米
例シ（タメ）
溜汐
他用
手寄リ〔賴〕
便リ行キ.ク
手弱シ
墮落シ.ス
タラシ込ミ.ム
多羅葉
＊樽入リ
誰彼
丹楹（えい）

1) ダイアモンド入り　2) 除名　3)「安気」の対　4) 背競べ　5)「立てを撞く」(c)
6)「察してたべ」(c)　7) 食べ終るの意

檀越（おわ）
探花〔科挙〕
短靴用
談會
彈起シ.ス
歎言
短見淺視
團子
男工
～
～等（ら）
斷紅
單行限保[1]
炭坑舍
探索方〔職名〕
短縮
端所
＊痰*症
歎賞シ.ス
誕辰
探知シ.ス
丹鼎[2]
擔當吏員
段取リ
旦那樣
談判中
單比例
丹楓
反別（畓）
擔保シ.ス
探訪
探報
端陽[3]
膽力
彈力
談論

談話論述シ.ス

管（ち）
＊チイブル号
治衛
致遠中學校
知恩院
地畫
近ヅキ難シ
＊近廻リ新米
＊近廻リ米
茅萱
＊力付キ.ク
逐号
畜生腹
逐條審議シ.ス
築造法
逐年
竹林
＊竹林麥
蓄類
知縣等（ママとう）
＊治罪法
地質學家
置酒每
知州〔清朝職名〕
治術
＊地稱
知人等（らん）
＊地仙[4]
馳走（御）
馳走仕リ.ル（御）
地租改正科長
地租改正濟

遲速
乳繰リ合イ.ウ
＊秩賃
＊血ノ道
千葉院〔寺〕
知府〔清朝職名〕
乳房
窒扶斯熱
治法
地方官等
地方管下
地方事務
地方物產
治民
治務
致命シ.ス
＊地名字引
茶色
着岸シ.ス
着港シ.ス
嫡子等
着津
着船シ.ス
＊嫡孫
＊茶製所
茶漬
茶篩（ふるい）
茶焙ジ
茶屋遊ビ
茶葉（よう）
茶碗酒
宙
丑（ちゅう）〔十二支〕
中外人
＊中學
中敎正
＊中下

中古
忠告社員
＊中極上[5]
稠坐
忠士
中式
注視點檢シ.ス
中秋
＊稠衆
中書〔清朝職名〕
中暑
虫狀
＊中上
中少尉
＊中小學用
忠信至誠
中世
忠正
疇昔
忠節
蠻族
＊中俵（だわら）
躅踟シ.ス
躊躇猶豫シ.ス
中等
中等種族
＊中二階
中肉
＊中捻[6]
中廢シ.ス
晝泊
～
～（御）
忠憤
＊中磨キ〔蠟〕
稠密シ.ス
＊注文下サレ.ル（御）

＊注文口
柱梁樑桷（エンカク）
忠烈
駐蹕シ.ス
☆帖[7]
＊廳（御）（おん）
朝シ.ス
諜ジ合セ.ス
寵愛
調印ナシ.ス
懲役所
朝恩
長靴
～
～用
彫繢[8]（かい）
＊超過額
長久永續シ.ス
長絹
牒合シ.ス
彫刻師
彫刻銅
彫刻銅器
挑（さ）陵
～
～シ.ス
調査委員
朝三暮四
張翅
聽耳
徵集手當
超衆拔群
鳥獸獵
聽訟類例
寵辱
重深

1）「單行限保の政策」（e）　2）陰所　3）端午　4）「玉軫，素心，自餘の地仙を列し」（広）　5）醬油，「中上」より上等　6）「大捻」参照　7）「重寶の帖にして」（c）　8）繢は，もよう，ぬいとり

町數
徵稅等
朝鮮國王
吊贈シ.ス
町總代等
町村會
朝餐時
長蛇
長帶
＊長短靴
喋々喝采シ.ス
蝶々髷
提灯持
長傳寺
長途
丁銅
調度課
＊調度掛リ
帳拂イ
貼付シ.ス
町歩
長風
重複稅
張本
頂門
調藥法
＊朝野新聞社
貼用法
重利
町吏
調理〔整理〕
彫鏤物
調練
長祿〔年号〕
長六橋
直諫
直記シ.ス

直爾
直稅
勅奏任官
直達シ.ス
直達遙響シ.ス
直報
直論シ.ス
著述シ.ス
著述家
著書(新)
＊著書中
貯蓄金
＊貯蓄濟ミ
＊治癩丹
チラホラ
チラリ《副》
治亂興廢
治亂存亡
散リ果*テ.ッ
地料收入
智力的
鎭壓シ.ス
賃居シ.ス
沈魚落雁
枕衾
珍禽恠獸
陳言シ.ス
陳告
賃仕事
〜
〜シ.ス
鎭守(惣)
珍羞美味
＊珍種
珍書
賃錢表
鎭臺營

鎭臺營所
鎭臺長官
＊沈着シアリ.リ
鴆毒
珍聞
〜
〜(一)
賃餅
陳羅シ.ス
陳列品中

＊追祭能組
追賞シ.ス
序デ.ズ
通ジ置キ.ク
通運シ.ス
通過シ終リ.ル
＊通解
痛悔致シ.ス
痛慨洪歎
通客
＊通學生
通義
通好シ.ス
通差
通覩シ.ス
通商上
通常會期
＊通常爲替
通常規則
通常經費
通常人種
通商成法
通常手紙
通常文
通商法典

通常禮服
通信委員中
通信手續キ
通信報告シ.ス
通政使司[1]
＊通俗
通洞シ.ス
通判〔清朝職名〕
通報
痛論切言シ.ス
遣イ尽シ.ス
＊遣*イ成サレ.ル(御)
遣イ拂イ.ウ
遣拂イ方等
遣拂イ殘金
ツカエ[2]
摑ミ合イ
津輕越中守
津輕邸(舊)
＊通鑑寶要
月サン(オ)
＊付キ.ク(相)
尽シ.ス[3]
附合イ
突合イ.ウ
衝突リ.ル
突落シ.ス
☆繼替エ.ウ
突崩シ.ス
舂米屋
築地區裁判所
築地電信分局
附添イ
附添エ行キ.ク
衝立チ.ッ

繼立所
繼立賃錢
繼通シ.ス
月ノ障リ
次ノ間
付纏イ.ウ
月見堂
＊津局[4]
筑波号
＊造込ミ高
作リ出シ.ス
造リ人
造リ物
附ケ來リ.ル
柘
附ケ込ミ.ム
告ゲ知ラセ.ス
＊附出シ
附ケ狙イ.ウ
津田大參事
槌
土汐
續キ.ク(相)
筒口
續ケ様
突立チ上リ.ル
包ミ方人夫等
包紙
繼綴
集イマシ.ス
集イ來.ク
勤メ續キ
繫ガリ.ル
繫ギアリ.リ
＊繫ギロ
角目立チ.ッ
募リ來リ.ル

1) 清朝の職名　2)「つかへふし」(c), さしつかえ。　3)「尽せぬ縁」(c)　4) 津電信局

潰レル
坪刈
坪刈出合
坪數
積合セ.ス
積移シ.ス
積置キ.ク
積送リ
＊積切リ廻船
積立分
積並ベ.ブ
積殘リ.ル
積載セ.ス
＊積松茸
爪(御)
詰メ居ル
拇印
詰切リ
詰メコミ.ム
＊剛氣筋
面
釣
～
～得.ウ
釣合イ.ウ
釣臺等
釣出シ.ス
鶴屋八幡〔店〕
連レ來リ.ル
連レ添イ.ウ

手(オ)
出兼ネル
出合
手荒
丁等[1]

庭〔廷〕
鄭衛[2]
提起シ.ス
＊定期預ケ金
帝宮
定限(無)
＊提綱
抵抗論
帝國政府
体裁(不)
綴字
亭主殿(オ)
亭主殺シ
定準
定準價格
挺身
遞送
＊遞送賃
定則シ.ス
定則通リ
邸宅詰
＊手痛ミ筋
体裁
停滯シ.ス
邸長
鄭重
定度
抵當等
丁道台[3]
泥濘狼藉
泥粘シ.ス
低尾曲從シ.ス
定名[4]
邸門
締約會友
＊提要
手掛ケ(御)[5]

出稼ギシ.ス
手形
＊～
＊～等
手堅シ
敵シ難シ
＊出來申シ.ス
適意
摘採
敵塞
手疵
☆適度
的當
＊出來直
＊摘譯シ.ス
手管
手配リ
～
～ナシ.ス
手ゴメ
出作
手數料等
手代共
＊手出シ人
手助ケ
出鱈目
＊徹雨
鐵鏍
的切リ《副》
手附
手付金
鐵侯[6]
鐵索
鉄大綱
鋏腸
鋏道局

鉄鉢
☆手强シ
鐵欄
手鍋
出刀庖丁
手風〔書風〕
手袋
出任セ
手樣シ.ス
簡容
出迎イ等
寺男
＊照
＊照込ミ.ム
照葉狂言師
デルビイ侯
手練
天淵
天下
典雅簡整
轉轄
點火料
癲癇
田間
殿舘
電氣信線
癲狂
傳敎〔布敎〕
傳敎師
天險
＊點刪
天事
轉借シ.ス
轉宗シ.ス
傳襲シ.ス
傳習所
沾濡シ.ス

＊田畯[7]
天象
典章
纏繞シ.ス
傳承シ.ス
轉職
電信公法
電信私報
天津兩
天津道台
轉籍
＊天仙[8]
傳染シ來リ.ル
田地高
點綴シ.ス
天堂
天和〔年号〕
轉入シ.ス
天女
天人
＊天然論
傳播
～
～シ來リ.ル
天盃
傳播流布シ.ス
椽筆
天文〔年号〕
塡補シ.ス
天棚[9]
天保錢
天棚錢[10]
天保年中
顚仆シ.ス
天網
田野山丘
展覽會

1) 甲乙丙丁の,丁　2) 鄭衛二國のみだらな音楽　3) 丁は人名，道台は朝清の職名　4)「魯國人民ハ自由ト壓抑トノ定名ヲ判セズ」(b)　5) 妾　6) ビスマルク　7) 畯は農夫　8)「地仙」の対　9) 清国の日除け棚　10) 清国家庭教師の謝礼

顚利
田里
天龍〔軍艦〕
＊天龍舘
傳贐〔清朝職名〕
傳話

＊ト[1]
度合
投網目
度位
問合セ(オ)
問イ音信レ.ル
問イ掛ケ.ク
訪イ來.ク
問イ尋ネ.ヌ
ドイツ《代》
獨逸公使舘
獨乙宰相
問イ詰メ.ム
＊問家方
糖
陶
搭ジ.ズ
トウ《感》
ドウか《副》
何樣しても
堂(御)
働シ.ス
東亞
＊同位
蕩佚
同一心
＊唐糸
同院
燈影

同驛外
鬪毆條
當夏
凍餓
銅貨(舊)
頭蓋骨傷
東海鎭守府
等外吏
＊同學
銅花瓶
道觀法親王
動議者
等級等
同求社
同行
東京醫學校
＊東京外國語學校
東京監獄
東京警視巡査
＊東京師範學校
＊同共社
＊東京商社
同業商賣
☆東京女子師範學校
東京書籍館
東京人民
東京數學會社
東京タイムス
東京鎭臺營附キ
同業人
＊東京本店
同局
戇愚[2]
東隅

唐桑
當家(御)
稻莖
同形狀
統計表
〜
〜等
＊當月限
刀劍等
桃源
讒言
＊同權
同航シ.ス
同考官[3]
同國中
＊當坐
當歲
投劑
東西京
藤細工
東西奔馳シ.ス
東西洋
倒產
道三橋
唐紙
冬時
頭字
動止
導師
＊仝氏
＊同志シ.ス
同視ナシ難シ
東室
堂島米商仲間
胴〆(新)
＊當舍

謄寫
投射シ.ス
頭首
島主
同宗
答酬費
投宿
同宿人
同種類
當春
＊東巡錄
＊當廠
同塲
同狀[4]
同塲掛リ
等象儀
同商業
動植
撞觸シ.ス(相)
動植鑛物
＊等親
黨人
＊同人社
＊銅眞鍮釦
同水〔その水〕
同數
東征
同姓
悼惜
儻竊
陟絕[5]
黨戰
當簽
洞前
當撰狀
銅像

盜賊業
盜賊商賣
凍餒
同隊
同知〔職名〕
同地內
頭中
銅柱
道中双六
島長
討敵免狀
東殿
倒投シ.ス
騰踔シ.ス
陶銅磁器トモ
東道主人
萘菜
東南岸
＊當任
＊仝人(前)
討幕
銅版
＊銅板
稻苗
＊凍氷商會
同品
童巫
同風歌集
同腹シ.ス
動物會
＊動物學
動物舘(舊)
動物舘門
豆腐屋
答辨シアタイ.ウ
答辨シ置キ.ク
東方

1) 塩，洋銀相場などで，「五俵七ト」「六十二匁四トーノ」　2) 戇は，おろか　3) 清朝の職名　4) 「人類同狀ノ進歩」(b)　5) 陟は，けわしい

東邦
同朋
同胞兄弟
胴骨
同苗（みょう）
燈明臺
同盟銀行
＊同盟舍
東門
騰躍シ.ス
桐油
同憂
稻葉
童謠
胴慾
當來シ.ス
遊蕩息子（ドウラクムスコ）
道路厠
討論審議シ.ス
討論弁議
＊唐綿
通シ人足
通リ拔ケ.ク
通リ町
土下（どか）[1]
渡海シ.ス
ドカドカと
科目（かめ）〔咎〕
閥
土宜
說キ諭シ.ス
說キ示シ.ス
說キ勸メ.ム
時相場
說キ伏セ.ス
土堯[2]
讀經

都御史等（ら）〔職名〕
途切レ.ル
讀[3]
獨一
土偶人
讀過シ.ス
讀會規則
得宜[4]
德義
特許シ.ス
得業階[5]
特權（諸）
特權殊例
獨宰シ.ス
獨裁政治
特思
篤實
特助
讀書シ.ス
德勝寺
得色
讀書勉强
得心ナシ.ス
獨人〔ドイツ人〕
篤信者
得々然
特派
毒婦
特別休暇
＊讀本
特命全權公使
特命全權辨理大使
德用
獨立權
解ケ易シ
遂ゲ.グ（相）

＊解ケ合（あい）
＊解ケ米（まい）
土言（とこなみ）
床次檢事
何所避病院詰
床店
＊土佐上節
トサマコウサマ
外樣國主
＊年柄
屠所
ドジョウ〔魚〕
年若
土人寺
度數
怒勢
土石等
徒說
徒跣シ.ス
土葬
土俗
土臺際
ドタバタ騷ギ
土地柄
土地ナレ.ル
土着
ドッカリ
外國人（とつくにびと）
トッコ[6]
ドッコイ《感》
咄笑（とっしょう）
獨步
屆キ兼ネ.ヌ
喚鳴リ立テ.ッ
怒鳴リ附ケ.ク
隣村

殿樣
土馬
圖版〔版図〕
飛入リ
飛去リ尽シ.ス
蹇人足
土苗事件
土府（どふ）[7]
土塀
十方〔途方〕
徒法
土崩瓦解シ.ス
土木局
土木局長
戶前
富岡郵便局
富田少書記官
＊留（とめ）[8]
＊留置香信
留帳〔控帳〕
留場
共稼ギ（ともがら）
＊取次所
伴イ來リ.ル
供待チ酒
富山警察署
富山病院
都邑
＊豊橋局
トランシトワアル[9]
取上ゲ見ル
取扱イアリ.リ
＊取扱申シ.ス
取扱所
取扱手順

取入レ時節
取リ褫.ウ
取行イ來リ.ル
＊取落シ
取リカタ付ケ（假）
取崩シ
取組
取消布告（とう）等
取毀チ
取始末
取調ベ中（御）
取調ベル
取調ベ檢見（けんみ）
取調人
取棄テ.ッ
取澄マシ.ス
取立等
取*立テ得.ウ
取立テ兼ネ.ヌ
取立掛リ
取縮メ.ム
＊取次所
取除キ.ク
＊取引相場
取リヒシギ.グ
取戻シ能イ.ウ
ドリャ《感》
採リ養イ.ウ
＊斗量
取寄セ.ス
＊取渡シ
土耳古人中
土耳格政府
取レル
奴隸心

---

1)「卵一万五千北ヲ土下ニ埋メ」(e)　2) 土は，トルコ　3)「讀東京「タイムス」」(b)〔題目〕　4)「人物ニシテ方正嚴格ニ事業ニシテ整理得宜ノ者ナラシメ」(b)　5) 僧位　6)「一件をトツコに取つて」(c)　7) 土は，トルコ　8)「留跡六十一二錢迄有之」(物)　9) transitoire 一時，仮の，「ロワトランシトワアル」参照

奴隷人種
鐚シ.ス
屯集シ.ス
＊トントン[1]
ドンドン《副》
鈍筆
屯兵
頓間

内外國人
＊内外兵事新聞局
内外廊(舊)
内閣會議
内閣宰臣
内閣大臣
内局
内決
内國記者
内國産
内國製
内國船
内國品
内事〔内政〕
内醜
内接
内繕課
内葬
内地雜貨
内地製品
内庭
内廷課
内殿
内密者
内務少書記官
内約定

＊苗
＊直リ
霖雨
仲買人共
長上下
流シ放シ
流シ目
＊中障子
長咳＊
長旅
中手
中村少書記官
詠メ歩行キ.ク
詠メ榮エ
流レ寄リ.ル
泣キ
泣出シ.ス
薙ル〔足を〕
泣顔
泣叫ビ.ブ
泣付キ.ク
泣止ミ.ム
無＊ゲ[2]
投出シ.ス
＊投注文
無氣ナシ《名》
＊投人
＊投米
那國[3]
＊名古屋生麩
情(御)
情ケナ[4]
爲＊シ終リ.ル
爲＊シ玉ワリ.ル
爲シ易シ
梨畑
洋

名題
夏毛
ナドて
七蔦籠
某屋
＊何サマ
何マレ《副》
何領
難波神社
靡キ初メ.ム
名札
＊～
＊～(御)
生餬
生木
生氣
生鹽
鹼殿
生反別[5]
ナマ中
生メキ.ク〔艶〕
生酔
ナマヨミ[6]
鉛
ナマリ.ル[7]
波風
＊並爲替
＊並仕立
＊並玉〔卵〕
波除ケ
波除ケ堤
ナムカラタンノウ《感》
菜飯
納屋頭
＊納屋米
疾シ居ル
＊納屋物

幷ビ.ブ(相)
双ビ出デ.ズ
双ベ出シ.ス
並ベ立テ.ッ
形リ
成リ下リ.ル
成リ丈
成瀬ヨシカツ持
馴レ(不)
何とか
＊何分[8]
軟滑
南京米
軟莎
蛸子[9]
南巡
～
～中
難症
何條
南西海
涙
ナンタラボウシ[10]
南地
南殿
何時
＊納戸無地
軟々
喃々
南蠻
何番目
難風
何ボ《副》
南門
難問シ.ス
軟輿

煮香魚
新潟縣令
新潟新聞局長
新潟奉行役所(舊)
新嘗祭
煮賣屋
沸湯
＊匂入リ
二會
＊二階附キ
☆荷爲替
握リ詰メ.ム
＊肉食
逃辭
逃ゲ込ミ.ム
逃ゲ延ビ.ブ
二港
二五三五社
荷拵エ
二罪
二三品
虹
西蝦夷地
西大谷[11]
西河岸商業會社
☆西風
西川店
西少佐
＊西ノ内〔紙〕
西ノ向觀音(舊)
西ノ丸
西ノ丸下檢査所
西村大書記官
煮染
廿五座メキ.ク

1) 相場で,終り値　2)「人もなげに」(c)　3)「那國ヲ問ハス」(e)どの国　4)「情けなや」(c)　5)「但六尺竿丈量生反別」(c)　6)「なまよみのその甲斐終よ」(c)　7) 腕がなまること　8) 分数　9) いなごの子　10)「ナンタラボーシハ柿ノ種」(e)　11) 西本願寺

＊二十四家
貳朱金
二小盞
鯡漁
二大器
煑爛シ.ス
二地
日月
＊日限外
日限中
日常外
日土〔曜日〕
日用尺牘
日用文
荷作リ
日光山
日光山誌
＊日就社
＊日出
日進
日進艦
日星
日盛樓
＊日表
貳等運轉手
二等官
貳等機關手
二等三等練瓦
二等賞典
二等屬
二等道路
二等秘書記
擔イ込ミ.ム
二南[1]
二人扶持
二年子
二ノ腕
二ノ次
二馬
二八[2]
二藩
＊二番商
＊二番出
二分金
荷船
＊二法
日本外史
日本海内
日本銀貨
日本工術上
日本産
日本筭
日本習字等
日本商館
＊日本政記
＊日本地誌
日本地理
日本博覽會
日本物品
日本貿易事務官
日本文字
日本列品場
荷物賃錢
若非〔仏教〕
入學規則
丹生川上神社
入檻シ.ス
＊入札
＊入札規則
入札拂イ
☆～
＊～致シ.ス
入寺シ.ス
入社
＊入社金
＊入津米
入船シ.ス
紐育トリュビュン〔新聞〕
遶圍シ.ス
女菩薩
如夜叉
如來唄〔仏教〕
白眼ミ.ム
睨ミ附ケ.ク
二力
＊庭石
＊庭井戸
二和賀
庭口
＊庭而
＊庭向キ
任ジ置キ.ク
認可承諾シ.ス
忍堪
任期例
～
～中
人間社會
人間種類
人狀[3]
姙娠中
忍耐等
忍耐强歩シ.ス
認定法
脱ギ替エ.ウ
拔キカザシ.ス
脱ギ捨テ.ッ
拔キ放シ.ス
拔キ見ル
拔ケ通リ.ル
脱ケダシ.ス
盜ミ喰イ.ウ
盜ミ去リ.ル
盜ミ出シ.ス
鰌〔食品〕
＊布裏折リ
＊沼津局
塗付ケ.ク
塗物
＊ヌルジ〔微温〕
＊直合イ
姉サン
ネエビゲチングリュウテナント[4]
願イ.ウ(相)
願イ惡シ
願イ言
願イ人
＊根掛
葱鮪
猫撫聲
寢込
＊直頃
捻ジ倒シ.ス
＊鼠辨慶
＊鼠六彌太
嫉サ
直違イ
熱意
熱信シ.ス
子ノ刻
＊ネバリ
根引
舐ブリ.ル
睡氣
寢物語リ
狙イ寄リ.ル
＊煉藥
年貢(御)
年穀
年齒
念珠
年少輩
年度中
年番
念彼觀音
＊ノ[5]
喃　《感》
濃[5]
農學者
農學生徒
＊農學經濟
農技
＊農業新書
農藝化學科
＊農工雜誌
＊農工社
曩日
能州鹽
農書
＊農場雜務
納租
農桑
納存シ.ス
腦天機輩
農兵
農務
遯レ難シ

1) 詩経の篇名，周南と召南と　2)「二八の花を手折りしよ」(c)　3)「當初人狀ノ同一ナラサル」(b)　4) 海軍中佐　5) 相場用語,「ト」参照　5)「濃ニ失ハス華ニ流レス」(d)

脫レ行キ.ク
擔端等
遺シアリ.リ
殘リ惜シゲ
殿斗
ノシ掛リ.ル
殿斗目
野津長官
＊載セ及ビ.ブ
＊除キ.ク(相)
＊望ミ取リ.ル
後妻氣取
野帳
退引シ.ス[1]
罵リ合イ.ウ
延ビル
＊延ビカネ.ヌ
伸ベ.ブ
野邊送リ
昇リ玉イ.ウ
登リ日利
飲喰イシ.ス
呑ミ過シ.ス
飲ミ干シ.ス
乘リ來リ.ル
糊シ.ス
乘移リ.ル
乘掛リ.ル
乘込ミ
乘回シ.ス
☆咽喉

塲(各)
塲(兩)
＊バアス商社
胸懷

ハアバアド大學校
ハアブル貿易商會
廢[2]
拜一讀シ.ス
賣價額
拜觀人衆
廢棄
賣却等
賣却高
買求シ.ス
敗算シ.ス
俳師
廢止シ.ス(相)
配祀シ.ス
培滋シ.ス
拜借地價
買取シ.ス
配色
～
～中
陪食
陪審
倍臣等(舊)
排泄物
輩族
胚胎シ.ス
佩帶シ.ス
配達人
～
＊～等
貝多葉
廢弛
廢地
焙茶業
廢黜

＊配當金
梅毒院
ハイド遊園
賣買條約
＊賣買帳
賣買仲間
賣買歩合
＊賣買米
杯盤
廢物
配分條例
敗報
拜命(新)
廢免
賣藥商
配與
＊培養法
敗籠中[3]
排論シ.ス
＊馬鹿〔野菜〕
端書郵便
馬鹿ゲル
馬鹿視シ.ス
馬鹿正直
佩刀
捗々シ
量リ
議リ.ル(相)
＊馬關高
穿キ.ク
＊塲況
萩原少軍醫
魄
駁
縛シ去リ.ル
幕營
駁却シ.ス

白骨
縛鎖シ.ス
舶載品
白山神社
柏車〔拍車〕
薄少相成リ.ル
白人〔西洋人〕
白水眞人[4]
白晳人種
瘼中
白丁
白頭翁
＊博物圖
＊博物圖說
＊博物博士
＊博聞社
剝落
博覽會計局長
白煉瓦
禿頭
羽子板店
箱舘奉行
＊運ビ.ブ(相)
箱屋
羽衣
橋(假)
端折リ.ル
＊始メ.ム(相)
創メタマイ.ウ
橋本掌典
馬車用
馬車中(御)
馬車舍(御)
著休メ
馬車道
派出公使
波上

塲所々々
走リ出デ.ズ
ハ印〔記号〕
婆心
蓮等
蓮絲織
辱メ
鳥白樹
馳セ集リ.ル
馳セ下リ.ル
機織
旅籠代
旅籠料
＊肌寒シ
＊畑地等
畑中
＊働キ差上ゲ申シ.ス(相)
＊八月限
八句念佛
八十石積
八十將
鉢卷共
八幡蚊帳
ハツ〔魚〕[5]
髮
發シ.ス(相)
バツシ.ス[6]
＊發會
撥起シ.ス
拔群賞
八掛〔八卦〕
☆發顯シ.ス
發航シ.ス
☆發行條例
＊發行本舖
＊發行元

1)「退引させぬ」(c)　2)「廢ヲ繼キ衰ヲ興コシ」(e)　3) 籠は，はこ　4) おかね　5) まぐろの方言　6)「進メ々々と令しバツ{逃るよと}せハ切るぞ～と」(c)，サ行変格？

＊伐採
罰罪
抜山崩濤
＊初時雨
發車(御)
八宗
伐除シ.ス
發情
＊八升入リ
＊八將論
發洩(せつ)シ.ス
＊曖草
ハッタと
法度
　〜
　〜(諧)
伐氷シ.ス
八品商
＊塲面(ばづら)〔相場〕
發論
馬蹄
破天連(ばてれん)
ハトオク号
＊波止才[1]
波止塲(新)
＊花イカダ〔商標〕
花生ケ等
鼻緒織
花盛リ
鼻垂シ
放チ遣リ兼ネ.ヌ
＊花々シ
花開キ
花房外務大書記官
花巻郵便局

離レ座敷
刎錢等
刎ネ飛バシ.ス
刎ネ除ケ.ク
老婆(ババア)
播布(はふ)シ.ス
破封シ.ス
波母山教正
濱先
濱少佐
濱々
刃物三昧
早合點
早*唉
早附木
早出
早半鐘
早マリ.ル
＊腹合セ
拂イ(オ)
拂イ.ゥ(オ)
拂入レ
拂下ゲ代金
＊拂濟ミ
腹イセ
拂出シ.ス
＊拂品(御)
＊拂米(御)
＊拂米等(御)
腹切
腹立タシサ
腹立チサマ
パラパラ
娠(はら)ミ.ム
＊張金(ばりがね)〔針金〕
張込ミアリ.リ
張出シ

貼附ケアリ.リ
張付ケ置キ.ク
張文
　〜
　〜シ.ス
＊播磨新米
バルカンジアン[2]
春着
春相撲
晴レ兼ネ.ヌ
晴レ行キ.ク
破礎(はき)[3]
＊晴レ模様
破廉恥
バロン〔男爵〕
半圓
＊半劑
半片
半枚
判ジ難シ
範圍中
搬運
番衛
半化[4]
煩苛
半開國
繁華地
犯姦律
半季
　＊〜
　＊〜(前)
萬機
判決文
万口一言
☆萬國公法

薔士(薔)
＊半紙本
半鐘
帆檣
反說
半切
半折シ.ス
晩餐
判然(未)
＊繁霜
半藏御門外
半除長
＊番地(毎)
半月先生
半月替リ
＊版面
反動回復
煩瀆(はんとく)
板主(はんぬし)(原)
＊頒賣シ.ス
＊販賣規則
＊販賣水
挽夫
反覆向背
叛兵
班幣式
繁忙
＊萬法
叛民
反目
＊繙(はん)譯
＊汎論

未〔十二支〕
糜(び)シ.ス[5]
美惡[6]

日脚
ピアノ
＊脾胃
微意
ピイオオ會社
美域
愛顧(ヒイキ)客
畢負目
被圍軍
日一日
硝子(ビイドロ)
冲(ひい)リ.ル《四段》
ビイル
微運
＊比叡(ひえ)号
日吉神社
美音
飛過シ.ス
美果
被害
被害田
控帳
比較表面(ひょうづら)
ヒガ事
＊東風
＊東御門
＊東筋
東手(ひがしで)[7]
悲感
引上リ.ル
引上ゲル
引至リ.ル
引入レ相成リ.ル(御)
引受ケ兼ネ.ヌ
引移シ.ス

1)「〇鹽一圓に付〜本才二俵五ト波止才二俵六ト五ノ」(物)　2)「バルカンヂアン ローマニアンノ有様ニ類似セリ」(b)　3) 礎は，うまや　4) 全化の対　5)「毎日糜スル所ノ米穀」(e)　6)「家屋ノ廣狹構造ノ美惡」(c)　7)「三条通りの東手より」(c)

引キ下ロシ.ス
引換
引替エ.ゥ(オ)
引換相成リ.ル
＊引換仕リ.ル
＊引換高
＊引格[1]
引下ゲ
＊引サゲ.グ
＊引締リ.ル
引据エ.ゥ
引倒シ.ス
引キタテ.ッ
引連ネ.ヌ
拘攣リ.ル
引取リ得.ゥ
＊拽直リ.ル
引抜キ.ク
引退キ.ク
引外シ
引札
　～
　～通リ
飛脚船
匿躬
＊引ユルミ申シ.ス
費金(諸)
魚籠
日暮レ
脅先生
比肩追歩シ.ス
比肩並馳シ.ス
卑考致シ.ス
＊備考
飛蝗年
被告人共

火先
提ゲ.グ
卑滋
肱枕
水杓
疲弱
＊尾州丸
飛信
ビスマルク侯
靡然
＊備前邸
被撰人
備前屋
潜ミ出デ.ズ
悲態
否泰
額
肥澤
直垂
左肩
筆架
引ッ掛ケ.ク
ヒッ擔ギ.グ
筆記シアリ.リ
筆記シ來リ.ル
筆軍
＊必携
必定
筆陣
筆戰
＊必讀
四夫匹婦
筆法
筆墨紙等
一抱エ
一七
一品

一ト打ナシ.ス
單衣
單衣
人音
一ト方
一國內
人心地
人殺シ
一ト談合シ.ス
一突キ
一ツ部屋
一ツ目橋
人寄セ
一人居
一人掛リ
＊火繩
誹難シ.ス
槍等
＊槍障子
＊槍作リ
＊槍正
日前國懸神社
日野中教正
比々滔々
避病
避病院掛リ
避病院詰
廢沸
疲弊
＊秘方
美法
婢僕
＊秘本
秘メ兼ネ.ヌ
碑銘
微明

姫櫻
紐
眉目耳口
冷汗
罷役
白衣
百貨
＊百科全書
百石積
百出
百勝
百姓(御)
百姓一揆
柏槇＊〔植物〕
百折不屈
百戰
百度[2]
百味
白蓮會
日雇
謬誤違算等
美譽
飛揚シ.ス
＊秘養シ.ス
徴恙
病疴
病院(假)
氷解シ.ス
表額
標旗
病氣中
廢據シ.ス
評議沙汰
病牛
評決シ.ス
病犬舍
＊兵庫高〔相場〕

表札
廟參
廣算與論
評事
病死人
評者
病所
廟所
憑信
表粧
漂着物
表中
標的
氷凍
病難
表暴シ.ス
表白
病婦
標木
渺漫
表面銀行
表優章[3]
漂搖シ.ス
＊病理
漂流中
評論シ難シ
比翼連理
日除ケ棚
日和
飛來シ.ス
平岡少佐
枚岡神社
平仮名
開キ居ル
＊開キ戸
披キ見ル

1)「本月切受取口腰宜最早現米引格直打有之哉」(物)　2)「百度廢弛」(e)　3)「及第する者ヨは表優章{～}を賜ハり」(c)

平野神社
ヒラヒラ然
＊平豆
平山大警部
＊披覽シ.ス
飛龍（ヒリユウ）
＊比例
＊拾イ揚ゲ.グ
拾イ集メ.ム
披露申シ.ス(御)
麭鹿
廣島新聞
廣瀨神社
廣田神社
鬢
＊瓶入リ
敏捷鋭利
閥漸制府〔職名〕
頻促
頻年
品評
品評會
貧民患者
貧民擬券
貧窶院

＊ファイア，クイン号
步合金
扶育
部院(各)
風替リ〔風変リ〕
風蝗等
封ジ方
楓樹
風色

風癲
風濤
封秘シ.ス
風評シ.ス
夫婦約束
＊風蘭
父王
不應爲輕
負荷
浮夸[1]
☆府外
附會揚言シ.ス
附學
附學生徒
賦課徵收シ.ス
饕餮（ふかれ）
深見艸〔牡丹〕
＊深見込ミ
吹返シ.ス
不羈自由
噴キ出シ.ス
不吉
不羈獨立
不及[2]
不競[3]
不具等
幅員等
副願書
副檻長
副艦長
＊服忌（ぶく）
副議長
服紗小袖
服地
服事シ.ス
服式
副社長

副則
不屈
復荅仕リ.ル
副將軍
服製等
＊副頭取
福々シ
副木
覆沒シ.ス
服務時限
膨ミ
伏龍鳳雛先生
＊フケ〔頭脂〕
武家格式
附言シ.ス
府縣會議
府縣官吏
府縣順
府縣名
府縣令(各)
負債シ.ス
不在中
富貿
不實不作
富士見渡舟場（ば）
附從シ.ス
富充
扶助相成リ.ル
富饒
不定
不淨水
＊不淨除ケ(諸)
不所存者
〜
〜メ
不印（ひるし）

＊附圖
不隨
無勢
不正殘忍
布政使司〔職名〕
附籍シ.ス[4]
布施物
扶桑〔船〕
☆扶桑號
附屬彈藥
二刀
二子（ふたこ）
貳太刀
不達
＊布達全書
二人連レ
武斷
負擔スル等
緣飾
淵川
淵瀨
府廳預ケ
＊普通學科
＊普通作文
普通新聞
普通相場
佛外（ぶつかい）
佛學〔仏教学〕
二日續ケ
＊佛國史
＊物產等
物主(前)
佛製[5]
佛殿
佛都[6]
物品(諸)
佛名（ぶつみよう）

物理階梯
＊物理書
筆建（たて）
不登
＊賦當シ.ス
部黨
婦德
不得已（ふとくい）
懷合
不屈者
船足
部內
船却（サロシ）式
☆船先
＊船先摸樣
☆船手
船宿
不念
浮波動搖
負標
武夫
不文無識
布幣
不辨[7]
不法
＊不味
蹈繪シ.ス
踏掛ケ.ク
踏附ケ.ク
夫民
不夜城
冬相撲
冬服
不用流シ
フラスコ
＊プラチナ鎖
フランクホルト

1)「虛稱ヲ求メ浮夸ニ趨リ」(e)　2)「裁判不及ト判決シテ」(a)　3)「我ガ智力ノ足ラザルハ則チ我不競ノ原因ナラスヤ」(d)　4)「他家ヘ附籍スル者」(c)　5),6) 佛は，フランス　7)「跡先き不辨の」(c)

ガゼット新紙
フランネル地
浮利
振リアイ・ゥ
振返リ見ル
振リ方
＊ブリキ物
ブリスバン港新聞
振出シ手形
＊～
～等
降募リ・ル
降徹シ・ス
振放シ
振向ケ・ク
＊古〔繰綿〕
揮イ出シ・ス
古板屏
＊古外套
＊古蚊張
古狐
＊古ケット
古猿
＊古上〔繰綿〕
古狸
＊古褒＊
＊古鉄
フルニス[1]
古布子
ブルブル《副》
＊古實〔蝦〕
古鎧等
附例
布令先論シ・ス
腦部
鯛込ミ

フレドリック、スタング号
プレビナ要塞
プロテスタント
教徒
部分木[2]
分割
分[3]
忿怨
＊文苑中
忿怨恨怒
文化[4]
分界
分劃シ・ス
文學教場
分割論
分岐シ・ス
＊文機活法
奮起振作シ・ス
分級
分業主義
分局長
憤激猛怒シ・ス
聞見シ・ス
分間圖
文庫中
分校
分合
粉骨鑿身シ・ス
焚殺シ・ス
粉脂
分社
分所
分場
＊文粋
分水シ・ス

分數
＊分析(御)
分籍シ・ス
＊分析表
奮戰
奮戰死闘
紛騒
分任シ・ス
＊糞培
分板〔分版〕
分賦
＊～
＊～シ・ス
墳墓(両御)
文房
分明(不)
文明洲中
文力
文例
＊文錄

兵員
兵炎
丙科
＊兵學寮(舊)
糞價
米京
平均金高
陛睨シ・ス
糞屐
閉月羞花
兵伍
米庫
米公使
兵士中

併資シ・ス
柄持シ・ス
蔽遮シ・ス
閉塲
米商會所
兵制
米錢
米船
屏息シ・ス
并馳シ・ス
騁馳シ・ス
平定シ・ス
＊敝店
平人
平寧
兵農
兵馬
幣帛料
蔽庇シ・ス
＊米品
＊敝舗
平翻シ・ス
閉門
併用シ・ス
兵律
兵器
兵力行政
平和策
ヘエズ号
璧
碧眼紅鬚
碧水
臍繰金
糸瓜
＊別京[5]
別局
別家ナシ・ス

＊別件
別庫
＊別戸
蔑視シ・ス
別種作
別書院
別莊
別店
＊別讀
別派政府
紅掛ケ空色
紅粉染メ
ヘラルド紙中
白耳義公使
ベルシャ号
伯林新聞
偏倚
俛焉學校[6]
變換等
偏境
邊鄉
辨供シ・ス
勉強致シ・ス
勉強ナシ・ス
ヘン糞[7]
偏輕
＊變幻百出
變故
片紙
＊變死屍
變室
變死人等
編輯專務〔職名〕
返照シ・ス(相)
辨償致シ・ス
變心ナシ・ス
編成

1)「磨研紙及ヒフルニスノ二種」(a)　2)「部分木仕付條例」(c)　3)「後半季分」(c)　4)「文化開明ノ葉ヲ結ヒ」(e)　5)「別京切昆布」(物)　6) 俛焉は，勤め労するかたち　7)「裁判所刑事課ヨテヘン糞の一件」(c)

＊編制法
辨析シ.ス
偏則
變替
貶黜
辨天社
辨天祭
便道
偏頗シ.ス
翩翻
＊便用
辨理シ.ス
辨理公使
勉力シ.ス
勉勵者
＊編歷
駢列敬禮シ.ス
便路
辯論
辯論會

本意
ボイ取＊リ.ル[1]
拇印仕リ.ル
拇印濟ミ
＊法等
崩ジ.ズ[2]
帽
卯〔十二支〕
坊サン
亡シ.ス
暴惡無賴
某醫
保維提挈シ.ス
法筵
＊法科

放下シ.ス
＊法界[3]
妨害致シ來リ.ル
放鷗
法官
防岸
榜眼〔科挙〕
謀官代理
防塞手當
暴起シ.ス
放却シ.ス
俸給(無)
砲聲
奉迎生徒
＊剖驗
封建貴族
封建時世
彷徨
豐厚
蚌蛤
報告規則
報告者
報告書等
報告狀
炮塞
＊法劑
謀殺
暴殺暗刺シ.ス
放恣專橫
＊棒シックイ[4]
暴獰猛虎
茅舍
妨遮
報酬仕リ.ル
方術
法書

法場
鳳翔鑑
褒賞臺
飽食暖衣シ.ス
報信
＊方圖[5]〔書名〕
方正嚴格
暴戰
＊寶仙丸
砲窓
抱藏シ.ス
保存向キ
保存管守
奉戴シ.ス
飽暖
＊寶丹錠
＊報知社
某廳
＊芳爾
＊方程式
法典中
暴徒輩
法燈
豐登
放投シ.ス
放蕩息子
＊豐稔
暴念
奉納主
磅礴
暴發
暴發襲擊シ.ス
方版[6]
方比シ.ス
包庇シ.ス
豐富
亡父

暴風波
砲兵會議
砲兵本支廠
☆砲兵本廠
褒貶毀譽
放步シ.ス
法方
方法書
方法調ベ方
奉務
芳名
亡滅
～
～シ.ス
＊奉蒙シ.ス
＊鳳紋賞牌
蜂腰
貌容
望洋
芳蕾
蓬萊屋
＊法理新誌
法律學
法律學者
＊法律雜誌
鳳聲
包籠シ.ス
＊補益
＊ボオルン社中
＊ボオルン商社
ボオン号
摸楷
帆影
畝間
保管方
母金

北越
北越信者中
朴雅
北宮
僕從
北清日報
北陬
＊牧草
北堂〔母堂〕
＊北東風
墨梅〔画題〕
牧民
北門
牧羊牛塲
僕等《代名》
蒲劍[7]
保險料
鋒
乾飽等
＊干杏子
糒
ホジクリ出シ.ス
干見世等
輔車脣齒
＊保守
＊募集現額
募集高
＊募集元額
＊募集元高
＊墓所
保証
保証スル等
☆補助金
戊辰〔干支〕
＊補正勘定
細紐

1)「官棒ぶちをり打て掛りしが」(c)　2)「權理伸張ノ機萠スルノ日」(e)　3) 相場で,人気のいい方について売買する連中　4)「槍作リ棒シックイ四度ヌリ」(広)　5)「東京方圖」(広)　6)「厚サ一寸ほどの方版の面」(e)　7)「蒲劍閃めき紫燕翔る咏め」(c)

捕奪金
捕奪物
＊補註
ホッと《副》
發企
發起者
發起先導者
發起願イ人
法華行者
没収銃
勃然（ぼつぼつ）
＊弗～《副》
補綴シ.ス
ボットロード[1]
程近シ
程遠シ
ホトホト《副》
傍リ近シ（ちか）
傍リ近ク《名》
　橋（ホバシラ）
歩兵科
＊保姆
帆前船
＊補譯
補用シ.ス
彫入レ.ル
堀織部正殿
彫鏤エ.ウ
鑿掛（ホリ）リ.ル
彫物職
堀割リ.ル
ボロ切レ
ホロ酔
ホロロに《副》
本案
　～
　～通リ
盆踊リ
凡花
☆本額
本牙利部[2]
本願寺(両)
本願寺丸〔船〕
＊本久助葛
本軍
本原シ.ス
＊本港
＊本穀
本國寺
本國政府
香港日々新聞
本歳
＊本才〔塩〕
＊本紙
梵字經文
本支店
本主
☆本順
本省(舊)
本條中（ちゅう）
本照寺
本色
本尊
本臺
本宅(御)
本地等（とう）
本廳
本手
本店(各)
本道
本堂(假)
＊本綴ジ
本塲
　☆～〔相場〕
＊～頃〔相場〕
本藩
本病院
本夫
本府
本復ナシ.ス
ボンベエ市街
＊本篇
飜々
本丸
本免狀
＊本屋〔母屋〕
本約
飜譯中（ほんやくちゅう）
茫然（ぼんやり）
本令

＊埋渠
毎郡
迷子
舞込ミ.ム
毎齋[3]
毎試
毎條
毎人
毎節
埋葬料
毎地
毎夕新聞
＊前金
前島勸農局長等（ら）
前章
前垂レ掛ケ
前橋裁判支廳
任セ.ス(相)
任*セル
賄料
曲リクネリ.ル
罷リ越シ.ス
魔鬼
＊巻梅干
蒔附ケ時
巻キ詰メ.ム
幕毎
捲リ上ゲ.グ
曲物渡世
磨研紙
＊正〔征〕（まさ）
摩挲シ.ス
眞逆（マサカ）に
眞逆樣（マサカサマ）
増シ送リ.ル
増株
＊増敷
増シ從エ.ウ
増シ拂イ.ウ
＊交（まじ）リ
麻疹
先ズは
麻醉劑
マスチック〔薬〕
跨リ乘リ.ル
又旅稼ギ
マダマダ
待草臥レ.ル
待遠ガリ.ル
待設ケ.ク
町屋郵便局
抹シ.ス
松切株
松源樓（まつげん）
抹殺
松尾神社（まつのお）
賄料
松迺家節
＊松葉切[4]
松葉樓
末藩(舊)
松前伊豆守
末利（マツカ）
眞中（ママ）
麻尼剌金貨
招*キ給イ.ウ
招ギ.グ（マヽ）
＊馬哈點傳（まはめつと）[5]
マブレ.ル
飯（ママ）
迷イ易シ
丸切リ《副》
☆丸善社
丸出シシ.ス
＊〇持筋（まるもち）
磨礪シ.ス
貴客（マロウド）
回シモノ
廻リ兼ネ.ヌ
廻リソクシ.ス
万延〔年号〕
滿胸（マンネン）
萬斛
万種雜插
滿身
万千樓〔料亭〕
曼多羅
万年屋
滿尾[6]
マンマと
＊漫滅シ.ス
＊漫遊記程
マンリン社中
漫錄欄內

1) 石筆, 今の鉛筆　2) 本牙利はハンガリア　3)「毎齋教師一名生徒十餘名」〔清國教室〕(d)　4) 切昆布の一種　5) 點は, 獸の誤り　6)「右要求滿尾ノ後若シ殘額アレハ」(b)

見衆ネ.ヌ
見飽キ.ク
見上ゲ鰥[1]
＊見當リ(御)
見合セ居ル
見入レ.ル
身賣話
見エ分*キ.ク
未開暗濶
見替エ.ウ
見返リ.ル
御影石
＊ミカド号
身構エナシ.ス
蜜柑船
見聞キ.ク
三行半
見定メ難シ
ミサット侯
三島神社
水油紙問屋
水賣リ
見据エ
見据エ.ウ
水菓子屋
水際
水野大炊頭
水野河内守
水函
未成
未成丁
店向[2]
溝口邸(舊)
見染メ.ム
見出シ(御)
見立テ
導キ居ル

導キ奉リ.ル
道行
密意
密會シ.ス
密通
三菱社長
＊三菱商船學校
密夫
密謀
密約シ.ス(相)
見所
見認易シ
見トレ.ル
見放シ賜リ.ル
南宇比郵便局
＊南風
南地方
南當郷郵便局
見馴レ.ル
＊美濃紙
身ノ毛
身代銀
身ノ長
見昼イ置キ申シ.ス
見張所
見張番所
見開キ.ク
見本札
見向キ.ク
身持(不)
＊身元金
＊身元金高
身元引請人
宮城上等裁判所
宮城上等裁判所長心得

土産金
都ズシ店
都派
深山
妙案事
猛火
妙技
妙吟
妙巧
妙策
妙點
名東丸〔船〕
妙法
名目
三好少將
味淋造[3]
未練用捨
民間雜誌〔雜誌〕
民業
民刑裁判上
民刑事
民權政府
民事
民撰議院
＊民治論
＊民部省札
民法書

無一物
無縁
迎イ僧
迎エ取リ.ル
無學文盲
往昔人
無官
剝キ出シ.ス

麥畑
麥藁帽子
報イ來.ク
慘シ
向ウ水連[4]
向ウ横町
聟養子
＊蒸暑シ
蒸菓子
無識者
武者振イ
亡状
靡旗
息子殿
咽ビ.ブ
無智淺慮
無智蒙昧
陸奥幹事
無手
棟木
胸先
胸騒ギ
宗徒
無比
無法
村正〔刀〕
無理往生
群レ來リ.ル

妻合セ
明解
＊名家傳
＊名家文中(諸)
＊名家文鈔
名義上
明許

名區
命期
迷誤シ.ス
明裁
＊名材
明細帳
明細表
明細簿
＊名山
明示
明治學校
迷思誤想
名爵
明書シ.ス
名稱
＊明世進歩
名族
命題
明知
明地[5]
螟虫
鳴動シ.ス
明白シ.ス
＊明八堂
冥府
名文
命脈
瞑夢
＊名譽雜誌
明亮
目學問
目掛ケ(御)[6]
恤ミ吳レ.ル
巡リ逢イ.ウ
目ザメ.ム
召上ゲ
召換エ.ウ

---

1)「見上げ皺を伸して退社する～」(c)　2)「店向の取締り」(c)　3)「清酒造」の対　4) 向う見ず　5)「寧ロ明地ニ～愉快ヲ共ニスル～」(c)　6) 妾

＊召使部屋
眼尻
＊目切リ《副》
滅絶
　～
　～シ.ス
滅多打
滅法
滅法界
＊目通リ
瑪瑙細工
眼ノ玉
芽生
女々シ
＊目良戸（めらど）
＊米利堅製
莫大小等
莫大小上着
免役
免許期限中
免許銃用
免許商人
綿撒糸等
免状（假）
面相
綿段通
免黜
面体
面皮
＊綿紡機械
免命

濛[1]
＊毛魚
孟光[2]
申シ殘シ.ス（御）

申合ワシ.ス
申合セ
申聞ケ置キ.ク
＊申越シ下サ
　レ.ル（御）
申進ジ.ズ
申勸メ.ム
申立テ居リ.リ
毛質
申述ベ兼ネ.ヌ
妄執
猛獸
猛省シ.ス
妄想中
＊孟宗林
毛布
毛利侯
盲聾
燃エサシ
燃立チ.ッ
＊眞岡郵便局
木匡[3]
目今
＊木鐸[4]〔産物〕
＊目代人
目的
　～
　～等
默符シ.ス
默々
　～
　～シ.ス
木理
目論見出シ.ス
燃シ.ス
文字中
＊藻汐

モジモジシ.ス
悶エ苦シミ.ム
攫ゲ得.ウ
默止難シ
持チアツカイ.
　ウ
＊餅粟
＊持圍イ筋
持堪エ居ル
＊持込ミ
持添エ.ウ
持高
持傳エ.ウ
持直シ.ス
持丸
飡
最モ至極（御）
尤モラシ
モテナシ.ス
＊元額
元末
＊元地
＊元募集
求メ出デ.ズ
元結
本吉郵便局
物シ玉イ.ウ
物爭イ
物言イ
物置小屋
物淋シ
物種
物干等
物學ビシ.ス
＊物讀＊ミ
＊物忘レシ.ス
籾

＊籾倉＊（舊）
揉消シ.ス
楓葉屋
揉メ悶着
木綿市場
木綿糸
木綿織
木綿地
木綿縞
木綿職業
木綿貿易
木綿莫大小
貰イ娘
洩レ
諸聲
紋形（諸）
＊門人中（御）
門生
＊門荅書
門扉等
門末
紋樣

八重物
夜宴
野翁
＊八百善
矢鏑
八木機關長官
炙卵
燒豆腐
厄（御）
扼シ.ス
約シ置キ.ク
役印
厄運

厄介（五）〔御〕
約外
役柄（御）
役舘
譯語
＊譯纂
譯字
＊譯悉シ.ス
役者
譯者
譯述シ.ス
＊約定賣
＊約定越高
＊約定米
約束通リ
藥代
＊藥店
役徒等
役場（御）
＊藥力
扼腕切齒シ.ス
燒野
野菜物
ヤサシサ
＊野蠻
＊邸地
屋尻
鍬
＊安氣[5]
＊安直移リ
休メル
安ンジ奉リ.ル
＊野生《代名》
野蔬
耶蘇教會
耶蘇宗教
耶蘇宗徒

1)「叡山ハ濛として見へす」(e)　2)「嫁めが醜くき孟光よてハ釣合ぬと」(c)，醜女
3)「額面ニ用ユルノ木匡」(d)　4)「木鐸・曖草・唐墨～等」(広)　5)「高気」の対

耶蘇信者
耶蘇信徒
矢鱈に
ヤッ　《感》
雇イ申シ.ス（相）
雇支那人
雇洋人宅
宿主
宿札
＊宿元問屋
屋ドリ（假）[1]
宿割
宿割帳
柳原邸
家並
家根瓦
屋ノ裏等
鏃
野蠻
藪醫
藪醫者
破リ出デ.ズ
山内家
山縣陸軍中將
山川一等警部
山口議官
山桑
山下舘内
山下門外
山砂利
倭樂
大和戰爭
山蜩＊〔蝉〕
山獵
病ミ疲レ.ル
ヤミヤミと

廢
ヤヨ　《感》
野用〔野外用〕
遣カシ.ス
遣リ過ゴシ.ス
槍手[2]

湯浴ミ
唯一念
遺體
結イ廻シ.ス
邑
酉〔十二支〕
有位華族
幽鬱
有期
由已社
遊漁人
夕餉
有形物
勇者
湧出シ.ス
侑觴[3]
勇將
遊女塲
＊勇進學舍
勇進奮闘シ.ス
融通資本
油然
郵船會社
勇膽
誘致シ.ス
雄蟲
雄長
有定限
遊呼[4]

誘導者
郵便爲替
～
～等
＊郵便滊船
郵便刻限
＊郵便定稅
郵便電信等
郵便馬車
郵便罰則
＊雄風
勇憤激怒シ.ス
勇奮猛烈
遊民社會
有役
＊夕燒*雲
遊冶郎
幽々
優遊シ.ス
有祿者
愉快（五）〔御〕
湯灌
行[5]
行過ギ.グ
雪輪形
行ク行ク《副》
湯氣立チ.ッ
湯島天神
輸出貨幣
輸出口
輸出稅
輸出茶
讓リ.ル（相）
讓リ得.ゥ
輸送濟ミ
諭達
～

～シ.ス
指サシ.ス
湯水
努　《副》
夢路
勇々シ[6]
＊緩ミ.ム（相）

醉
餘意
宵越
樣シ.ス
～[7]
～（相）[8]
用意中
用意金
傭役シ.ス
溶解シ.ス
要害
溶解石
用掛リ
～
～等
＊幼學
＊洋學校
容儀
要求人
洋狂〔佯狂〕
揚經題〔仏教〕
養魚塲
用金
要緊
洋犬
要言シ.ス
洋行中

＊洋行者
傭作服役シ.ス
洋算
養子（御）
樣シ濟ミ[9]
洋種
養壽院
＊要書
＊要償
＊容飾
＊洋書仕立
養親
要愼（無）
用心鍵
雍正〔年号〕
洋西
＊洋裝本
壅塞シ.ス
＊養胎圓〔薬〕
＊要典
＊洋綴ジ
羊豚
曜日（兩）
要品
洋服用
＊幼補
＊養法
＊洋本仕立
＊洋本綴ジ
要務
＊養命酒
搖々[10]
妖力
＊要畧
豫科生徒
餘間

1）宿り　2）軍隊の　3）酒をすすめること　4）「唱ル所ハ則チ遊呼土木」（e）　5）「米國行」（c）　6）「勇々敷大事」（e）　7）「晩稻刈樣シ通筭ノ上～」（c）　8）「坪刈出合ノミ相樣シ」（c），9）「全村樣シ濟ノ上」（c）　10）「人心ニシテ～搖々定マラスンハ」（e）

餘響
餘金
能クシ難シ
翌月(毎)
翌春
浴水
☆浴湯
慾婆(ばば)
慾張リ連
翼補シ.ス
沃野
除ケ[1]
餘慶
横切リ〔紙〕
横須賀郵便局
横手
横濱オリヤンタルバンク
横濱地所
＊横濱支店
＊横濱十全醫院
＊横濱東海鎭守府
横濱法廳
＊横濱毎日新聞會社
横向キ
横槍(よこやり)等
＊ヨゴレモノ
豫算帳
與志(よし)[2]
ヨシナに
吉永判事
夜芝居
寄セ席
與奪
延
與丁(よちょう)
豫兆
四日市魚問屋
四谷學校
＊四度ヌリ
四人扶持
呼返シ.ス
豫備學
呼込ミ.ム
豫備數
呼高
呼出シ相成リ.ル(御)
豫備砲兵
＊豫備門
呼寄セ.ス
呆夫(よふ)等
豫防劑
讀上ゲル
讀下(おろ)シ.ス
蘇生(ヨミガエ)リ.ル
讀切リ.ル
嫁五〔嫁御〕
嫁入リ.ル
嫁取リ
四モ〔四方〕
豫約
依リ.ル(相)
＊撰込(よりこ)ミ〔鮭〕
☆寄附キ
寄集イ.ウ
餘類
寄ル邊
鎧橋
夜半(よわ)
＊弱氣筋
雷雨シ.ス
來往
來學シ.ス
來歸シ.ス
來議
＊～
＊～(御)
來航シ.ス
＊來車(御)
＊來車下サレ.ル(御)
＊來廳(御)
癩病院
ライプチス號
＊來報
＊來覽(御)
落膺
＊落札金高
＊落札日
樂善愛惠
羅織空構[3]
亂聲(らんじょう)
卵數
亂擲シ.ス
欄內
蘭兵
乱民中

理合(りあい)
＊利有小商人
＊利有筋
＊リイドル[4]
梨園
梨園社會
俚歌(り)
鞣革
＊利學
＊理學部
離間
力行社
力士(總)
力士共
戮シ.ス(相)
陸揚ゲ
＊利喰賣リ戻シ.ス
陸海軍樂隊
陸軍一等軍醫正
陸軍會計司契副
陸軍會計二等司契
陸軍伍長
陸軍裁判
＊陸地用
理屈メカシ.ス
利鈍
羅災
☆理財新報
利策
里數等
理勢
李總督
離檀(りつだん)
立會(りっかい)[5]
＊立十等[6]
＊律書房
律例中
利倍
理非
理非善惡
離別ナシ.ス
畧況
畧叙
畧傳
畧表
畧帽
畧有
流亞
流域
龍角
留學中
流丸
龍顏
流義
窿穹
隆慶〔年号〕
＊流行
粒穀
流失
粒實
龍神雜子
＊龍頭卷キ
留存シ.ス
＊流通紙幣
龍吐水(どすい)
流亡
リュプス年[7]
呂(りょ)
俚謠
兩度
寮
凌壓シ.ス
了解(不)
了解シ難シ
了解シ玉イ.ウ
領解シ.ス
＊兩替店
兩替屋
兩側
＊兩眼鏡
稜起
兩京

1)「虎列剌除ケ」(e)　2)「與志ノ議會ヲ設立シタマハン事ヲ」(e)　3)「幕府執政輩ノ羅織空構」(e)　4) リーダー，読本　5)〔楽善会〕「立會ノ原由」(e)　6) 立十は，物産名　7)「猶我歐地ニ虻(あぶ)年「リュプス」年アルカ如シ」(e)

戻遇シ.ス	凌轢	禮意	練兵場(舊)	六會[5]
＊戻薫香	〜	蠣蟹	連壁〔連璧〕	＊六月限
＊戻功	〜シ.ス(相)	例規外	聯邦	六國
兩國橋	兩腕	＊冷氣日和	聯邦國	六尺竿
＊戻劑	綠色	禮金	憐愍(御)	六種
兩三戰	綠林	冷然	＊連綿支社	六舟
兩次	旅行致シ.ス	麗澤	＊連綿社	六十六州
療治(オ)	旅裝料	禮文	煉藥	錄送シ.ス
領取シ.ス	＊旅宿渡世	零篇斷管	連用シ.ス	六大國
領受	旅團事務所(舊)	蠣房[1]	連理	＊六雄
戻樹	旅泊	黎明	連列シ.ス	漉溶シ.ス
領袖	旅費金	禮物等		六連發
＊領收方	輪奐	＊靈藥		碌々然
兩州中	鄰縣	歷然	**勞役シ.ス**	鷏鷺[6]
兩將	輪講	列舘	老和尚	魯相[7]
兩色	臨時會	列覲	樓下	路人
獵稅	臨時代理	裂眥	牢滑	魯帝代理
戻全	臨時別局	劣數	陋頑	＊魯文珍報
獵高	臨時報	列品中	牢給シ.ス	露領
領諾シ.ス	臨時報告	烈風暴雨	陋巷	ロルド〔Lord〕
＊領知シ.ス	隣佑	レモン水	老妻	ロワ[8]
兩的	轔々	レワントヘラルド〔新聞〕	勞瘁	ロワトランシトワアル[9]
戻圖		廉	狼藉	
領得シ.ス		奩[2]	狼藉者	論(御)
兩隣	**淚痕**	練瓦造リ	蠟燭燒キ	論記シ.ス
兩能	＊類纂	連及シ.ス	朗讀シ畢リ.ル	論決
戻否	類似病	連月	老翁	論者(某)
＊兩引キ〔辭書〕	累囚	連坐シ.ス	樓婢	論種
兩夫	類燒人	連枝	浪費シ.ス	論ズラク
兩府	類族	＊練習科	老猫閣下	論勢
漁夫	ルイ第十三王	連書致シ.ス	漏聞	龍勁タイムス新聞
凌侮	累卵	連署(御)	老兵	
兩僕	纍々	戀情	樓門	＊倫敦バアス社
＊戻藥	留守ガチ	連霄	樓々	論柄
綾羅錦繡	留守所	連戰連敗	ロオコスト[3]	
☆料理(御)	縷陳シ.ス	連續	ロオマニアン[4]	
＊料理場		連發シ.ス	＊羅瑪律	矮屋

1) 牡蠣の身　2) 香ばこ，くしげ　3) locust いなご，ばった　4) 参照「バルカンジアン」　5)「談論會ハ例月六會」(c)　6) 鵜　7) 魯は，ロシア　8) loi 法，法律　9) 参照「トランシトワアル」

＊猥褻（わいせつ）
＊淮南（わいなん）
ワイフ
ワイヨミン號〔船〕
和歐文
若男
分チ領シ.ス
若年寄〔職名〕
我儘氣儘
若宮祠（わかみや）
壯年原（わかもの）
別レ.ル(相)
分キ.ク
＊脇ノ間
惑動シ.ス
＊或間（わくちん）〔書名〕
惑亂致シ.ス
惱々（わさわさ）と
輪島警察署
鷲丸〔船〕
和舟
煩イ付キ.ク
忘レ難シ
忘レ片身
＊倭船積
輪代[1]
＊綿入レ小袖
渡シ(オ)
渡シ相成リ.ル(オ)
渡シ切リ.ル
渡シ遣リ.ル
渡シ錢
＊渡シ米格附
ワタリ〔辺〕
渡リ會イ.ウ
渡リ仲間（ちゅうげん）
詫入リ.ル(御)
詫書
和平策
＊和譯（わい）
笑イ居ル
蕨粉（わらび）
童（わらべ）
割掛（わりかけ）ケ.ク
課出シ.ス
＊割付ケ.ク
＊割リハズシ.ス〔相場〕
＊割麥
☆割戻シ.ス
＊割戻シ金額
＊割安
惡徒ラ
破（わ）レ目
腕（わん）

1) 人力車の輪の代金

6　第五表　接辞的要素の表（五十音順）……別表

別表は次の五類六種である。

a　<お(御)・ご(御)・おん(御)>の類

b　<君・さん・氏>の類

c　<す・なす・致す>の類

d　<圓・歳・マイル>の類

e　その他の接辞的要素

e1　その他の接頭的要素　<相(アイ)・一(イチ)・各(カク)>の類

e2　その他の接尾的要素　<宛(アテ)・下(カ)・上(ジョウ)>の類

表の体裁について説明しよう。

見出しは三段階に分けた。たとえば，接頭的要素 <お(御)> について言えば，

オ～[1]

オ～（体言）[2]	66	102
オ～（用言）	15	24
オ～アイナリ.ル	4	4
……	……	
オ～モウシ.ス	4	4
cf.　オ～リ[3]　人		→ d

のようになっている。

1)は，<オ>で始まる語の共通見出しである。

2)は，<オ> の次に来る語の類型によって分けた内訳である。 <オ～>を，体言のばあいと用言のばあいとに分けたのは，<(～の)御買上げ（をたまわる)> と <(～を)御買上げ（になる)> とを区別したからである。<御車>などはむろん<オ～(体言)>の方にはいる。

3) cf. の<オ～リ>は，参照項目である。（実例，お一人）これは，元来dの<圓・歳・マイル>の表にあるのだが，たまたま<オ>の要素を持っているので，ここに参照項目として掲げた。

参照項目のばあいは，それが本来あるべき場所を矢印で示す。ここでは，別表dの見出し＜～リ＞を見れば，＜オ～リ＞が正式に登録してあることを意味する。

集計欄は，異なり語数の欄と延べ語数の欄とある。＜オ～(体言)＞について言えば，これは66の異なり語について使われ，その延べ語数（使用度数）は102であったという意味である。

ことばによっては，接頭的要素と接尾的要素との両方を持つものがある。例の＜オ～アイナリ.ル＞，＜オ～モウシ.ス＞などはそれである。これらの集計は，すべて＜オ～＞の方で行なった。＜～アイナリ.ル＞，＜～モウシ.ス＞の見出しには，参照項目として＜オ～アイナリ.ル＞，＜オ～モウシ.ス＞をあげるだけで，集計はやらない。

ただし，助数詞にあたる接尾的要素（＜圓・歳・マイル＞の類）を含むものは，上の規定にかかわらず，すべて別表dにまとめることにした。従って，＜オ～リ＞（実例，お一人）は，原則に従えば＜オ～＞で集計すべきであるにもかかわらず，＜～リ＞の方で集計したのである。

接頭的要素どうし，接尾的要素どうしが複合しているものは，取り扱い上，単独の接辞的要素と同じにみる。＜ゼンカリ～＞（前假），＜～アイナリガタ.シ＞はいずれも分解することなく，そのままの形を大見出しとした。ただし，助数詞にあたる接尾的要素を含むばあいは，この規定にかかわらず別表dに収め，かつ，そこで集計する。＜～エンヨ＞（圓餘）は＜～エン＞の見出しに含め，かつ，そこで集計する。＜～ヨ＞の所へは参照項目として掲げるにとどめた。

第5表　接辞的要素の表（五十音順）

a＜お・ご・おん＞の類

見　出　し	異なり語数	使用度数
オ～ 御		
オ～(体言)	66	102
オ～(用言)	15	24
オ～アイナリ.ル	4	4
オ～アソバシ.ス	1	1
オ～クダサレ.ル	2	2
オ～サマ	2	2
オ～サマガタ	1	1
オ～サン	1	1
オ～シアイナリ.ル	1	2
オ～シ.ス	1	1
オ～チュウ	2	3
オ～トウ	1	1
オ～ナサレ.ル	3	3
オ～ナシ.ス	1	1
オ～モウシ.ス	4	4
cf. オ～リ 人		→d
オン～ 御		
オン～(体言)	26	39
オン～アソバシ.ス	1	1
オン～ギミ	1	1
ギョ～ 御		
ギョ～(体言)	2	4
ギョ～シタマイ.ウ	1	1
ゴ～ 御		
ゴ～(体言)	120	204
ゴ～(用言)	2	2
ゴ～アイナリ.ル	8	11
ゴ～アソバシ.ス	5	5
ゴ～カタ	1	1
ゴ～クダサレ.ル	1	1
ゴ～クダシ.ス	2	2
ゴ～シ.ス	2	2
ゴ～チュウ	3	4
ゴ～ツカマツリ.ル	1	1
ゴ～トウ	1	1
ゴ～ナシクダサレ.ル	1	1
ゴ～モウシアゲ.グ	1	1

b＜君・さん・氏＞の類

見出し		異なり語数	使用度数	見出し		異なり語数	使用度数
～アネ	姉	1	1	～サン	様	10	11
～イン	院	1	1	～サンジン	山人	1	1
～ウエ	上	3	4	～シ	師	2	2
～オウ	翁	8	8	～シ	子	7	7
～カクカ	閣下	2	2	～シ	氏	122	138
～キョウ	卿	5	5	cf. キュウ～シ			→e_1
～クン	君	126	149	～シラ	氏等	1	1
～ケ	家	1	1	～シンノウ	親王	1	1
～ゴ	御	2	5	～セイ	生	3	3
～コウ	公	22	33	～センセイ	先生	13	13
～コウシュ	公主	1	1	～センセイラ	先生等	1	1
～コジ	居士	1	1	～デンカ	殿下	1	1
～サマ	様	4	4	～ドノ	殿	36	39
cf. オ～サマ			→a	～バラ	原	2	2
～サマガタ	様方	1	1	～ヘイカ	陛下	1	1
cf. オ～サマガタ			→a	～メ	奴	5	5

c <する・なす・致す>の類

見出し		異なり語数	使用度数
～アイ.ウ	合	7	7
～アイナリ.ル		28	30
cf.オ～アイナリ.ル			→a
cf.ゴ～アイナリ.ル			→a
～アイナリガタシ		2	2
～アエ.ウ	敢	1	1
～アソバシ.ス		6	8
cf.オ～アソバシ.ス			→a
cf.オン～アソバシ.ス			→a
cf.ゴ～アソバシ.ス			→a
～アタイ.ウ		1	1
～アリ.リ		10	12
cf.アイ～アリ.リ			→e1
～イタシ.ス		74	87
～イタシオキ.ク		4	4
～イタシオキモウシ.ス		1	1
～イタシオリ.リ		5	5
～イタシガタシ		2	2
～イタシキタリ.ル		5	5
～イタシクレ.ル		1	1
～イダシ.ス		1	1
～イダシオキ.ク		1	1
～イデ.ズ	出	2	39
～イル	居	26	33
～エ.ウ	得	21	27
～オオセ.ス		1	1
～オキ.ク		52	76
～オキガタシ		1	3
～オキモウシ.ス		1	1
～オリ.リ		23	25
～オリモウシ.ス		1	1
～オワリ.ル		2	2
～ガタシ		25	37
～カネ.ヌ		12	21
～キ.ク		1	1
～キタリ.ル		25	42
～クダサレ.ル[1]			
c f.オ～クダサレ.ル			→a
～クレ.ル		6	6
～シ.ス		2287	5789
cf.アイ～シ.ス			→e1
cf.アイ～シオキ.ク			→e1
cf.オ～シ.ス			→a
cf.オ～シアイナリ.ル			→a
cf.ギョ～シタマイ.ウ			→a
cf.ゴ～シ.ス			→a
cf.フ～シ.ス			→e1
～シ.スル		4	4
～ジル[2]		1	1
～シアイ.ウ		4	4
～シアリ.リ		2	3
～シアルキ.ク		1	1
～ジイル[3]		1	1
～シエ.ウ		11	11
～シエモウシ.ス		1	1
～シオキ.ク		6	7
～シオリ.リ		5	5
～シオワリ.ル		2	2
～シガタシ		14	16
～シカネ.ヌ		1	1
～シキタリ.ル		10	10
～シスギ.グ		1	1
～シタテマツリ.ル		3	3
～シタマイ.ウ		8	9
～ジツケ.ク[4]	付	1	1
～シハジメ.ム		1	1
～ジハテ.ッ[5]		1	4
～シヤスシ		3	3
～シヤリ.ル		1	1
～ソメ.ム	初	3	6

接辞的要素の表（五十音順）

見出し		異なり語数	使用度数
～ダシ.ス		3	4
～タテマツリ.ル		11	13
～タマイ.ウ		27	30
～ツカマツリ.ル		17	17
cf. ゴ～ツカマツリ.ル			→a
～ヅラシ	辛	1	1
～デル		1	3
～ナサレ.ル		1	1
cf. オ～ナサレ.ル			→a
～ナシ.ス		50	52
～ナシアタイ.ウ		1	1
～ナシガタシ		1	1
～ナシクダサレ.ル[6]			
cf. ゴ～ナシクダサレ.ル			→a
～ナリ.ル	成	4	5
～ハタシ.ス		1	1
～ハテ.ッ		2	8
～マカリアリ.リ		2	2
～マシマシ.ス		2	2
～メカシ.ス		2	2
～モウシ.ス		13	14
cf. アイ～モウシ.ス			→e_1
cf. オ～モウシ.ス			→e_1
cf. ゴ～モウシアゲ.グ			→e_1
～ヤスシ	易	5	5
～ヤリ.ル		1	3
～ラシ		1	1

1), 6) この用例はなかったが，cf. の為に仮に見出しを立てた。

2) 「案ずる我子の心」（c） 3) 「案事（あんじ）居たる折りなれば」（c）

4) 「嚴（きび）しく談じつけ」（c） 5) 「信吉も困じ果るゝ」（c）

d＜圓・歳・マイル＞の類

見出し	使用度数	見出し	使用度数	見出し	使用度数
～アシ 足	1	**～カイ**		カネン ケ年	26
～イ 位	1	カイ 回	17	カネンナイ	
～イン 員	2	カイアテ 回宛	2	ケ年内	1
～インチ	1	ダイ～カイ		**～カブ**	
～エ[1] 重	1	第～回	9	カブ 株	4
～エイリ 英里	2	**～カイ** 階	2	カブアテ 株宛	1
～エエクル[2]		**～カイ** 塊	2	**～カマス** 叭	1
エークル	1	**～ガイ**[5] 蓋	2	**～カン** 貫	2
～エツゲツ 閲月	4	**～カゲツ**		**～カン**	
～エン		カゲツ ケ月	30	カン 款	1
エン 圓	290	カゲツアテ		ダイ～カン	
エンアテ 圓宛	4	ケ月宛	2	第～款	5
エンズツ 圓ズツ	2	**～カゴ** 籠	1	ダイ～カンチュウ	
エンタラズ		**～カサネ** 重	1	第～款中	1
圓足ラズ	1	**～カジ** ケ寺	1	**～カン**	
エンナイガイ		**～カショ** ケ所	28	カン 巻	3
圓内外	1	**～カジョウ**		ダイ～カン	
エンヨ 圓餘	21	カジョウ ケ條	6	第～巻	1
～オンス[3]		カジョウチュウ		**～カン**	
オンス	5	ケ條中	1	カンゴト 檻毎	1
オンスゴト	1	**～ガツ**		**～カンメ** 貫目	5
～カ		ガツ 月	228	**～キ**	
カ 日	304	キュウ～ガツ		キ 期	2
カアテ 日宛	1	舊～月	1	ダイ～キ 第～期	5
カアマリ 日餘リ	1	ダイ～ガツ		**～キ** 騎	1
カゴロ 日頃	8	第～月	3	**～キ**	
カヅケ 日附	4	マイ～ガツ		キ 基	3
カメ 日目	1	毎～月	3	キズツ 基ズツ	1
～カ[4] 顆	1	ガツゴロ 月頃	6	キヨ 基餘	1
～カ 科	3	ガツチュウ 月中	20	**～キャク** 脚	1
～カ		ガツライ 月來	1	**～キュウ** 弓	1
ダイ～カ 第～課	1	**～カネン**		**～キュウ**	

1)「一と重」 2) エーカー 3) 重量 4)「千顆」 5) 笠一蓋

見出し	使用度数
ダイ～キュウ	
第～級	1
～ギュルデン[1]	1
～キョウ 橋	1
～ギョウ	
ギョウ 行	7
ギョウメ 行目	3
～キョク 局	1
～キレ 切	1
～キログラム	2
～キロメエトル	
キロメートル	2
～キン	
キン 斤	26
キンヨ 斤餘	1
～キン[2] 釣	1
～ク 區	4
～クチ 口	3
～クミ	
クミ 組	3
クミアテ 組宛	1
～ケ 家	2
～ゲツ 月	2
～ケン	
ケン 軒	14
ケンアテ 軒宛	1
～ケン	
ケン 間	31
ケンアマリ 間餘リ	1
ケンヨ 間餘	6
～ケン 件	15
～ゲン[3] 元	1
～コ 箇	31
～コ 戸	14
～コウ	
コウ 項	5
ダイ～コウ	
第～項	9
ダイ～コウチュウ	
第～項中	1
～コウ 港	1
～コウ[4] 口	2
～ゴウ 合	9
～ゴウ	
ゴウ 號	17
ゴウアテ 號宛	1
ダイ～ゴウ	
第～號	150
ダイ～ゴウチュウ	
第～號中	1
～コク	
コク 石	25
コクユウヨ	
石有餘	1
コクヨ 石餘	3
～コシ 腰	1
～コリ 梱	2
～ザ[5] 座	1
～サイ	
サイ 歳	24
サイヨ 歳餘	1
～ザイ 罪	2
～サツ 冊	5
～シ[6] 子	1
～シ[7] 糸	2
～シ 紙	1
～ジ 字	16
～ジ	
ジ 次	3
ダイ～ジ 第～次	5
～ジ 事	1
～ジ	
ジ 時	31
ジゴロ 時頃	43
ジスギ 時過ギ	7
ダイ～ジ 第～時	12
ダイ～ジゴロ	
第～時頃	1
～ジカン	
ジカン 時間	5
ゼン～ジカン	
全～時間	1
ジカンゴト	
時間毎	2
ジカンヨ 時間餘	1
～ジツ	
ジツ 日	33
ジツトモ 日トモ	2
～シャ 者	5
～シャク 勺	1
～シャク	
シャク 尺	28
シャクアマリ	
尺餘リ	1
シャクヨ 尺餘	5
～シュ 朱	5
～シュ 首	1
～シュ	
シュ 種	21
ダイ～シュ	

1) オランダの貨幣。2)「千釣」 3)「洋銀一元」 4)「百五十万口の人民」 5)「三十座の器械」 6)「男女二子」 7)「六十六銭七厘八毛四糸」

接辞的要素の表（五十音順）

見出し	使用度数	見出し	使用度数	見出し	使用度数
第～種	2	ジョウヨ　丈餘	4	センドウ　銭等	1
シュゴト　種毎	1	～ジョウ		センナイガイ	
～ジュ　樹	1	ジョウ　條	104	銭内外	1
～シュウ　週	1	ダイ～ジョウ		センヨ　銭餘	2
～シュウカン　週間	5	第～條	65	～セン　船	1
～シュウキ　周忌	1	ダイ～ジョウチュウ		～セン[7]　川	2
～シュウジツ　周日	1	第～條中	1	～セン	
～シュウネン		～ジョウ　帖	1	ダイ～セン[8]	
シュウネン　周年	2	～シン[4]　神	1	第～籤	1
シュウネンジュウ		～シン[5]　身	1	～セント　仙	7
周年中	1	～スイ　水	1	～ソウ[9]　層	1
～ジュン　旬	1	～ステリンク[6]	1	～ソウ	
～ショ[1]　書	2	～スン　寸	13	ソウ　艘	17
～ショ　所	7	～セ　畝	1	ソウズツ　艘ズツ	1
～ジョ　女	4	～セイ　聲	8	～ソク　束	2
～ショウ		～セイ		～ソク　足	1
ショウ　章	2	ダイ～セイ		～ソク	
ダイ～ショウ		第～世	2	ダイ～ソク	
第～章	9	～セキ　隻	4	第～則	7
～ショウ		～セキ		ダイ～ソクチュウ	
ショウ　升	21	ダイ～セキ		第～則中	1
ショウヨ　升餘	2	第～席	1	～ソン　尊	1
～ショウ[2]　檣	2	～セツ		～ダ[10]　朶	2
～ジョウ[3]　杖	1	ダイ～セツ		～ダ　駄	2
～ジョウ		第～節	8	～ダイ　臺	1
ジョウ　場	3	～セブ　畝歩	1	～ダイ	
ダイ～ジョウ		～セン		ダイ　代	1
第～場	2	セン　錢	181	ダイメ　代目	3
～ジョウ　疊	1	センアテ　錢宛	1	～タビ　度	3
～ジョウ　城	1	センカタ　錢方	2	～タル　樽	2
～ジョウ		センクライ　錢位	1	～タン[11]　端	1
ジョウ　丈	10	センズツ　錢ズツ	2	～タン[12]	

1）「一書を取りて一書を殘し」　2）「これ商賣にして三檣の大船を所持せし初めなり」　3）「一杖を携へて」　4）「造化の三神」　5）「夫レ斯クノ如ク一身二身トナリ」　6）スターリング〔ポンドの為替上の呼び名〕　7）「高崎の西ユ至りて二川相會し」　8）「九年發行秩録公債証書第八籤」　9）階の意　10）「壁ニ一朶ノ楳花ヲ挿ミ」　11）「電線二個を挟み線の二端ヘ」　12）田畑，反物

見出し		使用度数
タン	反	5
タンヨ	反餘	2
～ダン		
ダン	段	5
ダンメ	段目	1
～タンブ	反歩	2
～チ	地	2
～チャク		
ダイ～チャク		
第～着		1
～チュウ[1]	畫	1
～チュウヤ	晝夜	2
～チョウ[2]	吊	1
～チョウ[3]	貼	1
～チョウ[4]	挺	3
～チョウ[5]		
チョウ	丁.町	23
チョウヨ		
丁餘・町餘		9
～チョウメ	丁目	76
～ツイ	對	2
～ツウ	通	7
～ツキ		
ツキ	月	6
ツキヨ	月餘	2
～ツブ	粒	1
～ツボ		
ツボ	坪	12
ツボヨ	坪餘	2
～テ[6]	手	1
～テエル[7]	両	3
～テキ	滴	3
～デニイ[8]		1

見出し		使用度数
～テン	點	12
～ト		
ト	斗	9
トヨ	斗餘	2
～ド		
ド	度	42
ドナイガイ		
	度内外	1
ドメ	度目	2
ドヨ	度餘	1
～トウ		
トウ[9]	等	27
ダイ～トウ		
	第～等	4
～トウ	頭	4
～トウ		
ダイ～トウ[10]		
	第～套	1
～ドウ[11]	洞	1
～ドウ	道	1
～トコロ		
トコロ	所	1
カク～トコロ		
	各～所	2
～トセ		
トセ	歳	3
トセアマリ		
	歳餘リ	1
～ドル		
ドル	弗	29
ドルヨ	弗餘	2
～トン	噸	3
～ナン		

見出し		使用度数
ナン	男	9
ナンラ	男等	1
～ニチ		
ニチ	日	492
ダイ～ニチ		
	第～日	3
ニチゴロ	日頃	8
ニチジュウ	日中	1
ニチヅケ	日附	3
ニチナイ	日内	1
～ニン[12]	任	1
～ニン		
ニン	人	273
ニンアテ	人宛	1
ニンズツ	人ズツ	1
ニントモ	人トモ	2
ニンマエ	人前	2
ニンヨ	人餘	1
～ネン		
ネン	年	145
ゼン～ネン		
	前～年	2
ダイ～ネン		
	第～年	1
マイ～ネン		
	毎～年	1
ネンゴロ	年頃	2
ネンジュウ	年中	5
ネンナイ	年内	3
ネンメ	年目	1
ネンライ	年來	6
～ネンド		
ネンド	年度	4

1)「御三泊二三畫が百圓より百五十圓迄」 2)「支那千錢を一吊といふ」 3) 薬包 4) 銃器，豆腐 5) 距離，面積 6)「局に對され十手許りも打つと」〔将棋〕 7) 支那貨幣 8) 糸の太さデニール 9) 勲一等のような勲等は含まない 10) 書類番号 11)「頂上に一洞あり」 12)「一任十二年トス」〔任期〕

見出し	使用度数	見出し	使用度数	見出し	使用度数
ダイ～ネンド		ヒョウヨ 俵餘	1	～ホ 歩	7
第～年度	1	～ヒョウ		～ホウリ 方里	1
～ハ 派	3	ヒョウ 表	1	～ホン	
～ハイ 杯	2	ダイ～ヒョウ		ホン 本	19
～バイ		第～表	2	ホンアテ 本宛	1
バイ 倍	5	～ビョウジ 秒時	1	～ポンド	
カク～バイ		～ヒロ 尋	1	ポンド 磅	12
各～倍	1	～ヒン 品	6	ポンドヨ 磅餘	1
～ハク[1] 舶	1	～ブ		～マ 間	3
～ハク 泊	1	ブ 部	5	～マイ	
～ハコ		ブズツ 部ズツ	1	マイ 枚	60
ハコ 箱	14	～ブ 歩	3	マイ～マイ	
ハコヨ 箱餘	1	～ブ[4]		毎～枚	1
～バタイロン[1]	1	ブ 分	40	～マイル	1
～ハツ		ブヨ 分餘	2	～マキ 巻	3
ハツ 發	7	ブドオリ 分通り	3	～マク	
ハツアテ 發宛	1	～フク 幅	3	マク 幕	2
～ハン 犯	1	～ブツ 佛	1	マクメ 幕目	1
～バン		～フランク[5]		～ミ[9] 味	1
バン 番	55	～フン[6]		～ミニュウト[10]	1
ダイ～バン		フン 分	52	～ムネ 棟	9
第～番	2	フンゴロ 分頃	6	～メ[11]	
バンメ 番目	1	～ブン		メ 目	4
～バンチ 番地	73	ブンチュウ[7] 分中	2	メアテ 目宛	1
～ヒエエ[2] ヒエー	1	～フンジ		メグライ 目位	1
～ヒキ[3]		フンジゴト[8]		～メイ	
ヒキ 匹	8	分時毎	2	メイ 名	167
ヒキズツ 匹ズツ	1	～ヘン		メイアテ 名宛	5
～ヒツ 櫃	1	ヘン 篇	3	メイゴト 名毎	1
～ヒツ 筆	1	ダイ～ヘン		メイヨ 名餘	1
～ヒョウ		第～篇	9	メイラ 名等	1
ヒョウ 俵	2	～ヘン 片	1	～メエトル メートル	1

1)「一リヂマンハ三バタイロンあり」〔大隊のこと〕 3)「厚サ百「ヒエー」ノ一道ヲナシ」 pieds〔仏〕フィート 3) 動物，布地 4) 金額，長サ，緯度，歩合，割合を含む 5) フランスの貨幣，フラン 6) 時間 7)「百分中」 8)「粉劑～二十分時毎ニ服シ～」 9)「硫黄水銀ゴムの三味を調整したる」 10) minute 11) (1)「種子三百目」 (2)「操綿ハ～五目或ハ十目宛の下落」

接辞的要素の表（五十音順）

見出し	使用度数	見出し	使用度数	見出し	使用度数
～メン[1] 面	3	リアテ 人宛	3	ダイ～ルイチェウ	
～モウ 毛	5	リズツ 人ズツ	2	第～類中	1
～モン[2] 門	3	～リジマン[4]	1	～ルウブル	4
～モン[3] 文	4	～リッポウシャク		～レイ 鈴	2
～モン		立方尺	1	～レイ	
ダイ～モン		～リイブル[5]	2	ダイ～レイ	
第～問	2	～リイブルステリン		第～例	1
～モンメ 匁	4	グ[6]	1	～レン[7] 廉	1
～ヤ 夜	2	～リョウ 両	7	～ロ 路	2
～ヨウ 葉	7	～リョウ 輛	4	～ワ	
～ヨウ 様	2	～リン		ワ 羽	1
～リ		リン 厘	40	ワアテ 羽宛	1
リ 里	134	リンズツ 厘ズツ	1	～ワ 把	1
リガイ 里外	2	リンヨ 厘餘	1	～ワリ	
リヨ 里餘	7	～ルイ		ワリ 割	10
～リ		ダイ～ルイ		ワリヨ 割餘	1
オ～リ 御～人	1	第～類	2	～ワン 椀	1

1) 鏡　2) 砲　3) 貨幣　4)「一リヂマンハ三バタイロンホリ」〔聯隊のこと〕　5) 貨幣のポンド　6)「ステリング」参照　7)「一件ヲ一廉トシ箇條書ヲ以差出」

備考　表dにおいて，注記した漢字は，おおむね原文のままである。

e_1 その他の類（接頭的要素）

見出し		異なり語数	使用度数
アイ～	相		
アイ～		61	161
アイ～アリ.リ		1	1
アイ～オキ.ク		1	1
アイ～ガタシ		1	1
アイ～キタリ.ル		1	1
アイ～シ.ス		30	108
アイ～シオキ.ク		1	6
アイ～モウシ.ス		2	2
イク～	幾	3	4
イチ～	一		
イチ～		30	31
イチ～ナイ		2	2
カク～	各		
カク～		59	107
カク～カ	下	1	1
カク～チュウ		1	1
cf. カク～トコロ			→d
cf. カク～バイ			→d
カリ～	仮		
カリ～		9	14
カリ～トウ		1	1
キュウ～	旧		
キュウ～		36	44
キュウ～シ	氏	1	2
キュウ～ラ		2	2
cf. キュウ～ガツ	月		→d
ゲン～	現	1	1
ゲン～	原	1	2
ザイ～	在	1	8
シュウ～[1]	衆	1	3
ジュン～	準	1	1
ショ～	諸		
ショ～		61	83
ショ～トウ		2	3
ショ～トモ		1	1
ショ～ラ		1	1
ショゴ～[2]	諸御	1	1
シン～	新	18	28
シンカリ～	新仮	1	1
ゼン～	前		
ゼン～		11	14
ゼン～コウ	項	1	1
ゼン～ゴウ		1	1
cf. ゼン～ネン			→d
ゼン～	全		
ゼン～		4	4
ゼン～ジョウ	上	1	1
cf. ゼン～ジカン			→d
ゼンカリ～	前仮	1	2
ゼンゼン～	前前	1	1
ソウ～	総	10	10
ダイ～	第		
ダイ～(体言)[3]		2	2
ダイ～(数詞)		31	59
cf. ダイ～カイ			→d
cf. ダイ～ガツ	月		→d
cf. ダイ～カン	欤		→d
cf. ダイ～カンチュウ	欤		→d
cf. ダイ～カン	巻		→d
cf. ダイ～キ	期		→d
cf. ダイ～キュウ	級		→d
cf. ダイ～コウ	項		→d
cf. ダイ～コウチュウ	項		→d

1)「衆貧人」 2)「諸御門」 3)「第何區」

接辞的要素の表（五十音順）

見出し		異なり語数	使用度数
cf. ダイ～ゴウ	号	→ d	
cf. ダイ～ゴウチュウ	号	→ d	
cf. ダイ～ジ	次	→ d	
cf. ダイ～ジ	時	→ d	
cf. ダイ～ジゴロ	時頃	→ d	
cf. ダイ～シュ	種	→ d	
cf. ダイ～ショウ	章	→ d	
cf. ダイ～ジョウ	場	→ d	
cf. ダイ～ジョウ	条	→ d	
cf. ダイ～ジョウチュウ	條	→ d	
cf. ダイ～セイ	世	→ d	
cf. ダイ～セキ	席	→ d	
cf. ダイ～セツ	節	→ d	
cf. ダイ～セン	籤	→ d	
cf. ダイ～ソク	則	→ d	
cf. ダイ～ソクチュウ	則	→ d	
cf. ダイ～チャク	着	→ d	
cf. ダイ～トウ	等	→ d	
cf. ダイ～トウ	套	→ d	
cf. ダイ～ニチ	日	→ d	
cf. ダイ～ネン	年	→ d	
cf. ダイ～ネンド	年度	→ d	
cf. ダイ～バン	番	→ d	
cf. ダイ～ヒョウ	表	→ d	
cf. ダイ～ヘン	篇	→ d	
cf. ダイ～モン	問	→ d	
cf. ダイ～ルイ	類	→ d	
cf. ダイ～ルイチュウ	類	→ d	
cf. ダイ～レイ	例	→ d	
ナニ～	何		
ナニ～		10	16
ナニ～アテ		1	1
ナニ～ナイ		1	1
ナニボウ～	何某	1	1
ヒ～	非	2	2
ヒ～	被	1	1
フ～	不		
フ～		33	58
フ～シ.ヌ[1]		1	1
ブ～	不	2	2
ボウ～	某	8	9
ボウボウ～	某某	1	1
マ～	真	1	2
マイ～	毎		
マイ～		3	15
cf. マイ～ガツ	月	→ d	
cf. マイ～ネン	年	→ d	
cf. マイ～マイ	枚	→ d	
ム～	無	8	9
リョウ～	両		
リョウ～		19	22
リョウ～トモ		1	1

1) <不同意シ.ヌ>

e_2 その他の類（接尾的要素）

見出し		異なり語数	使用度数
～アタリ		1	1
～アテ	宛	2	2
cf. ナニ～アテ			→ e_1
cf. ～エンアテ	円		→ d
cf. ～カアテ	日		→ d
cf. ～カイアテ	回		→ d
cf. ～カゲツアテ	カ月		→ d
cf. ～カブアテ	株		→ d
cf. クミアテ	組		→ d
cf. ～ケンアテ	軒		→ d
cf. ～ゴウアテ	号		→ d
cf. ～センアテ	錢		→ d
cf. ～ニンアテ	人		→ d
cf. ～ハツアテ	發		→ d
cf. ～ホンアテ	本		→ d
cf. ～メイアテ	名		→ d
cf. ～モクアテ	目		→ d
cf. ～リアテ	人		→ d
cf. ～ワアテ	羽		→ d
～オモテ		1	2
～カ		44	111
cf. カク～カ	各～下		→ e_1
～ガイ		19	22
cf. ～リガイ			→ d
～カタ[1]	方	22	27
cf. ゴ～カタ			→ a
～カタ[2]	方	58	60
cf. ～センカタ			→ d
～ガタ[3]	方	12	14
～ガタ	形	3	5
～ゴト	毎	13	20
cf. ～オンスゴト			→ d
cf. ～カンゴト	檻		→ d
cf. ～クゴト	区		→ d
cf. ～ジカンゴト	時間		→ d
cf. ～シュゴト	種		→ d
cf. ～フンジゴト	分時		→ d
cf. ～メイゴト	名		→ d
～コロ	頃	1	1
～ゴロ	頃	14	23
cf. ～カゴロ	日		→ d
cf. ～ガツゴロ	月		→ d
cf. ～ジゴロ	時		→ d
cf. ～ニチゴロ	日		→ d
cf. ～ネンゴロ	年		→ d
cf. ～フンゴロ	分		→ d
～ジェウ	中	10	20
～ジョウ	上	47	60
～スギ	過	1	1
cf. ～ジスギ			→ d
～スジ	筋	1	1
～ズツ		3	3
cf. ～エンズツ	円		→ d
cf. ～キズツ	基		→ d
cf. ～センズツ	錢		→ d
cf. ～ソウズツ	艘		→ d
cf. ～ニンズツ	人		→ d
cf. ～ヒキズツ	匹		→ d
cf. ～ブズツ	部		→ d
cf. ～リズツ	人		→ d
cf. ～リンズツ	厘		→ d
～セイ	製	1	1
～タチ	達	3	4
～チュウ	中	168	203
cf. オ～チュウ	御		→ a
cf. カク～チュウ	各		→ e_1
cf. ゴ～チュウ	御		→ a
cf. ～カジョウチュウ			→ d

1) 行爲を表わすもの　2) 範囲を表わすもの　3) 複数を表わすもの

接辞的要素の表（五十音順）

見　出　し		異なり語数	使用度数
cf.～ガツチュウ	月		→d
cf.～フンチュウ	分		→d
～テイ	体	1	1
～テキ	的	2	2
～トウ	等	202	219
cf.オ～トウ			→a
cf.ゴ～トウ			→a
cf.～セントウ			→a
～ドオリ	通	3	3
cf.～ブドオリ			→d
～トモ	共	12	12
cf.リョウ～トモ			→e_1
cf.～ジツトモ			→d
cf.～ニントモ			→d
～ドモ	共	19	41
～ナイ	内	45	52
cf.イチ～ナイ			→e_1
cf.ナニ～ナイ			→e_1
cf.～カネンナイ			→d
cf.～ニテナイ			→d
cf.～ネンナイ			→d
～ハイ	輩	8	12
～ヘン	辺	1	1
～(ほど)ズツ		1	1
～ムキ	向	1	1
～ヨ	余		
cf.～エンヨ	円		→d
cf.～キヨ	基		→d
cf.～キンヨ	斤		→d
cf.～ケンヨ	間		→d
cf.～コクヨ	石		→d
cf.～サイヨ	歳		→d
cf.～シャクヨ	尺		→d
cf.～ショウヨ	升		→d
cf.～ジョウヨ	丈		→d
cf.～センヨ	銭		→d
cf.→タンヨ	反		→d
cf.～チョウヨ	町		→d
cf.～ツキヨ	月		→d
cf.～ツボヨ	坪		→d
cf.～トヨ	斗		→d
cf.～ドヨ	度		→d
cf.～ドルヨ			→d
cf.～ニンヨ	人		→d
cf.～ハコヨ	箱		→d
cf.～ヒョウヨ	俵		→d
cf.～ブヨ	分		→d
cf.～ポンドヨ			→d
cf.～メイヨ	名		→d
cf.～リヨ	里		→d
cf.～リンヨ	厘		→d
cf.～ワリヨ	割		→d
～ヨウ	用	8	10
～ヨウ	様	4	4
～ラ	等[1]	115	184
～ラ	等[2]	1	4
cf.キュウ～ラ			→e_1
cf.～ナンラ	男		→d
cf.～メイラ	名		→d
～ライ	来	5	7
cf.～ガツライ			→d
cf.～ネンライ			→d
～リ	裡	1	1
～リュウ	流	1	1
～レン	連	9	9

1) 人名に付いたもの　2)「我等」の例

Ⅳ　分析した事がら

1　表記を分析する

表記では，次の事項について調査した。

A　表記の分析（使用度数10以上の語について）

B　漢字とかなとの割合

C　ルビ

D　その他

A　表記の分析（使用度数10以上の語について）

使用度数10以上の語について，集計カードに記載された表記に基づき，次の項目について分析した。

1　送りがなに二通りの動きのあるもの（年報9「明治時代語の調査研究」表記の送り仮名表参照）

2　歴史的かなづかいを基準とした場合，かなづかいに誤りのあるもの（上記かなづかいの表参照）

3　漢字書きとかな書きの両表記をもつ語（上記かな書き語の表参照）

4　漢字の種類（上記漢字の表参照）

これらの結果は，年報9（昭和34年刊行125～141ページ）に，全用例を表示して報告したので，ここでは簡単な記述にとどめる。

これに先立って，この分析の基礎になった，集計カードの表記の記載法について述べる。

集計カードの表記の記載法

集計カードに記載された表記形式は，次の手続きに従って，原カードを整理分類したものによる。

1　漢字表記については，異体字・俗字などもすべて正字に統一せず，それぞれ漢字表記の違いとして分類する。

2　かな表記については，

(1)　片かな，平がな，変体がな，合字（コ・ト など），清濁の別によって，それぞれ

分類する。

(2) かなづかいに異なり表記のある場合は別に取り出す（たとえば，動詞「書キ.ク」では，書ヒ(テ)がある）。

(3) 送りがなについても，送り方の違いによって分類する（たとえば，動詞「越エ.ュ」には，越(テ)，越エ，越ル　がある）。

3　ルビつきのものは，ルビのついた形で記入する。

ルビつきの原カードが2枚以上あって

(1) 本文の漢字書きの部分の表記が異なる場合は，1に従って分類する（たとえば，欺き(あざむ)，誘き(あざむ)）。

(2) ルビのかなづかいの異なるものは，2に従って分類する（たとえば，踊(おど)り，踊(をど)り）。

なお，ルビが，愛顧(ひいき)，愛願(あいこ)のように異なる場合は，当然，二種に分類されるが，これらが，＜アイコ＞と言う語形に集合されるか，あるいは，＜アイコ＞，＜ヒイキ＞と言う別語形になるかは，見出し語形をきめる作業で，すでに決定している。

4　くりかえし符号，記号（たとえば，「　」や――など）の付してあるものは，それのついた形を一つの表記形式と認めて分類する（たとえば，アルコール，「アルコール」）。

5　活用語の代表形は，動詞は連用形，形容詞は終止形とし，他の活用形もすべて，この形に一括される。ただし，かなづかいや，送りがなの送り方に問題のある表記はこの限りでない。

6　表記の記入は，原則として，出現度数の大きい表記形式から順次記載することになっているが，あとで，表記形式が調査しやすいように，同一の漢字表記をもつものは，なるべく，一ところに集めて記載する。またルビつきの語は，下段に記入する。

以上であるが，このことから知られるように，今回は表記の層ごとの分類は行なっていない。

1　送りがなに二通り以上の動きのあるもの

送りがなに二通り以上の動きのあるものについて，品詞別に調査した結果は，表5のようであった（A表異なり語数1,421語のうち428語）。

表5でわかるように，送りがなに二通り以上の動きのあるものの中では，各品詞を通じて，二通りの送り方をもつものが多かった。しかし，動詞は，三通りの送り方をもつものも，かなり多かった。複合動詞「願イ出デ.ズ」は次に示

表5　送りがなに二通り以上の動きのあるもの

送り方の動き / 品詞	二通りの送り方 (%)	三通りの送り方 (%)	四通りの送り方 (%)	五通りの送り方 (%)	六通りの送り方 (%)	計
名　詞	70 (97.2)	2 (2.8)				72 (100%)
動　詞	178 (78.4)	43 (19.0)	4 (1.8)	1 (0.4)	1 (0.4)	227(100%)
形容詞	10 (55.6)	6 (33.3)	2 (11.1)			18 (100%)
副　詞	70 (86.4)	10 (12.3)	1 (1.3)			81 (100%)
接続詞	17 (81.0)	3 (14.3)	1 (4.7)			21 (100%)
連体詞	9 (100.0)					9 (100%)
						428

備考
年報9「明治時代語の調査研究」の表記の送り仮名表のうち，二通り以上の送り方をもつ語の品詞別一覧を，一部修正した（257ページ補記参照）。

すように六通りの送り方をもっており，全用例中，もっとも，送り方の動きの多い語であった。

願出（10回）願ヒ出（8回）願出デ（1回）願ヒ出デ（2回）願ヒ出ル（2回）願出ル（2回）

送りがなで，とくに目立った傾向について述べる。動詞では，上二段活用，下二段活用のなかには，たとえば「過ギ.ゲ」が連用形では過ギを用い，連体形では過ルの形をとるというような例が多く見られた。また，止マリ，極マリ，備ナヘ，苦シミ，免カレのように，自他の対応のある語や，形容詞からの転成語，および三音節以上の語などには，語幹の一部から送るものが見られた。なお，動詞では，活用語尾を送らないものがあるが，これはとくに，「テ，バ，タリ，シム，リ，ベシ，候，コト，モノ」などにつづく場合に多いようである。このことは，すでに報告されている『西國立志篇』（明治4年刊行）の送りがなの調査[1)]と関連があると考えられる。

1)　大野弥穂子，水谷静夫「現代漢字かなまじり文の源流」（「言語生活」昭和27年3月，38ペ）「たとえば，動詞の活用語尾は，単独で終止または中止法に用いられる時には必ず大字であるが，下に「て」以下の助詞・助動詞が続く時には小字になるのが普通である。」
筆者言う，「て」以下とは，前節に出ている「て，たり，けり，し，り，べし，こと，もの」などをさす。

形容詞では，シク活用で，「甚シ・甚キ」「乏シ・乏ク」のような動きが見られた。また，「甚タシ」のように，語幹の一部を送るものも見られた。

副詞，接続詞，連体詞などでは，活用語から転成したものには，活用語と同じ傾向が見られた。とくに目立つ傾向としては，豈ニ，*聊カ，*最(イ)ト，*凡ソ，且ツ，*斯ク，*夫レ，扨テ，*併シ，などのように，漢字一字で表わせる語に，送りがなを送るものが見られたことである（＊印は，送りがななしの用法よりも，ありの用法が多いもの)。直グニ，将サニなども，それらと関連した表記ではなかろうか。名詞の彼レ，己レ，皆ナなどもその例である。漢字一字からなる語に，送りがなを送る傾向があったことは，すでに指摘されているところである。[1] しかし，当時の状態をはっきりさせるためには，後につづく助辞との関係において，調査を進めなければならない。

活用語から転成した名詞に送り方の動きのあるものの多いことは，言うまでもない（例　余，余リ，余マリ)。しかし，一般に名詞の送り方の動きについて見ると，送らないものの方が，送るものよりあらわれ方が多かったのである。

なお，送り方が一通りしか現われなかったものについては，品詞別の分析を行ない，年報9（134頁）に報告してあるので省略する。

2　歴史的かなづかいを基準とした場合，かなづかいに誤りのあるものについて

かなづかいに問題を含む語例を求めたところ（ルビのかなづかいを除く)，度数10以上の異なり語数1,421語のうち，57語229例を得た。品詞別に見ると，動詞にもっとも多く現われた。とくに多かったのは，次のものであった。

ゑをへと表現したもの　　4語92例

覚へ(24例)越へ(4例)絕へ(11例)見へ(53例)（いずれもヤ行下二，とくに「見へ」は，使用度数54のうち，53例に現われた)。

---

1)　池上禎造「明治以来の正書法」（「言語生活」昭和30年7月，23ページ)

「漢字は二字続くと一つの熟語と見誤り易いので切れ続きの問題に送り仮名を利用することがある。かって尚は，又た，唯だなど送られた場合には，かやうな意味もあったわけである。」

なお，浜田敦「正書法としての語表記における漢字と仮名の問題」（「言語生活」昭和31年2月）にも，同じ問題が扱われている。

異なり語をもっとも多く含んでいたのは，次のものであった。

うをふと表記したもの，17語50例（便宜上動詞には，テを送り，形容詞には，シを送る。）

逢フテ(1例)　云フテ(2例)　追フテ(4例)　負フテ(2例)　買フテ(3例)
協フテ(3例)　従フテ(3例)　救フテ(1例)　傳フテ(1例)　問フテ(2例)
願フテ(2例)　雇フテ(2例)
以上　12語，動詞ハ行音便形
同フシ(11例)　少フシ(3例)　無フシ(1例)　齊フシ(1例)　全フシ(8例)
以上　形容詞

3　漢字書きとかな書きの両表記をもつ語

使用度数10以上の語には，かなだけの表記をもつ語は見られなかった。漢字書きとかな書きの両表記をもつ語は，使用度数10以上の異なり語数1,421語のうち104語であり，比較的使用度数の高い語に，かなり見られた。これらの語のうち，とくに，有リ・リ，為(シ)・ス，無シ，成リ・ル，爲シ・ス，故(ゆえ)，云イ・ウなどは，使用度数の半数以上が，かながきの語によって占められていた。

4　漢字の種類

使用度数10以上の語（1,421語）を表記するのに用いられた漢字は，すべてで1,099字であった。

補記　年報9の「明治時代語の調査研究」表記の送り仮名表の名詞の項に次の2語を追加する。

1.　取引10・取引キ2　　2.　何カ6　何ニカ8

B　漢字とかなとの割合

無作為に選んだ明治11年1月10日（木曜発行）一日分について，本文の総字数および漢字とかなとの割合について（本文のみ。ルビを除く。），調査を行なった。この新聞は，前日公表された国家予算表が掲載されているが，漢字とかなの割合を調査する際には，この予算表を除外した。調査した結果は，次のとおりであった。

表6　　漢字とかなとの割合（明治11年1月10日発行の紙面）

一日の総字数　10,379字（国家予算表を含めると，11,659字）

漢字　6,094字 ……総字数の58.7%

かな　4,285字｛片かな　2,222字
　　平かな　2,063字
　　（変体がな　300字を含む）｝……総字数の41.3%

つまり，ほぼ 3:2 の割合で漢字とかなが用いられていることになる。

次に，明治11年1月10日の新聞のａ層，ｂ層，ｃ層，ｅ層（明治11年1月10日の新聞にはｄ層がない）の各層ごとに，漢字片かな文，漢字平がな文を分類し，漢字とかなとの割合を調査した結果は，次のとおりであった。

表7　層ごと，片かな平がなごとに見た，漢字とかなとの割合

層	割合 文	漢字 実数	漢字 %	かな 片かな実数	かな %	かな 平がな実数	かな %	計	備考
a	片かな	557	64.4	308	35.6	0		865(100%)	39行
b	片かな	1,018	53.8	875	46.2	0		1,893(100%)	79行
c	片かな	922	59.1	638	40.9	0		1,560(100%)	65行
	平がな	2,947	58.4	58	1.2	2.043※	40.5	5,048(100%)	196行 ＊変体がな295を含む
e	片かな	545	61.4	343	38.6			888(100%)	
	平がな	40	66.7	0	0	20※	33.3	60(100%)	3行 ＊変体がな5を含む

（ａ層布令　ｂ層社説　ｃ層雑報　ｅ層投書　なお，ｄ層外国通信はなし）

ｂ層は漢字片かなまじりの社説で，漢文書き下し体の文章であるが，俗文体が多く含まれているｃ層の漢字平がなまじり文よりも，漢字に対するかなの割合の多い（各層中最多）ことに注目しておこう。

なお，現代新聞における漢字とかなの割合は，次のように現われている。

表8　毎日新聞における漢字とかなとの割合（1953年）

漢字 実数	漢字 %	かな 実数	かな %	計 実数	計 %
322,735	50.9	310,997	49.1	633,732	100%

毎日新聞の活字使用度数の表(昭和28年3～5月毎日新聞大阪本社印刷局の調査)から漢字（当用漢字，外字，和数字）かな（平がな，片かな）を取り出し，百分率を算出したもの。

C　ルビ

郵便報知では，本文5号活字の横に（主として，本文の左側）7号活字のルビが施されている（パラルビ）。

ルビの調査は，使用度数9～1のア行の語を選んだ。そのために生じた調査

のかたよりは，無作為に選んだ明治11年1月10日の新聞に現われたルビと，集計カードのルビつきの語に一わたり目を通すことによって補い，その結果，新たに加えるべき用例については，後述のルビのまとめに引用した。

ルビは，まず，文脈の中に現われたルビという観点から，二つに分類した。

1　ルビが文脈の一部として読み下せるもの

2　ルビが文脈の一部としては読み下せないもの――つまり，本文の漢字の読みを示すためのルビでなく，他の意義をになっているもの――

さらに，1については，

11　本文の漢字語[1]のよみを示すと考えられるもの。

12　本文の漢字語のよみとも，意味ともとれるもの。

に分類した。

この分類は，あくまで，推定の立場で分類するのであって，断定ではない。

11は，用例が多いので，これをさらに，ルビのふり方によって，

a　かなを含まない漢字語の全体にルビのあるもの。（たとえば行脚（あんぎや））

b　かなを含まない漢字語の一部にルビのあるもの。（たとえば違式贖金（しよく））

c　かなを含む漢字語の全体に，ルビのあるもの。（かなは，大部分送りがなであるが，「あり気（げ）」のような，まぜ書きもある。）

d　かなを含む漢字語の一部にルビのあるもの。（たとえば，「現（あらわ）れ出」）

に分類した。

ルビの分類作業は，以上にとどめたのであるが，この11の＜a＞～＜d＞については，さらに，これを，

「字音よみ」（一字でも字音よみがあれば，ここに入れる。）

「訓よみ」

「その他」

に細分した。用例は，この順序によって記載し，各項の末尾に，用例の数を示した。「その他」は，字音よみ，訓よみ以外のもの，いわゆる宛字や熟字訓を含む漢字の特殊な文字づかいに，ルビの施してあるもので，用例記載の際，

1)　一般に漢字だけで表記された語をさすが，漢字が一字でも用いられていればそれをも含めた。

なるべく多く引用する方針をとった。それは，この調査では，漢字の特殊な文字づかい等についての調査を割愛したので，この面の参考に供しようとしたからである。

使用度数10以下のア行のルビつき語880について調査した結果を，以下用例によって示す。

1　文脈の一部として読み下せるもの（871例）

11　本文の漢字語のよみを示すと考えられるもの（842例）

a　かなを含まない漢字語の全体にルビのあるもの（294例）

1　唯見る一團の和氣氤氳靄然見違ふ計りよ覺へたり（明10.11.20. c）[1]

2　光線映射の眞趣を摸し（明11.6.19. c）

3　冥福を祈る新發心の行脚ならんと（明11.9.3. c）

以上字音よみ96例

4　京女郎ゐ東男に嫁ぐも同じ（明11.1.8. c）

5　お三か急に飯の追焚をすると（明11.2.12. c）

6　徒よ海を望みて羨斗りふりしか（明11.3.27. c）

以上訓よみ132例

7　唯萬年青のみハ中以下の好事家よもてハやされて（明11.2.14. c）

8　哀んで傷らざる可笑味の幕切れなる（明11.3.8. c）

9　牛肉屋の主個と又も馴れ初め（明11.4.4. c）

10　逸素刃よ掛りて死なんと（明11.5.7. c）

11　已れ老耄何故よ（明11.6.6. c）

12　蛙ゐ公利の樂を奏し（明10.12.27. c）

13　隣家の騒ぎを何事ぞと驚き狼狽て見れバ（明11.8.7. c）

14　間に合せの嘘喝八百を云ひながら（明11.7.10. c）

15　東京よて喰ひ詰めたる僄脫の婦女（明10.12.5. c）

16　其の荒增を漏聞くよ（明11.3.28. c）

17　當醋法な草根木皮の煎汁で重い病氣を療治せんとする（明11.4.20. c）

以上その他66例

b　かなを含まない漢字語の一部にルビのあるもの（33例）

1　手續第廿六條第二ノ書式中「違式罪」ハ「違式贖金」ト改メ（明11.5.21. c）

1）（　）内は，郵便報知新聞の日付と層を示す。

2　來る十八日參內謁見を許さるゝ由（明11.3.11. c）

3　題目堂の無緣塚へ合葬し有緣者の詣でゝ（明11.9.20. c）

以上字音よみ15例

4　紀州ゟ鑄師新次郎と云ふ漢あり（明11.9.26. c）

5　村社の八幡宮へ大旗を奉納せんと思ひ付きしが（明11.8.8. c）

6　東京各所の線日に出る植木賣の如く買人も固より承知なれバ（明11.9.4. c）

以上訓よみ16例

7　傍りを迂路〳〵伺ひつ石もやあらハ研たる上と（明10.11.24. c）

8　人間世界ハ一大劇場と云ひぉぅら（明10.11.9. c）

以上その他2例

c　かなを含む漢字語の全体にルビのあるもの（430例）

1　出て行けかしの愛想づかしにきわも無念に思へど（明11.5.25. c）

2　亀吉が當て推量に違ハず（明11.3.28. c）

3　彼の男ハ又たも附來り様子あり氣に見ゆるものから（明11.7.10. c）

以上字音よみ24例

4　焉ぞ論鋒を排斥するを得ん（明11.2.21. d）

5　さも仰山ゟもてはやす仇なまめきし色里ハ（明11.9.24. c）

6　一旦絕ちし逢ふ瀬の橋を（明11.7.12. c）

以上訓よみ379例

7　三度の食さへ碌に宛行ハず（明11.7.4. c）

8　前後両人の肩ゟ舁けて歩行くものぁり（明11.3.20. d）

9　兎ゟ角浮雲ひ（明11.1.22. c）

10　知る邊の家を音信れ前後の事共を話したるに（明11.5.6. c）

11　限り無く五月蠅ければ（明11.2.9. c）

12　其儘返事のなきに心焦燥ち（明11.2.13. c）

13　四邊りゟ轟く大音ゟて（明11.9.3. c）

14　是非ゟお世話と賴むを承諾ひ（明11.7.12. c）

15　不審かしと四邊りの草を掻き分けて（明11.8.15. c）

以上その他27例

d　かなを含む漢字語の一部にルビのあるもの（85例）

1　苦し紛れの當て推量（明11.6.13. c）

以上字音よみ1例

2　流石ゟ生き佛の神利益ハ（明11.9.30. c）

3　新八郎ハ日に透(すか)し暫(しば)し打詠めて（明11.7.31. c）

4　畑の畔(くろ)まて荷ひ來て其處(そこ)ヨ埋(うめ)置き（明10.12.1. c）

以上訓よみ83例

5　漫(みだ)りヨ遊ひ歩行(あるく)事なく（明10.12.27. c）

以上その他1例

12　本文の漢字語の，よみとも，意味ともとれるもの（29例）

1　妻が嫉妬の爭論ヨ永く其居をさせ兼れバ（明11.5.24. c）

2　法制ノ進歩(レジスレーション)アルノミニテ陰制(ヒクション)公明(イクイテー)兩法ノ進歩ナシ（明11.1.7. e）

3　親子五人餓死するの外はなし（明11.1.29. c）

4　先頃(さきごろ)お國(うえじに)(二十/二三)とか云ふ愛妾(おめかけ)をお抱(かか)へヨなると（明11.7.1. c）

5　北洋丸ハ運送帆走船(ほまい)ヨて（明11.7.16. c）

6　漸く旺盛(さかり)ヨ趣くを得可く（明10.11.15. c）

7　長吉は突然其筋へかねを相手取り（明11.4.6. c）

8　移轉(いさなり)せらるヨ趣（明11.6.21. c）

9　遊ひ居たる子供が拾(ひろ)ひ取りしとかいふが誰(たれ)か遺失(おと)せし物にや（明11.3.16. c）

2　文脈の一部としては，読み下せないもの——おおよそは，意味を示すと考えられるもの——（9例）

1　其臆斷(じゆうぶん)ニ任カセ（明10.12.22. e）

2　衣服を遺棄しあるときハ（明11.5.13. c）

3　百五十三戸(おとし)を烏有(なきもの)に歸せしに（明11.6.13. c）

以上880例を層ごとに見ると，次の表のようになり，c層が圧倒的に多い。

表9　層ごとに見たルビ

層＼種類	よみを示すもの（842）95.7% 漢字語全体にルビのあるもの (294)	漢字語の一部にルビのあるもの (33)	かなを含む漢字語全体 (430)	かなを含む漢字語の一部 (85)	よみとも意味ともとれるもの (29) 3.3%	意味を示すもの (9) 1.0%	計	
a	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
b	0	1	0	0	0	0	1	0.1%
c	293	32	422	84	26	8	865	98.3%
d	0	0	3	1	1	0	5	0.6%
e	1	0	5	0	2	1	9	1.0%
							880	100%

要　約

今まで見てきた用例や，無作為に選んだ明治11年1月10日の新聞や，集計カードに現われたルビつきの語などによって調査したことがらを，以下に要約し

ておく。

1　ルビの性質について見ると，本文の漢字語のよみを示すものが圧倒的に多かった（95.7%）。

2　層ごとに見ると，c層に，ルビつきの語がもっとも多く現われた（98.3%）。つぎが，e層（1%），d層（0.6%），b層（0.1%）の順に現われた（社説であるb層は，漢文書き下し体で書かれており，インテリを読者対象としたようで，ルビは，國事（ネーション）のような外国語か，可及的（ナルタケ）のような新造語などに限られている）。

無作為に選んだ明治11年1月10日のc層について，ルビの現われる度合いを見ると，1行に1語強の割合であった。c層は，種々の記事内容を含んでいるが，巷間ニューズ的なもの（艶だねなど）にとくにルビが多くふられている印象を受けた。1行に約2語平均のわりでふられていた。1行は，自立語約9個を含んでいる。

3　ルビの場所は，ほとんど左側である（当時，東京日日は右側ルビ，読売その他の小新聞も右側ルビであり，朝野新聞は，左側ルビである）。しかし，右側ルビが，ぜんぜんないわけではない。「余輩ハ常ニ國事（ネーション）ノ甚タ重シテ政府（ガブルメント）ノ甚タ軽キヲ思フカ故ニ（明11.1.10. b）」のような例もある。左右両側についたものは，見当らなかった。

『西國立志篇』[1]のルビの調査では，

(1)　右側ルビは，読み方をあらわす。和訓する語に多く，その数も全体からみて多くない。

(2)　左側ルビは，おもに，漢語または漢字音語につけて，その語の意味をあらわし，あるいは，外国語音をあらわす。

という区別のあることが報告されている。郵便報知新聞では，このような，厳密な使い分けはないが，右側ルビは，硬い文体において，主として外国語を表わす際に用いられている。もちろん左側ルビでこの類のものもある。

4　「字音よみ」「訓よみ」「その他（宛字よみ，熟字訓など）」の分類から見ると，訓よみのルビが，もっとも多かった（842例中622例，すなわち

1)　大野弥穂子，水谷静夫「現代漢字かなまじり文の源流」（「言語生活」昭和27年3月）

73.9%)。つづいて字音よみ（129例15.3%），その他（91例10.8%）の順であった。

5　ルビが施されている語の傾向については，一般には，ルビは本文のよみを助ける補助手段として用いられるものであり，郵便報知新聞のルビも，この目的のために施されていると言える。一見したところ，むずかしい漢字語にふられているという印象を受ける。これを，たとえば，次の角度から見ることもできよう。

(1)　字画が多くてむずかしい，　あるいは，　あまり使われない漢字にふる——違式贖金（しよく），卿暇乞（いとま），隱謀（いんぼう）惡事，　遇（あ）ひ玉ひ，云ひ慰（なぐさ）め——

(2)　よみが幾通りもある漢字にふる——御（オ）蔭，間（あいだ）——

(3)　宛字・熟字訓などで読みにくいものにふる——遊ひ歩行（あるく），音信（おとづ）れ，五月（うる）蠅（さ）し，焦燥（いら）ち，尊孃（あねご）——

しかし，一方「言（いゝ）傳へ」という例もあり（「言」の部分に送りがながないためかも知れない）また「奪（うば）ひ取り」に対して，「奪ひ取（と）り」があるのを見ると，一概にも言いかねる節がある。

当時は，ルビつき活字のなかった時代である。（郵便報知新聞で，ルビつき活字を用いたのは，明治27年ごろからのようである。[1]）だから，書き手の意図のままに，ルビを施すことができたわけである。しかし，パラルビであるから，たとえ，書き手に一定の方針があったとしても，どの語にルビを施すかという厄介な問題があったかも知れない。それに，時間的な制約もあって，読者への配慮が，どれほど，払われていただろうか疑問である。

どういう傾向の語に，ルビが施されたか，結論をはっきりさせるためには，ルビなしの漢字語との比較が必要であろう。

なお，同一記事内に，同一の漢字語が，二回以上現われた場合，先出のものだけにルビをほどこすという配慮の，まま見られたことを附記しておく。

6　ルビと送りがなとの関係について見ると，たとえば，生佛（いきぼとけ）（別に生き佛

1）『報知七十年』（昭和16年6月，報知新聞社発行）

1例あり）植木賣・植付・馬乘・歩み行程ュ・狼狽て，羨斗り，息捲ふがら，押切て，などを見ると，ルビが送りがなの役をも兼ねていると見られる。しかし一方，飴賣り，朱ゃ，大塊り，軍騒ぎ（用言の例省略）などを見ると，そうとばかりも言えない。むしろ，量的にいえば，後者の方が多いようである。この点紙面の制約ということがどの程度考慮されていたものであろうか。同じ語でも，名詞で，息2例に対して息き1例，當1例に対して當て2例，暖 2例に対して暖か1例，疑 1例に対して疑ひ1例，動詞で，癒1例に対して痊へ1例，入れ替1例に対して入れ替へ2例など，まちまちの送りがなが見られた。上述『西國立志篇』の調査では，ルビと小書きのかなと送りがなとが，密接な関係をもっている——たとえば，克ン，克ツ事；覚レバ，暁レバのように——ことが報告されているが，郵便報知では，ルビと送りがなの間には，このような，交替は見られなかった。

7　ルビの片かな書き，平がな書きについて見ると，調査した880例中，872例は，漢字平がなまじり文に現われた平がなルビであった。（この 880例の中には現われなかったが，平がな文でも，外国語の場合は金剛石，白金のように，片かなルビが用いられた。）残る8例が，漢字片かなまじり文に現われたルビであるが，このうち5例は片かなルビ，うち2例は外国語であった。

例　新聞記者居睡リノ體ニテセリ出シ（明11.2.8.e）
　　恨裏一大鹽湖ヲ觀ル（明11.2.27.d）

あとの三例が平がなルビであった。

例　敢ナクモ朝敵ノ汚名ヲ蒙リ（明11.1.12.e）

8　郵便報知のルビは，さきにも述べたとおり，漢字のよみを表わすものが，圧倒的に多かった。とくに，字音よみ，訓よみのものが多かった。つまり，補助的手段として用いられたものが多かったのである。しかし，中には，用例の，11aの12，13例のように，ルビでなければ文脈として読み下せないものもある。また反対に，2のように，ルビの側では，読み下せないものもあるわけである。たとえば，次の例は，たいへんはっきりしている。

海上一隻の滊船駛航し（明11.1.10.c）

しかし，いずれにせよ，郵便報知新聞のルビが，パラルビであることは，漢字，漢語についての知識が相当なければ，記事が読めなかったことを，裏書きするものと言えよう。

D　その他

以下の各項は，主として無作為に選んだ明治11年1月10日付の紙面およびその前後の新聞を資料とする概観である。

紙面の体裁

1　紙面の大きさ

郵便報知新聞は，明治10，11年ごろは4ページ建てである。この新聞は大新聞という部類に属する。当時は庶民階級を相手に小新聞という小型の新聞が発行されていた。そのため，この称があったと思われる。大新聞といっても，東京日日新聞はやや小型であるが，郵便報知新聞は，縦約47センチ，横約33センチで，大型である。今日の新聞のように，黒界がある。界線は三本。

2　段組

一面から三面までは4段組，一面の上欄に，右から横書きで，郵便報知新聞と凸版で印刷された題字がある。四面は5段組で，原則として，上1段が記事欄，下4段は，物価表，公告，告知，広告，前日の天候，温度，潮時，新聞の発行者，発行所などが掲載されている（物価表以下は，語彙調査の対象から除外した）。

3　編集と見出し

明治11年1月10日付の紙面は，内務省録事，司法省録事，社説，府下雑報，西京新報，諸県報知，驛遞局第六次年報から成る。この日の紙面にはなかったが，このほか，外國新報，投書，小言などが，しばしば掲載される。これらの見出しは，1センチ巾の枠の中に記載されている。われわれは，これを「柱」と呼んでいる。これによって，今日の新聞で言う一面記事的なもの，三面記事的なものが区別される。以上の「柱」のうち，府下雑報，西京新報，諸県報知は，だいたい三面記事に相当するもので，いろいろの記事が掲載されている。しかし，一つ一つの記事には見出しは付いておらず，○印を記事の書き出しの

頭に付けて，他の記事と区別している。○印の下に，かぶせ見出しを付けるようになったのは，郵便報知では明治16年ごろからである。

活字の大きさ

「柱」は4号活字，本文は5号活字，ルビは7号活字である。

行数，字詰

1段の行数は，約38行（但し，四面の物価表以下は60～70行ぐらい）。行間は，3～4ミリあきである。字詰は，一面は，上欄に題字があるため，1段が25字詰，二面からは，28字詰である（四面の物価表以下は22字詰）。

かな

1　片かな

(1)　外国語表記

外国語をかなで表わすばあいは漢字平がなまじり文，漢字片かなまじり文を問わず，片かなが用いられている。

例　プレイニング，ビール，ギリシヤ教師，ニコライ氏

(2)　感動詞・副詞・助詞など。

例　サア，チラホラ，マダ，ガバと，高サ，ドイツジヤ，サイ先，六回ヅツ

(3)　送り字

例　一ツ，一ケ月，一ト歳，二タ子，松ケ枝

2　平がな

漢字片かなまじり文，とくに戯文の接辞などに，平がな表記が往々見られた。

例　藝者ノ名ヲ暗ンシお酌ノ荒（あら）ヲ説カサレハ（明11.1.18.e）
コリヤ座頭（ザガシラ）役テおリヤル（明11.2.8.e）
本舞臺ノ正面松竹梅ノ書割（カキワリ）ヲあをりカヘシ（明11.2.8.e）

3　変体がな

明治11年1月10日付の紙面の，漢字平がなまじり文には，平がなの変体がなが300字あらわれた。平がな2,063字中の300字であるから，一割強を占めることになる。明治11年1月10日の新聞を中心とする前後4～5日分の新聞を読んだ印象によれば，変体平がなでは，ハ，ヨ，ホ，ラ，ナ，ろ，ゆ，ち，ま，ゆ，ゟ，こ，ヨ，モ，などが目立った。変体片かなでは，子，井が用いられている。

（明治33年8月の小学校令施行規則第1号表で，平がなの字体整理を掲げ，今日の平

がな字体が確定したのである。）

4　合字

上記3と同じ資料によれば，片かな合字は，ㄱ，ㄷ，ㄱ，ㄷ，平がな合字は ゟ，となどが用いられている。

濁点，半濁点

当時は，まだ濁点を正確に付ける習慣は，一般にはなかったようである（終戦前まで，公の文では濁点を付けていない）。そのためか郵便報知でも，あまり用いられていない。層別，漢字片かなまじり文・漢字平がなまじり文の別などによって明治11年1月10日付の紙面について調査したが，その間に，ほとんど差違が見られなかった（同じ大新(おお)聞でも，東京日日などには．濁点が比較的正確に施されている印象を受けた）。

半濁点は，プロテスタント，ペンキ塗り，パンパンと，アンポンタンなど，主として片かな表記の語に用いられている。明治2年刊行の『世界國盡』（福沢諭吉著）の凡例に，「書中はひふへほの假名文字(かなもじ)ゝ圓(まろ)き濁点(にごりてん)を附(つ)けてぱぴぷぺぽと記(しる)したるゟりゝれハはひふへほゝもゟらに又ばびぶべぼゝもゟらにのッぺらぽふなといふぺぽの音(いん)ふり」と断ってある。半濁音符に「○」が一般に採用せられるようになったのは明和6～7年ごろからであるが[1]，一方三馬の文学に「おとっぺん」などとも用いられたものであるから，半濁音符として固定せず，一般の人人には，目慣れない表記だったのではあるまいか。

促音，拗音，長音の表記など

促音，拗音は，今日の新聞のような小書きにはしていない。また当時の読売新聞は，促音は，全部片かな表記を用いてあるが，郵便報知にはあまり見られなかった。外国語の片かな表記の際，長音は棒引きであらわしている。

例　待ちに待つたる，頸根(くびね)ツ子
　　コリヤ，おリヤル
　　アルコール，モーニング

なお，外国語音Vを「ヴ」で表わしたのが見える。

例　比例刺(ヴイレラ)（宣教師の名）

おどり字

1）吉沢義則「本邦音符考」（『国語国文の研究』所収昭和2年4月刊）

々，ゝ，〳〵が用いられている。

例　人々，年々，夫々。

特殊な用法として，次のものがあった。何と抜けゝ生ひ〳〵々々々　々々　々々でゝありませんか。(明11.4.11.c)〔は抜いても抜いてもあとから生い出る〕

焦るゝ，モノゝミ

喘ぎ〳〵，グヅ〳〵

闕字

聖上，臨幸，鳳聲などの語に闕字が用いられている。

例　王子邊へ　臨幸の折り（明11.1.10.c）

なお，平出，台頭，欠画などは見られなかった。

伏字

時たま用いられる。はばかる身分や職業の場合に○であらわす。

例　○○兼務（けんむ）の猫に似たる者あり（明11.1.10.c）

苟しくも○族の身で妾ぶ爲め身代限を出すとゝ（明11.3.29.c）

句読点

今日の新聞に見られる句読点は，ほとんど用いられていない（明治23〜24年ごろの記事からぼつぼつ見受ける)。

「ゝ」は，次のように用いられている。

例　腰掛，玉突臺，等千種萬狀美ヲ極メ（明11.9.21.d)

第二條ノ建設ヲナサントスル者，第三條第五條ノ場合ニ於テ已ムヲ得ス制限外ニ及フ者，（明11.1.18.b)

ただし，このような例も，あまり多くは現われなかった。

今日「。」を施す箇所に次のような記号を用いたものが見られた。

例1　縣廳は舊養賢堂を用ゐ頗（すこぶ）る便利の地を占めたり○妓樓ゝ〜景氣を取直せり○鎭臺病院仙臺裁判所並ゞ出納出張所の新築（しんちく）稍（やや）落成す○〔下略〕（明11.1.11.c）

例2　物品の價ゝ廉（れん）ならず」散髪（さんぱつ）の人より結髪の人多し」金融（きんゆう）の閉塞ゝ世間同樣〔下略〕（明11.1.11.c）

例3　此の上ゝ死んて彼世に蓮（はす）の臺（うてな）二人り仲良く。そうで御座んす私も疾（とく）より其の覺悟（かくご）（明11.7.22.c）

例3は，中止法に用いたものだが，「。」の箇所，および大きさは，今日のと同じである。

会話文

ほとんどの会話文は，地の文と区別されていない。たとえば，次の用例などが，一般であった。

例　左へさりながら責て現世の名殘りよへ親父さんへ一ト言と硯取出し書き下す文字も涙よにじみ勝ち（明11.7.22.c）

中に，一例ではあるが，漢字片かなまじり文中の会話文を，平がなで表記したものを見受けた。

例　一日其親友ナル「チャーレス」ハ方サニ穴鑿リニ取リ掛リタル「ゼームス」ニ向ヒイカニ「ゼームス」殿此頃の流行病よハ足下の仕事も大繁昌もへズツシリ金の儲かるとであろふ實よ羨ましきとなりト言ヒタルニ「ゼームス」ハ如何よも仕事の忙ふき程も儲かり升併し今鑿り掛りたる穴ハワイフ（細君）の用よ備ふるなりト答へタリトハ（明11.6.26.e）

また，「　」を用いたものも見受けた。

例　同氏カ先キニ公言シタル「余ハ余カ黨中最モ國家ノ用ヲ爲ス者ノ爲メニ最モ力ヲ盡サントス」ノ語ハ蓋シ不朽ノ語ト爲リ〔下略〕（明10.11.17.d）

上の2例には，会話文と地の文とを区別しようとする意識が見受けられる。明治20年ごろの郵便報知新聞には，会話文に「　」が用いられている。

記号

1　とくに強調したい箇所の右側に…や○○○をつける。

例1　我輩カ就テ論ス可キハ今日ニアラスシテ弘教ノ爲メ眞宗僧徒ノ初メテ琉球ニ渡航シタルノ時ニアリ（明11.1.11.b）

例2　清國ノ富强ハ陰伏離散シテ現前セサルノミ否之ヲ集合配置シテ外部ニ表呈セサルノミ若シ夫レ之ヲ〔下略〕（明11.1.12.b）

2　外国地名には═══，外国人名には——を，それぞれ本文の右側につける。

例　一名ノポーランド人日耳曼帝及ヒ宰相ビスマルクヲ暗殺スルノ嫌疑ヲ受テ（明11.1.12.d）

3　括弧の用法

(1)　「　」

主として，外国固有名詞，それに類する語に用いられる（会話文に用いた例は，会話文の項に引用した）。

例　「パブリカン黨」，「ヘラルド」記者，「ビルオフライツ」（法律名），「バス」（瀆國勲章名）

(2)　(　)

一般に広く用いられている。中でも，雑報欄で人名の下に，年令を入れるのに用いられているのが目立った。

例　妹の八重（二十）と共ゝ到り見れハ（明11.1.10. c）

(3)　｛　｝〔　〕

｛　｝が割註に，〔　〕が〔千葉縣伺〕のように，a層の官庁の伺いや指令および書類番号に冠せられているのが目立った。

誤植

当時の新聞には，印刷技術にふなれのせいもあって誤植が多い。誤植訂正の記事も，しばしば見受ける。

例　○正誤　前號東京府記事中變通學の變は普又欠負の負ハ員の誤（明11.10.11.e）

しかし，誤植であるか，ないかの判定は，はなはだ困難な問題を伴なう。たとえば，「員委」は前後の文脈から，「委員」であるということは，推定できる。また，箱舘裁所も，文脈や，他に大坂裁判所などの用例があるので，箱舘裁判所の判が脱落したということは推定できる。しかし，抗抵が，抵抗の誤植かどうか，あるいは，原被両造の造は告の誤植かどうかと言うことになると，問題が生じてくる（実際には，抗抵は，サ変の形で3例が使用度数10以下の表で登録され，原被両造も法律用語として存在した）。今回は，技術的にも，時間的にも制約があって，誤植の調査は省略したが，この時代の表記上の一つの問題であろうと思う。

文の表記

以上，主として語の表記について取り扱ってきたが，おわりにひとこと，文の表記についてふれておこう。

郵便報知新聞における一つの特色は，層，文体，記事の内容などの違いによって，漢字片かなまじり文，漢字平がなまじり文（以下略して片かな文，平がな文とする）が，おおよそは区別されて用いられていることであろう[1]。少し具体的に述べるならば，a層布告は候文体で片かな文，b層社説は硬文体で片かな文，c層雑報欄は，記事の内容の違い，あるいは文体の違い（硬文体，軟文体）[2]によって，片かな文，平かな文がだいたい区別されて用いられている。

1)　2)については本報告書の「文体と用語」の項を参照されたい。

d層外国通信では，電報の翻訳は，硬文体で片かな文，外国事情の説明には，硬文体だが，平がな文も見える。e層投書欄は　文体も内容も雑多であり，平がな文，片かな文の両様が見られる（なお，片かな文，平がな文にまじって，漢字ばかりの文すなわち漢文や漢詩，それに，かな書きの和歌なども見受けられる）。

この時代には，清水卯三郎が，「明六雑誌」第７号（明治７年５月刊行）に「平假名ノ説」を発表し，大衆になじみのある平がな文を用いようと述べている（８オ～10オ）。かれは，この論を片かな文で記している。この理由についてかれは，平がな論は，後進の人に便ずるためで，論そのものは学者に謀るからだ[1]，と断っている。

ここに，当時のインテリ階層，指導階層の片かな文，平がな文に対する意識が，よく現われていると考えられる。

郵便報知新聞社の創設者は，前島密（ひそか）である。この人は，明治６年に，「まいにちひらがなしんぶん」という，平がな，分ち書きの新聞を出している。それで，あるいはこの郵便報知新聞にも，かれの国語問題に対する主張が実践されてはいないかと考えたのだが，明治10～11年には，その傾向は見られなかった。

郵便報知新聞が，かなを平がなに統一したのは，明治19年９月16日である。この日は，当時の社長矢野文雄が，新聞紙面の民衆化を実行にうつした日である。すべての記事をやさしくし，通俗的にし，だれにでも読めるように全体にふりがなを多くし，むずかしい漢字を制限するという配慮をし，社内に三千字引を配布して，これによって，漢字制限を行なおうとした。定価の値下げといっしょに断行したもので，読者獲得の一つの手段だったと考えられる。とにかく，この日から，平がな文になって，見た目にも柔らかな印象を受ける。つまり郵便報知新聞では，創刊から矢野社長の改革までに約14年かかっているわけである。

明治10年代は，文体の面では模索時代と言われている。郵便報知新聞を通してこの時代の文の表記を見るならば，片かな文平がな文の対立時代ということができるのではないだろうか。

1)　参照，池上禎造「明治以来の正書法」（「言語生活」昭和30年7月）

2　漢字語の構成

はじめに

一般に，漢字語とは，漢字で表記してある語のことであって，その漢字を訓で読むか，音で読むかは問わない。しかし，この分析の対象として取り上げたのは，三字の漢字語で，その中の一字でも音読した語（正しくは，見出し語。以下同じ）である。そのような語を，ここでは三字の漢字語と呼ぶことにする。だから，普通に言う漢語と混種語（湯桶読み，重箱読み，外来語および外国語と漢語との複合語など），それに漢字で表記した外来語・外国語を含んでいる。

三字の漢字語に限った理由を述べる。「調査単位のきめかた」の22.1，22.2の項目にあるように，四字以上の漢字語は，形式上は一続きではあっても，二つ以上の単位に分れてしまうものが多い。たとえば，われわれの調査では，＜年金下賜＞は，＜年金＞と＜下賜＞に，＜訴訟用罫紙＞は，＜訴訟用＞と＜罫紙＞に分けることになっている。一方，二字の漢字語は，その一字と一字の結び付きが緊密であって，これを分解して構造を考えるというのは，多くの場合，あまりにも不自然である。その点三字の漢字語，たとえば，＜外国船＞は，一次的には，＜外国＞と＜船＞とに分れるが，その結び付きは，上記の四字の漢字語ほどはゆるやかでなく，さりとて二字の漢字語ほど緊密でもない。さらに，分けられた要素は大部分が二字と一字であり，不自然ではない。これが，三字の漢字語を分析に取り上げた理由である。

この語彙表に現われた三字の漢字語の数は，3,075語であった。この内45語が10回以上使われている。

分析のねらい

郵便報知新聞の調査は，「国語の歴史的発達に関する調査研究」の一環として行なったものである。歴史的研究は，国語の変遷を，時には共時的に，またあるときは通時的にとらえることによって，将来の国語の方向を正しく把握しようとするところに大きな目標がある。

この分析は，漢字語の中でも，その数が二字に次いで多い三字の漢字語構成を

通じて，最近いろいろ問題になっている漢字語について，明治になって多く使われた漢字語の性格と，その，時代による消長を探ってみようとするものである。

『婦人雑誌の用語』は，造語要素＜新＞＜大＞＜未＞＜無＞＜非＞＜不＞がきわめて多くの語に付いていると報告している。＜新家庭＞＜新夫婦＞＜新運動＞のように，でき上っている漢字語の頭に付けて，多くの新しい語を作り上げるということである。言い換えると，これらの造語要素は，語の生産力が高いのである。一方，郵便報知新聞では，＜各大臣＞＜諸大臣＞＜第三条＞＜不利益＞＜舊藩主＞のような＜各＞＜諸＞＜第＞＜不＞＜舊＞の生産力が高い（別表参照）。この中で，とくに＜舊＞は，いわゆる「御一新」なることばが示すように，文物の多くが改められた明治初年ごろの社会状勢をはっきりと表わしているものであろう。また，その他の造語要素にも，報道を目的としている新聞の性格が現われていると考えられる。この事は，朝日新聞の昭和24年6月の1か月分を資料として調査した『語彙調査―新聞用語の一例』の結果でも裏書きされる。

しかし，＜不自由＞＜不分明＞などと使っている＜不＞は，婦人雑誌の調査に共通して高い生産力を持っている。これは，和語には，外国語のように，否定を示す接頭語がなく，否定を表わすには漢字語の接辞による以外の方法がないという，いわば宿命なのかもしれない。たとえば，＜フシアワセ＞＜フツリアイ＞＜ムトドケ＞などと和語との結合の例がみえる。

漢字語の造語性に重点をおいて，語の内部構造を意味のかかり方の面から解剖し，漢語の消長を探るひとつの資料を提供しようというのがこの分析のねらいである。

三字の漢字語の分析

三字の漢字語の内部構造を，意味のかかり方に重点を置いて分析した結果を記述する。

まず，三字の漢字語の構成様式を，実際に現われた限りにおいて検討した結果，構成要素をなす各漢字の意味上の結合の形式を，次の七つの式で表わしてみた。

1　a×（b×c）

2　a×（b＋c）

3　a＋（b×c）

4　（a×b）×c

5　（a＋b）×c

6　a×b×c

7　a＋b＋c

注意

(1)　a，b，cはそれぞれ構成要素，すなわち漢字一字を示す。

(2)　＋は並列の関係を示す。

(3)　×はひろく修飾の関係を示す（いわゆる主述の関係，客体の関係，補足の関係などと言われているものも含める）。

(4)　（　）は第一次の結合を示す。

上の符号の×で表わした関係はもっと細分類すべきであるかもしれない。しかし，われわれの調査における分析は，語の構成意識を反映している形態を手がかりとして，時をさかのぼって推定するという立場に立つものである。従ってかかり方の分類は，形態を基準とした単純なものの方が望ましいと考え，しいて細分類する行き方を避けたのである。

以下，七つの型のそれぞれを解説する。

1　a×（b×c）

aに特徴のある型である。二字の漢字語に一字の接頭的要素の付いた語。＜各學校＞＜假病院＞がこの型にはいる。この調査では，次の25を接頭的要素という呼称で一括した。

相・幾・一・各・假・舊・現・古・在・衆・準・諸・新・全・前・總・第・何・非・不・某・眞・毎・無・兩。

なお，接頭的要素は，それが付いた全体の語形を一調査単位として扱ったので，原カードの見出しは，たとえば，＜各學校＞となっているが，語彙表の見出し形は，それをはずした形，＜學校(各)＞となっているのである。

また，次の14を連体詞として処理した。

當・該・本・同・昨・一昨・翌・明・右・故・元・約・滿・無慮。

連体詞は一調査単位として取り扱ってある。だから，＜當學校＞はこの分析

の対象にならない。<當>と<學校>という二調査単位にわかれ，それぞれ一調査単位の一字の漢字語と二字の漢字語との複合と見るわけである。さて，接頭的要素を別とすれば，この型のａの部分で比較的多く使われているのは，<大><好><小>である。<大>は<大英斷><大會議>等30の異なり語の中で，<好>は<好結果><好時節>等10語の中で，<小>は<小會議><小科目>あ等９語の中で使われている。しかし，これは二字の漢字語に付いた場合だけでって，一字の漢字語に付いて，二字の漢字語を作った例はさらに多い。

そこで参考までに，二字の漢字語以外に付いた異なり語数を挙げてみよう。<各人><諸港>のように一字の漢字語に付いた<各><諸>などは，接頭的要素とは扱わなかった。たとえば，<各學校>は，<學校(各)>と語彙表にあり，別表の<各～>には，異なり語１，使用度数１と算出する。一方，<各人>はそのままが見出し形となって語彙表にあり，別表の<各～>の中には数えてないわけである。だから別表からだけでは生産力の高かった構成要素を探しては，片手落ちである。別表の数に，接頭的要素が一字の漢字語と結合したばあいを合算しなければならない。そこで，造語要素として使われている異なり語数を知るのも何かの参考になろうと思って次の表を作った。下の表において<大(ダイ)> 130というのは，字数を問わず二字以上の漢字語における前要素として<大>を持っている語が130語あったということを示している。すなわち，<大雨><大英斷><大火><大害>等，<大>が構成要素となっている漢字語が130語あったのである。（　）は，130語のうちの三字の漢字語の数である。＊印を付けた語は，接頭的要素として取り扱った語であることを示している。しかし，二字の漢字語<不安><不穩><不覺>等の<不>は，接頭的要素の扱いはせず，別表の<不～>の中には集計してないが，<不安心><不景氣><不健康>等の<不>は接頭的要素の扱いをしている。次の表の数字には，別表に掲げた接頭的要素として使用したものは含まない。

<大(ダイ)>130(42)　<*不>68　<*諸>57　<同>53(4)　<*兩>52　<新>43(4)　<*無>39
<國>39　<實>38(2)　<*各>36　<舊>36(3)　<*前>36　<公>35　<小>35
<出>34　<開>30　<*全>26　<後(コウ)>25　<所(ショ)>25　<再>24(2)　<古>23(8)
<當>23　<民>22　<老>19　<論>19　<好(コウ)>17(5)　<眞>17(3)

注意　（　）の中の数字は二字の漢字語に付いた語の数で，（　）の外の数には含ま

れない。

2　a×（b＋c）

この型は，**5**の（a＋b）×cと同じ考え方の過程を経て作られた語である。

實（父母），古（金銀），好（父母），祖（父母），奉（迎送），輸（出入），養（父子）の7例があった。

語源的には，＜實父＞と＜實母＞が＜實父母＞，＜古金＞と＜古銀＞が＜古金銀＞という形の一語を作ったと説明すべきであるが，いまは，与えられた語形を手がかりとして，概念の結合の様式を記述する立場に立っているので，しばらくこのように取り扱う。

3　a＋（b×c）

この型の語も例が少ない。

過不足，士大夫，士女子，士君子がそのすべてである。

4　（a×b）×c

この型が三字の漢字語の過半数を占めている。cに特徴がある。また，この型には一字の接尾的要素を持つものが含まれる。この調査で接尾的要素として取り扱った語は別表に集計してある。

さて，cに当る要素の中で，もっとも多くの語に付いているのは，＜爲政者＞＜違法者＞＜演説者＞等の＜者（シヤ）＞であって，66の異なり語に付き，延べ85回使われている。ついでは＜移住人＞＜受取人＞＜營業人＞等の＜人（ニン）＞で，63語に付き，延べ127回使われている。これらに続くものでは，＜場（バ）＞＜家（カ）＞＜金（キン）＞＜所（ショ）＞＜書（ショ）＞＜社（シヤ）＞＜丸（マル）＞である。この中で，＜社＞＜丸＞は結社や船舶の名の一部として，たとえば＜報知社＞とか，＜咸臨丸＞とかのように使われているものであり，それは，女子の名前としての＜子＞や男子の名前としての＜雄，夫，男＞などと同じ性格のものである。

なお，最近いろいろの人が問題として取り上げている＜○○的＞＜○○性＞ということばづかいのうち，＜○○的＞は，この調査では，たった二語，＜絶大的＞＜可及的＞がある。[1]　それぞれ，1回ずつ使っている。前者はc層に使

1)　『総合雑誌の用語』によれば接尾語としての＜的＞は使用率順で第10位，7.055‰，同じく接尾語としての＜性＞は第135位で．868‰である。

ってあり，ルビは＜たちこねたる＞とある。後者はb層に使われ，しかも，片かなで＜ナルタケ＞とルビを付けてある。b層にルビを付けるというのは外国語などだけで，まったく例外であり，この語に対して特別の取り扱いをしたと考えてよいであろう。それだけに＜○○的＞という語は，まだ人々になじんでいなかったという一つの証拠になろう。他の＜○○性＞の形の語は一つも現われていない。

5　(a＋b)×c

2の型と表裏をなすものである。長官と次官を一語にまとめるとき，共通する構成要素の＜官＞をくくり出して，(長＋次)×官という形にまとめあげたのである。

この型での典型的なものを列挙してみよう。

鵜鴉獵・海陸軍・可否決・華士族・金銀貨・金銀鑛・區戸長・藝娼妓・原被告・紅白旗・佐尉官・上下院・上中等・靜動産・大小豆・長次官・長次男・町村會・町村費・町村割・內外勤・動植物・府縣會・府縣官・府縣社・府縣廳・府縣費・陸海軍

もっとも，次の諸語は，必ずしも共通要素をくくり出したものとは言えない。

寒暖計・工商者・昇降口・出納口・賣買高・賣買戻・勅奏官・貿易史・希望心・製造高

これらは，＜工商＞＜賣買＞＜勅奏＞＜貿易＞などの意味の結びつきは，厳密に考えれば，＋の符号で表わすべきものであるから，元来この型の中に入れるべき語である。しかし，この方は，前者とは違って，寒計と暖計の二語を一語にしたものではない。寒暖・工商という一つのできあがった語があって，それに＜計＞＜者＞という構成要素が付いたものである。だから，この型は，二つに細分しなければならないものであろうが，**2**に述べたと同じ理由によって，どちらも，(a＋b)×cの型として取り扱った。

なお，三字の漢字語の大部分は，**4**，**5**の型（2字と1字）である。あとの要素としての一字がどんな語を造っているかがすぐわかるようにと考えて，その一字に付いた二字の漢字語の一覧表を作った(281ページ参照)。

6　a×b×c

この型の語は，東南東，東北東，西南西，西北西の四語しか見当らなかった。

ア　a＋b＋c

この型の語には，＜早中晩＞，＜度量衡＞の二語が見えた。この型を認めることは，「単位のきめかた」の21の項に抵触するもののようだが，しかし，元来この項は，＜郡/町/村＞のような例を予想していたのである。ところが，＜度量衡＞は，見かけの上でこそ　ものさし・ます・はかり　の三つが並列しているけれども，全体としては，物をはかる道具という新しい意味をになっているのである。また，＜早中晩＞は＜早稲＞＜中稲＞＜晩稲＞を一語にまとめあげた語で，その点では，並列ではあるが，早（ソウ）・中（チュウ）・晩（バン）とそれぞれが，一語として単独で使われることは無い。そう考えてこの型に所属させることにした。

以上述べてきて，最後に感じたことは，今日，国語政策の上で問題になっている漢語の言いかえは，二字の漢語については，等量の内容を和語に置き換えることは少しの努力でできるけれども，三字の漢語については，非常に複雑である，ということである。前に付く要素としての接頭語の類，とくに否定の意味を持たせる語については，かえってまのびのした，わかりにくい語に変ってしまうおそれが多い。そうなると，語として言い換えることよりも，文として工夫することが望ましいということになりそうである。

次に，後に付く要素としてのもの，＜者＞，＜人＞，＜金＞，＜場＞，＜所＞＜書＞などについて見よう。これらの漢語はすべて一音節語である。それを訓読した，＜モノ＞＜ヒト＞＜トコロ＞などの多音節語が，すべて高い使用率を示していることを考え合わせるとき，簡潔な表現を望む人は和語を避けてこのような漢語を使ってしまうのであろう。

漢字語のシンタクス

複数の構成要素でできあがっている語の要素間の関係には，その語が作られた時代の文のシンタクスが反映しているはずだ，という考え方がある。この考え方に従って一つの調査を試みた。

よく，老人は若い者とは逆語順の漢語を使う，と聞くことがある。この語彙表の中にもそのような語例を多く見受けた。もちろん，この中には誤植があっ

たかもしれない，しかし，すべての語例が，ことごとく誤植であるとすることは確率論上考えられないことである。また，個々の語例について，それが誤植であるかどうかを確かめる完全な方法もないし，いまはそのことは問わない。それでも，漢和辞典をひいて，辞書に登録してあるかどうかを調べるなどの手続きはふんでいる。

1　二種類の語順の両方が出ている語

酒造家—造酒家　淫賣女—賣淫婦　海陸軍—陸海軍　貸席業—席貸業　管保者—保管中　奉迎送—奉送迎

位牌—牌位　拒抗—抗拒　行擧—擧行　行旅—旅行　始終—終始　治療—療治　熟練—練熟　授受—受授　定約—約定　炭薪—薪炭　競漕—漕競　送輸—輸送　爭論—論爭　溜滯—滯溜　奪掠—掠奪　判裁—裁判　美善—善美　勞苦—苦勞　漕運す—運漕す　送遞す—遞送す　轉移す—移轉す

2　今の普通の語順とは逆だと思われる語

困苦酸辛　進退出處　專心一意　課賦法　工商者　戍衞兵　糧食費　今古　硬强　恨怨　鑿掘　肆橫　讎敵　峻改　順從　暑寒　進前す　勢威　制禁　靜冷　爭鬪　展轉　督監す　忍堪す　變改す　緣由　洋和　隣近　櫟軋　艫舳

この例をながめてみると，前記の型では＋の符号で表わしている並列の型の中にはいれるものが大部分である。

その中で，＜酒造家＞と＜造酒家＞；＜賣淫婦＞と＜淫賣女＞；＜行旅＞と＜旅行＞などは漢文の語序と日本語の語序とが対立しているものである。

＜酒造＞の類は，＜酒造＞＜酒造營業＞＜酒造家＞という形でａ層（公用文）に使っている。また，＜賣淫＞の類は，ａ層では，＜賣淫反則＞，ｃ層（一般のニュース）では，＜賣淫＞＜賣淫女＞＜賣淫婦＞＜淫賣女＞，ｅ層（投書等）では，＜賣淫市場＞と使っている。

日本語の語序である＜造花＞＜賣藥＞は，この形しか出てこなかった。その使い方は，「早くも造花の出来上りて……」，「賣藥寶丹」で，どちらも，造った花，売り薬の意味である。

三字の漢字語の，一字の後(あと)要素の表

前についた一字の構成要素については，語彙表を見れば，一つの所に固まっているわけではないが，容易に探し出すこともできよう。しかし，あとの部分としてのものは，極端な言い方をすれば，全体に散在しているのであって検索も容易でない。具体的にどのような語に付いているかを知る必要も起ろうかと考えて，つぎのような表を作ってみた。なお，接尾的要素（24ページ参照）および地名・数詞として取り扱った語ははぶいてある。

明　年季
頭　河童
當　明日
油　胡麻
案　改正，照會，布告，法律
位　西北，中等
醫　開業
活　一輪
一　扶桑，万々
芋　薩摩
入　三升，十斤，土俵
色　赤銅
員　檢查，若干，主務，陪審
院　學習，訓盲，源勝，國蓮，上下，正倉，總見，大審，長久，避病，養育，療病，和合
伺　書面，天機
馬　馬車
生　越前，武家
會　祇園，諡号
營　大隊，陸軍
炎　虹彩
焉　惴々
鹽　滷汁
圓　若干，何々
園　兼六，博物，幼稚
落　仕方，七騎
爺　布袋，老耄
家　壓制，爲政，外交，改進，教法，金滿，慷慨，好事，古法，鎖攘，施政，資本，事務，酒造，醸酒，職工，殖産，政事，製造，造酒，雕刻，統計，法學，放蕩，法律，民權，養蠶，養生，落語，理財
課　學務，勸業，刑事，檢事，公債，主務，制表，測量，租稅，第一，第五，第三，第四，第二，中學，土木，民事
科　試業，獸醫，習字，尋常
火　水雷
貨　金銀
價　小賣
畫　孔子
海　太平
會　演說，公選，講談，國民，射的，尙齒，書畫，水校，談論，談話，陳列，同盟，討論，博覽，府縣，猶興，樂善
界　人間
換　貫屬
歸　戰地，湯治
顏　不平
掛　會計，外國，官省，瓦斯，記錄，警備，公債，御用，裁判，作事，事務，消防，稅額，製莫，世話，退院，傳令，日誌，方面，飜譯，町用，用度
懸　步合
書　箇條，效能，相場，人相
限　身代
學　衛生，航海，代數，茶人，地理，統計，物理，法理，理化
額　若干，地價，酉稅，豫算
方　消防
形　紋切
敵　半道
擔　御弊
窯　朝鮮
守　伊賀，豐後
頭　式部，大學
柄　時分，職掌，場所
狩　乞食
官　下士，警察，警視，檢查，佐尉，裁判，事務，書記，審查，奏任，太政，地方，駐在，長次，勅奏，勅任，判任，府縣，文武，陸軍，立法
館　演說，延遼，機械，弘道，聚星，昌平，西洋，陳列，博物，美術，領事
監　軍醫
奸　有夫
艦　磐城，雲揚，金剛，淸輝，筑波，比叡
漢　田舍
管　毛細
丸　破裂
岩　花崗
記　巡島，傍聽
旗　紅白
期　二年，百年，不可
器　驗震，太古，騰水，噴水
機　植字，傳話
着　白丁

儀　時辰
絹　海氣
客　下等
競　投扇
卿　大藏，海軍，外務，宮內，工部，司法，內務，陸軍
教　開明，基督，天主，耶蘇，羅馬
經　鱈尼
鏡　照應，望遠
業　貸席，席貸，木綿
局　衞生，驛遞，會計，瓦斯，勸商，關稅，勸農，軍需，警視，檢事，工作，國債，近衞，參謀，紙幣，事務，賞勳，常平，出納，製造，調查，地理，電信，圖書，博物，法制，郵便
玉　翡翠
切　貨粉
限　三月
際　下水，鐵道
金　育子，慰勞，御下，恩給，學資，貸下，借入，過料，寄附，共有，軍用，經費，慈惠，持參，支度，資本，若干，收納，純益，準備，上告，賞與，所持，損害，地租，積立，手當，定額，手附，拜借，配與，扶助，附與，分配，保釋，民積，結納，豫備，利益，買上

勤　內外
禁　第一
銀　十錢，身代，洋白
區　若干，第一，第三，第四，大小，第二，第六
宮　皇后
宮　水天，東照，八幡
隅　西北
口　昇降，掃除，當用，豐後，奉公
組　小性，消防，捕鯨
君　令娘
軍　海陸，後備，國民，陸海
家　一兩，加藤，德川，鍋島
氣　心安，不興
鷄　吐綬
計　寒暖，尺度
輕　違令
形　十字，發明
決　可否
月　先々
權　所有，專賣
軒　精養，千里
券　借區，施種，施療
言　陳腐
乎　段々，照々
兒　江戶
語　日本
甲　第一
工　機關，桁柱，差物，鐵路，蹄鐵
講　一新，蛭子
校　醫學，三四，女學，大學，農學，夜學
侯　出石

行　沿岸
公　尾州
鑛　金銀，高島
号　春日
号　前々
告　原被
國　爲政，銀行，自由，諸侯，獨立
越　五年
事　所作
根　莫若
座　市村，喜昇，新富，永富，北榮，春木
祭　神嘗，元始，三周，招魂，水神，發葬，臨時
債　外國，內國
災　水旱
罪　違式
盛　分別
先　出張，得意
作　烟草
札　西鄉，二圓
皿　西洋
騷　心配
産　靜動，函館，備中，不動，米國
山　富士
算　損益
絲　密緘
祠　招魂，僧王
紙　記名，鑑卵，證券，西洋
士　機關，代議
志　愛國
資　慈惠
使　撿閱，徵兵，傳令，奉幣

史 場本，貿易
子 小言，反側
子 椰榔
師 教導，際物，寫眞，職工，宣教，代言，建具，俳諧，燒物
司 武庫
時 正午
地 色織
兒 狡猾
寺 熊谷，國分，宗恩，松應，相國，淨福，昌立，眞福，泉岳，淺草，長泉，天瑞，天王，東大，南蠻，法蓮，菩提，本願，本住，武佐，遊行，來迎，靈岸，嶺零
式 開院，開館，開業，開校，開場，開店，敬禮，行軍，始業，授與，進水，神葬，新年，點茶，閉場
室 溫暖，開誘，機械，教官，講義，試驗，事務，調食
凌 當座
者 爲政，違法，隱德，有緣，演說，開業，外務，管守，眼病，管保，奇特，及第，舊任，起立，輕罪，建議，權理，工學，工商，好事，幸福，產出，執權，死亡，宇舊，主行，主唱，受賞，受章，出品，主任，受罰，所有，信心，新任，星學，製造，戰死，全治，先導，創業，卒業，代理，探訪，通信，同業，當局，同志，廢疾，被告，被治，貧困，貧賤，瘋癲，負債，負傷，編輯，傍觀，保護，摸範，有志，有識，力役，旅行，勞働，和學
社 愛國，稻荷，學農，加藤，協議，共同，熊谷，九店，香蘭，自修，商業，招魂，昇陽，殖益，自立，新聞，精工，忠告，朝野，豐國，日報，農產，八幡，府縣，寶來，松原，三菱，立志
舍 共學，炭鑛，養生
車 儀仗，機關
尺 度量
主 慈惠，出品，所藏，所有，造物
手 射的，職工，船造
酒 糖水
種 夏蠶，內國，復製，米國
樹 南天
臭 敗茅
宗 眞言，日蓮
囚 已決
衆 會宴，公家，歐議
集 朗詠
塾 變則
術 擊劍，航海，略記，論理
所 行在，醫學，合宿，聽客，議事，寄宿，救育，休憩，休息，御旅，區務，郡務，講習，裁判，事務，習學，囚獄，授產，出張，昇降，製糸，製造，製鐵，造船，町會，陳品，取引，破損，船改，紡績，菩提，鎔鑛，
書 受取，受願，演說，解說，回答，學課，議定，教科，經濟，建言，建白，始末，趣意，上納，條約，仕譯，診斷，製法，生理，待罪，歎願，手續，答辨，取調，法律，保證，見込，明細，申込，申渡，約定，履歷，和約
署 監獄，監倉
女 淫賣，賣淫
證 委任，請取，借用，送籍，地券
商 織物，外國，牛肉，古着
省 大藏，海軍，外務，宮內，工部，司法，內務，民部，文部，陸軍
症 脚氣，疑似，癲癇
章 菊花，大綬
城 安中，天津，二條
條 窃盜
狀 委任，控訴，地券，定認，判決，呼出，離緣
場 開港，仕打，殖民，入札
色 淡黃
職 教導，參與，大工，建具

調　改正，家作
針　柳葉
心　一徹，榮譽，億萬，希望，公共，黨與
鍼　寒暑
神　道祖
人　印度，英國，英米，歐米，外國，熊本，君子，支那，尋常，西洋，全國，獨逸，同縣，東洋，內外，內國，風雅，佛國，米國，老成
圖　行幸，地球
豆　大小
數　投票，發出，平均
好　小說，新聞
筋　御用，北國
住　上鄉
濟　改正，協議，試驗，種痘，償却，處刑，撥出
星　北極
正　軍醫
世　千万
生　講習，公費，自費，獸醫，上級，卒業，農學
政　學官，領議
制　官職
製　同家
稅　商高，營業，海關，官祿，銀行，五分，雜業，雜種，釀造，所得，煙艸，地方，府縣，物產，平均，郵便，輸出，輸入
石　花崗，玄番，金剛，煉化
席　議長
說　刪除，修正，抵抗，屠羊，民權
節　天長
錢　一文，青銅，茶水，傭工
船　外國，巡視，蒸氣，乘客，水雷，測量，鐵甲，傳馬，渡海，日本，帆走，風帆，郵便
箋　處方
線　攻擊，三味，電信
然　囂々，騒々
僧　弟子
則　撰擧
屬　一等，三等，七等，八等，四等，六等
賊　窃盜
族　華士，狡猾
尊　地藏，不動
田　明神
隊　遠征，熊本，軍樂，警視，近衛，山砲，彰義，防火，砲兵
体　固形，無機，有機
臺　斬刑，彈正，天文
代　買上，器械，賣却，引幕，被告，蠟燭
倒　日傭
高　印刷，給金，產出，收稅，出品，釀造，消靡，賣買，負債，元金，約定
立　心中
種　土地
魂　薩摩
丹　反魂
彈　榴霰
談　修身
團　教導
地　埋立，官有，舊守，共有，居留，輕々，公園，耕宅，荒蕪，殖民，除稅，所有，新開，道路，播種，火除，埋葬
朝　奈良
帳　勘定，官林，撿員，戸籍，習字，諸稅，地券，分別，割印
長　學校，幹事，郡區，建築，事務，小除，病院，編輯，木工，聯隊
廳　管轄，郡區，警視，縣官，所用，地方，奉職，府縣，領事
塚　無緣
漬　奈良
績　雨天
包　服沙
局　明淸
詰　當署，七里
亭　松花，醒花
邸　紀州，土屋
鐵　酸化，硫酸
店　賣物，割烹，牛肉，陶器，納涼，布帛，揚弓，料理
傳　孝婦，古史，列女
徒　帝王
土　一撮
燈　瓦斯，硝子，常夜

痘　天花，天然
糖　支那
黨　改進，過激，共同，共和，社會，自由，守舊，尙古，政府，第一，中和，帝王，中津
等　上中
塔　百万
刀　日本
湯　般若，龍王
堂　議事，鳩居，清水，廣貫，松花，天主，辨天望湖
屆　寄留
止　通行
留　遠足
取　拾人，五斗
苗　甘蔗，珈琲
男　長次，
人　移住，受取，營業，往來，開産，看護，感染，鑑定，共立，禁獄，汲取，怪我，原告，見物，小作，搾取，差出，差配，參詣，止宿，疾病，支配，住居，縱覽，授産，出品，證據，殖民，所持，製造，撰擧，千万，代議，代言，代書，代理，懲役，溺死，當該，投書，取扱，仲買，乘組，乘込，拜覲，犯罪，引合，引受，引取，被告，筆記，評價，貧乏，編集，傍聽，保證，發起，捕縛，名代，有志，養育，流罪，勞作
任　奏判，勅奏
主　借用，發起
願　勸解，入學，後半
年　一昨
道　一寸
場　火葬，勸業，機械，繰糸，興行，鑛泉，作業，試驗，仕事，射的，縱覽，授産，修羅，製糸，製造，製藥，繰練，懲役，陳列，停車，得意，渡船，配達，博物，發船，波止，風呂
梅　臥龍
橋　海運，白川，水道，天神，天滿，船町，兩國，萬世
始　御會，陸軍
撥　象牙
花　無駝
話　往來
腹　鎖砲
拂　勘定
犯　國事
番　檻倉，見物
費　學校，勸業，區入，警察，修繕，神社，賑恤，町村，點燈，府縣，糧食，臨時
緋　猩々
碑　紀功，記念
日　月曜，工事，土曜，日曜
皮　虎豹，臙虎
曳　貳人
人　殿上
票　年金
評　品行
表　一覽，改正，月報，出納，長計，追加，通算，定價，編制，俸給，每週，木材，豫算
病　傳染，流行
品　外國，獻上，極上，最良，支給，消失，消耗，所持，製造，裝飾，注文，陳列，日用，舶來，美術，貿易，有益，輸出，輸入
婦　看病，賣淫
府　管天，征夷，鎭守，鎭將
夫　使役，消火，消防，水火，點火
賦　五年，十年
分　若干
部　醫學，海兵，甲板，行政，輜重，馬醫
風　東京，馬脾
服　消防，日本，洋製，陸軍
幅　書畫
副　軍吏
分　滋養
札　開帳
物　遺愛，遺失，榮耀，含有，翫弄，疑似，共有，極上，骨董，最優，滋養，所有，製造，淡白，抵當，天産，天造，動植，農産，腐敗，紛失，褒賞，有機，郵便，輸入，

溶解
文　請取，祈禱，廣告，公用，證券，電信，論說，論辨
兵　印度，迂回，儀仗，義勇，希臘，近衛，輜重，戍衛，常備，增加，徵募，鎭臺，豫備，陸軍
僻　讀書
便　大小
補　警部，掌典，判事
簿　會計，上申，出納，施療，豫算，連名
砲　野戰
法　學問，課賦，教授，建築，交換，公撰，公明，最寬，出途，治療，製造，選擧，抽籤，吊慰，貯金，賣却，分析，防禦，簿記，豫防，烙鐵
坊　本湊
間　鎖炮
米　恩賜，現受，朝鮮，日本，輸出，養育
枡　一面
祭　妙見
丸　貫効，咸臨，九店，玄海，玄武，幸吉，黃龍，九重，西京，西鄉，品川，社寮，神教，勢竜，青龍，大有，長寶，朝陽，敦賀，東京，白峯，兵庫，蓬來，北洋，明治
味　可笑
店　菓子
水　氣違
脈　火山
嬢　辨天
名　若干，第一
面　戶籍，條約，制札，太陽，地券
持　痴癩，田地
戻　賣買
物　細工，裁縫，仕掛，邪魔，常總，職工，信實，二行，見世
者　强情，莫連
貫　一文
紋　氷烈
門　鑄鐵，通行，御幸
家　割烹，百姓
夜　一昨
屋　牛肉，下駄，寫眞，石炭，道具，唐物，時計，料理
焼　幹山，七宝，陶器，萬古
薬　寫眞，豫防
譯　條約
役　公人，座頭，世話，番頭，見廻，取締
宿　木賃，旅人
油　石炭，石腦
湯　出世
夕　一昨
行　英國
欄　公判，投書
率　百分
律　最酷，詐僞，讒謗，商法，人命，成文，賊盜
略　地誌
領　他州
量　完全，比較
料　音信，鑑札，借地，受業，診察，赤飯，接種，吊祭，手數，扶助，免許，療治
流　第一
瘤　動脉
寮　式部
獵　鵜鴉，臘虎
力　壓政，陰圧，活潑，自然，集合，推理，生動，反動
例　懲戒
令　知事，徵兵
連　神風
爐　反射
樓　今村，金瓶，月波，蜃氣，翠月，大七，常磐，中正，中村，万八，若槌，若松
錄　官員，孝節，修身，彰功，除蝗，姓名
祿　終身，賞典
論　影響，演說，開化，貨幣，經濟，權利，征韓，制限，惣体，東方，腕力
割　管內，戶數，地所，地價，町村
碗　珈琲

3　文体と用語との連関

この分析の立場

われわれの調査研究では，文体の違いと記事内容の違いとを合せ考え，層わけの簡単にできることをも考慮して，以下の五つの層に分けたことはすでに述べた。

a層　公布・公聞・録事など（官庁からの公示事項）

b層　社説

c層　雑報（府下雑報・西京新報・諸県報知など）

d層　外電・外国通信記事など

e層　投書・雑文・訂正記事など

ここに文体というのは，いわゆる文体論などで論じられる，個人の個性的文体をさすのではなく，一般に表現者が文章に表現するに当って，いずれは，よらなければならない，言わば規範的文体とも言うべきものをさす。たとえば，口語文体・文語文体というような場合をいう。明治の文体で言えば，普通文体とか言文一致文体とかいう類である。

こういう意味の文体の違いを，a層以下各層について観察すると，主として記事の性格に応じて，

(イ)　候文体

(ロ)　漢文書き下し文体の系統と見られる，「かたい」文体

(ハ)　「西洋道中膝栗毛」（假名垣魯文）などの文章とも連関すると見られる，(ロ)に比べて「やわらかい」文体

以上の三種が一往区別される。かりに，(ロ)を「硬文体」と名づけ，(ハ)を「軟文体」と呼ぶことにする。

郵便報知新聞に見られる候文は，当時候文体で書かれた公文書が掲載・引用されたものであるが，その一例をあげれば，

○甲第五號

熊本縣下肥後國玉名郡姫井村ヲ同國山鹿郡米野村ヘ合併合里村ト改稱シ從前之郡界ヲ更定候條此旨布達候事

明治十一年三月十五日　　内務卿大久保利通[1]
(明11.3.16. 内務省錄事)

次は，硬文体の文例である。

然レ𪜈現時邦國ノ交際上ニ於テ最モ事務ヲ運捗スルノ勢威アルハ邦國親睦交際ノ情誼カ將タ世界普通ノ常理カ抑鐵艦銅炮ノ武力カ余輩ハ武力ノ獨リ權理ヲ暢達スルノ實例アルヲ見ルモ未タ情誼常理ノ獨行貫達シテ國位ヲ保持セシヲ聞カサルナリ況ンヤ外交政家ハ自國ノ私利ヲ謀テ他ヲ顧ミサルノ弊風最モ甚シキ者ナルオヤ　(明10.11.20. 社説)

また，軟文体の典型としては，次のような文章があげられる。

○根津八重垣町の廓内へ植へし櫻の入費ハ四百五十餘圓ふるが兼て貸座敷營業の者より積金の内にて仕拂ふべき筈なるユ今に其拂が延引するもあり引受け人より度々催促すれど何分埒明かず貸座敷一同へ係り談判ユ及ぶと夫れハ元締ユて仕拂ふが當然と刎ね附けられ據なく元締を相手取つて願ふとか又ハ積金の仕拂ひを掛け合ふとか何ユか悶着が始まりしと[2]　(明11.4.25. 府下雜報)

この時代は，一般に文体の上で前代（江戸時代）踏襲の時代と言われており（生田長江『明治文章史』第二章前代踏襲の時代，等参照），郵便報知新聞にも，普通文体や言文一致文体が確立される以前の文体模索時代の一つの反映として，以上のような硬文体，軟文体，あるいはその中間的な文体等の使用が見られるわけである。

さて，われわれが弁別した硬文体および軟文体の，外形的特徴は主として次のような点である。

硬文体

1　ほとんど，片かなまじり文。

2　短い文が積み重ねられて，一つの記事が構成される(接続詞の多用)。

軟文体

1　ほとんど，平がなまじり文（ルビの付いた所も多い)。

2　長い一文で一つの記事が構成されることが多い（接続助詞の多用)。

3　その他，場合によって，副詞の片かな書き，「です」「ます」の使用等，

1)　本文たて書き，以下の引用も同じ。
2)　左ルビを下に付けた。以下同じ。

漢文書き下し文調から遠いと考えられる諸点。

硬文体・軟文体の中間的なものとしては，

○宮城縣新風土記　宮城卽ち所謂仙臺の名ゟ背かす東に當りて躑躅ヶ岡あり滿岡櫻樹を以て之を塡め花時の風光尤も可ゐり且つ到頭に金華峯をも一望すへきに鎭臺の建設已來ハ之か爲めゟ遮られ頗る風致の優美を減せり～廣瀨川　西より來りて南ゟ折れ公園の背後を過きて愛宕山の麓に至る其西岸ゟある地を川內といひ伊達家門閥者流の住せし所ゟして昔日ハ大廈高門の莊嚴なりしも今ハ全く壞頹なし竹樹蕭疎唯狐狸の聲を聞くに過きす～　（明11.2.5. 諸縣報知）

等があげられる。

これらの文体が各層でどのように用いられているかというと，

a層――候文体が主。

b層――すべて硬文体。

c層――多くは軟文体。

d層――ほとんどすべて硬文体。

e層――多くは硬文体。

のような分布になる。このことは，a層が判決の文章（硬文体）などを，c層が，上述のような硬軟の中間的な文脈を，e層が中間的な文脈を，それぞれ，多かれ少なかれ含んでいるという事情による。

さて，以上のような状態において，文体[1]と用語[2]との間には，どのような連関が見られるか，という点を分析してみようとするのが，この調査の目的である。換言すれば，それらの文体本来の用語上の特徴的分野や使いわけがあるかどうか，また，あるとすれば，それはどういう用語群か，などの点を明らかにしようとする。

この事が明らかになれば，模索されていた文体が次第に普遍的な形をとってきて，やがて言文一致文体として今日に至るまでの，「文体と用語」の歴史の一端を知ることができるであろう。

ただ，この際注意すべきことは，用語の特色が記事内容（話題）の特色に依存していることが少なくないと考えられる点である。たとえば，府廳・太政官・

1)　候文体の使用は量的に少ないので除外，硬軟両文体に限定する。

2)　いわゆる自立語に限定する。

警視局・區務所などの語は，軟文体（c層）に多出するが，これは雑報としての話題の反映であると見られる。そこで，文体と，その文体が本来含み持つ用語との連関を探ろうとするためには，極力，話題性の反映を除去する必要がある。そのために，

(1)　形式的性格を持つ語（この中には，夫<ソレ((副詞))>・不圖<フト((副詞))>などのように，他の文体で対応する同義語の見いだしにくい場合が少なくない。）

(2)　文体の相違によって出現を異にする同義語

に限って考えることが望ましい。

以上のような方法で文体を弁別し，用語との連関を探ろうとする立場は，≪これこれの文章は，これこれの文体で書かれている。≫とする仮説的立場がすでに前提となっていると言ってもよい。今，記事・用語・文体という三者の関係を考えてみるのに，ある種の記事の用語群を明らかにして，その用語群と文体との連関を考えるという方法をとれば，一往客観的な結果が期待される。しかしながら，たとえば，雑報記事に特徴的に使用されている用語群を明らかにし，さらに，話題性からくるひずみを除去することができたとしても，その雑報記事が，ある種の統一的な文体で書かれているという保証がないかぎり，摘出された用語群を文体と直接的に結びつけて考えることはできないはずである。そして，その保証は，この新聞に関する限り何もないことであるから，そういう立場に立った研究は，記事と用語との連関を明らかにするにとどまるか，もしくは，記事と文体とを連関づける仮説的前提のもとに行なわれるかのいずれかになるであろう。しかもこの立場には，方法上種々の困難が予想されるので，われわれとしては，さきに述べたように，二つの文体の弁別を前提とし，その上で用語との連関を探ろうとする立場をとった。その場合，まぎらわしい中間的な文脈は排除して，純粋だと考えられる範囲だけをとって行なうことにし，また，検定の際の有意水準を高く保つことにも留意した。

手　順

(1)　修正カードの作成と有意差の検定（第一回）

硬文体と軟文体とを比較するに当って，各層の文体上の特性に従って，b・

d・eの三層（硬文体）を合併し，それとc層（軟文体）とを対比することにした。その際，上述のように，層によって文体上異質な文脈を含んでいる場合が少なくないので，改めて全記事から1/20の標本をとって調べたところ[1]，b・c・d・eの各層における異質文脈の含有率は，次のとおりになった。

c層　31.35%

e層　9.78%

（b層，d層は，0%）

従って，c層では，68.65%，e層では90.22%が，それぞれ軟文体，硬文体としての純粋さを保っていることになる。

ところで，地名，人名，数詞を含んだ層ごとの標本延べ語数は，

b層　14,147

c層　52,806

d層　5,732

e層　17,392

となっており，これと，上記の比率とによって，(b・d・e)層における硬文体の文脈に含まれる語数と，c層における軟文体の文脈に含まれる語数との比率を算出すれば，

硬文体　49.5%

軟文体　50.5%

となる。[2]

ところで，集計カードに記載された各語の層ごとの観測値は，それを含む文脈の上からは，上のような異質分子を含んでいることになるので，これを修正するため，標本度数10以上の語の一一について，上記の比率をかけるという方法で，別に修正カードを作成した。その上で，度数の修正された各語について，

1)　20日に1日の割合で，15日間の記事の全数調査。

2)　a層に含まれる硬文体の文脈，e層に含まれる軟文体の文脈等をすべて調整した上で，この新聞全面についての，硬文体と軟文体との比率を算出するという方法をとらなかったのは，この場合，そのような方法をとることが技術的に困難であると認められたからである。そこで今回は，多少わくをせばめて，(b・d・e)層とc層とにそれぞれ含まれる硬文体と軟文体とに限定して扱うことにした。

二つの文体の上で有意差（原則として危険率1%）があるかどうかを検定した。

(2)　有意差のある語の一覧表の作成・原カードによる再検討および有意差の検定（第二回）

(1)によって有意差の認められた語群について，品詞別の一覧表を作り，これを台帳として，二つの文体の上で使われ方に顕著な違いのある語を選定し（ただし，話題の反映していると見られるものを除く），その一一について，原カードにさかのぼって検討を加え，異質文脈での使用度数を排除して，純粋な文脈における使用度数を確定した。このようにして得た，二つの文体での使用度数によって，改めて有意差検定を行なった（検定法は次項）。

この有意差検定は，

1　二つの文体の間で，使われ方に顕著な違いのある語（片方の使用度数がせいぜい1ないし2程度のもの）

2　二つの文体の間で，同義語としての，使用上の対比が見られるもの

という観点から選定された語について行なっただけで，二つの文体の間で有意差の認められるすべての語について，網羅的に行なったのではない。これは，原カードを一一点検する際，リプリント方式でないため，原本にも当る必要が多く，使用度数が 300 : 350 というような場合は，その取り扱いが困難になるという事情による。

〔検定法〕

(1)　二つの文体における観測値がそれぞれ5以上の場合。

χ^2検定による（硬文体・軟文体の間の理論度数の比率は，49.5 : 50.5）。[1)]

(2)　二つの文体における観測値のいずれかが5以下の場合。

硬文体・軟文体における標本延べ語数をそれぞれ n_1，n_2 としよう。ただし，この意味での n_1，n_2 は実測されなかったので，（b・d・e）層およびc層の標本延べ語数に対して，上述の異質分子に当る部分を除いたものを算出して使った（すなわち，$n_1=35570, n_2=36251$）。

次に，ある語の標本使用率を調べて，p_1，p_2 を得たとする。それぞれの

1)　χ^2検定によったものでは，ほとんどみな危険率 0.001 で有意差が認められたが，「直チニ」は危険率 0.05，「斯(カカ)ル」は危険率 0.01 で有意差が認められた。

母使用率を P_1, P_2 とすれば，この母分散はそれぞれ，

$$\left.\begin{aligned}\sigma^2(P_1)&=\frac{P_1(1-P_1)}{n_1}\fallingdotseq\frac{P_1}{n_1}\\ \sigma^2(P_2)&=\frac{P_2(1-P_2)}{n_2}\fallingdotseq\frac{P_2}{n_2}\end{aligned}\right\}\qquad(1)$$

(P_1, P_2 は非常に小さいから，$1-P_i\fallingdotseq 1$ と考えてよい)

と見積られる。この時，$P_1\neq P_2$ と認められるかどうかをたしかめるため，あらたに次の式で定義される変量 x を導入する。

$$x=p_1-p_2\qquad(2)$$

さて，x の期待値 $E(x)$ は，

$$E(x)=E(p_1)-E(p_2)=P_1-P_2$$

ここでかりに，

$$P_1=P_2\qquad(3)$$

とすれば，$E(x)=0$.

次に，x の分散は，式(2)と(1)とを考え合せることにより，次のように近似できる。

$$\sigma^2(x)\fallingdotseq\sigma^2(p_1)+\sigma^2(p_2)\fallingdotseq\frac{P_1}{n_1}+\frac{P_2}{n_2}$$

すなわち，変量 x の平均は0であり，分散は上記の $\sigma^2(x)$ で表わされる。

ところで，$n_1\fallingdotseq n_2$ だから，小さい方の n_1 を n と置き，上の式の第三辺の分母はともに n であるとして扱っても大差がなく，かつ，この検定のためには安全である。このとき，

$\dfrac{|x-0|}{\sigma(x)}=\dfrac{|x|}{\sigma(x)}=\dfrac{|p_1-p_2|}{\sqrt{p_1+p_2}}\sqrt{n}>k_\alpha$ (ただし，k_α は危険率 α を指定すれば定まる定数)

が成り立てば，さきの仮説(3)はたかだか α の危険率で捨てられる。

ところで，x の分布型は正確にはわからないから，分布型にかかわらず成り立つチェビシェフ系の不等式を使って，上記の判定をする方が安全であろう。そこで，水野坦の不等式により，$\alpha=0.05$ に対応する k_α の値としては3をとれば十分であるから，それによって検定した。

なお，片方の観測値が0である場合は，分散の方だけ，p_1（またはp_2）$=\frac{1}{n}$として計算した。これも安全を期しての処置である。

例

「狀」は，硬文体で13回，軟文体で1回用いられている。そこで，

$$\frac{|p_1-p_2|}{\sqrt{p_1+p_2}}\sqrt{n}=\left(\frac{13}{35570}-\frac{1}{35570}\right)\div\sqrt{\frac{13}{35570}+\frac{1}{35570}}\times 188.60$$

$$=3.21>3$$

ゆえに，「狀」は，硬文体において，軟文体におけるよりも多い割合で使用されていると言える。この判定が誤っている危険率はたかだか5%である。

(3)　1語の内部の異なった意味・用法について，二つの文体の上で有意の差があるかどうかを検定する際，5以下の数値を含む場合。

フィッシャーの直接確率計算法による。この結果算出される確率がそのまま危険率になる。

例

名詞としての「故(ユエ)」を，接続助詞的用法（～故）と非接続助詞的用法とに分けて，二つの文体の上で，両者に有意差があるかどうかを検定する。

用法＼文体	硬	軟	計
接続助詞的	0	100	100
非接続助詞的	31	58	89
計	31	158	189

$$p=\frac{100!\ 89!\ 31!\ 158!}{189!}\left(\frac{1}{0!\ 100!\ 31!\ 58!}\right)=\frac{89!\ 158!}{189!\ 58!}$$

$$\fallingdotseq 4\times 10^{-11}\ll 0.001$$

従って，「故」のうち，接続助詞的用法（～故）は軟文体にきわめて多いと言える。

結　果

初めに，文体によってほぼ対比される同義語の組を掲げ，ついで，各文体ごとの用語を掲げる。この同義語の対比には，必ずしも全面的には対応しない場

合をも含め，単に並列しておくにとどめた。（以下，片方の文体において，他の文体におけるよりも，統計的に多い割合で用いられている場合，その語または用法は多い方の文体について「特徴的」であると呼ぶ。）[1]

二つの文体において対比される用語

有様	硬文体に特徴的
狀（ジョウ）	硬文体に特徴的
様子	軟文体に特徴的

1　有様

（硬）　29例

＜例＞　敵兵ノ有様ヲ望ムニ格別恐怖ノ色アルヲ見ス　（明10.11.2.d）

（軟）　5例

＜例＞　起臥（おきふし）の有様がどふも本氣と思ハれぬ～　（明11.5.11.c）

2　狀

（硬）　13例

＜例＞　其狀ノ慘然タル人ヲシテ正視スル能ハザラシム　（明11.2.13.b）

（軟）　1例

＜例＞　一頭の小狗斃死（へいし）せし其狀恠む可きあれハ～　（明10.12.5.c）

3　様子

（硬）　1例

＜例＞　魯帝ハ現時ノ媾和條約ヲ減省スルヲ好ムノ様子アリ　（明11.4.8.d）

（軟）　37例

＜例＞　是非（ぜひ）に～と思ひ込みての様子ハ深き仔細（しさい）の有（あ）り氣（げ）ふれバ（明11.1.25.c）

點	硬文体に特徴的
儀	軟文体に特徴的

4　點

（硬）　14例

＜例＞　～唯此點ニ付テ一言ヲ贅セム　（明11.6.28.b）

（軟）　0

5　儀

（硬）　1例

＜例＞　大統領館よハ帝王徒の諸議員集會各卿の撰擧を議すると雖も任職（にんしよく）の儀未た定まらす極めて混雜の形勢ふりと云ふ　（明11.2.18.d）

（軟）　31例

1）なお，使用度数は，文体の面から修正された数字であるから，「度数10以上の語彙表」の数値とは必ずしも一致しない。

＜例＞　～の云々を記せし義に付～お調べを願ひ出たり　(明11.3.25.c)[1]

～能ハ(ズ)　硬文体に特徴的
～兼ヌ　(接尾的要素)　軟文体に特徴的

6　～能ハ（ズ）

（硬）　63例

＜例＞　故ニ東洋諸邦ノ權力縱令西洋各國ト對衡スル能ハサルモ決シテ憂フルニ足ラス～　(明11.3.14.e)

（軟）　7例

＜例＞　前日返却の品と較べ見たれバ何れか我か舊藏なりや見分る事能ハす　(明11.9.26.c)

7　～兼ヌ

（硬）　0

（軟）　18例

＜例＞　女の手一とつゝ二人りの子をバ育て兼ね兄の許へ歸りたれど～　(明11.1.25.c)

一（イチ）(接頭的要素)　硬文体に特徴的
或（アル）　軟文体に特徴的

8　一

（硬）　26例

＜例＞　法律ニ長セル一西客嘗テ我輩ニ語テ曰ク～　(明11.6.13.b)

（軟）　2例

＜例＞　～目出度一大團圓を結ひけるとぞ　(明11.6.10.c)

9　或

（硬）　2例

＜例＞　或人曰ク～　(明11.5.8.e)

（軟）　29例

＜例＞　～心を尽くす折り安太郎ハ或る夜痴話がかふじたいさかいから～　(明11.5.4.c)

稍（ヤヤ）　硬文体に特徴的
少（スコ）シ　軟文体に特徴的

10　稍

（硬）　14例

＜例＞　～又外人ヲ途上ニ斷シ憂國ノ熱心稍過甚ナリキ　(明11.8.15.e)

---

1)　「儀」は候文体に多出するから，候文体と比較した場合には，この語が軟文体に特徴的であるとは言えなくなろう。硬文体と比較した場合に，「儀」の使用が軟文体に特徴的であるというにとどまる。

（軟）　1例

＜例＞　～其腹を押し擦り𠮟久しく撫廻して～　（明11.3.22.c）

11　少シ

（硬）　2例

＜例＞　～之レヲ讀ム者至テ少シニシテ學者著書ヲ以テ生業ヲ營ムコト能ハサルノ時世ニハ～　（明11.8.28.b）

（軟）　17例

＜例＞　去る十日少し快しとて近邊へ出歩行きし折り～　（明11.5.29.c）

直チニ　　硬文体に特徴的

直（スグ）　直（スグ）ニ　　軟文体に特徴的

12　直チニ

（硬）　27例

＜例＞　～虎穴ニ入ルモノヲ以テ直チニ贊スルコト能ハス　（明11.7.23.e）

（軟）　13例

＜例＞　～一隊ハ殊ㇾ多勢ゆえハ有馬ハ直ちに此黨に入り～　（明10.12.14.c）

13　直

（硬）　0

（軟）　25例

＜例＞　～嚴重に番人を附け置直ぐ同人の居宅を改めし處～　（明11.6.20.c）

14　直ニ

（硬）　0

（軟）　14例

＜例＞　～酒買ふて來よと出し遣れハ直ㇾ酒家ㇾ至り～　（明11.6.14.c）

故ニ（接続詞）　　硬文体に特徴的

～故（接続助詞的）　　軟文体に特徴的

15　故ニ

（硬）　86例

＜例＞　之カ明解ニ苦シム事アリ故ニ今此議ヲ聽取スルヤ默止スル能ハス　（明11.1.15.e）

（軟）　0

16　～故

名詞としての「故」のうち，

接続助詞的用法（～故）　（硬）　0　（軟）　100例

非接続助詞的用法　（硬）　31例　（軟）　58例

＜例＞　人足等競つて船ㇾ登り客の貨物を擔ハんとするゆゑ此人足等にも負傷多く～　（明10.12.21.c）

硬文体に特徴的な用語

17　～所（ノ）（関係詞的用法）

名詞としての「所」のうち，「～スル所ノ＋体言」の用法を，かりに関係詞的用法と呼べば，

関係詞的用法　（硬）　47例　（軟）　1例

非関係詞的用法　（硬）　211例　（軟）　88例

＜例＞（硬）　今ノ收取スル所ノ金額ハ昔日ノ金額ニ異ナルコナシト雖モ～　（明11.1.17.b）

前人ノ刻苦ノ述作セシ所ノ者ハ必ス後人ノ貴重スル所トナル　（明10.12.19.e）

（軟）　當時淺草文庫に在る所の先年市川米庵が聖堂へ献付したる書畫幅を天覽在せらるへき旨ヲ以て～　（明11.2.21.c）

18　所以（ユエン）

（硬）　35例

＜例＞　是レ軍事ニ於テ順從敬上ヲ兵士ノ令徳トスル所以ナルヘシ（明11.3.1.b）

（軟）　0

19　希望ス

（硬）　13例

＜例＞　文明ノ罪人トナルコナカランコヲ希望スル也　（明11.7.15.b）

（軟）　0

20　然リ

（硬）　61例

＜例＞　其殊ニ然ル所以ノ理ハ他ナシ　（明10.12.6.e）

（軟）　2例

＜例＞　～是れ東京百萬の家々皆然る所ふるが～　（明11.7.27.c）

21　異ナリ

（硬）　31例

＜例＞　其榮譽ヲ損失スルハ筆鋒ヲ以テスルト異ナル所ナキカ如シ（明11.4.2.e）

（軟）　2例

＜例＞　～耳の大さ犬ヒ等しく三人を追掛る様ハ如何にも早かりしと誇り顔ヒ物語りしか氣色も常に異ならす先きヒ逃れし三人ハ四日の間枕も揚らす煩ひたる由　（明11.10.15.c）

22　欲ス

（硬）　59例

＜例＞　新事業ニ着手セント欲スレハ其ノ後日ヲ推測スル能ハス（明10.11.8.b）

（軟）　2例

＜例＞　追々事業も進みしゐ付てハ益々製産の名ゐ負かさらんを欲し今回府廳より六等屬山尾常治氏を撰んで～　（明11.3.12.ｃ）

23　存ス

（硬）　25例

＜例＞　惡意ノ存スルアリテ然ルニハアラサルナリ　（明11.5.30.ｂ）

（軟）　0

24　斯（カク）ノ如シ

（硬）　50例

＜例＞　而メ人豈此ノ如キノ所措ニ滿足スルヲ得ンヤ　（明10.11.22.ｂ）

（軟）　2例

＜例＞　人も許せる俳優にして斯の如き醜体はない筈なれバ～　（明11.6.28.ｃ）

25　所謂（イワユル）

（硬）　17例

＜例＞　茫乎トシテ所謂沿革ヲ知ラス　（明11.8.6.ｂ）

（軟）　2例

＜例＞　～引き揚るものだか揚らぬ物か所謂海の物なるゐ～　（明11.8.9.ｃ）

26　夫（ソレ）（副詞）

（硬）　79例

＜例＞　夫レ耶蘇教ノ我國ニ行ハルヽ原因ハ我輩嘗テ辨明セリ　（明11.9.6.ｂ）

（軟）　0

27　蓋（ケダ）シ

（硬）　50例

＜例＞　蓋シ人類ノ未ダ矇昧ナルヤ其子弟ヲ養育訓導スル所ノ正理ヲ解セズ　（明11.5.17.ｅ）

（軟）　0

28　豈（アニ）

（硬）　41例

＜例＞　魯ハ孤色ノ勢ナリ豈能ク其ノ志ヲ伸ルヲ得ンヤ　（明11.44.30.ｂ）

（軟）　0

29　敢テ

（硬）　30例

＜例＞　～性行善良ニシテ敢テ摸範者タルニ背カサルハ吾儕ノ疑ヲ容レサル所ニシテ～　（明11.9.11.ｅ）

（軟）　1例

＜例＞　～會社ゐハ其の動作を怪み敢て金額を渡さゝりしゐ依り何處ともなく逐電なし～　（明11.6.15.ｃ）

30　況ンヤ

（硬）　29例

＜例＞　誰レカ其惨烈ヲ悲マサラン ヤ況ンヤ兩國勝敗ノ機ハ大ニ我政事上ニ關スルナキニ非ルオヤ　（明10.12.21.b）

（軟）　0

.31　苟モ

（硬）　17例

＜例＞　苟クモ患害ノ萌芽アルヲ看破セハ之レヲ採リテ今日ニ切論シ～　（明11.9.18.b）

（軟）　0

.32　恰モ

（硬）　25例

＜例＞　～魯國ハ大ニ失望シ恰カモ掌中ノ珠ヲ失ヒシガ如ク～　（明11.9.9.b）

（軟）　1例

＜例＞　～所々ヨ瓦斯燈を點したれバ滿塲恰も晝の如とく～　（明11.3.27.c）

.33　將（マサ）ニ

（硬）　15例

＜例＞　カノ固形体ナルモノモ將ニ渙散分離ニ至ラントスル乎　（明10.11.15.e）

（軟）　1例

＜例＞　府下各大區々務所にてハ區畫改正將ヨ近きに在らんとするに付豫て備へある大切の書類ハ～　（明11.9.27.c）

.34　決シテ

（硬）　43例

＜例＞　然レモ是決シテ怪ムニ足ラス　（明11.2.4.b）

（軟）　5例

＜例＞　佐久間さんの鼻毛を拔く樣ヨ聞へますが決して左樣でハありません　（明11.1.19.c）

.35　果シテ

（硬）　33例

＜例＞　其ノ條約ハ果シテ如何ナル件々ナルヤ　（明11.3.6.b）

（軟）　5例

＜例＞　井中を探りしに果して死体のありたるにぞ～　（明11.5.11.c）

.36　殆ンド

（硬）　30例

＜例＞　人民ノ富有モ殆ント今ハ滅却シテ餘裕アルヲ見サルナリ　（明11.3.30.e）

（軟）　6例

＜例＞　落成までヨハ殆と二十万圓程も掛るならんと　（明11.6.12.c）

.37　然リト雖モ

（硬）　22例

＜例＞　～ニ至ラザルベシ然リト雖モ我ニ多年ノ餘裕ナクシテ～　（明11.8.16.b）

（軟）　0

38　何トナレバ

（硬）　14例

＜例＞　～等ノ語ニ至リテハ大ニ事實ニ乖戻セリ何トナレハ該島民ト雖モ～頗ル才識ヲ具セリ　（明11.3.19.e）

（軟）　0

39　然レドモ

（硬）　77例

＜例＞　～數日起坐シ能ハサルニ至ル然レモ專館ニ在テハ未タ敢テ此ノ如ク嚴酷ナル責罰ヲ加ヘスト云フ　（明11.6.27.d）

（軟）　1例

＜例＞　～の云々ハ先頃屢掲載せしが這ハ最も大事業にして中々五年や六年で成功ハ覺束ふく然れども成功の上ハ其利益實に莫大ふるを以て着手せらるゝか～　（明11.9.9.c）

40　然ルニ

（硬）　49例

＜例＞　番兵ハカルスノ屯兵ニ～降伏スヘキト勸メタリ然ルニ王將ハ～飽マテ應戰スヘシト答ヘタリ　（明10.11.17.d）

（軟）　6例

＜例＞　～世間ゝては越中米と稱へ加賀米よりハ常ゝ價の六七拾錢も低く然るゝ此頃政府ゝて支那へ輸出の米貳万石程を買ひ入らるゝ迚本縣の官吏が過日より同國放生津港へ派出し～　（明11.5.22.c）

軟文体に特徴的な用語

41　言葉

（硬）　0

（軟）　25例

＜例＞　木で鼻くゝりし挨拶に返す言葉のなく～も～　（明11.7.17.c）

42　折（オリ）（「とき」の意）

（硬）　0

（軟）　56例

＜例＞　～通り掛る折り過て金子の包を取落せしが～　（明11.4.12.c）

43　折柄（名詞）

（硬）　0

（軟）　19例

＜例＞　～損のみ續き思案に暮るゝ折柄知る人の勸めに乘りて～（明11.3.19. c）

44　節（セツ）[1]（「ころ・とき」の意）

（硬）　0

（軟）　23例

＜例＞　～ドンナ目ゝ逢ふかも知れぬと此節歸りし人の噂さ　（明11.9.11. c）

45　樣（ヨウ）（名詞）[2]（「ようだ」の「よう」）

（硬）　0

（軟）　34例

＜例＞　二ツチも三ツチも行かざる樣ゝ成り行ゐしが～　（明10.11.6. c）

46　筈[3]

（硬）　0

（軟）　15例

＜例＞　～其時々届出る筈なるが中ゝハ～遷延する向もあり　（明11.6.10. c）

47　（～ノ）通リ（「よう（に）」の意）

（硬）　4例

＜例＞　當行ニ於テハ左ノ廉書ノ通リ之ヲ取扱フ可シ　（明11.3.5. e）

（軟）　75例

＜例＞　去る六日午前八時三十分頃登廳せんと平常の通り西横堀船竹橋を通行する折柄～　（明11.6.11. c）

48　～ナス（接尾的要素）

（硬）　2例

＜例＞　小言子一合ノ酒ヲ尽シテ續飲ナシ被ヲ擁シテ眠ル　（明11.2.16. e）

（軟）　44例

＜例＞　～巡行の査官が駈け附け介抱なし早速病院へ連ゞ行きたるゞ～　（明11.9.3. c）

49　委（クワ）シ

（硬）　1例

＜例＞　上等學校ノ書籍器械及ヒ其雛形等愈密ニシテ愈精シ　（明11.9.9. d）

（軟）　17例

＜例＞　媒人ゞ許へ委しく此由を云ひ送り～　（明11.10.9. c）

50　斯（カカ）ル（連体詞）

（硬）　5例

＜例＞　嗚呼種族ヲ異ニスト雖同シク是地球上ノ人類ナルヲ斯ル慘刻無道ノ待遇ヲ受ケシムルハ～　（明11.8.29. e）

（軟）　21例

---

1) 2) 3)　これらの語は，候文体にも少なくない。

＜例＞　世間ニハ斯(かゝ)る類(たぐひ)が澤山(たくさん)ある様子～　(明11.8.23.c)

51　追々（オイオイ）

（硬）　0

（軟）　30例

＜例＞　追々臘虎獵(らつこりやう)の船ゞ歸港するゞ當年ハ餘(あま)り大獵ニもあらず　(明11.9.6.c)

52　餘程

（硬）　0

（軟）　18例

＜例＞　海門天龍(りやう)の二艦も艦体が組立てニなりて居たるが是れハ餘程大きく見へたり　(明11.7.18.c)

53　早クモ

（硬）　0

（軟）　18例

＜例＞　～やをハ素早(すばや)き曲者にて早くも氣取(けど)り去る日何方へか逐電(ちくてん)して～　(明11.7.31.c)

54　又モ

（硬）　0

（軟）　16例

＜例＞　傳馬船にて乘出せしが又も暴風怒濤(あらかせあらなみ)の爲め覆らんとせしに～　(明11.1.19.c)

55　殘ラズ

（硬）　0

（軟）　16例

＜例＞　蕎麥ハ勿論折節貰(おりふしもら)ひ合(あは)せたる餅(もち)さへ殘(のこ)らす喰尽(くひつく)し～　(明11.3.16.c)

56　不圖（フト）

（硬）　0

（軟）　16例

＜例＞　～豆腐を購(か)ひし折不圖(ふと)其家の戸口に茄子(なす)ニ似たるもの捨(す)てあるを見付け～　(明11.5.14.c)

57　兼テ（「前もって」の意）

（硬）　2例

＜例＞　共ニ八郎潟ニ注カシメ兼テ舟川ニ近接セル脇本村ニ湖口ヲ開カントスルニ在リタリ　(明11.10.30.e)

（軟）　34例

＜例＞　～學習院搆(かま)内(へ)へ豫(かね)て着手に成りし生員寄宿所ハ漸く落成し來六月より寄宿生の入學を許すと　(明11.5.4.c)

以上の結果を表にまとめておこう。

硬文体に特徴的	軟文体に特徴的
有様・状（ジョウ）	様子
點	儀
～能ハ（ズ）	～兼ヌ（接尾的要素）
一（イチ）（接頭的要素）	或（アル）
稍（ヤヤ）	少（スコ）シ
直チニ	直（スグ）・直（スグ）ニ
故ニ（接続詞）	～故（接続助詞的）
～所（ノ）	言葉
所以（ユエン）	折（オリ）
希望ス	折柄（名詞）
然リ	節（セツ）
異ナリ	様（ヨウ）（名詞）
欲ス	筈
存ス	（～ノ）通リ
斯（カク）ノ如シ	～ナス（接尾的要素）
所謂（イワユル）	委（クワ）シ
夫（ソレ）（副詞）	斯（カカ）ル（連体詞）
蓋（ケダ）シ	追々（オイオイ）
豈（アニ）	餘程
敢テ	早クモ
況ンヤ	又モ
苟モ	殘ラズ
恰モ	不圖（フト）
將（マサ）ニ	兼テ
決シテ	
果シテ	
殆ンド	
然リト雖モ	
何トナレバ	
然レドモ	
然ルニ	

郵便報知新聞において，二つの顕著な文体の対立をとらえ，それぞれがどのような用語群によって特徴づけられているかを見ようとして，一つの試論としてではあるが，以上のような結果を得た。もちろん，硬文体・軟文体を特徴づける用語はこれにとどまらないし，また他の文体（たとえば候文体）との対比

においては，別個の面から明らかにされる点が少なくないであろう。しかし，少なくとも以上のような用語群は，この二つの文体を特徴づける一往顕著な指標として考えられるであろう。

（この分析の，とくに検定法については，所員水谷静夫の協力を得た。）

V 付　　録

1　語彙表に著しく影響した話題

資料として明治10年11月から1年と限った理由の一つに次のことをあげておいた。

西南戦争中の新聞を取ると，どうしても，戦争関係の語が固まっていると考えられる。もちろん，それがまったく無意味であるというのではないが，この調査の目的には，できるだけ当代の普遍的な語彙をとらえようということも含まれていた。そうなれば，上のような処置を取ったことも当然であろう。

しかし，政論新聞と呼ばれているこの郵便報知新聞も，その政論は，社説の一部と，投書（協議社員の尾崎行雄，本山彦一，福沢諭吉，犬養毅等）の一部とに見えるだけである。しかも，その分量も全紙面の割合から言えば 1/5 にもならぬ程度である。そうなると，この郵便報知新聞は，相当広範囲な話題を含んでいると考えてよい。事実，窃盗・火災などのニュースから巷間の艶種，劇評，暗殺された大久保利通内務卿の伝記，出鱈目草子という名の随筆，盗賊の告白等いろとりどりである。とは言え，やはり大きな事件があれば，その報道がある期間継続することもあった。

以下，語彙表，とくにA表（10回以上）に影響を与えたと思われる話題をあげてみよう。

a層（公布・公聞）

やはりまだ西南戦争の後をひいて，論功行賞の辞令がたくさん出ている。たとえば，＜鹿児島逆徒＞，＜征討＞，＜勲五等＞，＜従七位＞，＜陸軍大尉＞，＜陸軍中尉＞などはこの話題に関するものである。

c層（報道記事）

一番大きな事件は，横浜ガスの事件である。

「對審傍聽記」などの名で延べ56日の紙面に掲載され，分量は延べ約93段。

横浜ガス事件の内容を簡単に解説しよう。

訴訟の名前は「人民共有物を區戸長にて專斷したる訴」とあり，原告惣代人は，「平民，早矢仕有的」で，被告人は，「平民，區長今西相一」である。訴狀によると，＜高島嘉右衛門＞が創立した＜瓦斯局＞を横浜人民が買い受けて，共有物とした。その運営は，＜代議人＞を選んで，これに当てることにした。ところが区戸長は，その利益金を人民にあらかじめ伝えることをせず，35か年分を一時払いの形式で高島嘉右衛門に支払った。だから，「公布の明文に照し，受授の効なきものに付人民一同詳識を遂け若し與ふ可き條理あらハ改めて之を與へ與ふへき條理なけれハ之を與へさる可く衆議を以て決定致度候間右金員ハ利子を添へ一旦取戻しハ様仕度 公明のハ裁判を仰きハ也　横濱裁判所長立木判事殿」というのである。被告代理人（被告代人）は，一等筆生小山茂である。

d層（外国通信）

仏国博覧会の記事も多い。通信員江木保雄は，明治 11年2月11日，汽車で東京を出発し，横浜で仏国メサズリー会社の郵船タナイス号（長さ102メートル，幅9メートル，280馬力，1,156$\frac{81}{100}$トン）に乗船。以後詳細な報告を送っている。3月27日馬耳塞（マルセイユ）港着，同29日巴里府「リヨン」駐車場に着く。その間46日（5月23日付の新聞による）。

この博覧会には，時の政府も大いに力を入れ，「佛國博覽會事務局」を設け，勧農局をはじめ，民間からも多くの出品人を得た。記事の分量は，延べ40日間約45段。

＜出品＞，＜電報＞，＜發＞，＜佛國＞，などの語が目立っている。

e層（投書その他）

北越御巡幸

11年8月30日に，＜聖上＞は皇居をお出ましになり，11月9日お帰りになった。10月31日には，名古屋からの郵報記事がある。その量は，47日間の紙面に，延べ65段分である。記者は，岡敬孝。見出しは，「御巡幸日誌」。＜行在所＞，＜御小休＞，＜着御＞，＜縣官＞，＜縣廳＞がこの項に関連してとくに使われた語であろう。

なお，国内でも，上野で，「内國勧業博覽會」が開かれていた。a層に「内國勧業博覽會事務局録事」が多い。

あまりいい話題ではないが，全国にわたって＜虎列刺病＞が発生し，患者の数を毎週衛生局が発表している。

国会開設を前にして，「地方官会議」も開かれ，その日誌，傍聴記事も多い。

さらに，「支那救荒記事」「清國饑民救恤醵金姓名録」「驛遞局第六年次年報」も相当の紙面を取っている。

人名としてA表に出ているのは，大隈重信（大蔵卿），川路利良（警視総監），楠本正隆（東京府知事），島田（叛乱を起した者）である。横浜ガス事件関係者の名は上にふれてある。

以下にc層以下各層のおもな話題を示す。

c層のおもな記事

1　虎列刺病患者報告関係
2　東京府下用水試験報告　延べ約6段（1段は51行）
3　横浜ガス訴訟裁判傍聴記　延べ約93段
4　小学校教科課程関係
5　春木座，新富座劇評　延べ約21段
6　大久保利通公略伝　延べ約8段
7　地方官会議日誌および傍聴記事　延べ約33段（1段は51行，中には1段68行のもある。）

d層のおもな記事

1　仏国博覧会通信　延べ約45段
2　欧州飛蝗災害関係

e層のおもな記事

1　支那救荒募金関係
2　出鱈目草子　延べ約41段
3　御巡幸日誌　延べ約65段

2　この報告書に使ったおもな用語

代表形

動詞・形容詞は，サンプル紙面には，活用した形で現われているが，その

活用する語を指示する語形を代表形と呼ぶ。この調査では，動詞は，連用形を，形容詞は語幹を代表形とする。たとえば，カ行四段動詞＜書キ・ク＞は連用形の＜カキ＞を代表形とし，形容詞＜ウツクシ＞は＜ウツク＞を代表形とする。

見出し形

語の排列のために，見出しとして定めた語形。この調査では，接頭接尾的要素をはずしたもの，また，活用する語は連用形に終止形を小字で添えたものをさす。なお，語末に，＜と＞，＜に＞，＜の＞，＜で＞などの付いた副詞，連体詞，接続詞は，それを除いた形をさす(語彙表の項参照)。

原カード

直接，調査資料から採集した第一次作業用のカードを原カードと呼ぶ（あるいは採集カードとも)。以後のすべての作業の基礎となるものであるという意味を含めている。

集計カード

原カードを層ごとに，また，表記形式ごとに整理して，使用度数を集計するためのカード。

副本

調査資料が貴重なものであるから，たびたび開いてみることは避けなければならない。そこで，原資料を1/2に写真複写した。これを副本と呼ぶ。

接頭的要素・接尾的要素

大部分はいわゆる接頭語，接尾語と呼ばれているものであるが，語の構成を分析するために，サンプルに現われた語のうち，とくに次のものに限って接頭・接尾的要素と認めた。接頭語，接尾語と言わずにこのような表現をとったのは，そのためである。

1　接頭的要素

(1)　敬意を表わしているもの

オ　オン　ギョ　ゴ

(2)　(1)以外のもの

アイ（相）　イク（幾）　イチ（一）　カク（各）　カリ（仮）　キ

ェウ（舊）　ゲン（現）　ゲン（原）　ザイ（在）　シェウ（衆）
ジェン（準）　ショ（諸）　シン（新）　ゼン（全）　ゼン（前）
ソウ（總）　ダイ（第）　ナニ（何）　ヒ（非）　フ（不）　ボウ（某）
マ（眞）　マイ（毎）　ム（無）　リョウ（兩）

2 接尾的要素

(3) 人名などに付くもの

アネ（姉）　イン（院）　オウ（翁）　カクカ（閣下）　キョウ（卿）
クン（君）　ケ（家）　ゴ（御）　コウ（公）　コウシェ（公主）
コジ（居士）　サマ（様）　サン　サンジン（山人）　シ（師）　シ（子）　シ（氏）　シンノウ（親王）　セイ（生）　センセイ（生先）
デンカ（殿下）　ドノ（殿）　バラ（原）　ヘイカ（陛下）　メ（奴）

(4) 補助用言の一部

～アイ.ゥ　～アイナリ.ル　～アエ.ゥ　～アソバシ.ス　～アタイ.ゥ
～アリ.リ　～イタシ.ス　～イダシ.ス　～イデ.ズ　～イル　～エ.ゥ
～オオセ.ス　～オキ.ク　～オリ.リ　～オワリ.ル　～ガタシ　～カネ.ヌ
～キ.ク　～キタリ.ル　～クダサレ.ル　～クレ.ル　～シ.ス　～ジル
～シ.スル　～ソメ.ム　～ダシ.ス　～タテマツリ.ル　～タマイ.ゥ
～ツカマツリ.ル　～ヅラシ　～デル　～ナサレ.ル　～ナシ.ス　～ナリ.ル
～ハタシ.ス　～ハテ.ッ　～マカリアリ.リ　～マシマシ.ス　～メカシ.ス
～モウシ.ス　～ヤスシ　～ヤスィ　～ヤリ.ル　～ラシ

(5) (3), (4)以外のもの

アタリ　アテ（宛）　ウエ　オモテ　カ（下）　ガイ（外）　カタ（方）　ガタ（形）　ガタ（方）　ガラミ　ゴト（毎）　ゴロ（頃）　ジェウ（中）　ジョウ（上）　スギ（過）　スジ（筋）　ズツ　セイ（製）　タチ（達）　チェウ（中）　テキ（的）　トウ　ドオリ　トモ　ドモ　ナイ　ハイ（輩）　ヘン（邊）　ムキ　ヨ（餘）　ヨウ（様）　ヨウ（用）　ラ（等）　ライ（來）　リ（裡）　リュウ（流）　レン（連）

(6) いわゆる助数詞にあたるもの

本表A表

使用度数 10 以上の語の語彙表。10 回以上の使用度数は，統計的に見て，意味のある度数である。

本表B表

使用度数 9～1 の語の語彙表。

別表

各附属要素の語彙表。

a 層

公布，公聞，録事，記事等。官省の布告，官吏の任免の辞令，叙位叙勲，公判記事が収められている。

b 層

社説

c 層

報道記事で，府下雑報・西京新報・大坂新報・諸県報知等に分れている。

d 層

外国新報，外国電報および，外国関係の記事。たとえば，仏国博覧会記事。

e 層

投書，投稿論文，雑文（出鱈目草子の類），訂正記事，募金報告など。

3　使用度数を使用率に換算する表 (99,384=1,000‰)

使用度数	使用率(‰)	使用度数	使用率(‰)	使用度数	使用率(‰)	使用度数	(使用率‰)
1	0.010	10	0.101	100	1.006	1000	10.062-
2	0.020	20	0.201	200	2.012	1100	11.068
3	0.030	30	0.302-	300	3.019-	1200	12.074
4	0.040	40	0.402	400	4.025-	1300	13.081-
5	0.050	50	0.503	500	5.031-	1400	14.087-
6	0.060	60	0.604-	600	6.037	1500	15.093-
7	0.070	70	0.704	700	7.043	1600	16.099
8	0.080	80	0.805-	800	8.050-	1700	17.105
9	0.091-	90	0.906-	900	9.056-	1783 (最高使用度数)	17.941-

例題　＜人民＞の使用度数は175である。この語の使用率はいくらか。

（解法）　表によって，100と70と5との使用率を求めて合計する。

100……1.006
70……0.704
5……0.050
175……1.760(‰)

略解　延べの使用度数が概算十万なので，使用度数175は，ほぼ1.75‰と考えてもよい。この誤差は，−0.01‰ すなわち，十万分の一にすぎないから，実用上はこれで十分であろう。もっとも使用度数が大きくなるほど誤差の程度も一万分の一ぐらいまでになる。

暗算で，もう少し正確な使用率を出そうと思ったら，使用度数の1%をくわえて適当に位取りをかえればよい。前例の175についていえば，

175+1.75=176.75

位取りをかえて，　　1.76（切捨て）

1%くわえて切り捨てる計算の方が，正確な値に近い。

索　引

1. この索引は，この本を理解するために必要と思われる項目を五十音順に並べたものである。ただし，見出しそのままの語が文中に使ってない場合もある。
2. 数字はページ数を示す。
3. ゴチックの見出しは，本文の小見出しおよびゴチックで組んだ語を示す。
4. 人名・新聞雑誌名は省略した。
5. 関連項目は，二か所にわたって出ていることもある。

後部分としての造語要素　26

異質文脈の含有率
　各層における～　292
印刷技術の近代化　6
大新聞
　～　1, 9, 14
　～の社説・論説　10
　～の社説欄の文章　13
　～の投書欄の文章　13
欧文脈の流入　1
送りがな
　～に二通り以上の動きのある語　254
お達し　16
おどり字の表記　268

海外事情の解説書　2
外国語・外来語を写す際の長音の表記　31
外電の翻訳　16
外来語・欧文脈の流入　1
会話文の表記　270
片かなを使う語　267
活用
　～のある語の**代表形**　31
　～の識別　32
活用形の扱い　25
かな　267
かなづかいに誤りのある語　256
漢語
　～の質や量　3
　～の造語力　2
　～のはんらん　1
漢字
　～**とかなとの割合**　257
　～**の種類**　257
漢字書きとかな書きの両表記をもつ語　257
漢字に対する尊敬の気持　2
漢字・漢語　2
　～を多く含んだ文語文　2
　～の盛行　2
　～のはんらん　2
　～の流行　1
　むずかしい～の使用　10
漢字語
　～　273
　～の構成　5, 273
　二字の～以外に付いた異なり語　276
漢字制限の問題　2
漢文書き下し文体　1, 4, 10, 14, 16, 288

漢文口調の文章 4
漢文体 16

記号 270
擬古文の随筆 16
記事 16
　～の層わけ 15
　～・用語・文体との関係 291
記者
　旧幕臣出身者の～ 9
　慶応義塾出身の～ 9, 10
　洋学系統の～ 10
規範的文体 288
旧幕臣出身者の記者 9
行を**抽出単位**とした理由 17
共通語の確立 1

句読点 269

慶応義塾出身の記者 9, 10
敬譲関係をあらわす動詞 24
形容動詞 32
戯作者の書くような文章 4
闕字 269
原カードの整理 24
現代語の歴史的背景 1
現代語形成の直接の母体 1
検定法（「文体と用語」での） 293
言文一致体の発達 1

語を使用する度合いの示しかた 33
語彙表
　～の語の範囲 30
　～の種類 30
　～の見出しの立てかた 31
口語
　文語～の区別 32
広告欄 4, 27
合字 268
硬軟両文体の中間的な文体 290
硬軟両文体の使われかた 290
公判記録 16
公判傍聴記 16
公布 16
公聞 16
硬文体
　～ 4, 5, 288, 289
　～の外形的特徴 289
　～の文例 289
語順（漢字語の）
　二種類の～の両方が出ている語 280
　今の普通の～とは逆だと思われる語 280
御巡幸日誌 16
誤植 271
小新聞 7, 14
　～の文章 14
　～の読者層 14
異なり語補充の作業 5

西京新報 16
雑報欄
　～ 9
　～の文章 1
讒謗律 8

時事報道 8
支那近況 16
紙面
　～の大きさ 266
　～の体裁 266
社告 16
社説
　～ 9, 16

大新聞の～ 10
社説欄
～ 1, 3, 4, 14
～の文章 1
集計カード
～の作成 26
～の整理 26
～の表記欄 253
準備調査 4
使用度数 34
使用率の推定 35
辞令 16
諸県報知 16
新刊書
明治10.11年ごろの～ 2
新語 2
新聞
～の発達 7
～の原稿の無料郵送 7
～の発行部数
（明10.7～明11.6） 11
～の読者層 10
～の普及度 11
～の文章 1
新聞会 12
新聞紙条例 8
新聞従覧所 13

接辞的要素
接頭的要素の語例 23
接尾的要素の語例 24
～を含む語の見出し 32
～の表 237
～の用いられかた 23

造語要素
後部分としての～ 26
前部分としての～ 26
総ルビ付の俗談平話 14
候文体
～ 15, 288
～の公文書 288
層わけ等間隔抽出法 15
促音・拗音・長音の表記 268
俗文体
～ 4
～の文章 9

代表形 31
濁点・半濁点 268
段組（紙面の） 266
談話体のやさしい文章 14

チェビシェフ系の不等式 293
地方官会議日誌 16
地方官会議傍聴記 16
抽出単位 17
抽出比率
～(本調査) 17
～(補充調査) 28
～を1/12とした理由 17
調査
～結果の分析 5
～時点を定めた理由 3
～対象 4

丁寧表現の発達 1
出鱈目草子 16
転成してできた名詞の送りがな 256

同音語 2
同語と別語との区別 25
投書 16
投書欄 3, 14

軟文体
～ 4, 5, 288
～の外形的特徴 289
～の文例 289

等しい順位の示しかた（語彙表の） 36
平がなを使う語（漢字片かなまじり文で） 267
表記
おどり字の～ 268
会話文の～ 270
外国語外来語を写す際の長音の～ 31
集計カードの～欄 253
文の～ 271
標本延べ語数（各層ごとの） 292

フイッシャーの直接確率計算法（「文体と用語」での） 295
府下雑報 16
伏字 269
普通文体の完成 1
物価欄 4, 27
文語・口語の区別 32
文語文 2
文章
戯作者の書くような～ 4
小新聞の～ 14
新聞の～ 1
俗文体の～ 9
郵便報知新聞の～ 4
布令の～ 1
文体と用語の連関 5, 288

米国近報 16
別表の作成 26
編集と見出し（紙面の） 266
変体がな 267

報道記事 16
報道の自由 6
補充調査 27
補助用言 24
母集団
～での使用率の推定値 33
～の延べ語数 4
翻訳語 2
翻訳書 2

前部分としての造語要素 26

見出し
活用のある語の～ 31
活用のない語の～ 31
語彙表の～ 31
～の排列（語彙表の） 37
～の表記（語彙表の） 31

明治
～時代語の基本的性格 1
～時代語の特徴 1
～時代のことば 3
～初期の国語 1

問答の要点の記録 16

有意差検定（「文体と用語」での） 294
郵便取扱人 8
郵便報知新聞 7, 11, 12
～を資料とした理由 3
～の改称 9
～の行数と字詰 267
～の購読料 10
～の執筆陣 9
～の創設 6, 7
～の読者 10, 14

～の文章 4
創設ごろの～ 8

洋学系統の記者 10
洋書調所 6
読み 24

ルビ
～ 16, 258, 265
～と送りがなとの関係 264
～の性質 263
～の場所 263
音訓別からみた～ 263
字種別からみた～ 265
層ごとにみた～ 263
文脈の一部として読み下せる～ 260
文脈の一部として読み下せない～ 262
～付き語 264

録事 16
論説
～ 9, 14, 16
大新聞の～ 10

a層
～ 15
～の主な記事 307
～の文体 15, 290
b層
～ 15, 16
～の文体 16, 290
c層
～ 15, 16
～の主な記事 307, 309
～の文体 290
d層
～ 15, 16
～の主な記事 308, 309
～の文体 290
e層
～ 15, 16
～の主な記事 308, 309
～の文体 290

表の索引

表1 抽出された行数の内訳 18
表2 補充調査の正味採集枚数 28
表3 補充調査の異なり語補充率 29
表4 補充調査の重複カードの枚数 29
表5 送りがなに二通り以上の動きのあるもの 255
表6 漢字とかなの割合 257
表7 層ごと片かな平がなごとにみた漢字とかなとの割合 258
表8 毎日新聞における漢字とかなとの割合(1953) 258
表9 層ごとにみたルビ 262

データ一覧

I 「本調査」のデータ

1 予想される総語数(母集団) 約百二十八万語(助詞・助動詞を含まない)

2 採集した延べ語数(標本集団)

一般用語	87,352
人名・地名数詞	12,069
計	99,384

3 使用度数別のデータ

	一般用語		人名・地名・数詞		計	
使用度数	延べ	異なり	延べ	異なり	延べ	異なり
10 以上	49,710	1,280	3,537	141	53,247	1,421
9 ～ 1	37,605	20,992	8,532	5,951	46,137	26,943
計	87,315	22,272	12,069	6,092	99,384	28,364

4 層ごとのデータ

	行数	抽出行数	延べ語数(%)	行当り平均単位数
a	17,473	1,377	9,307 (9.4)	6,759
b	21,760	1,804	14,147 (14.2)	7,842
c	75,721	6,336	52,806 (53.1)	8.334
d	8,429	687	5,732 (5.8)	8.334
e	23,059	1,988	17,392 (17.5)	8.245
計	146,112	12,129	99,394(100.0)	8.194

II 追加調査のデータ

当初採集枚数	正味採集枚数[1]	正味の補充異なり語数	正味補充率(%)
13,435	13,123	8,616	65.7

1) 人名・地名・数詞を除いたものを正味と呼ぶ。

——国立国語研究所刊行書——

国立国語研究所年報　昭和24年度～32年度（1～9）

国立国語研究所報告

1　八丈島の言語調査
2　言語生活の実態　—白河市および付近の農村における—　（秀英出版刊 300円）
3　現代語の助詞・助動詞　—用法と実例—
4　婦人雑誌の用語　—現代語の語彙調査—
5　地域社会の言語生活　—鶴岡における実態調査—　（秀英出版刊 600円）
6　少年と新聞　—小学生・中学生の新聞への接近と理解—
7　入門期の言語能力
8　談話語の実態
9　読みの実験的研究—音読にあらわれた読みあやまりの分析—
10　低学年の読み書き能力
11　敬語と敬語意識
12　総合雑誌の用語（前篇）　—現代語の語彙調査—
13　総合雑誌の用語（後篇）　—現代語の語彙調査—
14　中学年の読み書き能力
16　日本方言の記述的研究　（近　刊）

国立国語研究所論集

1　ことばの研究

国立国語研究所資料集

1　国語関係刊行書目　（昭和17年～24年）
2　語彙調査　—現代新聞用語の一例—
3　送り仮名法資料集
4　明治以降国語学関係刊行書目　（秀英出版刊 300円）

国立国語研究所 日本新聞協会 共編　高校生と新聞　（秀英出版刊 280円）
国立国語研究所 日本新聞協会 共編　青年とマス・コミュニケーション　（金沢書店刊 280円）

国語年鑑

国立国語研究所編　国語年鑑（昭和29年版）　（秀英出版刊 450円）
国立国語研究所編　国語年鑑（昭和30年版）　（秀英出版刊 600円）
国立国語研究所編　国語年鑑（昭和31年版）　（秀英出版刊 450円）
国立国語研究所編　国語年鑑（昭和32年版）　（秀英出版刊 480円）
国立国語研究所編　国語年鑑（昭和33年版）　（秀英出版刊 480円）
国立国語研究所編　国語年鑑（昭和34年版）　（近　刊）

昭和34年3月

国立国語研究所

東京都千代田区神田一ツ橋 1—1
電話九段(33) 4295(代表)

UDC 495.6－532"N5„
NDC 810.2

-949

RESEARCH ON THE VOCABULARY IN A NEWSPAPER IN THE EARLY YEARS OF THE 'MEIZI' PERIOD (1877—1878)

CONTENTS

Foreword

I Outline of the Research

1 Aim
2 Material (the Yûbin Hôti)
3 Methods

II The Procedure of the Research

1 Defining the Unit Word for Operation
2 Collecting Words
3 Supplementing Words

III Vocabulary Tables

1 Nature of the Tables
2 Tables Arranged in the Order of 'Gozyû-on' (the Japanese Fifty-letters Phonetic System)
Words of High Frequency
Words of Low Frequency
Supplementary Words
Prefixes & Suffixes

IV Analyses

1 Symbol Combinations
2 Construction of the Words Consisting of Three Chinese Characters
3 Relation between the Style and Vocabulary

V Appendix

1 Topics Affecting the Vocabulary
2 Technical Terms

VI Index

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
KANDA-HITOTUBASI, TIYODA, TOKYO